鳥栖市文化財調査報告書第 99 集

本川原遺跡

２０２３

鳥栖市教育委員会

序

鳥栖市は、脊振山地の東端部である九千部山を主峰とし、九州最大の大河である筑後川に面した、緑と水豊かな内陸都市です。この地域は、古くから九州の交通の要衝であったことから、貴重な文化財が数多く存在しています。

本書は、工業用地の開発工事に先立って埋蔵文化財発掘調査を実施した、鳥栖市永吉町、姫方町にまたがる本川原遺跡の文化財調査報告書です。調査の結果、弥生時代の終わりから奈良時代にかけての遺構が確認され、数多くの資料が出土しました。なかでも古墳時代の初めごろには、巨大な住居と墓域が近接して営まれていたことが明らかになりました。大きく社会が変容したこの時期の資料が得られたことにより、鳥栖市の歴史的様相のさらなる解明が期待されます。

本書を通じて、地域の文化財に対して一層のご理解をいただくとともに、学術文化の向上に寄与するものとなれば幸いに存じます。

最後になりましたが、開発と文化財保護との調整に、ご理解とご協力をいただきました宇都宮化成工業株式会社のみなさま、ならびに発掘調査、整理作業に従事されたみなさまに厚く御礼申し上げます。

令和５年３月 17 日

鳥栖市教育委員会

教育長　佐々木　英利

例　言

1．本書は、工業用地開発工事に伴って鳥栖市教育委員会が実施した、鳥栖市姫方町に所在する本川原遺跡の発掘調査報告書である。

2．発掘調査及び出土遺物の整理作業については、調査担当者及び下記の体制で行った。

表土掘削：株式会社久富重機

発掘作業：江藤芳雄、緒方幸弘、皆良田憲男、刈間節次、杉岡俊昭、樋口泰三、髙尾義則、永渕雄一、
小森三夫、原田俊治、片田博耀、野平氏隆、中橋勝、村山英雄、原博文、森利美、原和美、原俊昭、
天本則幸、永田徹、栗並範友、片渕ゆかり、鈴木三津子、岡伸二、冨田浩一郎、冨田順子、
豊増敏主、岸政且、水田敏行、野田保之、竹内照夫、角正高、南條由美、森義幸、菊竹仁美、
石原あすか、内倉和義、江崎政良、髙島一博、中山紘一、橋本正美、林慶音、福永勝則

遺構実測：株式会社埋蔵文化財サポートシステム　伊東利純、七島陽子

遺跡全景写真撮影：有限会社空中写真企画

遺物洗浄・接合：松﨑友子、毛利よし子、加藤美砂、中島みち子、鈴木三津子、南條由美

遺物実測・製図：松﨑友子、毛利よし子、楢崎孝子、加藤美砂、中島みち子

3．本書に掲載する遺構及び遺物の写真撮影は藤岡怜史が行った。遺構図面の製図は上田恵が行った。

4．出土遺物の整理を含む報告書作成業務は、鳥栖市牛原町文化財整理室で行った。

5．本調査に関わる出土遺物・遺構図面データ・写真データ等は鳥栖市牛原町文化財整理室で保管している。広く活用されることを希望する。

6．本書は第１・２章を上田が、第３・４章を藤岡が執筆し、上田が編集を行った。

凡　例

1．本書で用いた北は座標北を基準とし、図上の座標は国土座標第Ⅱ系（世界測地系）に拠っている。

2．本書で用いた標高は東京湾平均海水面（T.P.）を基準としている。

3．遺跡の略号は SHH（本川原遺跡）である。

4．遺跡の調査で用いた遺構番号は 4 桁の一連番号とし、6 区 6000 番台とした。また番号の冒頭には遺構の性格を示す分類略号を付した。但しピットについてはその限りではない。なお本文及び挿図内で用いている分類略号は以下のとおりである。

SH：竪穴住居跡　　SE：井戸

SK：土坑　　P：ピット

SD：溝（溝状遺構）

5．挿図中に示している数字は本文中の各遺物番号と一致する。また写真図版中に示している数字は挿図中の各遺物番号と一致する。

6．本書に掲載した遺物の登録番号は遺物観察表内に記しており、これにより収蔵・保管を行っている。

本文目次

第１章　調査の概要
Ⅰ．調査に至る経過 …… 1
Ⅱ．調査の組織 …… 1
第２章　位置と環境
Ⅰ．地理的環境 …… 2
Ⅱ．歴史的環境 …… 2
第３章　調査の内容
Ⅰ．本川原遺跡の概要 …… 5
Ⅱ．今回調査区の概要 …… 5
Ⅲ．弥生時代後期～古墳時代初頭の遺構・遺物 …… 6
Ⅳ．古墳時代後期の遺構・遺物 …… 43
Ⅴ．奈良時代の遺構・遺物 …… 89
Ⅵ．その他の遺構 …… 107
第４章　調査成果のまとめ
Ⅰ．本川原遺跡と今回調査地 …… 117
Ⅱ．調査成果にみられる特徴 …… 119
遺物観察表…… 120

挿図目次

第１図　遺跡周辺地図(S=1/25,000) …… 3
第２図　調査区位置図(S=1/10,000) …… 4
第３図　6001号竪穴住居　平・断面図(S=1/50)…… 6
第４図　6001号竪穴住居　出土遺物(S=1/4) …… 7
第５図　6002号竪穴住居　出土遺物①(S=1/4) …… 8
第６図　6002号竪穴住居　平・断面図(S=1/40)…… 9・10
第７図　6002号竪穴住居　出土遺物②(S=1/4) …… 11
第８図　6003号竪穴住居　平・断面図(S=1/40)…… 12
第９図　6003号竪穴住居　出土遺物(S=1/4) …… 13
第10図　6004号竪穴住居　平・断面図(S=1/40)……15・16
第11図　6005号竪穴住居　平・断面図(S=1/40)……17・18
第12図　6004・6005号竪穴住居　出土遺物(S=1/4) … 19
第13図　6006号竪穴住居　平・断面図(S=1/40)…… 20
第14図　6006号竪穴住居　出土遺物(S=1/4) …… 21
第15図　6008号竪穴住居　出土遺物(S=1/4) …… 22
第16図　6008号竪穴住居　平・断面図(S=1/40)……23・24
第17図　6210号竪穴住居　平・断面図(S=1/40)……25・26
第18図　6210号竪穴住居　出土遺物①(S=1/4) …… 27
第19図　6210号竪穴住居　出土遺物②(S=1/4) …… 28
第20図　6270号竪穴住居　平・断面図(S=1/40)……29・30
第21図　6275号竪穴住居　平・断面図(S=1/40)…… 31
第22図　6270・6275号竪穴住居　出土遺物
(S=1/4、石器は1/2) …… 32
第23図　6280号竪穴住居　平・断面図(S=1/50)……33・34
第24図　6285号竪穴住居　平・断面図(S=1/40)…… 35
第25図　6280・6285号竪穴住居　出土遺物(S=1/4) … 36
第26図　6290号竪穴住居　平・断面図(S=1/40)…… 37
第27図　6290号竪穴住居　出土遺物(S=1/4) …… 38
第28図　6295号竪穴住居　平・断面図(S=1/40)…… 39
第29図　6295号竪穴住居　出土遺物(S=1/4) …… 40
第30図　6170・6205号土坑　平・断面図(S=1/40)…… 41
第31図　6170・6205号土坑　出土遺物(S=1/4) …… 42
第32図　ピット　出土遺物(S=1/4) …… 43
第33図　6085・6095号竪穴住居　出土遺物(S=1/4) … 43
第34図　6085号竪穴住居　平・断面図(S=1/40)…… 44
第35図　6095号竪穴住居　平・断面図(S=1/40)…… 45
第36図　6200号竪穴住居　出土遺物
(S=1/4、石器は1/2) …… 46
第37図　6200号竪穴住居　平・断面図(S=1/40)……47・48
第38図　6500号竪穴住居　平・断面図(S=1/40)…… 50
第39図　6520号竪穴住居　平・断面図(S=1/40)…… 51
第40図　6540号竪穴住居　平・断面図(S=1/40)…… 52
第41図　6500・6520・6540号竪穴住居　出土遺物
(S=1/4) …… 53
第42図　6550号竪穴住居　平・断面図(S=1/40)…… 54
第43図　6580号竪穴住居　平・断面図(S=1/40)…… 55
第44図　6550・6580号竪穴住居　出土遺物(S=1/4) … 56
第45図　6007号掘立柱建物　出土遺物(S=1/4) …… 56
第46図　6007号掘立柱建物　平・断面図（S=1/60） … 57
第47図　6081・6086号土坑　平・断面図(S=1/40)…… 58
第48図　6115号土坑　平・断面図(S=1/40)…… 59
第49図　6081・6086・6115号土坑　出土遺物
(S=1/4) …… 59
第50図　6125・6150号土坑　平・断面図(S=1/40)…… 61
第51図　6155号土坑　平・断面図(S=1/40)…… 62
第52図　6125・6150・6155号土坑　出土遺物
(S=1/4) …… 62
第53図　6165号土坑　平・断面図(S=1/40)…… 63
第54図　6175・6220号土坑　平・断面図(S=1/40)…… 64
第55図　6165・6175・6220号土坑　出土遺物
(S=1/4) …… 65
第56図　6245・6255号土坑　平・断面図(S=1/40)…… 66
第57図　6505号土坑　平・断面図(S=1/40)…… 67
第58図　6510号土坑　平・断面図(S=1/40)…… 68
第59図　6245・6255・6505・6510号土坑　出土遺物
(S=1/4) …… 68
第60図　6525号土坑　平・断面図(S=1/40)…… 69
第61図　6535・6545・6555号土坑　平・断面図
(S=1/40)…… 71
第62図　6575・6605号土坑　平・断面図(S=1/40)…… 72
第63図　6615号土坑　平・断面図(S=1/40)…… 73

第64図　6525・6545・6555・6575・6605・6615号土坑
出土遺物(S=1/4、石器は1/2) …… 74
第65図　6620・6625号土坑　平・断面図(S=1/40)…… 75
第66図　6630・6635・6640号土坑　平・断面図
(S=1/40)…… 77
第67図　6650・6670号土坑　平・断面図(S=1/40)…… 78
第68図　6675・6680号土坑　平・断面図(S=1/40)…… 79
第69図　6620・6625・6630・6635・6640・6650・6670・
6675・6680号土坑　出土遺物
(S=1/4、石器は1/2) …… 80
第70図　6685・6695・6700号土坑　平・断面図
(S=1/40)…… 82
第71図　6705・6720・6745号土坑　平・断面図
(S=1/40)…… 83
第72図　6685・6695・6700・6705・6720・6745号土坑
出土遺物(S=1/4) …… 83
第73図　6715号土坑　平・断面図(S=1/40)…… 84
第74図　6087号溝　平・断面図(S=1/40)…… 86
第75図　6610号井戸　平・断面図(S=1/40)…… 87
第76図　6715号土坑・6087号溝・6610号井戸　出土遺物
(S=1/4) …… 87
第77図　ピット　出土遺物(S=1/4) …… 88
第78図　6515号竪穴住居　平・断面図(S=1/40)…… 89
第79図　6735号竪穴住居　平・断面図(S=1/40)…… 90
第80図　6735号竪穴住居　出土遺物(S=1/2) …… 91
第81図　6740号竪穴住居　平・断面図(S=1/40)…… 92
第82図　6515・6735・6740号竪穴住居　出土遺物
(S=1/4) …… 93
第83図　6080号土坑　出土遺物(S=1/4、石器は1/2) … 94
第84図　6080号土坑　平・断面図(S=1/40)……95・96
第85図　6100号土坑　平・断面図(S=1/40)…… 97
第86図　6160号土坑　平・断面図(S=1/40)…… 98
第87図　6180号土坑　平・断面図(S=1/40)…… 99
第88図　6250号土坑　平・断面図(S=1/40)…… 100
第89図　6560・6570号土坑　平・断面図(S=1/40)…… 101
第90図　6100・6160・6180・6250・6560・6570号土坑
出土遺物(S=1/4) …… 102
第91図　6645・6655・6690・6710号土坑　平・断面図
(S=1/40)…… 104
第92図　6725・6730号土坑　平・断面図(S=1/40)…… 105
第93図　6645・6655・6690・6710・6730号土坑
出土遺物(S=1/4) …… 106
第94図　ピット　出土遺物(S=1/4) …… 106
第95図　6082・6083号土坑　平・断面図(S=1/40)…… 107
第96図　6084・6120号土坑　平・断面図(S=1/40)…… 108
第97図　6130・6135・6145号土坑　平・断面図
(S=1/40)…… 109
第98図　6195号土坑　平・断面図(S=1/40)…… 111
第99図　6215・6230・6235号土坑　平・断面図
(S=1/40)…… 112
第100図　6240号土坑　平・断面図(S=1/40)…… 113
第101図　6260・6495・6530号土坑　平・断面図
(S=1/40)…… 115
第102図　6565・6585・6590・6595・6600号土坑
平・断面図(S=1/40) …… 116
第103図　時期別遺構分布図…… 118

写真図版目次

図版1　①調査区北西部　全景(南東から)
②調査区北西部　全景(東から)
図版2　①調査区南西部　全景(南東から)
②調査区南西部　全景(東から)
図版3　①調査区東半部　全景(北東から)
②調査区東半部　全景(南から)
図版4　①6001号竪穴住居　遺物出土状況(南から)
②6001号竪穴住居　完掘状況(北から)
③6002号竪穴住居　南北土層断面(東から)
④6002号竪穴住居　東西土層断面(北から)
⑤6002号竪穴住居　全景(南西から)
⑥6003号竪穴住居　全景(南から)
⑦6004号竪穴住居　南北土層断面(東から)
⑧6004号竪穴住居　東西土層断面(北東から)
図版5　①6004号竪穴住居　全景(南西から)
②6005号竪穴住居　南北土層断面(南東から)
③6005号竪穴住居　東西土層断面(北東から)
④6005号竪穴住居　全景(北東から)
⑤6006号竪穴住居　南北土層断面(西から)
⑥6006号竪穴住居　東西土層断面(南から)
⑦6006号竪穴住居　全景(西から)
⑧6008号竪穴住居　東西土層断面(北から)
図版6　①6008号竪穴住居　南北土層断面(西から)
②6008号竪穴住居　全景(東から)
③6210号竪穴住居　遺物出土状況(北から)
④6210号竪穴住居　東西土層断面(南東から)
⑤6210号竪穴住居　南北土層断面(西から)
⑥6210号竪穴住居　全景(北西から)
⑦6270号竪穴住居　東西土層断面(南西から)
⑧6270号竪穴住居　南北土層断面(南東から)
図版7　①6270号竪穴住居　全景(南東から)
②6275号竪穴住居　全景(東から)
③6280号竪穴住居　東西土層断面(南東から)
④6280号竪穴住居　南北土層断面(南西から)
⑤6280号竪穴住居　粘土塊出土状況(南から)
⑥6280号竪穴住居　全景(北西から)
⑦6285号竪穴住居　東西土層断面(南から)
⑧6285号竪穴住居　南北土層断面(西から)
図版8　①6290号竪穴住居　全景(東から)
②6295号竪穴住居　東西土層断面(南東から)
③6295号竪穴住居　南北土層断面(南西から)
④6295号竪穴住居　全景(南東から)
⑤6170号土坑　完掘状況(西から)
⑥6205号土坑　完掘状況(西から)
⑦6085号竪穴住居　東西土層断面(北から)
⑧6085号竪穴住居　南北土層断面(東から)
図版9　①6095号竪穴住居　全景(西から)
②6200号竪穴住居　東西土層断面(北から)
③6200号竪穴住居　南北土層断面(西から)
④6200号竪穴住居　全景(東から)
⑤6500号竪穴住居　東西土層断面(南東から)
⑥6500号竪穴住居　南北土層断面(南西から)
⑦6500号竪穴住居　全景(南から)
⑧6520号竪穴住居　東西土層断面(北から)
図版10　①6520号竪穴住居　南北土層断面(東から)
②6520号竪穴住居　全景(東から)
③6540号竪穴住居　東西土層断面(南東から)
④6540号竪穴住居　南北土層断面(南西から)
⑤6540号竪穴住居　全景(東から)
⑥6550号竪穴住居　南北土層断面(南西から)
⑦6550号竪穴住居　全景(南西から)
⑧6580号竪穴住居　遺物出土状況(南西から)
図版11　①6580号竪穴住居　東西土層断面(北から)
②6580号竪穴住居　南北土層断面(西から)
③6580号竪穴住居　全景(東から)
④6081・6083号土坑　完掘状況(北から)
⑤6125号土坑　土層断面(東から)
⑥6125号土坑　完掘状況(北から)
⑦6150号土坑　完掘状況(北から)
⑧6155・6160・6165号土坑　完掘状況(北から)
図版12　①6165号土坑　土層断面(東から)
②6175・6180号土坑　完掘状況(東から)
③6255号土坑　完掘状況(西から)
④6525号土坑　土層断面(南から)
⑤6575号土坑　土層断面(南から)
⑥6615号土坑　土層断面(西から)
⑦6620号土坑　土層断面(南から)
⑧6625号土坑　完掘状況(南西から)
図版13　①6670号土坑　完掘状況(東から)
②6695号土坑　完掘状況(南から)
③6715号土坑　土層断面(西から)
④6715号土坑　完掘状況(北から)
⑤6086号土坑・6087号溝　土層断面(南東から)
⑥6610号井戸　完掘状況(北から)
⑦6515号住居　全景(北から)
⑧6080号土坑　東西土層断面(南から)
図版14　①6080号土坑　南北土層断面(東から)
②6080号土坑　完掘状況(西から)
③6100号土坑　完掘状況(東から)
④6160号土坑　土層断面(北東から)
⑤6505号土坑　土層断面(南から)
⑥6505号土坑　完掘状況(南から)
⑦6570号土坑　土層断面(南から)
⑧6570号土坑　完掘状況(東から)
図版15　①6130号土坑　土層断面(南から)
②6130号土坑　完掘状況(東から)
③6585号土坑　完掘状況(西から)
④6600号土坑　土層断面(南西から)
⑤6630号土坑　完掘状況(南西から)
⑥6050号ピット　完掘状況(東から)
⑦1号方形周溝墓　完掘状況(南東から)
⑧調査風景
図版16　出土遺物(1)
図版17　出土遺物(2)
図版18　出土遺物(3)
図版19　出土遺物(4)
図版20　出土遺物(5)
図版21　出土遺物(6)
図版22　出土遺物(7)

第１章　調査の概要

Ⅰ．調査に至る経過

本調査は、鳥栖市姫方町 513-1 他 11 筆において、切土造成を伴う工業用地開発工事の計画が持ち上がったことに端を発する。当該地は本川原遺跡の名称で埋蔵文化財包蔵地として周知化されており、西側隣接地では昭和 48 年に国道３号の路線拡幅工事に先立って発掘調査が行われている（佐賀県文化財調査報告書第 26 集）。

令和３年２月 19 日付で宇都宮化成工業株式会社より、鳥栖市教育委員会へ対象地について埋蔵文化財の有無について照会がなされ、埋蔵文化財発掘届と確認調査の依頼が提出された。当該地は平成 13 年４月 26 日～５月 15 日に確認調査を実施し、弥生時代後半から古墳時代後期の竪穴住居跡と土坑、ピットを確認している。当時の概要報告書で、掘削を伴う工事については本調査実施の必要がある旨を記しており、開発工事の計画上、本調査の実施は回避できないため、具体的な内容について事業主体者である宇都宮化成工業株式会社と協議を行った。協議の結果、現地での発掘調査は令和３年４月から令和４年３月に実施、予算については市内遺跡緊急発掘調査受託費で対応することとした。令和３年４月 20 日付で宇都宮化成工業株式会社と「埋蔵文化財発掘調査委託契約書」及び「本川原遺跡埋蔵文化財発掘調査に関する協定書」を締結した。また、整理作業及び調査報告書作成については、令和４年度に実施することで合意した。

現地における発掘作業は令和３年５月 10 日に着手し、令和４年３月 18 日に全ての作業を終了した。また令和４年４月１日付で「埋蔵文化財整理作業委託契約書」を締結し、出土遺物及び記録写真・図面の整理作業と調査報告書作成に着手した。作業は牛原町文化財整理室で行った。

Ⅱ．調査の組織

本調査の発掘作業、整理作業にあたった組織は以下の通りである。

調査主体　鳥栖市教育委員会

総括	教育長	天野昌明（～令和４年９月）　佐々木英利（令和４年 10 月～）
	教育部長	小柳秀和
	教育部次長	青木博美（～令和４年３月）
	生涯学習課長	松隈義和（～令和４年３月）　牛嶋英彦（令和４年４月～）
	生涯学習課参事	竹下　徹（～令和４年３月）　久家喜男（令和４年４月～）
	生涯学習課課長補佐	久山高史（確認調査）
調査	文化財係長	島　孝寿
	担当係長	大庭敏男（令和４年４月～）
	主査	湯浅満暢（事前審査）
	主査	内野武史
	主査	上田　恵（小郡市人事交流）
	主事	藤岡怜史

第２章　位置と環境

Ⅰ．地理的環境

鳥栖市は佐賀県東部に位置し、南北 9.0㎞、東西 8.2㎞、71.73㎢の面積を有する。北は脊振山系を境に三養基郡基山町及び福岡県那珂川市、筑紫野市と、東は沖積低地上で小郡市と、南は筑後川を隔てて久留米市と接し、西隣には三養基郡みやき町が所在する。鳥栖市は律令制下で区分された肥前・筑前・筑後三国の接する地域にあり、古代の官道（西海道・肥前路、筑後路、城の山道）に始まって近世の街道（長崎街道、彦山道、久留米道)、近代の鉄道、近年には高速道路や新幹線が設置されてきた、歴史ある交通の要衝かつ流通の拠点である。

市域の北西部は脊振山系の東端部にあたり、九千部山（標高 847.5 m）を主峰に東は権現山（626.3 m)、南西は石谷山（754.1 m）へ連なる。それぞれ南東と南へ丘陵地が延び、これが段丘へと変遷したのち、平坦な沖積低地となって筑後川へ至る。地勢は大きく三分することができ、東は権現山から杓子ヶ峰を経て柚比町・今町の高位段丘から曽根崎町の低位段丘へ及ぶ。南は九千部山から城山（498 m)、群石山へとつながる。これらの間に大木川が流れ、山麓に神辺扇状地を形成する。大木川左岸には山地から杓子ヶ峰から延びる段丘、右岸には現在の市街地がある低位段丘がある。西は九千部山から石谷山（754.1 m)、雲野尾峠を経由し、みやき町北部にあたる丘陵となる。城山との間には安良川が走り、山麓に養父扇状地を形成する。また、その西側には石谷山が水源となる沼川が流れ、左岸に洪積段丘が広がる。河川はいずれも南流し、市域南部の標高 10 m以下の平坦地を経て、筑後川へ流れ込む。

本川原遺跡の所在する姫方町は、柚比町から東へ延びる段丘の北東の縁辺部にあたる。その先の低地には山下川と秋光川が南走しており、福岡県小郡市との境界まで約 1㎞の位置である。

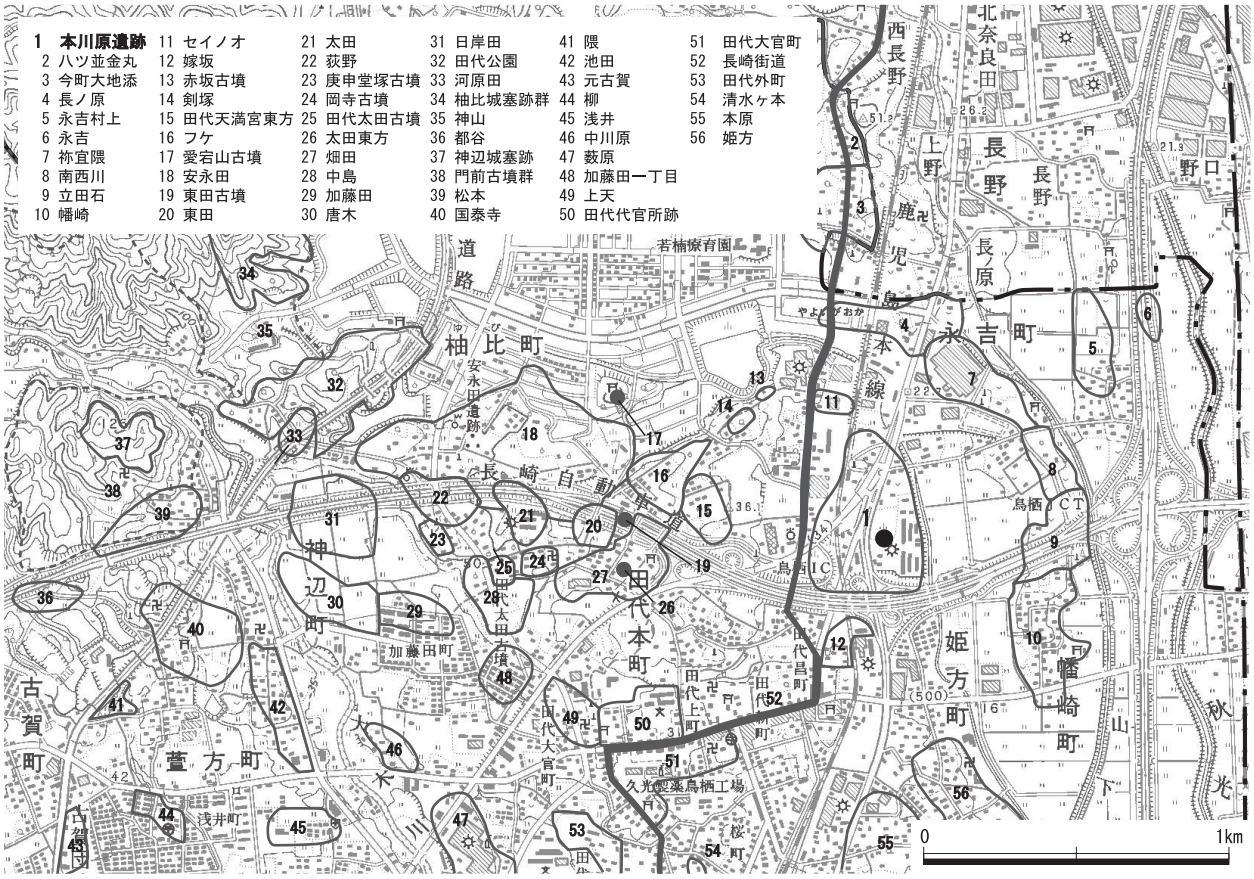
Ⅱ．歴史的環境

鳥栖市内には約 190 遺跡が所在しており、旧石器時代から近世に至る様々な遺構・遺物を確認している。以下、本書で報告する本川原遺跡の周辺地域を中心に、歴史的環境を概観する。

市内で確認されている最も古い生活道具は、旧石器時代後期の石器類であり、北東部に位置する柚比遺跡群内の長ノ原遺跡や安永田遺跡、養父扇状地の基部にあたる牛原原田遺跡や沼川右岸の本行遺跡、本川原遺跡３次調査において見つかっているが、明確な遺構に伴うものではない。

縄文時代になると、安良川上流の西田遺跡で早期の集石遺構や土壙墓、落とし穴が検出されている。住居跡は未確認であるが、出土する土器の様相から一定期間の定住が想定されている。前期には長ノ原遺跡や柚比梅坂遺跡で曽畑式土器が出土している。中期では平原遺跡で集石遺構に伴う並木式土器が、隣接する岸田南遺跡では阿高式土器が出土している。後期では、安良川左岸の低位段丘上に位置する蔵上遺跡で、土器棺墓や住居、多数の祭祀具が確認されており、この集落は晩期まで継続する。本川原遺跡３次調査でも、黒川式期の貯蔵穴が検出されている。

弥生時代は前期末から遺跡数が増加し、市域における生活活動が活発化したことがうかがえる。



第１図　遺跡周辺地図 (S=1/25,000)

北東部の柚比遺跡群では、八ツ並金丸遺跡や長ノ原遺跡などにこの時期の集落跡が見られ、中期では平原遺跡で環濠を伴う集落が、柚比本村遺跡・柚比梅坂遺跡やフケ遺跡などで墓地が確認されている。安永田遺跡では青銅器鋳造関連の遺構・遺物が検出されており、生産施設を伴う拠点的集落であったと考えられる。また市域南西部では、本行遺跡で区画施設である大溝を伴う集落跡が検出されている。ここでも青銅製品や鋳型類が多数出土しており、安永田遺跡とともに当時の青銅生産の双璧をなしていたと見られる。後期になると、集落域は丘陵から低位段丘上に移り、本原遺跡や藤木遺跡、蔵上遺跡、内精遺跡などで集落や環濠が確認されている。

古墳時代前期には前方後方墳である赤坂古墳、本川原遺跡や日岸田遺跡、今泉遺跡の方形周溝墓が見られ、５世紀代には平原古墳や山浦古墳群で古墳が築造される。この時期の集落跡としては元古賀遺跡や桑の木添遺跡などがあるが、検出されている遺構は少ない。６世紀以降に古墳の数は急増し、大木川左岸の中位段丘上に剣塚、東田古墳、岡寺古墳、庚申堂塚古墳などの前方後円墳､田代太田古墳やヒャーガンサン古墳といった装飾古墳が築造される。安良川流域には稲塚古墳、塩塚古墳といった円墳や前方後円墳である牛原前田５号墳が造られる｡また脊振山系の山麓部には、門前古墳群のような群集墳が構築される。集落跡は梅坂炭化米遺跡や元古賀遺跡、蔵上遺跡などで確認されている。

律令期には当該地域は肥前国と称されるようになる。大木川を境に北東部が基肄郡、南西部が養父郡とされ、基肄郡は「郷陸（六）所、里十七」、養父郡は「郷肆（四）所、里十二」との記載が『肥前国風土記』に残されている。八ツ並金丸遺跡では、大型掘立柱建物群を検出するととも

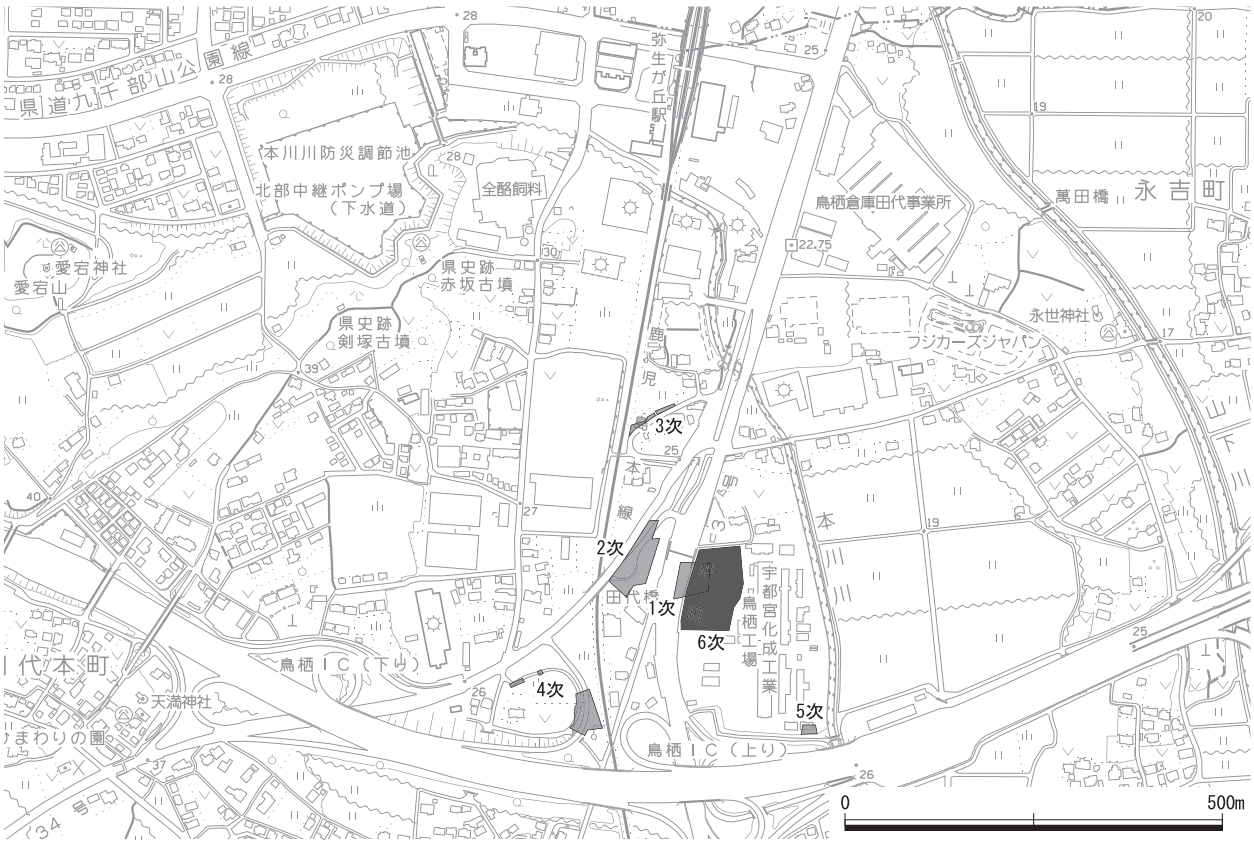
に瓦が出土しており、基肄郡家もしくは関連施設と推測されている。また旧来より養父郡家の所在が想定されていた蔵上町の蔵上遺跡では、掘立柱の倉庫群が検出され、「厨番」の墨書がある土器が出土している。基肄郡の集落跡は八ツ並金丸遺跡や今町岸田遺跡、本川原遺跡 3・5 次調査において、養父郡の集落跡は牛原前田遺跡、立石惣楽遺跡、柳の元遺跡、蔵上遺跡で確認されている。

平安時代後期になると、律令制の弛緩と在地勢力の台頭を受け、各地で農地の荘園化が進行していく。鳥栖市域でも同様で、13 世紀代には基肄・養父両郡において耕地の半分が荘園となっている。この荘園領主は大宰府天満宮安楽寺や宇佐八幡宮弥勒寺であるが、実質的な支配は在地の武士階層によって行われた。

室町時代以降は、北西部の山地に山城が築かれるようになる。中でも明応 6 年（1497）に鳥栖を支配下に置いた筑紫氏は、本城・勝尾城と多数の支城、さらに城下町を構築し、天正 14 年（1586）に島津氏に攻略されるまでの約 90 年間、ここを拠点として勢力を拡大した。

江戸時代になると、基肄郡と養父郡東半部は対馬藩領、養父郡西半部は佐賀藩領とされた。また豊前国小倉と長崎を結ぶ街道が整備され、海外からのものを含むさまざまな文物が、鳥栖を通過して行った。対馬藩領田代と佐賀藩領轟木にはそれぞれ宿場が置かれ、田代宿には対馬藩田代領の統治機関として代官所が設置された。

明治維新後、対馬藩領は厳原県、佐賀藩領は佐賀県とされ、その後、伊万里県、三潴県、長崎県を経て明治 16 年（1883）に佐賀県となった。また第二次世界大戦後、昭和 29 年（1954）に三養基郡鳥栖町、田代町、基里村、麓村、旭村が合併し、現在の鳥栖市に至る。



第 2 図　調査区位置図 (S=1/10,000)

第３章　調査の内容

Ⅰ．本川原遺跡の概要

遺跡は鳥栖市の北東、鳥栖市姫方町字本川原に所在する。遺跡の範囲内には国道３号と 34 号の分岐点を有する。遺跡が立地する低位段丘は、柚比の高位段丘から南東に派生したもので、その末端に位置する。遺跡は柚比遺跡群の縁辺部にあたり、西側には赤坂・剣塚・岡寺・田代太田古墳などが分布する。

遺跡は昭和 48 年国道３号の拡幅工事に伴う事前調査として、佐賀県教育委員会によって１次調査（１区）が実施された。調査の結果、弥生時代後期から古墳時代前期の方形周溝墓２基、竪穴住居５軒、土坑、溝等が検出された。以降、49 年、53 年、59 年、平成２年と実施されており、これらの調査から縄文時代～中世の遺構が確認されている。今回の調査は６次調査（６区）となる。

Ⅱ．今回調査区の概要

今回の調査地点は、国道３号と 34 号の分岐点から南へ 200m のところに位置し、１次調査地点の東隣にあたる。1 次調査報告書（県 26 集）には「東部の調査区外からも３戸分の住居址が確認されている」とあり、これらが今回の調査範囲に該当するものと考えられる。調査地は標高約 23 ～ 25m を測り、調査区の西端中央部を最高点（標高 25.3m）とし、東南北の三方向へと緩やかに落ちてゆく。調査区四隅の標高は北西角（標高 24.0m）、北東際（22.7m）、南西際（20.7m）、南東角（21.3m）である。最高点では黒色土（表土）が 0.2m、検出面とした黄褐色ローム層が約 1.5m その下に灰白色粘土層が堆積する。この灰白色粘土は、調査区南端の表土直下でも検出している。調査以前は畑地として土地利用されており、表土掘削後南斜面にて、棚田状に造成された平場や耕作痕とみられる痕跡が確認された。

調査は令和３年５月 10 日調査区北西よりバックホーによる表土掘削を行った。５月 18 日より人力掘削を開始、途中７月、11 月、２月と３回空中写真撮影を実施し、令和４年３月 10 日人力掘削を完了し、18 日に引き渡しを行った。調査の結果、多くの遺構・遺物を確認した。

遺構の時期は、大きく弥生時代後期～古墳時代初頭、古墳時代後期、奈良時代の３時期にわかれる。遺物量では弥生時代後期～古墳時代初頭の時期のものが最も多い。弥生時代後期～古墳時代初頭の遺構は調査区北西部を中心に分布し、古墳時代後期以降の遺構の多くは、比較的標高の低い調査区南東部を中心に確認された。また、調査区南部では大型の不整形土坑が数多く確認された。その他、調査区西端中央にて、1 次調査にて確認された第 1 号方形周溝墓の周溝と陸橋部と推測される痕跡、その南東から第２号方形周溝墓と推測される痕跡が確認された。遺構番号については調査の結果遺構とならなかった番号については、欠番とし再付をしていない。

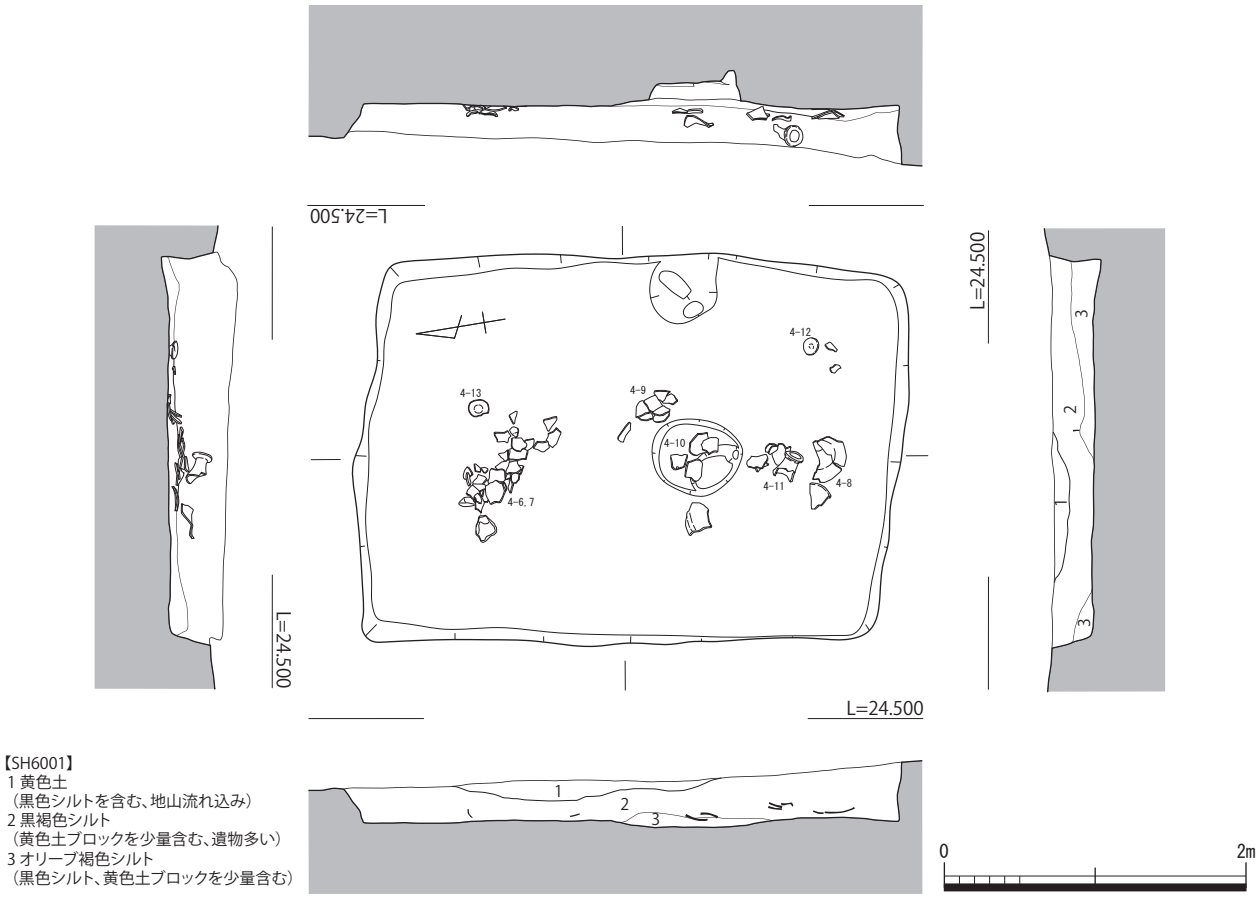
Ⅲ．弥生時代後期～古墳時代初頭の遺構・遺物

弥生時代後期から古墳時代初頭にかけての時期の遺構は、竪穴住居 14 軒、土坑 6 基が検出された。当該時期の遺構は調査区北部から西部に集中して確認された。

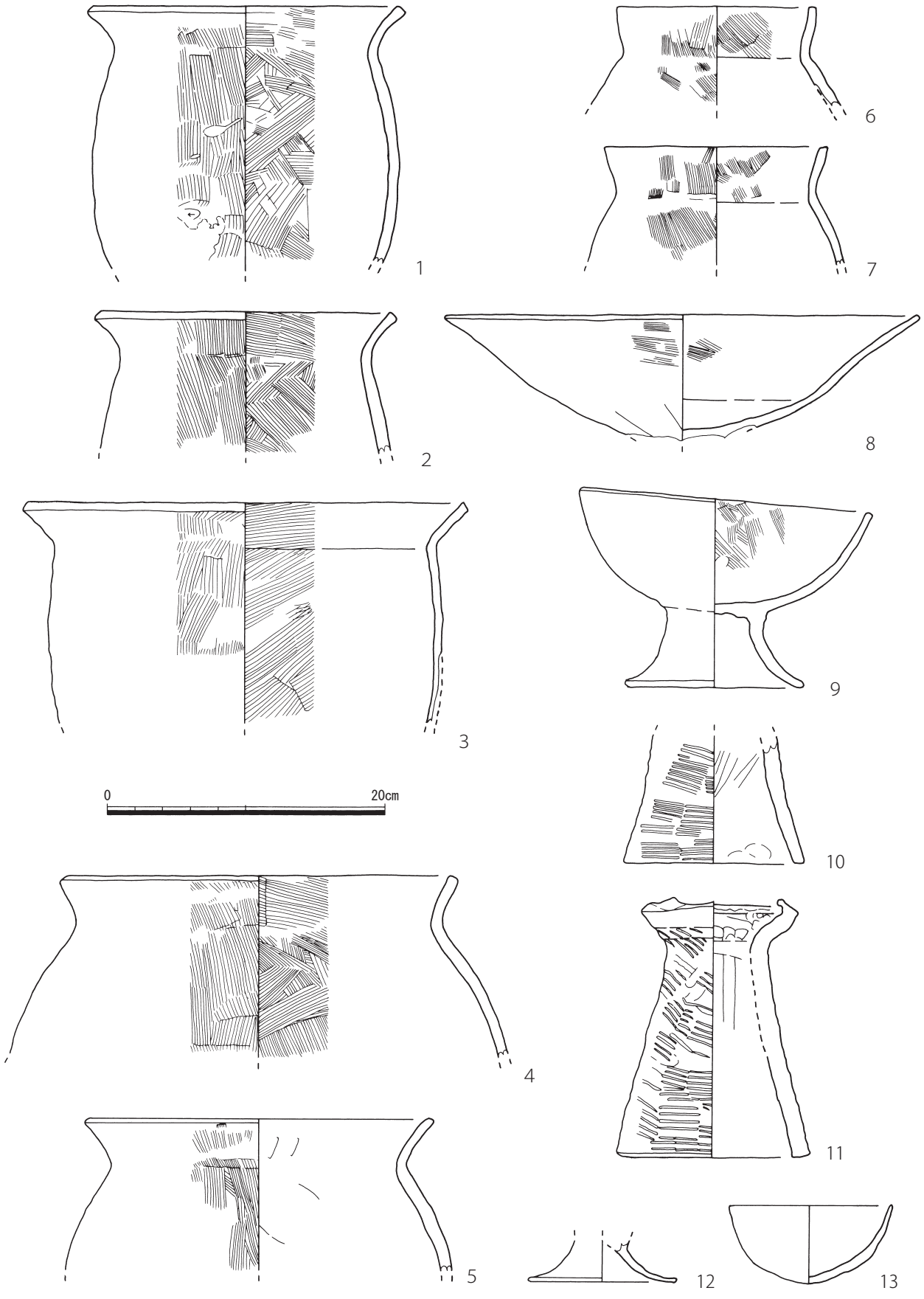
1．【竪穴住居（SH)】

SH6001（第 3 図・図版 4） 調査区北西角に位置する。主軸方位はＮ 9 ° Ｅにとり、長軸 3.6 m、短軸 2.5 mで形状は隅丸方形である。検出面からの最大深は 0.4 mである。床面は固くしまっている地山が踏み固められたものと推測される。柱穴 2 基が確認され、位置関係から中央部の径 0.58m の柱穴が主柱穴とおもわれる。

出土遺物（第 4 図・図版 16） 遺物は弥生の甕（ 1 ～ 7)、高坏（ 8 ～ 9)、器台（10 ～ 11)、土師器の高坏か器台の脚（12)、鉢（13）が出土した。 1 ～ 7 は「く」の字状口縁の甕である。 1 ～ 4 ・ 7 は内外面にハケメが施される。 5 は外面にハケメ、内面口縁部に工具ナデ、体部にケズリを施す。 6 は内面と外面口縁部にハケメ、体部に工具ナデを施す。 8 は坏部のみ残存。口径は 34.4㎝である。内外面にハケメを施す。9 は口径 21.2㎝である。10 は外面全域にタタキを施す。11 の受部は内側に屈曲して袋状をなし、内部には指オサエ痕が残る。体部のくびれから脚部にかけて外面にタタキを施す。12 は高坏か器台の脚部で裾に向かって緩やかに広がる。内面の一部に指オサエが残る。13 は内外面に工具ナデを施す。



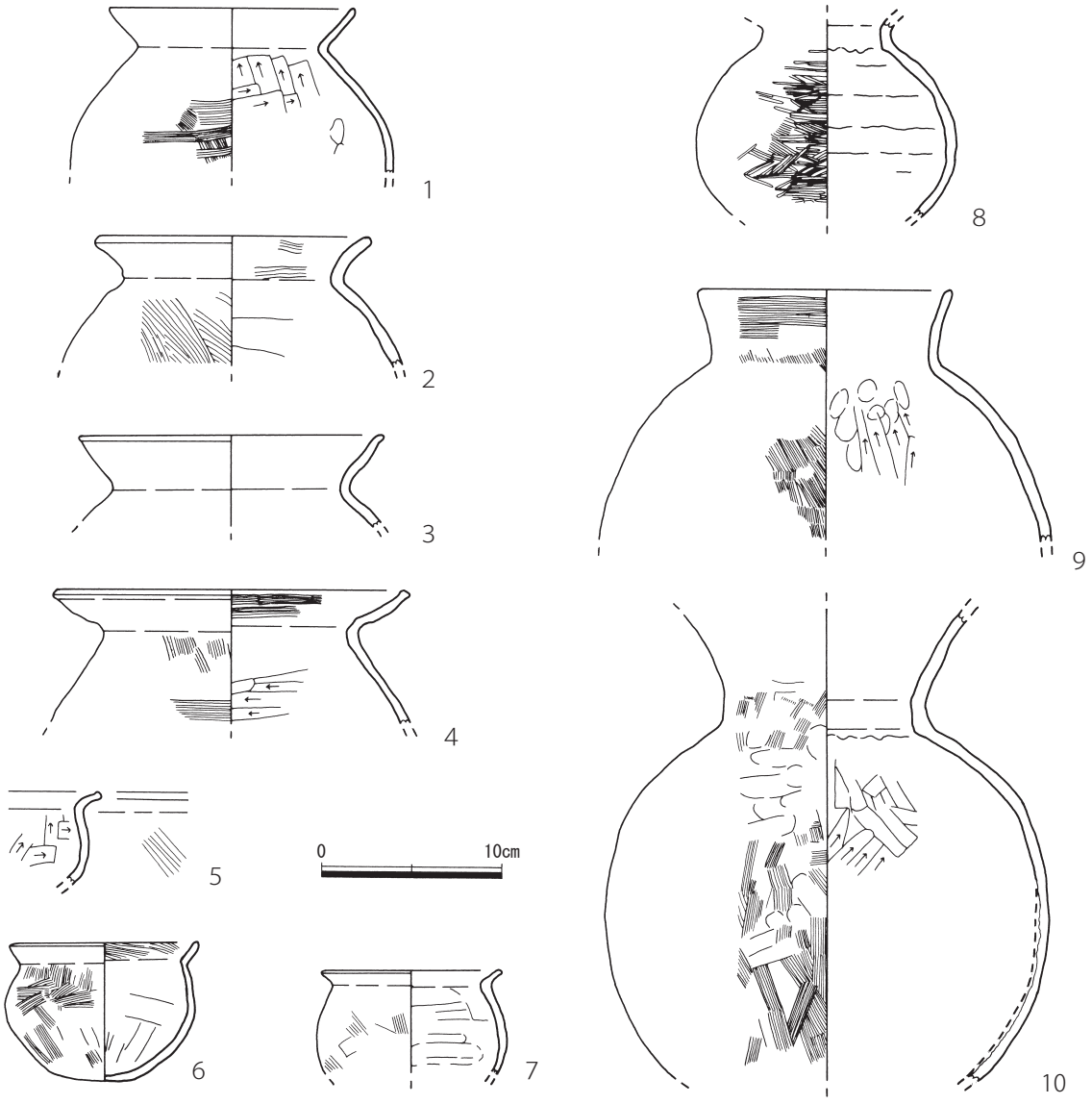
第 3 図　6001 号竪穴住居　平・断面図 (S=1/50)



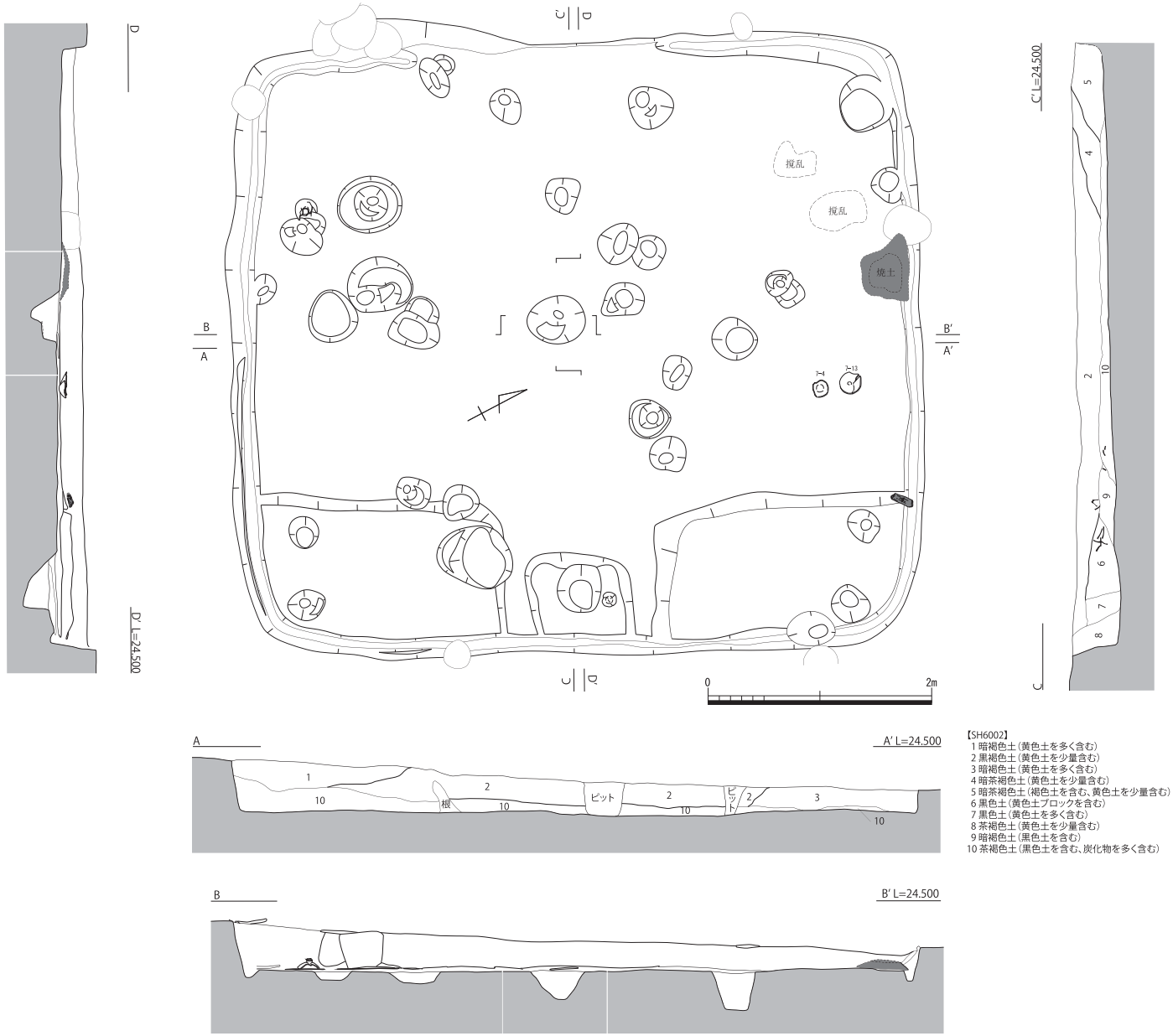
第 4 図　6001 号竪穴住居　出土遺物 (S=1/4)

SH6002（第６図・図版４）　調査区北西部、SH6001 の南東に位置する。主軸方位はＮ 64°Ｗにとり、長軸 6.1 ｍ、短軸 5.4 ｍで形状は隅丸方形である。検出面からの最大深は 0.4 ｍである。床面は固くしまっており、土質から地山が踏み固められたものと推測される。床面より多数の柱穴が検出されたうち土坑１基と柱穴１基は出土遺物から内部施設であると考えられる。他多数の柱穴と住居との関係は不明である。壁内側に幅 0.15 ～ 0.2m ほどの溝が全周する。南東部、南西部の２カ所にて幅 1.0m 高さ 0.1m の削り出しベッド状遺構が確認された。北東壁際にて長軸 0.6m 短軸 0.5m の範囲で焼土が確認された。

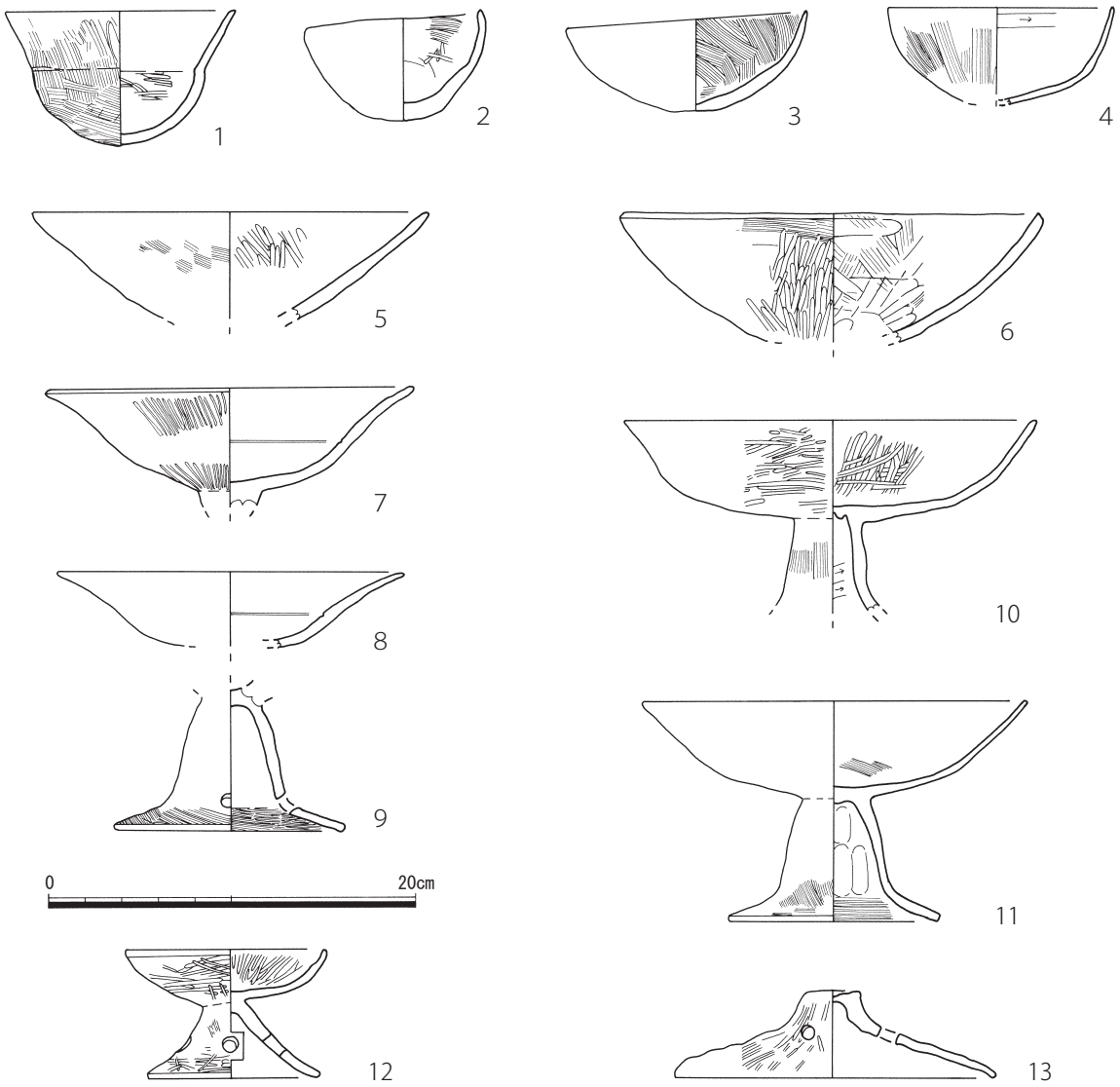
出土遺物（第５・７図・図版 16・17）　遺物は甕（５－１～５・９）、壺（５－６～８・10、７－１）、鉢（７－２～４）、高坏（７－５～ 11）、器台（７－ 12）蓋（７－ 13）が出土した。５－１・４・５は外面ハケメ、内面ケズリを施す。５－２は口縁端部にかけて外反する。５－３は口縁端部に面取りを施す。５－６・７は内面に工具ナデを施す。５－８は体部前面にミガキを施す。５－９は外面ハケメ、内面工具ナデを施す。５－ 10 は外面頸部から体部にかけてハケメと指ナデ、内面は工具ナデを施す。



第５図　6002 号竪穴住居　出土遺物① (S=1/4)



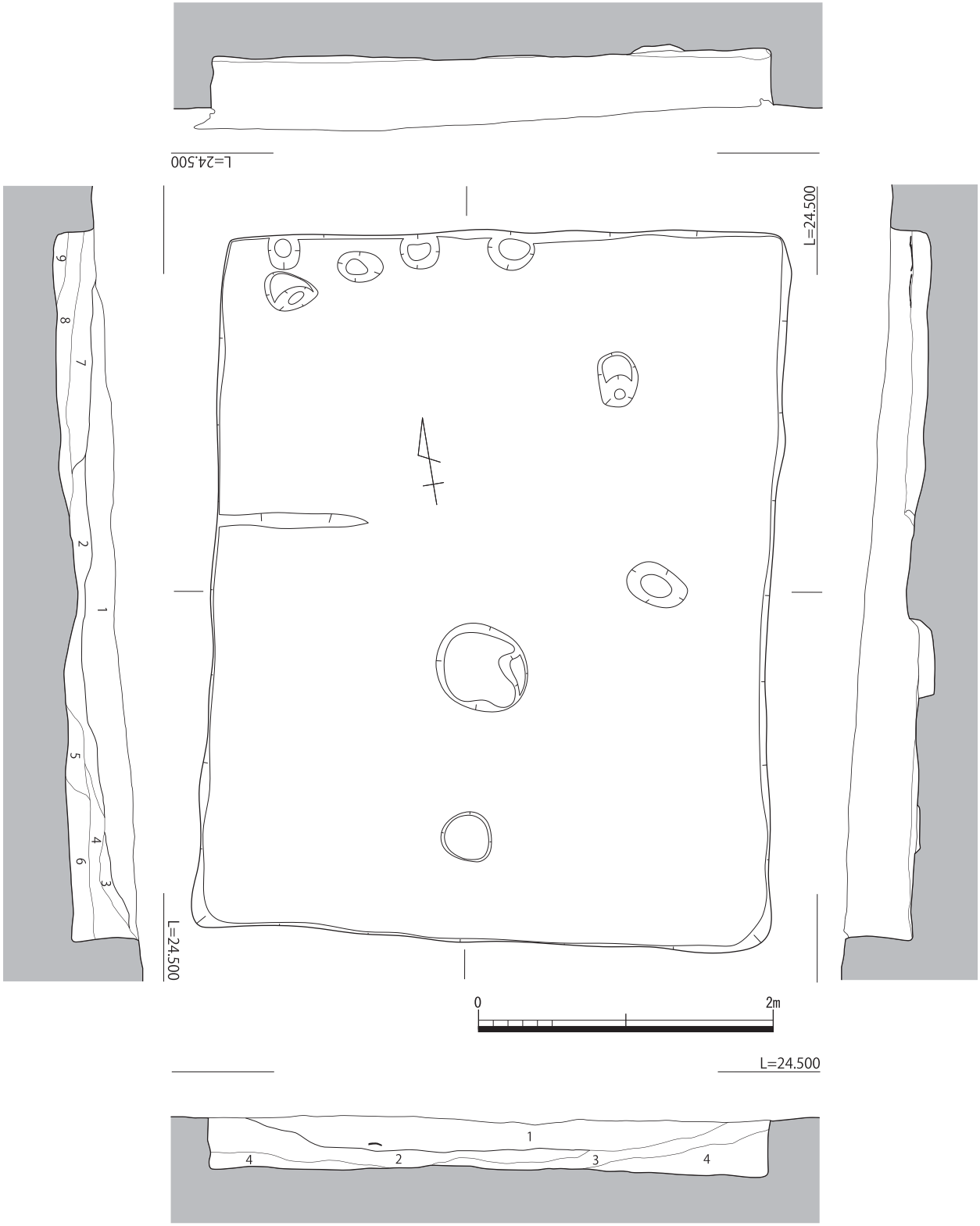
第 6 図　6002 号竪穴住居　平・断面図 (S=1/40)



第 7 図　6002 号竪穴住居　出土遺物② (S=1/4)

７－１は外面にハケメ、体部内面にミガキを施す。７－２は厚手の雑な成型で内面にハケメとミガキを施す。７－３は内面全面に、７－４は外面にハケメを施す。７－５は坏口縁部が直線的に延びる。７－６は内面ハケメののち工具ナデを、外面は口縁端部を除き縦方向のミガキを施す。７－７と７－８は口縁端部にむかって緩やかに外反し内面に沈線を有する。７－９は脚部のみ残存、7－8と同一個体である可能性がある。7－10は坏部両面と脚部端部にかけてミガキを施す。７－ 11 は坏部両面ミガキ、脚部外面にハケメ、内面に工具ナデを施す。７－ 12 は脚部端部両面にハケメを施す。７－ 13 は外面全体にミガキを施す。

SH6003（第８図・図版４） 調査区北西部、SH6002 の東に位置する。主軸方位はＮ 81°Ｗにとり、長軸 4.8 ｍ、短軸 3.8 ｍで形状は方形である。検出面からの最大深は 0.4 ｍである。床面は固く

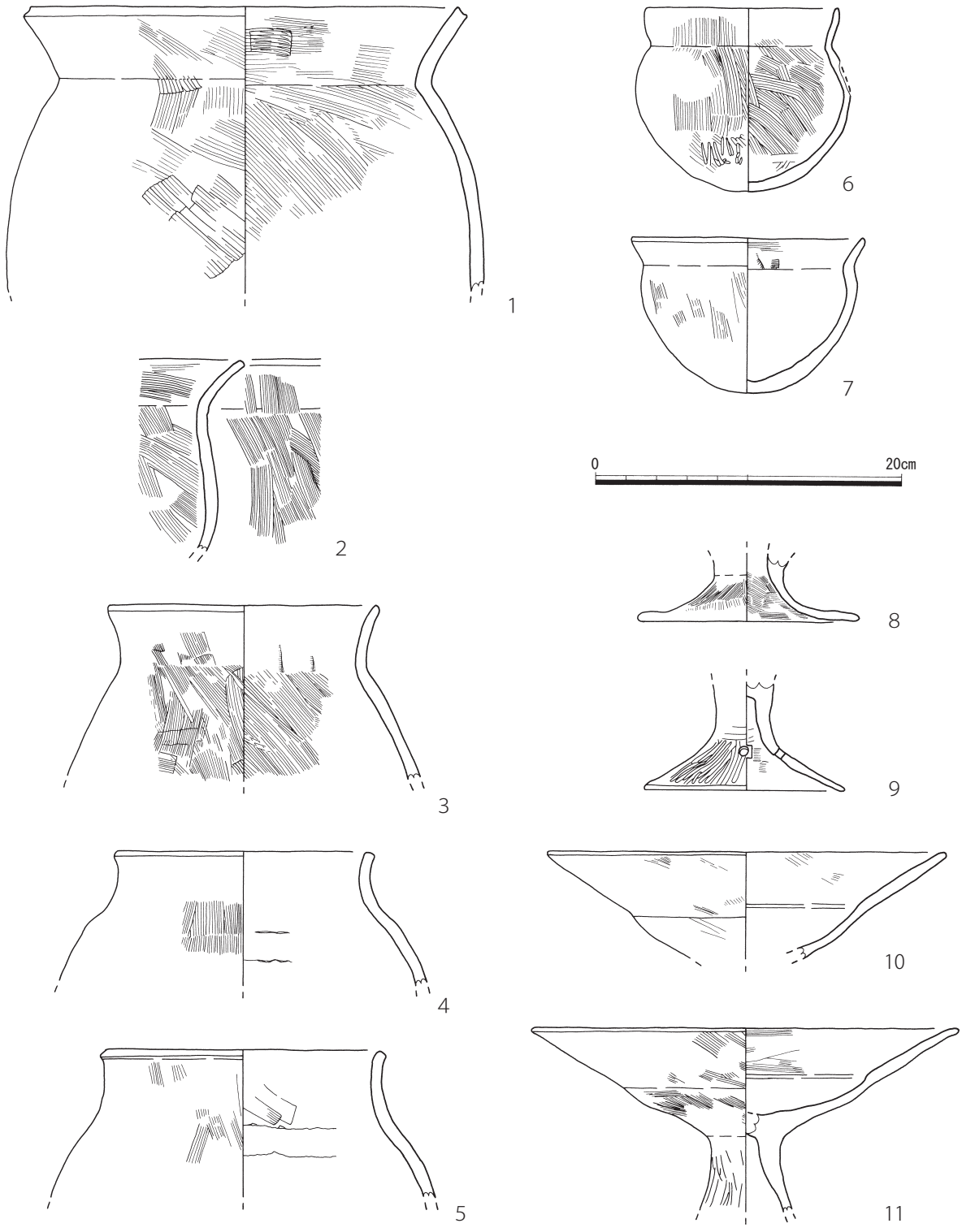


【SH6003】
1 黒色シルト（黄色ブロックを少量含む、遺物多い）
2 黒色シルト（黄色土を多く含む）
3 黄褐色土
4 オリーブ褐色土（粘性強い）
5 オリーブ褐色土（黄色土を多く含む）
6 オリーブ褐色土（黄色土、褐色土を多く含む）― ベッド状遺構構築土
7 オリーブ褐色土（黄色土を含む、粘性弱い）
8 黄色土（6層に似る、褐色土ブロックを多く含む）
9 黄色土（黒色土を含む）

第 8 図　6003 号竪穴住居　平・断面図 (S=1/40)

しまっており、土質から地山が踏み固められたものと推測される。床面より多数の柱穴が確認されたが住居との関係は不明である。位置関係から中央部の径 0.6m の柱穴が主柱穴と思われる。

出土遺物（第９図･図版 17） 遺物は弥生の甕（１･２）、壺･小型壺（３～５）、鉢（６･７）、脚（８）、高坏（９～ 11）を確認した。１と２は内面と外面にハケメを施す。３は内面と外面にハケメを施す。４は外面にハケメを施す。５は内面に工具ナデ、外面にハケメを施す。６は内面に頸部か



第９図　6003 号竪穴住居　出土遺物 (S=1/4)

ら体部にかけてハケメ、底部はハケメのち工具ナデと一部ミガキを施す。外面は口縁部から体部にかけてハケメ、底部に向かってミガキを施す。７は内面口縁部に横方向のハケメ、体部から工具ナデ、外面は頸部から体部にかけてハケメを施す。８は内面外面ともにハケメを施す、穿孔はみられない。９は内面にハケメ、一部に工具ナデ、外面裾部にミガキを施す。10 は坏部のみ残存、内面はハケメののちにナデ消し、底部にはミガキを施す。外面はハケメを施す。11 は坏部の内面口縁端部から中腹にかけてハケメを施す。坏部外面にはハケメ、脚部にはミガキを施す。

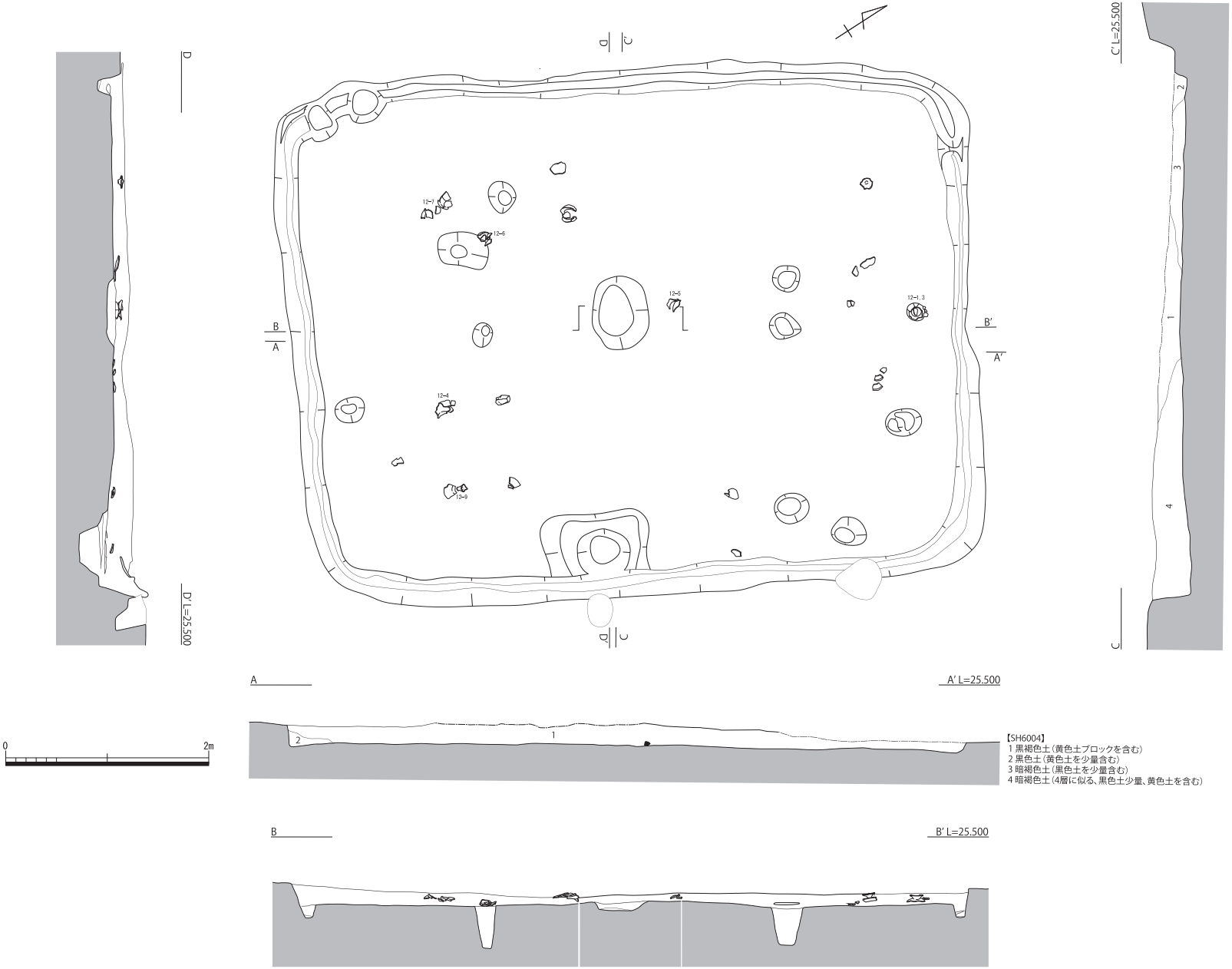
SH6004（第 10 図・図版 4・5） 調査区西部、SH6001 の南に位置する。主軸方位はＮ 57°Ｗにとり、長軸 6.7 ｍ、短軸 5.1 ｍで、形状は隅丸の長方形である。SH6005 と重複関係にあり SH6004 が新しい。検出面からの最大深は 0.3 ｍである。床面は固くしまっており、地山が踏み固められたものと推測される。壁内側に幅 0.15 ～ 0.2m ほどの溝が全周する。南東壁に径 1.0m の土坑状の掘り込みが確認された。また中央部長軸上に３基の柱穴が確認され、住居に伴うと考えられる。その他、床面全体に柱穴が不規則に認められるが住居との関係は不明である。

出土遺物（第 12 図・図版 17） 遺物は土師器の甕（１～３）、壺・小型壺（４～６）、鉢（７・８）高坏（９）、器台（10）を確認した。１は内面にハケメ、体部には工具ナデを施す。外面は口縁部にハケメ、体部にタタキを施す。２・３は体部内面にケズリを施す。４は体部外面にタタキ、内面に指ナデを施す。５は二重口縁壺で体部外面にハケメを施す。６は口縁部内側にミガキを施す。７は内面にハケメを施す。８は内外面全面にナデを施す。

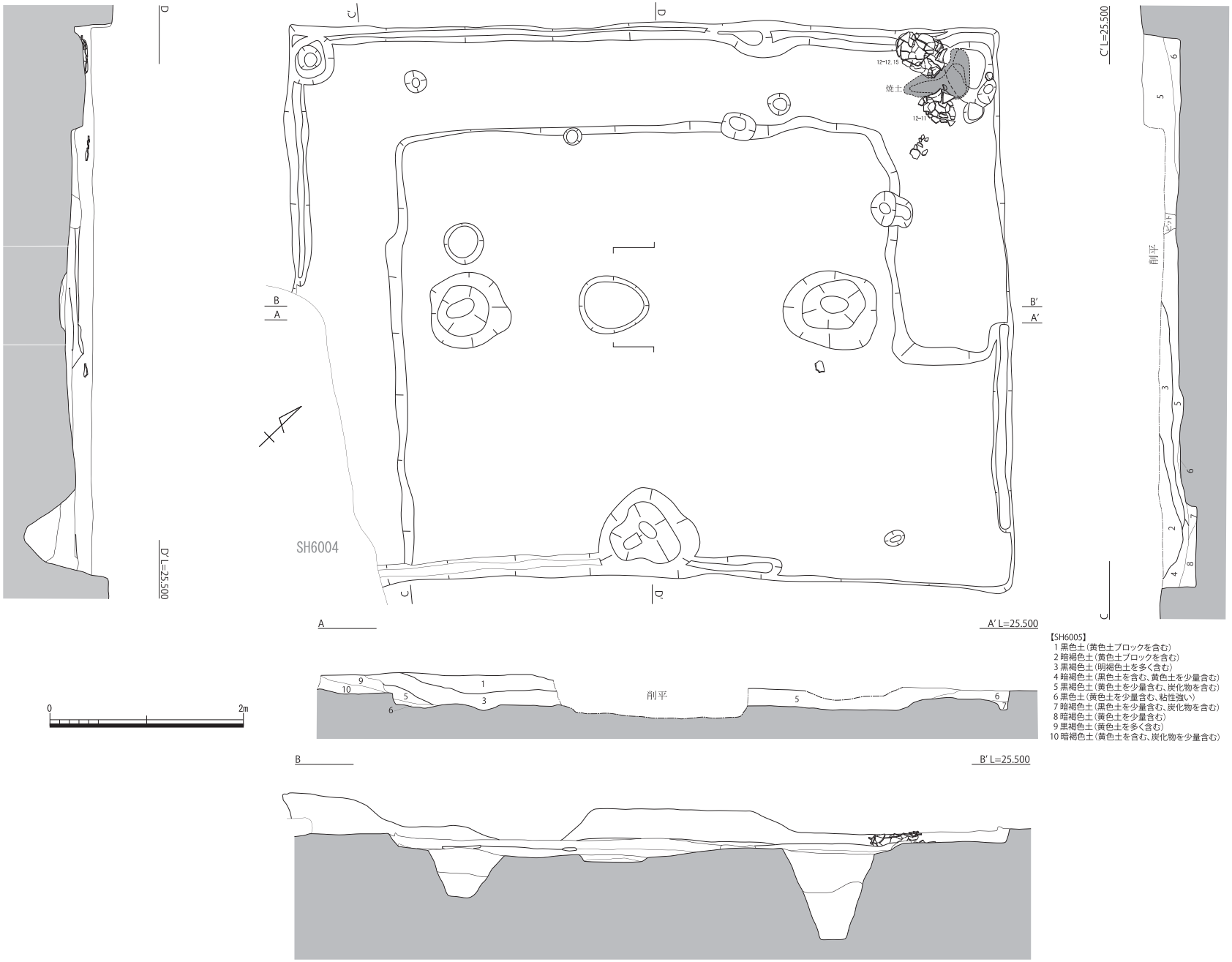
SH6005（第 11 図・図版５） 調査区西部、SH6004 の北に位置する。主軸方向はＮ 47°Ｗにとり、長軸 7.2 ｍ、短軸 5.7 ｍの長方形である。SH6004 と重複関係にあり、SH6004 が新しい。検出面からの最大深は 0.4 ｍである。床面は土質から地山が踏み固められたものと推測される。北東の一部を除く壁内側に幅 0.15 ～ 0.2m ほどの溝が確認された。中央部長軸線上に径 0.9 ｍほどの柱穴２基が並ぶ他、東壁に掘り込みを確認した。 南西部と北西部壁際全体と北東部の一部に幅 0.8 ～ 1.0m、高さ 0.1 ｍの削り出しベッド状遺構が確認された。北西角より長軸 0.7m、短軸 0.4m の範囲で焼土が確認された。

出土遺物（第 12 図・図版 17） 遺物は弥生の甕（11 ～ 13）、鉢（14）、土師器の台付鉢（15）、器台（16・17) を確認した。11 は遺構北西部の焼土に隣接した地点で出土した。調整は内面外面ともに粗目のハケメを施す。12 は体部内側にハケメ、外面は口縁端部を除きタタキを施す。13 は口縁端部と突帯にキザミ、内面外面ともにハケメを施す。14 は両面にハケメを施す。15 は鉢部内面にミガキを施す。16 は脚部内面にハケメを施す。17 は内面にハケメ、外面に暗文を施す。

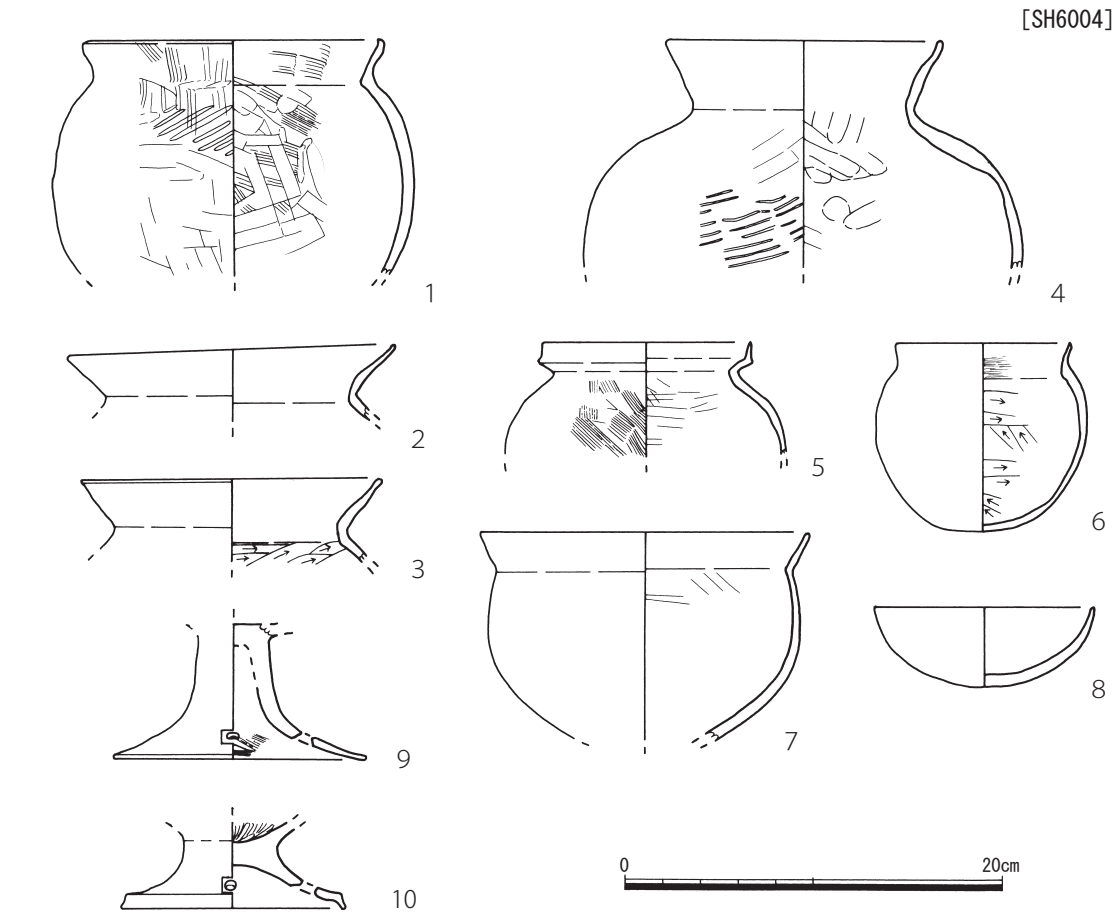
SH6006（第 13 図・図版５） 調査区北部、SH6003 の南東に位置する。主軸方向はＮ 10°Ｗにとり、長軸 6.1 ｍ、短軸 4.2 ｍを測り、形状は長方形である。検出面からの最大深度は 0.3 ｍである。床面は固くしまっているが、土質から地山が踏み固められたものと推測される。床面より多数の柱穴が確認されたが、住居との関係は不明である。

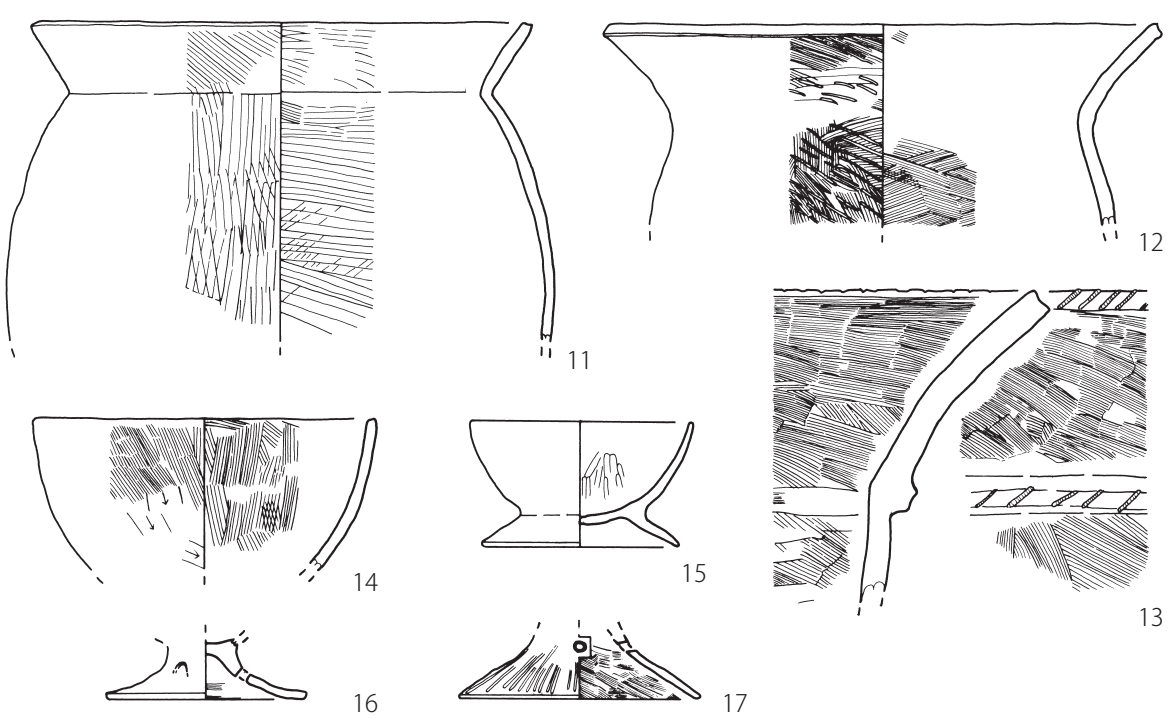


第 10 図　6004 号竪穴住居　平・断面図 (S=1/40)

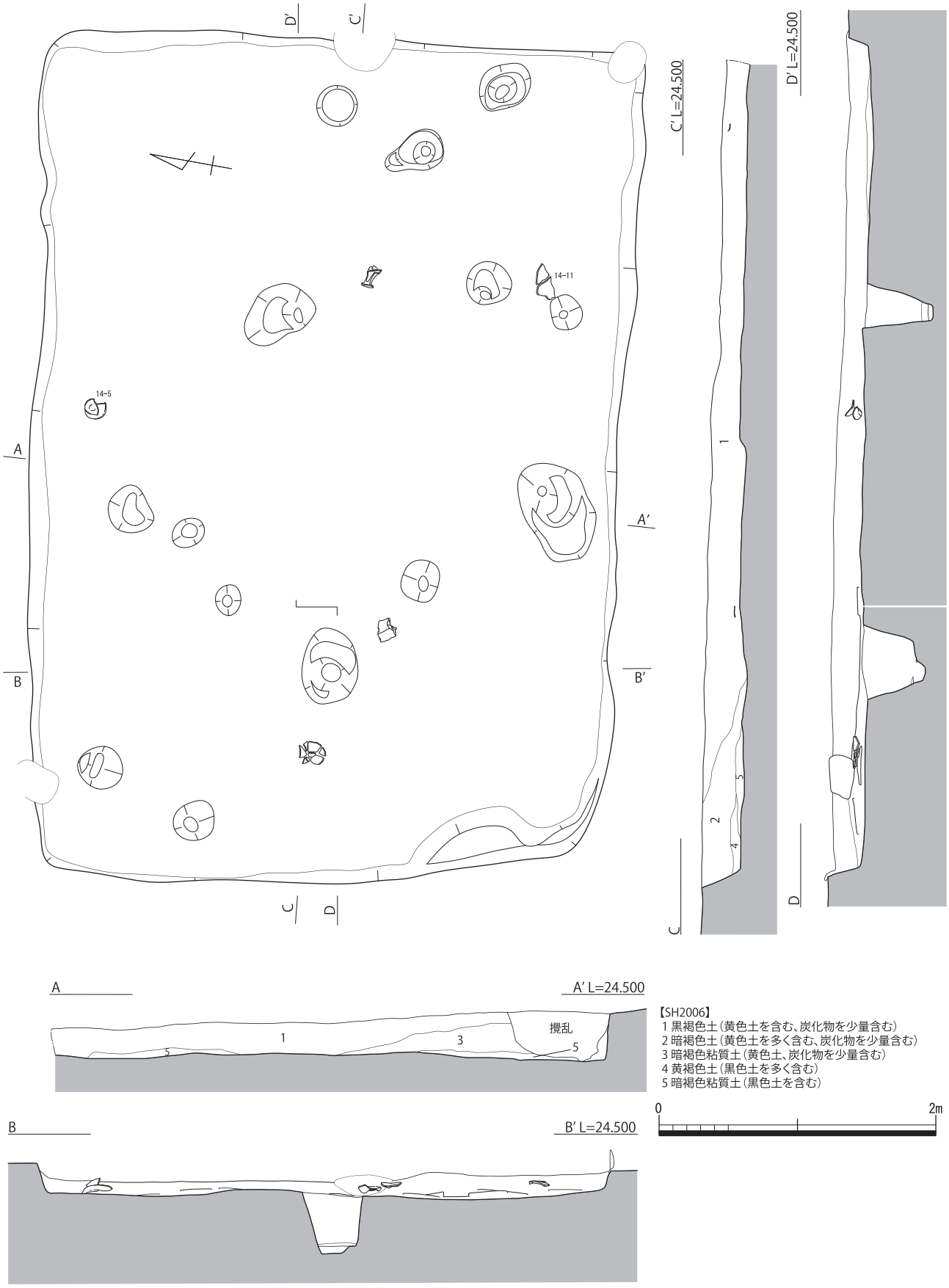


第 11 図　6005 号竪穴住居　平・断面図 (S=1/40)

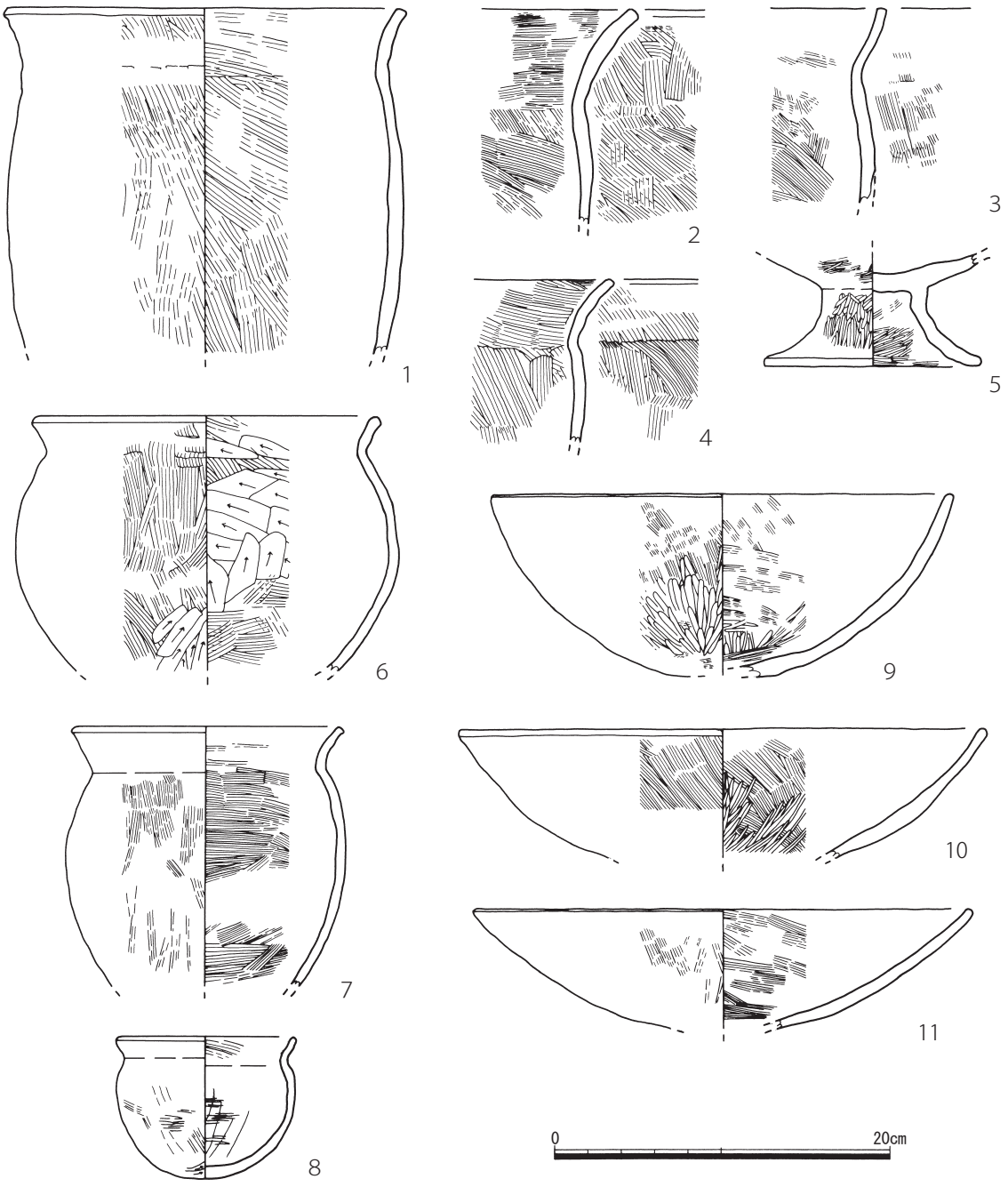




第 12 図　6004・6005 号竪穴住居　出土遺物 (S=1/4)



第 13 図　6006 号竪穴住居　平・断面図 (S=1/40)

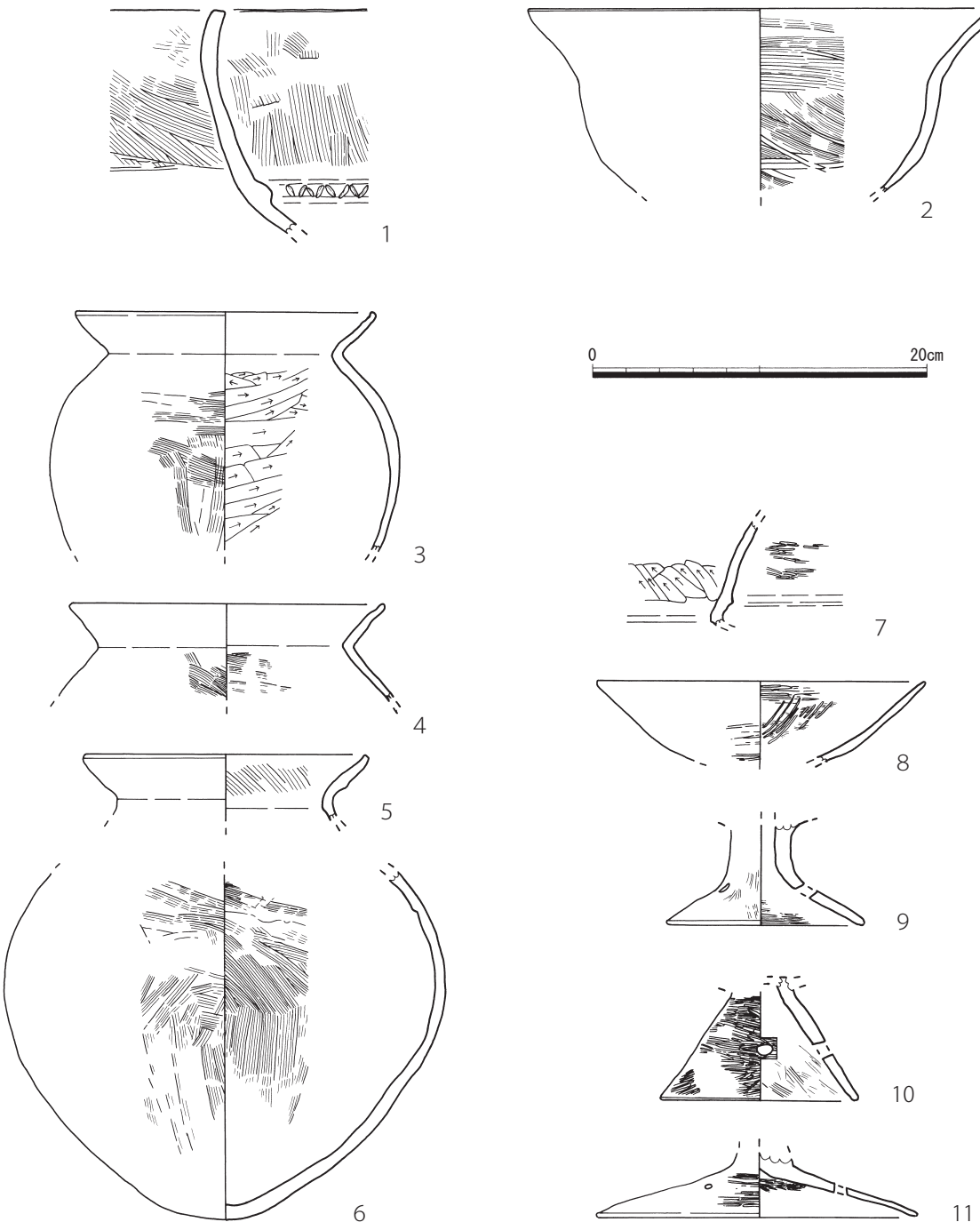


第 14 図　6006 号竪穴住居　出土遺物 (S=1/4)

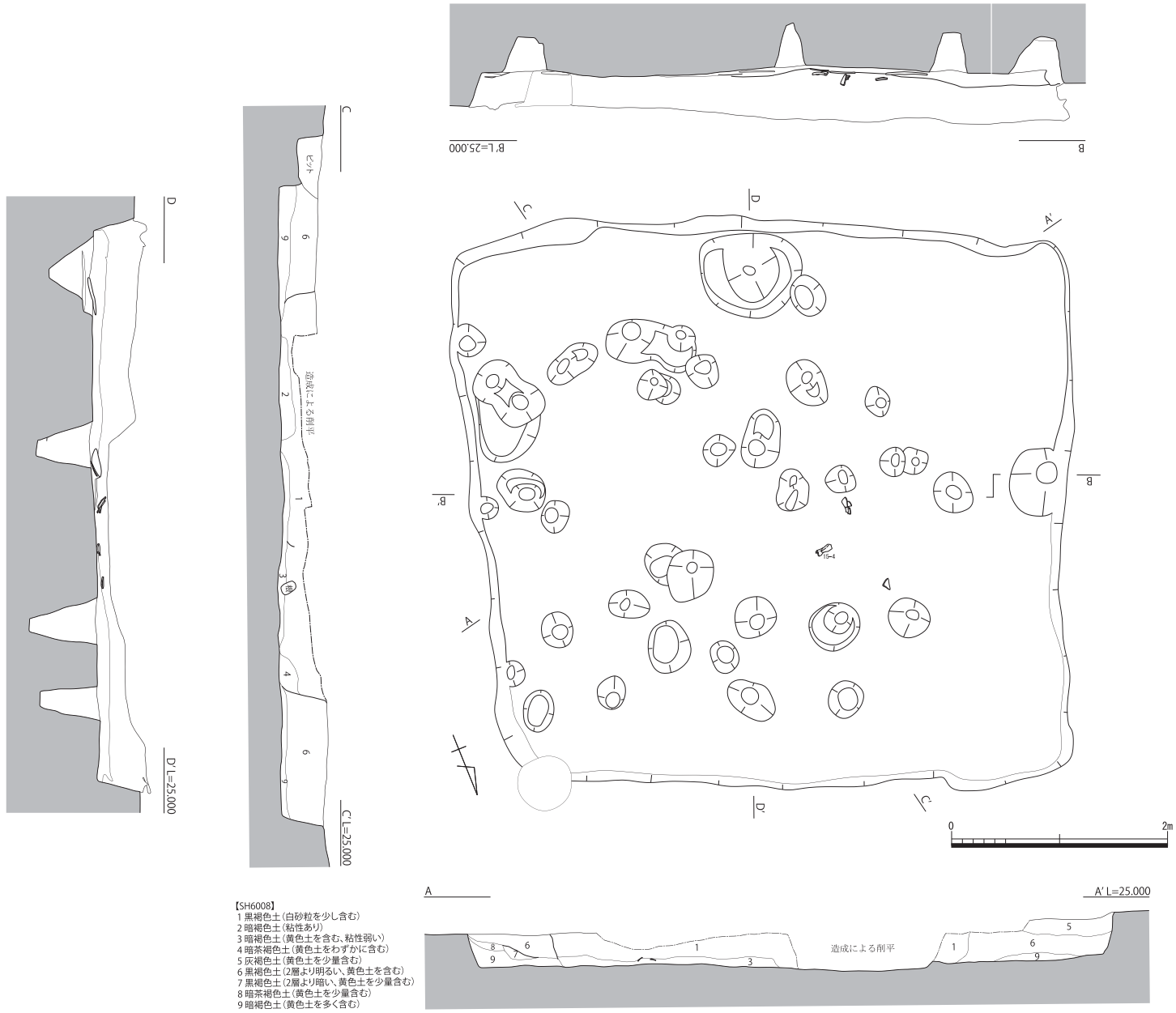
出土遺物（第 14 図・図版 17・18）　遺物は弥生の甕（1 ～ 4）、高坏（5）、土師器の甕（6・7）、小型壺（8）、鉢（9）、高坏（10･11）を確認した。1 ～ 4 は内面外面全体にハケメを施す。5 は坏部内面にミガキ、脚部内面はハケメのちにミガキ、外面はミガキを施す。6 は内面外面ともにハケメののち工具ナデを施す。7 は内面全体に横方向に外面体部全体に縦方向にハケメを施す。8 は体部の内面外面にミガキを施す。9 は内面外面ともにハケメとミガキを施す。10 は外面にハケメ、内面にハケメとミガキを施す。11 は内面外面ともにハケメを施す。

SH6008（第 16 図・図版 5 ・ 6） 調査区中央部やや北西、SH6006 の南に位置する。後世の造成により遺構は大きく削平されているものの、主軸方向はＮ 22° Ｅにとり長軸 5.7 m、短軸 5.4 mを測り、形状は隅丸方形である。検出面からの最大深は 0.4 mである。床面は固くしまっているが、土質から地山が踏み固められたものと推測される。南西壁際に径 0.9m の土坑状の掘り込みが確認された。その他、床面より多数の柱穴が確認されたが、住居との関係は不明である。

出土遺物（第 15 図･図版 18） 遺物は弥生の甕（１）、鉢（２）、土師器の甕（３～６）、壺（７）、



第 15 図　6008 号竪穴住居　出土遺物 (S=1/4)



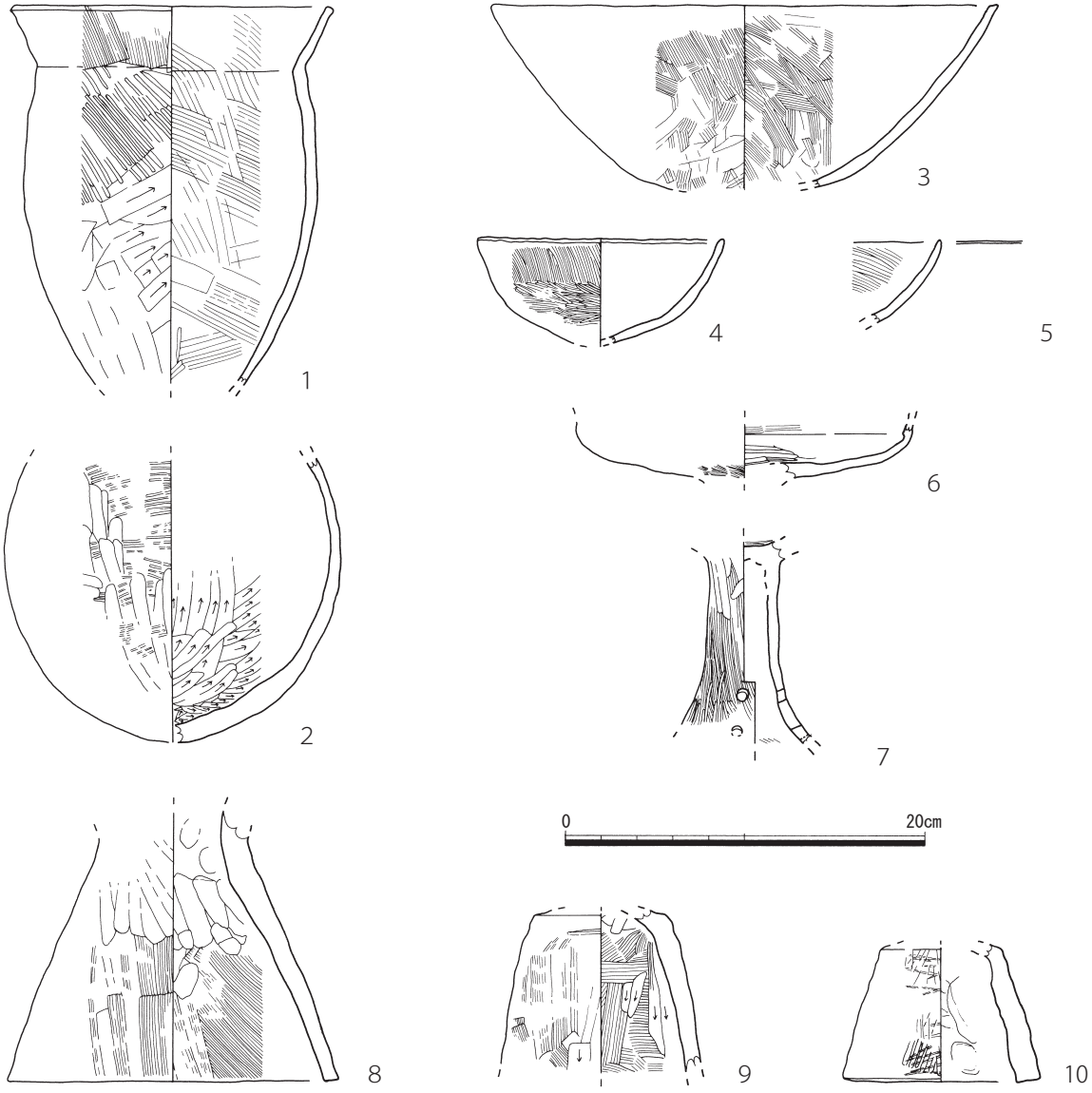
【SH6008】
1 黒褐色土（白砂粒を少し含む）
2 暗褐色土（粘性あり）
3 暗褐色土（黄色土を含む、粘性弱い）
4 暗茶褐色土（黄色土をわずかに含む）
5 灰褐色土（黄色土を少量含む）
6 黒褐色土（2層より明るい、黄色土を含む）
7 黒褐色土（2層より暗い、黄色土を少量含む）
8 暗茶褐色土（黄色土を少量含む）
9 暗褐色土（黄色土を多く含む）

第 16 図　6008 号竪穴住居　平・断面図 (S=1/40)

第 17 図　6210 号竪穴住居　平・断面図 (S=1/40)

高坏（８・９）、器台（10）、蓋（11）を確認した。１は突帯にＶ字状のキザミを施す。２は内面全体にハケメ、外面には一部丹塗りを施す。３は体部内面全体にケズリを、体部外面にハケメを施す。４は体部内面外面に、５は口縁部内面にハケメを施す。６は体部のみ残存内面外面ともにハケメを施す。７は内面にケズリを、外面にハケメを施す。８は内面ハケメのちにミガキ、外面にハケメを施す。９は内面外面ともにハケメを施す。10 は外面にミガキ､内面にハケメを施す。11 は外面にミガキ、内面にハケメを施す。

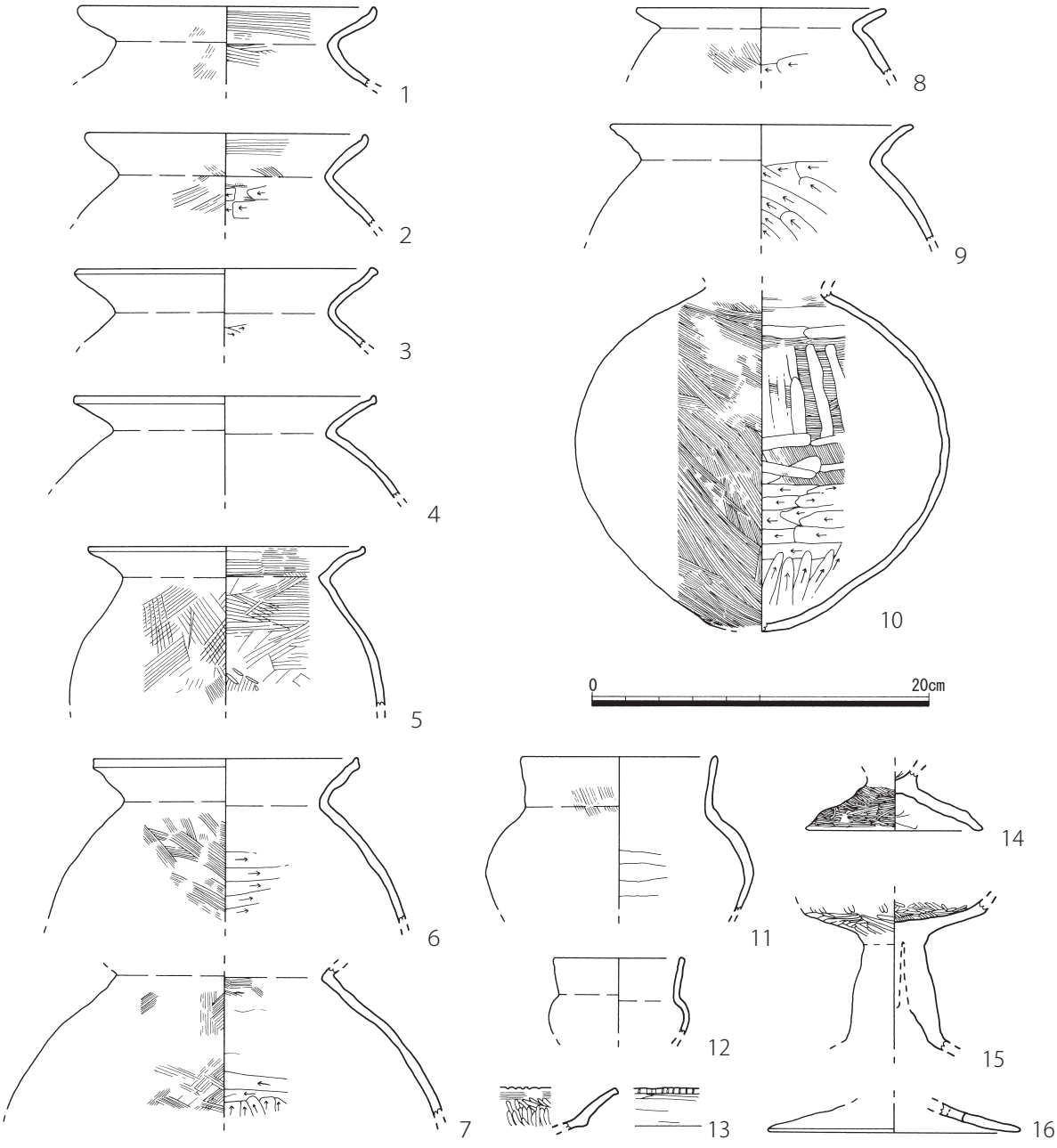
SH6210（第 17 図・図版６） 調査区中央部、SH6008 の南に位置する。遺構の南西部が大きく削平されているが、主軸方向はＮ 10° Ｅにとり、長軸 5.5 ｍ、短軸 3.7 ｍを測り、形状は長方形である。検出面からの最大深は 0.3 ｍである。床面は固くしまっているが、土質から地山が踏み固められたものと推測される。東西壁沿いに幅 0.9 ～ 1.0m、高さ 0.1m の範囲で削り出しベッド



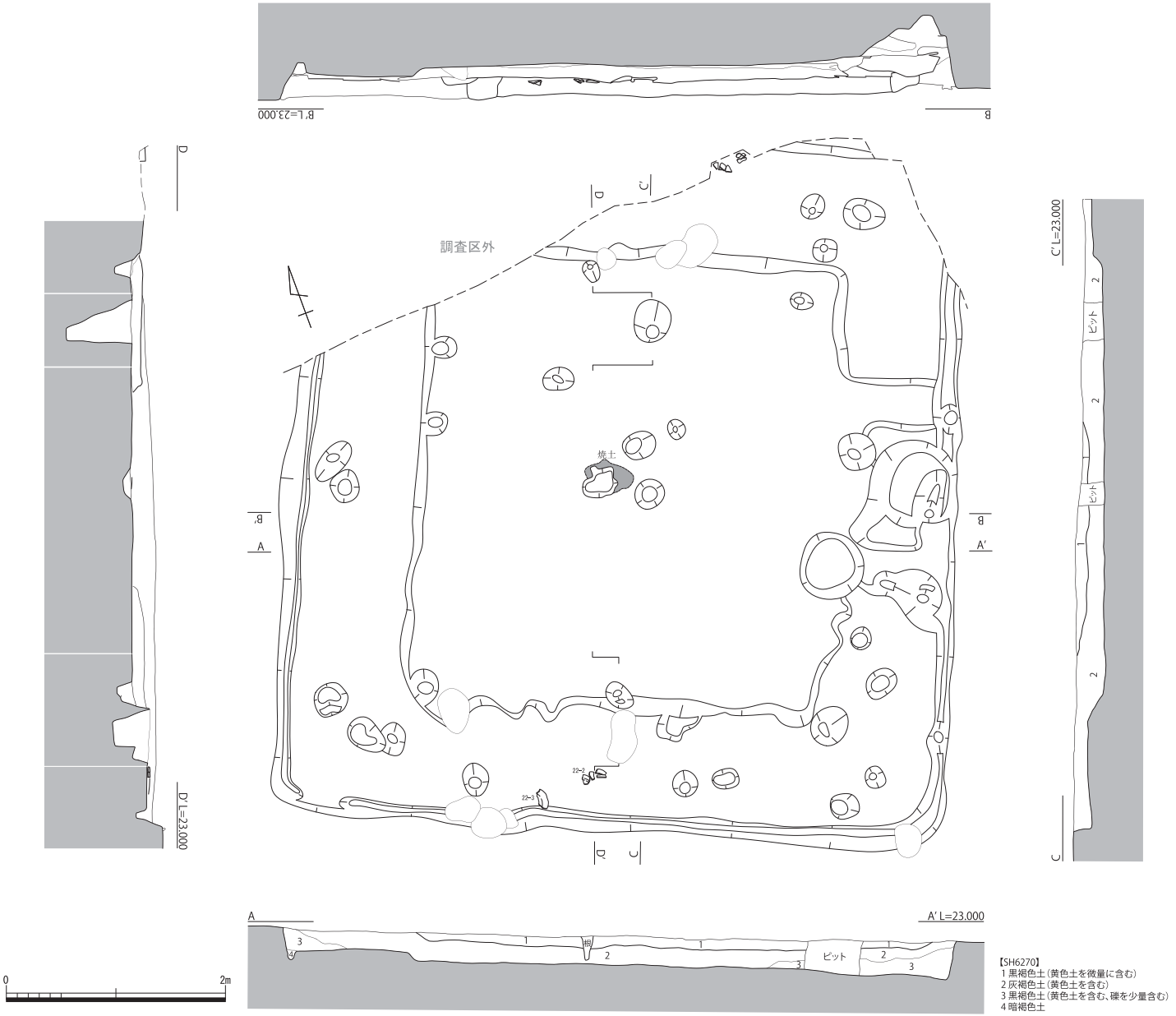
第 18 図　6210 号竪穴住居　出土遺物① (S=1/4)

状遺構が確認された。位置関係から内部施設として柱穴2基を確認した。また南壁際の土坑1基と北東部の土坑1基も出土遺物から関連施設と推測される。その他多数のピット状の掘り込みを確認したが住居との関係は不明である。

出土遺物（第18・19図・図版18） 18－1は内面全体と外面口縁部にハケメ、外面頸部から体部中央にかけてタタキ、以下底部手前にかけてケズリを施す。18－2は内面中央から底部にかけてケズリ、外面にタタキを施す。18－3は内面と外面にハケメを施す。18－4は外面口縁部から体部にかけてハケメ､以下底部にかけてミガキが施される｡18－5は内面にハケメを施す。18－6は坏部のみ残存、内面に工具ナデ、外面にハケメを施す。18－7は外面に裾部にミガキ、中腹からは縦方向のハケメ、坏部との接合部にかけて部分的に工具ナデを施す。18－8は内面



第19図　6210号竪穴住居　出土遺物② (S=1/4)

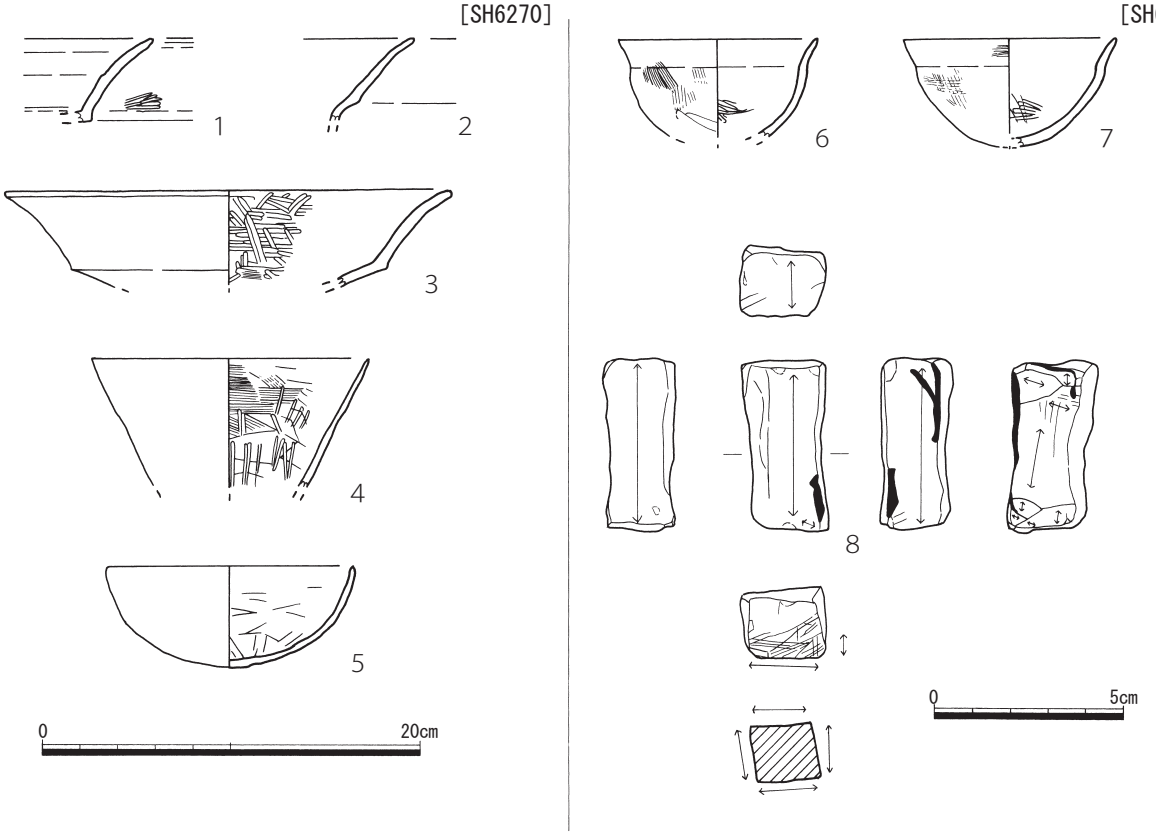


第 20 図　6270 号竪穴住居　平・断面図 (S=1/40)

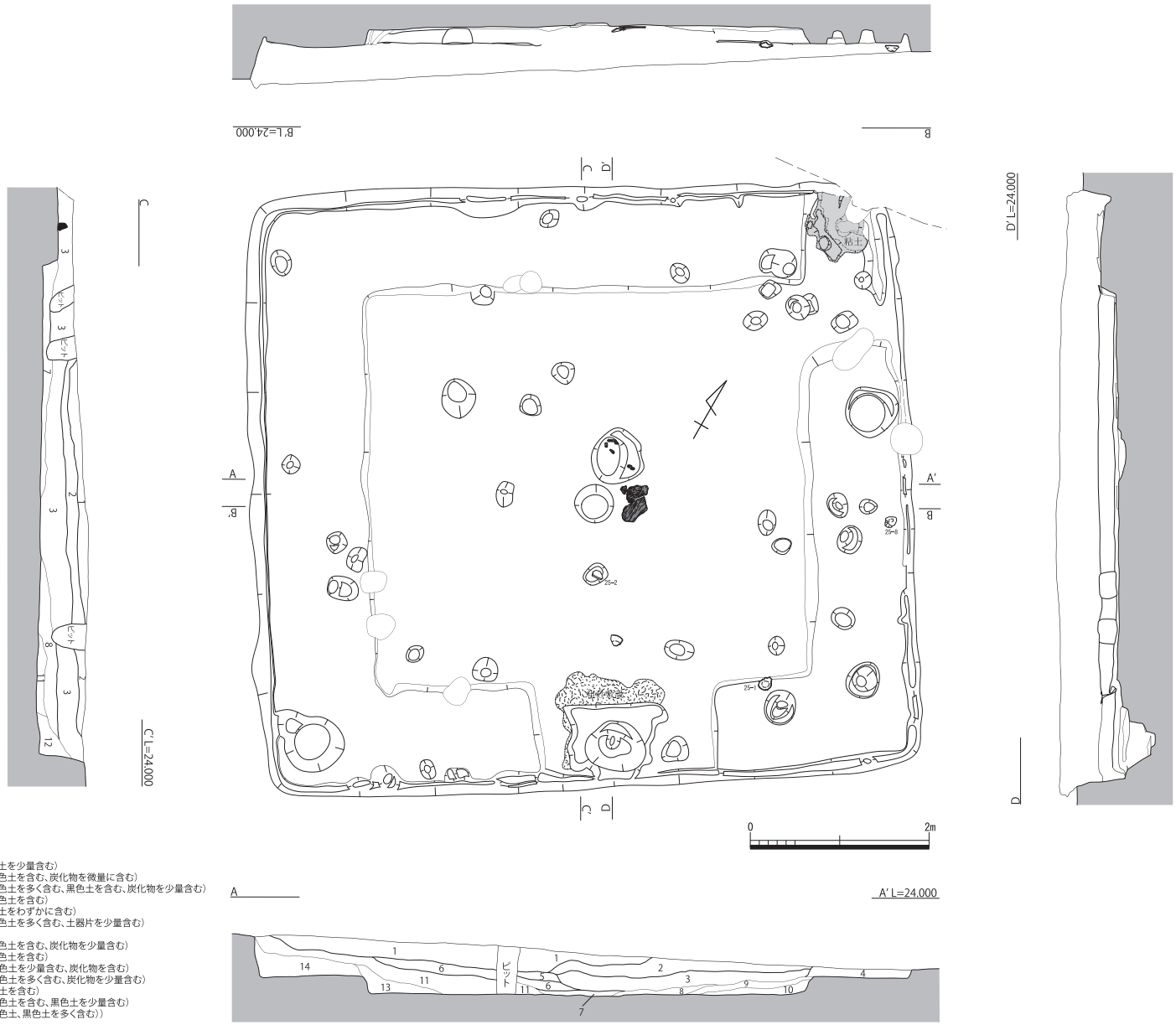
第 21 図　6275 号竪穴住居　平・断面図 (S=1/40)

中腹から端部にかけてハケメ、外面中腹から脚部端部にかけてタタキののちハケメを施す。18－9は内面全体に不定方向のハケメ、外面に縦方向のハケメを施す。18－10は内面にしぼりののち指ナデ、外面はタタキののち工具ナデを施す。19－1は内面口縁部に工具ナデ、体部に横方向のハケメ､外面に縦方向のハケメを施す。19－2は内面口縁部に工具ナデ､体部にケズリ、外面体部にハケメを施す。19－3と4は口縁部内面に工具ナデ、体部にケズリを施す。19－5は内面口縁部から頸部にかけてハケメ、中腹にかけてケズリ、外面体部にハケメを施す。19－6と7は体部内面にケズリ、外面体部にハケメを施す。19－8は内面の一部にケズリ、外面体部にハケメを施す。19－9は体部内面全体にケズリを施す。19－10は内面頸部から体部中央までハケメのちナデ消し、底部にかけてケズリ、外面体部全体にハケメを施す。19－11は内面と外面の一部にハケメを施す。19－12は全体的に摩滅しており調整は不明。19－13は口縁端部にキザミ、内面にミガキを施す。19－14は外面全体にミガキを施す。19－15は坏部の内面と外面にミガキを施す。19－16は脚部のみ残存。

SH6270（第20図･図版6･7） 調査区北東部に位置する。主軸方向はN 18° Eにとり､長軸6.3m、短軸6.2mを測る。北角・東角が調査区外へと延びるため全容は不明だが、形状は方形と推測される。検出面からの最大深は0.4mである。床面は固くしまっているが、土質から地山が踏み固められたものと推測される。壁内側に幅0.15～0.2mほどの溝が北辺を除く全域で確認された。南東部中央を除く壁際全域に幅1.0m、高さ0.1mのベッド状遺構が確認された。土質から地山を削り出したものと考えられる。中央部には長軸0.5m、短軸0.4mの範囲で焼土が確認された。

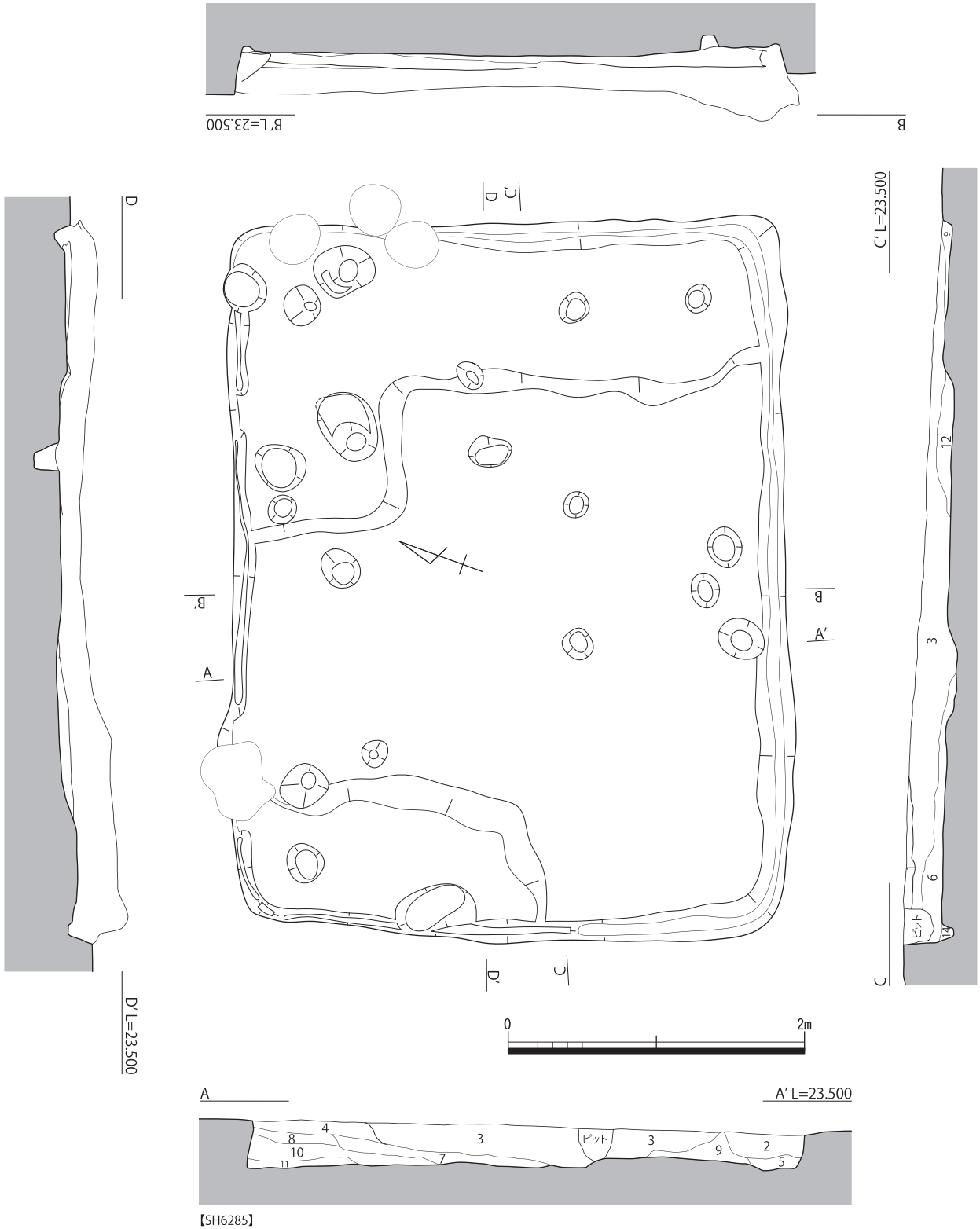


第22図　6270・6275号竪穴住居　出土遺物 (S=1/4、石器は1/2)



【SH6280】
1 黒色土（黄色土を少量含む）
2 褐灰色土（黄色土を含む、炭化物を微量に含む）
3 暗褐色土（黄色土を多く含む、黒色土を含む、炭化物を少量含む）
4 褐灰色土（黄色土を含む）
5 黒色土（黄色土をわずかに含む）
6 褐灰色土（黄色土を多く含む、土器片を少量含む）
7 黒色土
8 暗褐色土（黄色土を含む、炭化物を少量含む）
9 黒褐色土（黄色土を含む）
10 暗褐色土（黄色土を少量含む、炭化物を含む）
11 黒褐色土（黄色土を多く含む、炭化物を少量含む）
12 黒色土（黄色土を含む）
13 暗褐色土（黄色土を含む、黒色土を少量含む）
14 暗褐色土（黄色土、黒色土を多く含む））

第 23 図　6280 号竪穴住居　平・断面図 (S=1/50)



【SH6285】
1 黒色土
2 黒色土（黄色土を少量含む）
3 褐灰色土（黄色土を多く含む）
4 黒色土
5 褐色土（炭化物を少量含む）
6 黒褐色土（黄色土を多く含む、炭化物を少量含む）
7 黒褐色土（黄色土を多く含む、炭化物を含む）
8 黒褐色土（黄色土を含む）
9 黄褐色土（黒色土を多く含む）
10 暗褐色土（黄色土を多く含む、炭化物を含む）
11 暗褐色粘質土（黒色土を多く含む）
12 黒色土（炭化物を多く含む）
13 黄褐色土（黒色土を多く含む）
14 黒色土

第 24 図　6285 号竪穴住居　平・断面図 (S=1/40)

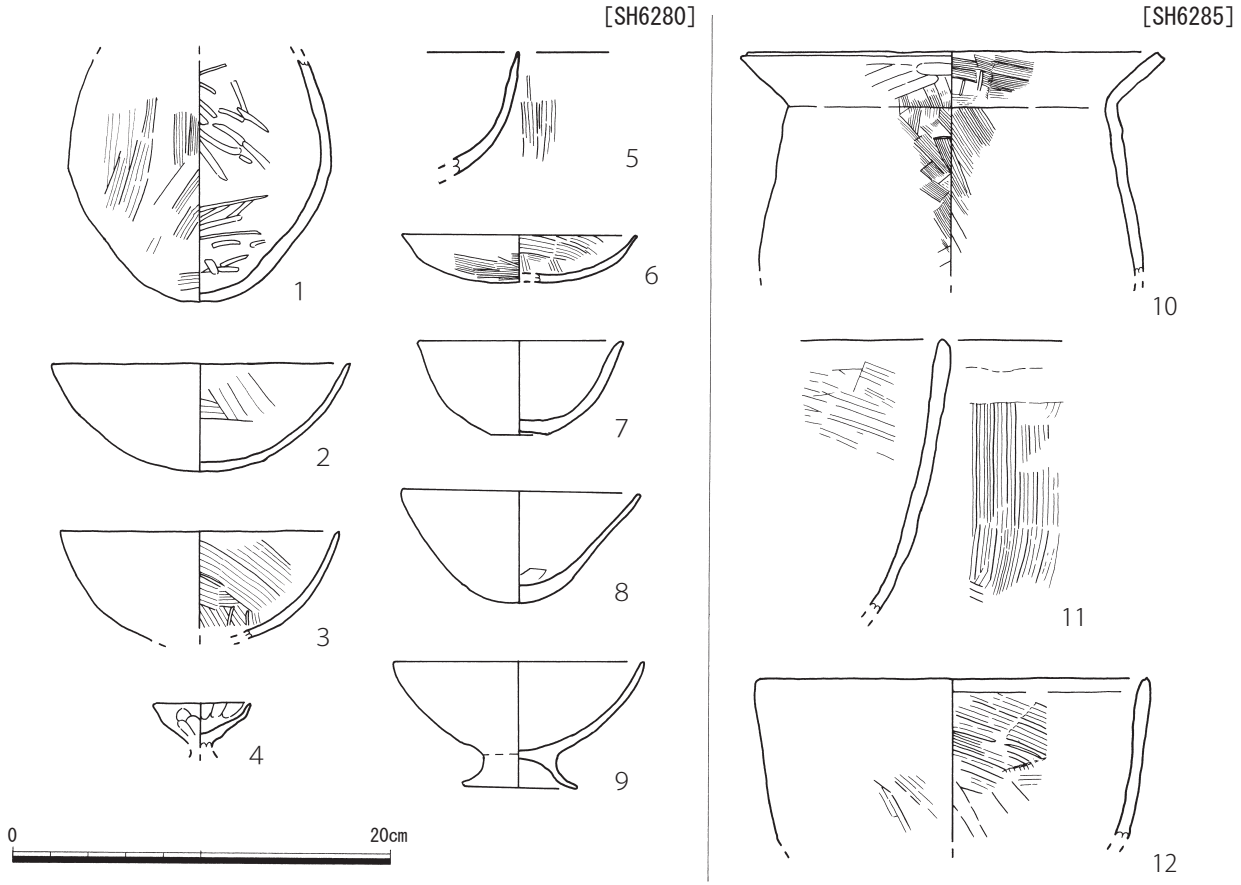
その他、多数のピット状の掘り込みが確認されたが、住居との関係は不明である。

出土遺物（第 22 図） 遺物は高坏（１～３）、壺（４）、鉢（５）を確認した。１と２は口縁部のみ残存、１の外面にミガキを施す。３は内面ハケメののちミガキ、外面にハケメをナデ消している。４は口縁部のみ残存、内部にハケメとミガキを施す。５は内面に工具ナデを施す。

SH6275（第 21 図・図版７） 調査区北東部、SH6270 の南側に位置する。主軸方向はＮ 79°Ｗにとり、長軸 5.1 ｍ、短軸 4.5 ｍを測り、形状は隅丸方形である。検出面からの最大深は 0.1 ｍである。床面は固くしまっているが、土質から地山が踏み固められたものと推測される。主柱穴は２本柱と考えられる。内部施設として東壁際に土坑１基を確認した。その他多数のピット状の掘り込みが確認されたが、住居との関係は不明である。

出土遺物（第 22 図） 遺物は小型壺（６・７）、砥石（８）を確認した。６は内面底部にミガキ、外面体部にハケメ、底部にはケズリを施す。７は内面底部にミガキを施す。外面口縁部にはミガキ、体部にハケメを施す。８は東壁際の土坑より出土、６面全体に使用痕が確認される。

SH6280（第 23 図・図版７） 調査区北部に SH6270 の西に位置する。主軸方向はＮ 29°Ｗにとり、長軸 7.4 ｍ、短軸 6.7 ｍを測り、平面形状は方形である。地形が西から東に向かって削平されている影響で、壁面の残存高は西壁ベッド上で 0.5 ｍ、東壁ベッド上で 0.1m である。床面は固くしまっているが、土質から地山が踏み固められたものと推測される。北側の隅と住居南辺の中央



第 25 図　6280・6285 号竪穴住居　出土遺物 (S=1/4)

を除いて、幅 1.0m、高さ 0.2m のベッド状遺構がぐるりと構築されている。ベッド状遺構が確認されない北東角壁際に 0.6m の範囲で粘土塊が確認された。壁内側に幅 0.15 ～ 0.2m ほどの溝が全域で確認された。南角に 1 基、南東壁沿い 1 基と土坑 2 基は住居に伴うと推測される。南東壁沿いの土坑の際に長軸 1.0m 短軸 0.2m、厚さ 0.1m で荒砂が敷き詰められており、土坑に伴うものと推測される。中央部の径 0.6m の土坑とその南側から炭化材が確認された。その他多数のピット状の掘り込みが確認されたが、住居との関係は不明である。

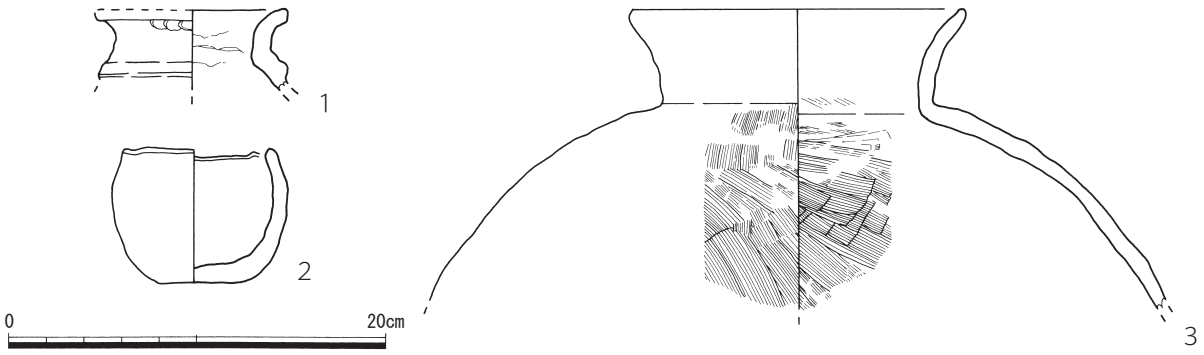
第 26 図　6290 号竪穴住居　平・断面図 (S=1/40)

出土遺物（第 25 図・図版 18） 遺物は甕（１）、鉢（２・３・５～８）、台付鉢（９）、ミニチュアの高坏（４）を確認した。１は外面体部から底部にかけてハケメ、内面に工具ナデを施す。２は内面に強めのハケメ、外面底部に強めの工具ナデを施す。３は内面にハケメ、外面底部に強めの工具ナデを施す。５は外面にうっすらとハケメが確認できる。７は外面に工具ナデを施す。８は内面と外面に工具ナデを施す。９は内面から外面口縁端部までナデを施す。４は内面と外面に指オサエ痕が確認できる。

SH6285（第 24 図・図版７） 調査区北東部、SH6280 の南に位置する。主軸方向はＮ 20° Ｅにとり、長軸 4.9 ｍ、短軸 3.7 ｍを測り、形状は長方形である。地形が西から東に向かって削平されている影響で、検出面からの深さは西壁ベッド上までが 0.2 ｍ、東壁ベッド上までが 0.1m である。最大深は 0.3 ｍと全体的に埋土の残存状態は良くない。床面は固くしまっているが、土質から地山が踏み固められたものと推測される。壁内側に幅 0.15 ～ 0.2m ほどの溝が全周する。北壁から東壁全域に幅 1.0 ～ 1.8m、高さ 0.1m のＬ字のベッド状遺構が、北西角では幅 0.9m、高さ 0.1m の範囲でベッド状遺構が確認された。床面より多数のピット状の掘り込みが確認されたが、住居との関係は不明である。

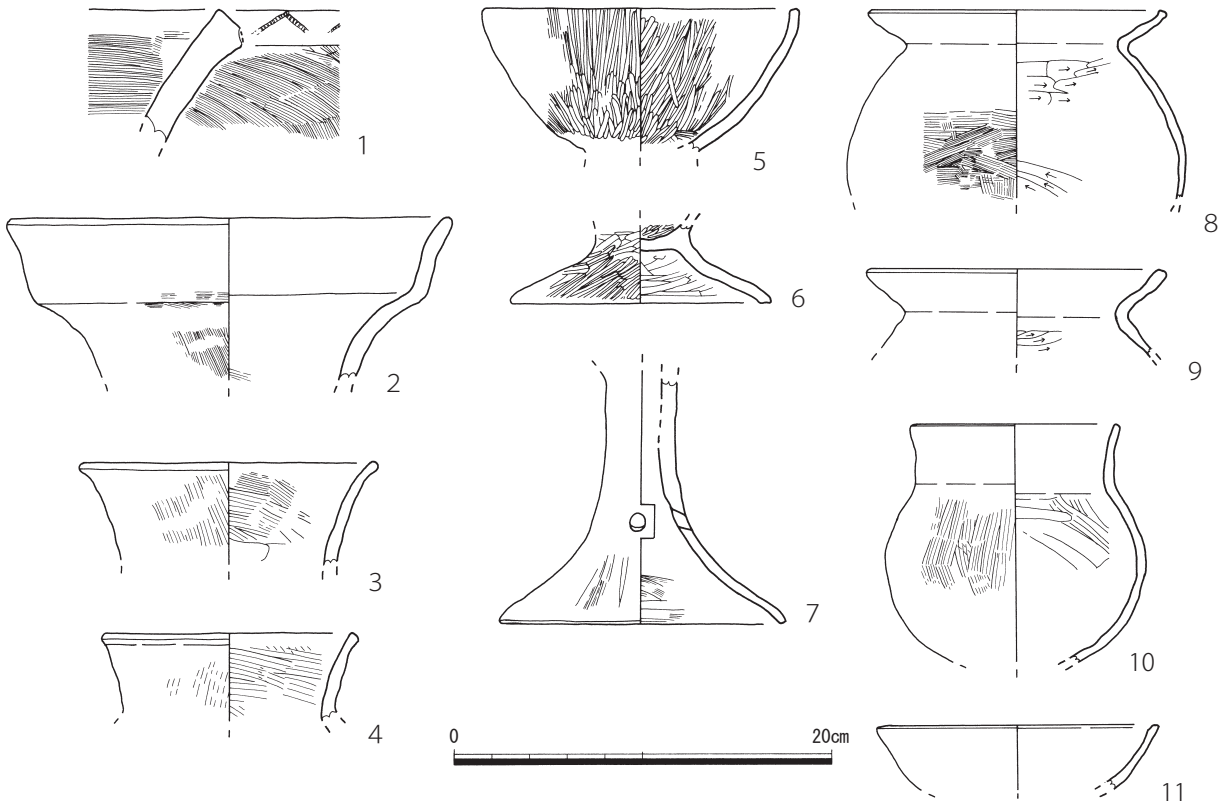
出土遺物（第 25 図） 遺物は甕 (10)、鉢 (11・12) を確認した。11 は内面と外面にハケメを施すが、外面口縁端部のみナデ消しが施される。12 は内面の体部から口縁部にかけてハケメ、体部から底部にかけては工具ナデとみられる。外面は縦方向のハケメを施す。

SH6290（第 26 図・図版８） 調査区中央、SH6285 の南に位置する。中央部を大きく削平されていることもあり、残存状態は悪く埋土はほぼ残っていない。軸線はＮ 70° Ｗにとり、長軸 5.2 ｍ、短軸 3.8 ｍを測り、形状は長方形である。検出面からの最大深は 0.3 ｍである。床面は固くしまっているが、土質から地山が踏み固められたものと推測される。東壁沿いと北東角を除いた壁内側に断続的に幅 0.15 ～ 0.2m ほどの溝が確認された。南西壁沿いに幅 1.0m、高さ 0.1m、北西壁沿いに幅 1.0m、高さ 0.1m のベッド状遺構が確認された。また南西の壁沿いに長軸 0.4m 短軸 0.3m の範囲で焼土が確認された。位置関係から柱穴２基は住居に伴うものと推測されるが、その他確認された多数のピット状の掘り込みと住居との関係は不明である。



第 27 図　6290 号竪穴住居　出土遺物 (S=1/4)

第 28 図　6295 号竪穴住居　平・断面図 (S=1/40)

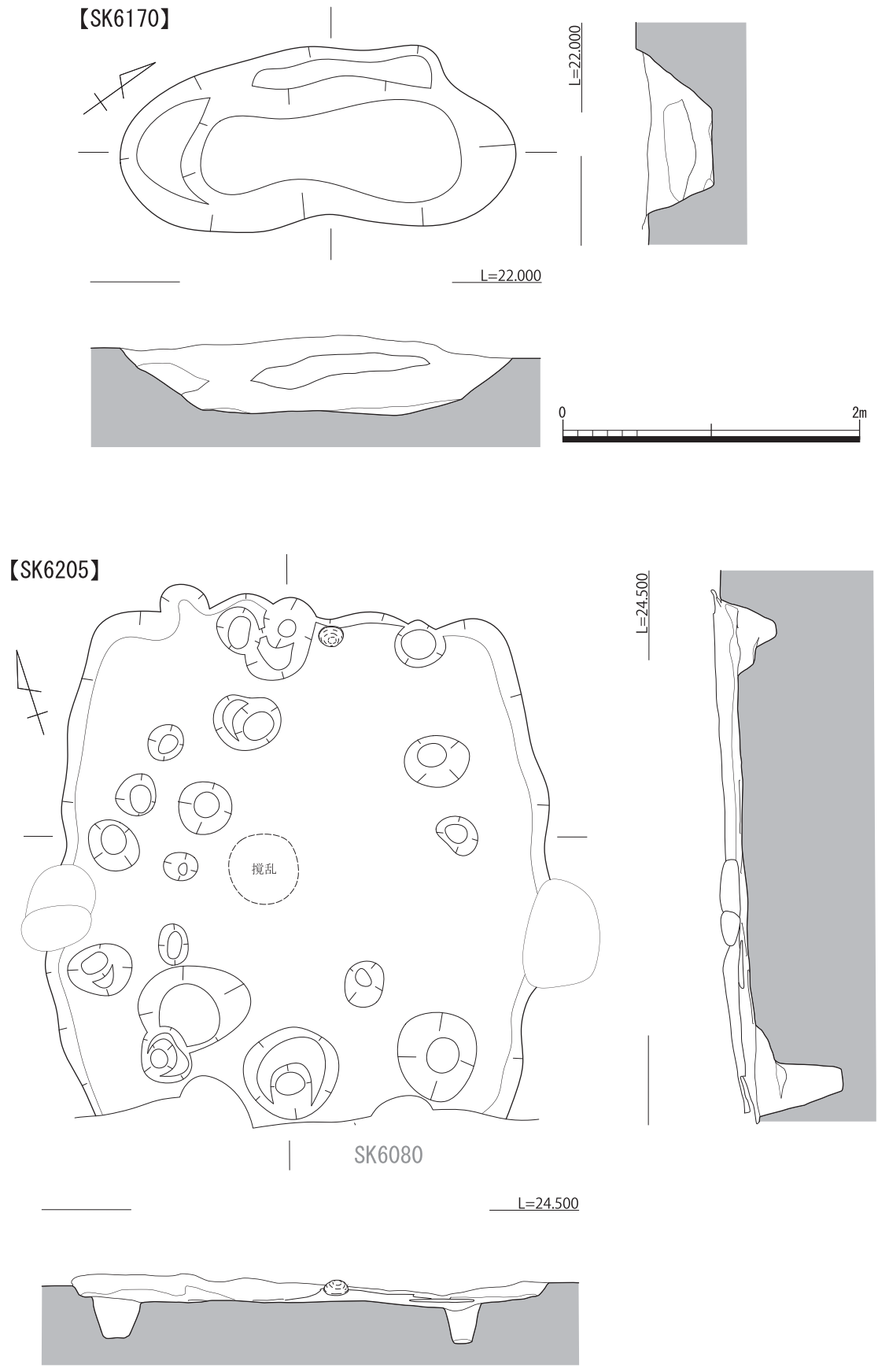


第 29 図　6295 号竪穴住居　出土遺物 (S=1/4)

出土遺物（第 27 図・図版 19）　遺物は弥生の壺（１）、鉢（２）、土師器の壺（３）を確認した。１は粗い整形、口縁端部には刺突痕がみられる。２は北西部ベッド上から出土した。粗い整形で工具の使用痕跡が乏しい。３は西壁際から出土した。体部内面と外面にハケメを施す。

SH6295（第 28 図・図版８）　調査区中央、SH6210 の東に位置する。軸線はＮ 51° Ｅにとり、長軸 5.7 m、短軸 3.9 mを測り、形状は長方形である。検出面からの最大深は 0.4 mである。床面は固くしまっているが、土質から地山が踏み固められたものと推測される。北西に幅 0.8 ～ 1.1m、高さ 0.1m、北東部に幅 1.1m、高さ 0.1m のベッド状遺構を確認した。位置関係から柱穴３基と土坑１基は住居に伴うものと推測される。その他多数のピット状の掘り込みを確認されたが、住居との関係は不明である。

出土遺物（第 29 図・図版 19）　遺物は弥生の大甕（１）、壺（２～４）、台付鉢（５・６）、高坏（７）、土師器の甕（８・９）、壺（10）、鉢（11）を確認した。１は口縁端部にＶ字状のキザミを施す。内面と外面にハケメを施す。２は二重口縁壺で口縁部のみ残存、端部内面は工具ナデ、頸部内面はハケメののちナデ消し、頸部外面にハケメを施す。３は内面に斜め方向のハケメ、外面は縦方向のハケメを施す。５は鉢部のみ残存、内面と外面に縦方向のミガキを施す。６は鉢底部の一部と脚部のみ残存、底部内側にミガキ、脚部内側は工具ナデ、外面は端部にかけてミガキを施す。７は脚部のみ残存、全体的に摩滅している。裾部の内面と外面にハケメを施す。８は口縁部両面に工具ナデ、体部内面にケズリを施す。９は内面口縁部に工具ナデ、体部にケズリ、体部外面に



第 30 図　6170・6205 号土坑　平・断面図 (S=1/40)

ハケメを施す。10 は体部内面に工具ナデ、体部外面に縦方向のハケメを施す。11 は内面全体にハケメののち工具ナデ、外面は体部中央から底部に向かって工具ナデを施す。

２.【土坑（SK)】

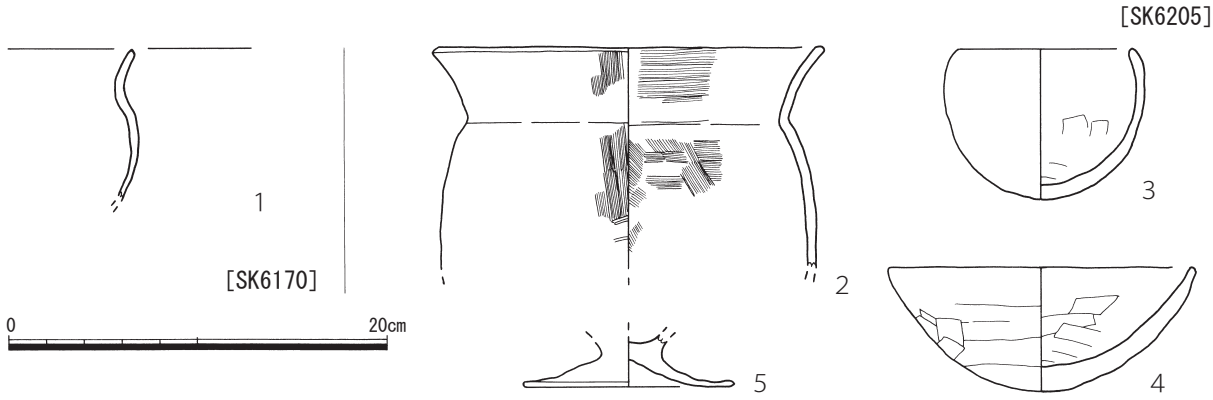
当該時期の遺物が確認された土坑２基について報告する。いずれも調査区の南西部に分布する。

SK6170（第 30 図・図版８） 調査区南部中央の土坑群の中に位置する土坑である。長軸 2.7m、短軸 1.1m の楕円形である。断面形状は逆台形で、検出面からの最大深度は 0.5m である。

出土遺物（第 31 図） 遺物は鉢（１）を確認した。全体的に摩滅しており、調整は不明。

SK6205（第 30 図・図版８） 調査区中央部やや南西、SH6210 の南西に位置する土坑である。SK6080 と重複関係にあり、SK6080 が新しい。長軸は残存長 3.5m、短軸 3.1m の隅丸方形である。断面形状は逆台形で、検出面からの最大深度は 0.2m である。床面より多数のピット状の掘り込みが確認されたが、関係は不明である。

出土遺物（第 31 図・図版 19） 遺物は甕（２）、鉢（３・４）、器台もしくは高坏（５）を確認した。２は内面にハケメ、外面は縦方向にハケメを施す。３は内面に工具ナデを施す。４は北壁際にて伏せた状態で出土した。調整は内面と外面に工具ナデを施す。５は脚部のみ残存。



第 31 図　6170・6205 号土坑　出土遺物 (S=1/4)

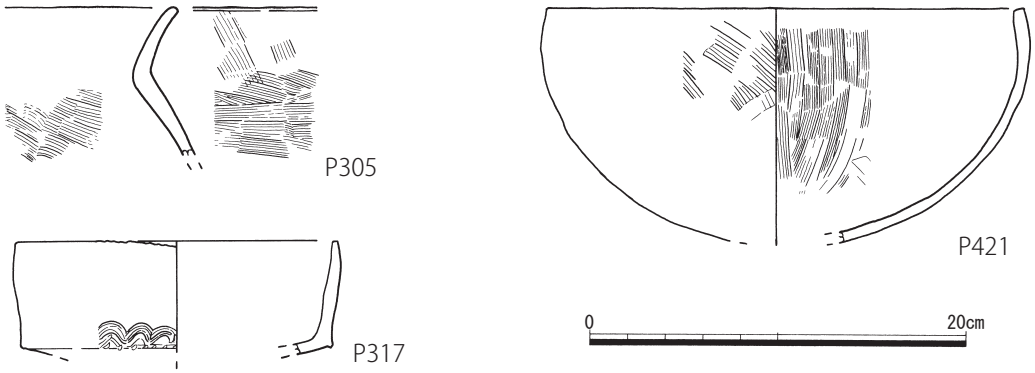
３.【ピット (P)】（第 32 図）

当該時期の遺物が確認されたピットについて報告する。

P305　調査区中央部、SH6210 の北西に位置する。出土した甕は口縁部に縦方向に、体部内面には斜めに、体部外面に横方向にハケメを施す。

P317　調査区中央やや西、SH6210 西側のピット群の中に位置する。出土した壺は口縁部に刻み目と櫛型文を施す。

P421　SH6290 の南西に位置する。出土の鉢は口縁部には横方向のハケメ、体部内面と外面にハケメを施し、外面はそののちナデ消しを施す。



第 32 図　ピット　出土遺物 (S=1/4)

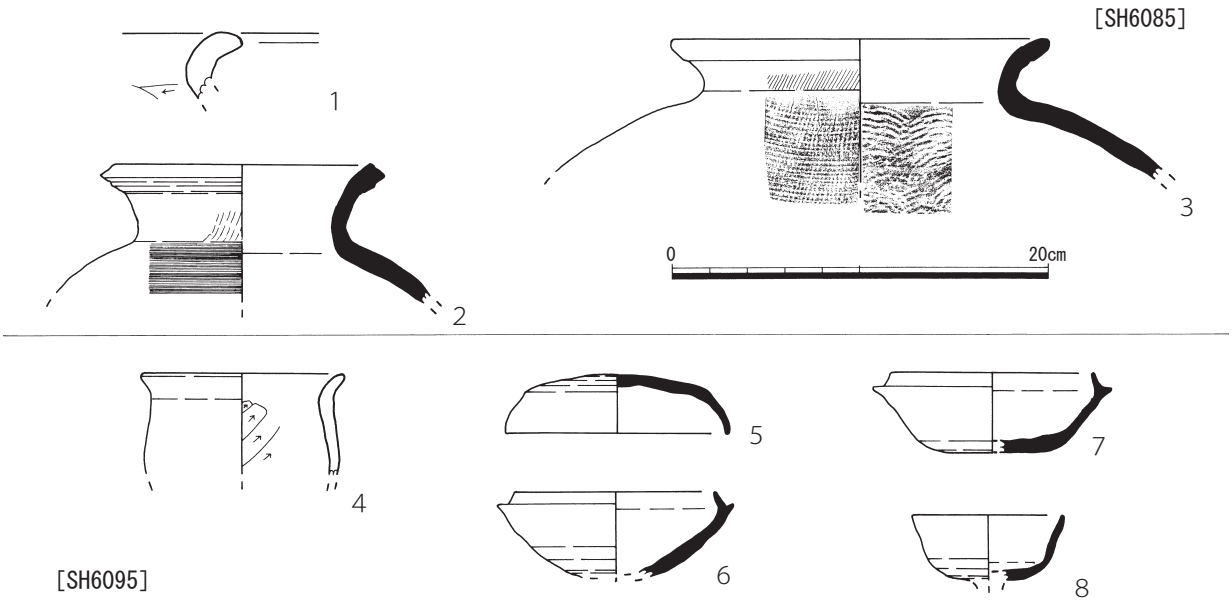
Ⅳ．古墳時代後期の遺構・遺物

古墳時代後期の遺構は、竪穴住居 8 軒、掘立柱建物 1 棟、土坑 36 基、井戸 1 基、溝 1 条が検出された。当該時期の遺構は調査区南東部に集中して確認された。

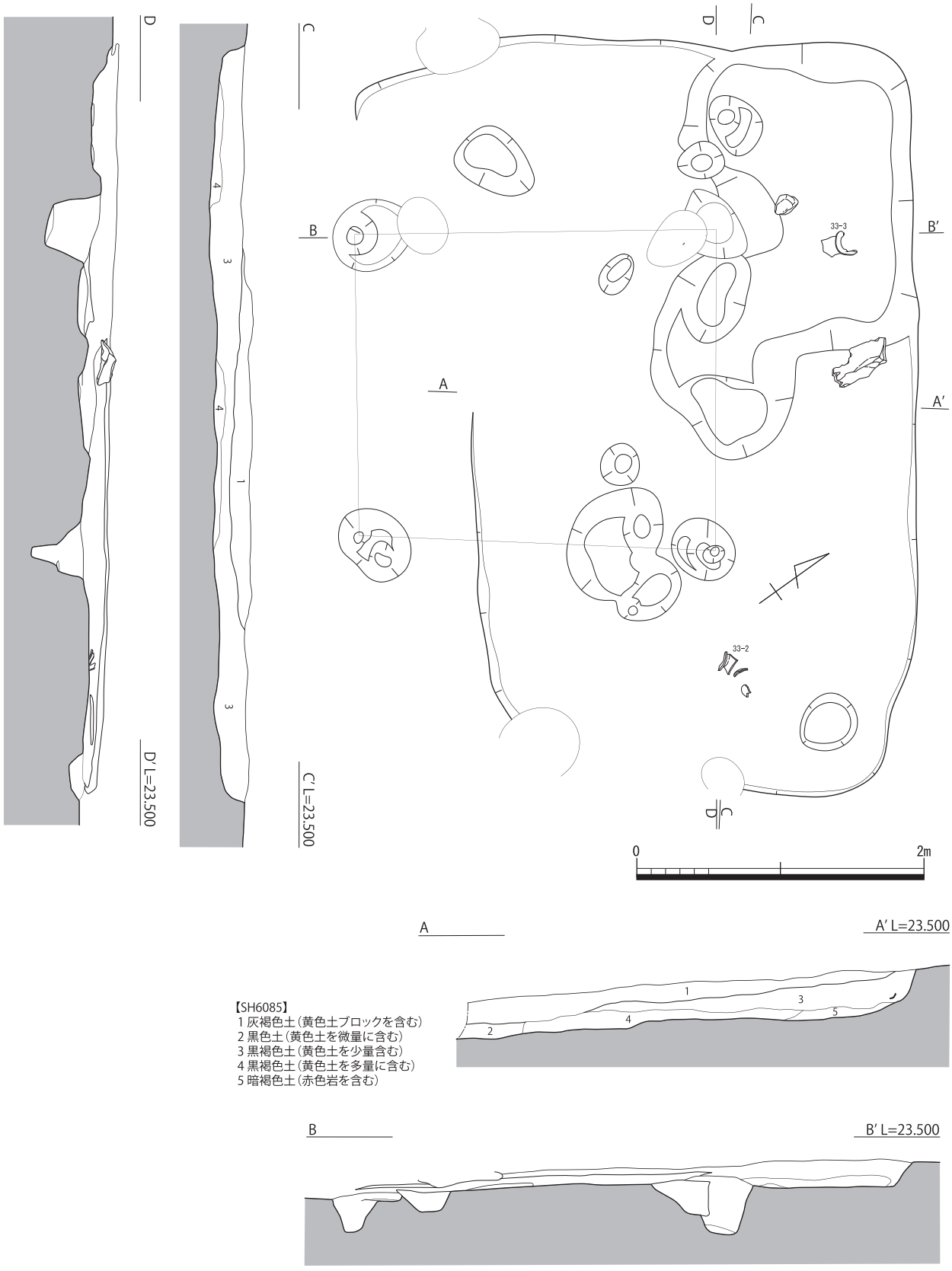
1．【竪穴住居（SH)】

SH6085（第 34 図・図版 8） 調査区南西に位置する。後世の造成により南側を大きく削平されているが、長軸 5.1 m、短軸残存長 3.9 mを測る。主軸方位はN 35°Wにとり、平面形状は方形と推測される。検出面からの最大深は 0.3 mである。柱穴 2 基が確認され、位置関係から南側の 2 基と合わせて主柱穴 4 本と推測される。その他多数の柱穴と住居との関係は不明である。

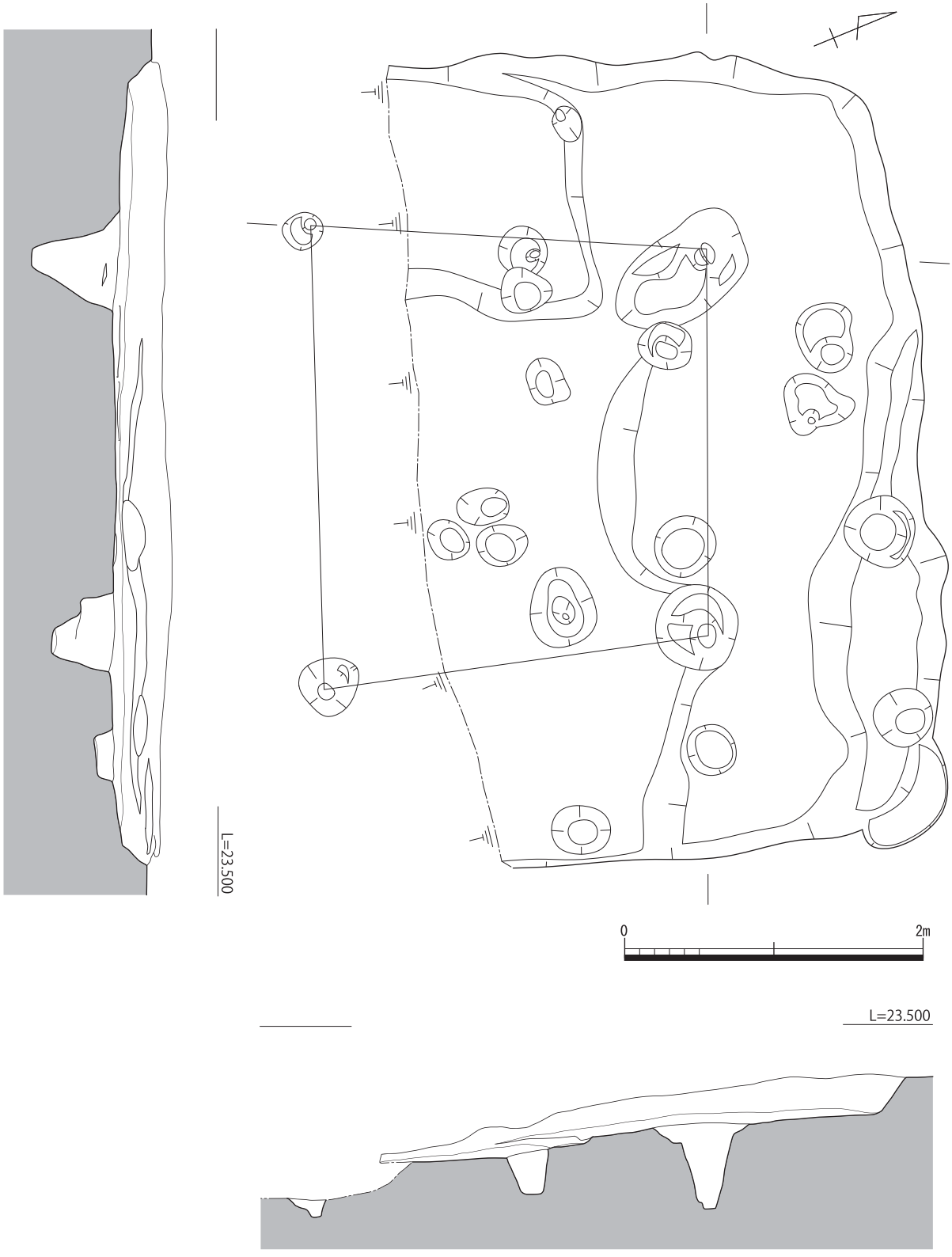
出土遺物（第 33 図） 遺物は土師器の甕（1)、須恵器の甕（2・3）を確認した。2 と 3 は口縁部から肩部にかけて残存する。2 は口縁部に凹線を廻らせる。肩部外面にはカキメを施す。3 は肩部内面には同心円文タタキを施す。外面に格子状のカキメを施す。



第 33 図　6085・6095 号竪穴住居　出土遺物 (S=1/4)



第 34 図　6085 号竪穴住居　平・断面図 (S=1/40)



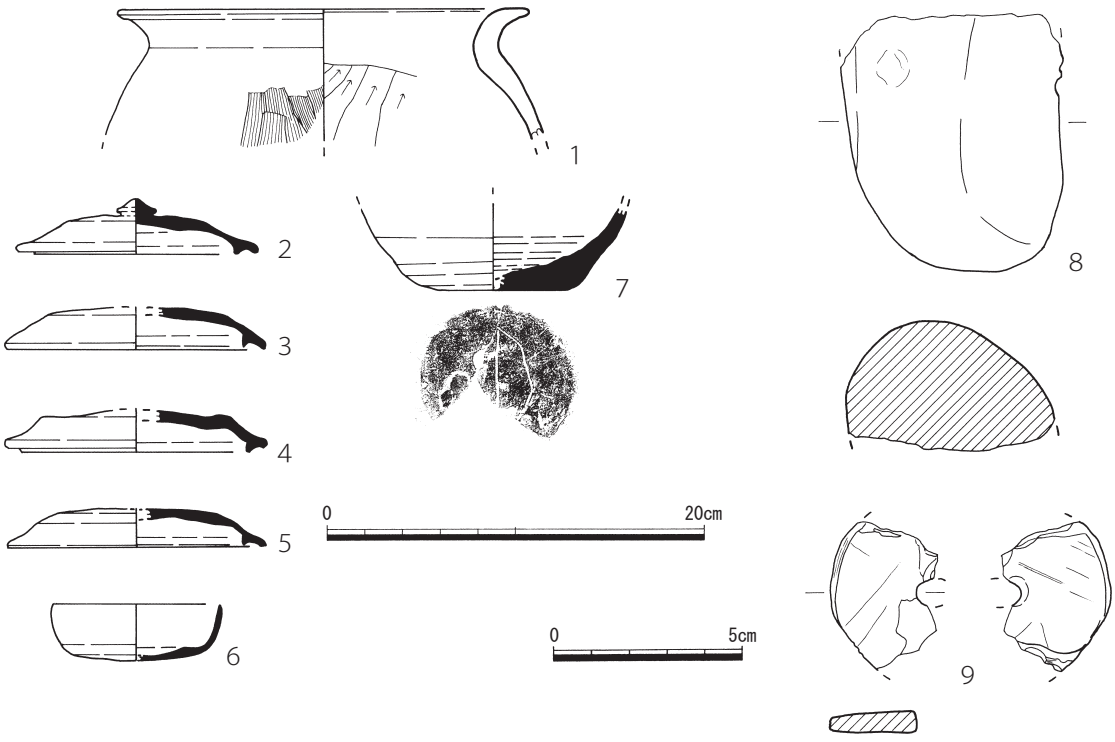
第 35 図　6095 号竪穴住居　平・断面図 (S=1/40)

SH6095（第 35 図・図版 9） 調査区南西、SH6085 の東に位置する。後世の造成により南側を大きく削平されているが、長軸 5.3 m、短軸検出長 3.3 mを測る。平面形状は方形と推測される。検出面からの最大深は 0.3 mである。住居内で確認された柱穴 2 基との位置関係から南側の 2 基と合わせて 4 本柱と推測される。その他多数のピット状の掘り込みと住居との関係は不明である。

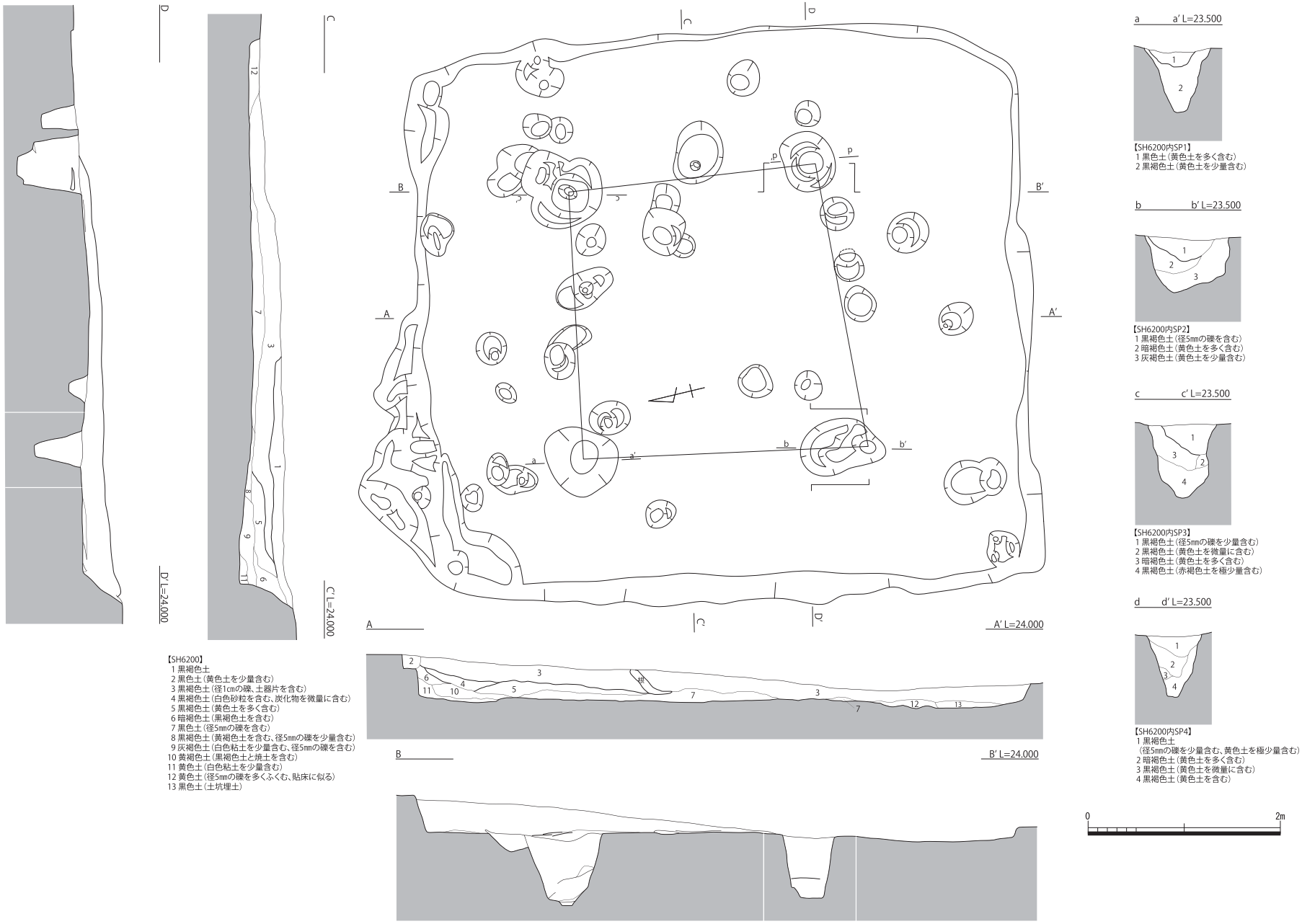
出土遺物（第 33 図） 遺物は土師器の甕（4）、須恵器の坏蓋（5）、坏身（6・7）、高坏（8）を確認した。 4 は体部内面にケズリを施す。 5 は天井部にわずかに丸みをもつ。口縁部はやや立つ。 6 の底部は扁平である。受部は水平で、立ち上がりはやや外反する。 7 は底部に丸みを帯びる。受部はわずかに上に延びる。

SH6200（第 37 図・図版 9） 調査区中央部、SH6210 の南東に位置する。主軸方位はＮ 10°Ｗにとり、長軸 6.4 m、短軸 5.8 mで平面形状は方形である。検出面からの最大深は北端で 0.4 m、南端で 0.2m である。床面は固くしまっており、土質から地山が踏み固められたものと推測される。主柱穴は位置関係から中央部の径 0.5m ～ 0.8m の柱穴 4 基と考えられる。その他多数のピット状の掘り込みと住居との関係は不明である。

出土遺物（第 36 図・図版 19） 遺物は土師器の甕（1）、須恵器の坏蓋（2 ～ 5）、坏身（6）、瓶（7）、磨石（8）、紡錘車（9）を確認した。 1 の口縁部は平坦に延びており、調整は内面にケズリ、外面に縦方向のハケメを施す。 2 は宝珠型のつまみが付く。受部は短く下に延びる。 3 の天井部は平坦でつまみの痕跡は確認できなかった。受部は短くやや内倒する。 4 は天井部と口



第 36 図　6200 号竪穴住居　出土遺物 (S=1/4、石器は 1/2)



【SH6200】
1 黒褐色土
2 黒色土（黄色土を少量含む）
3 黒褐色土（径1cmの礫、土器片を含む）
4 黒褐色土（白色砂粒を含む、炭化物を微量に含む）
5 黒褐色土（黄色土を多く含む）
6 暗褐色土（黒褐色土を含む）
7 黒色土（径5mmの礫を含む）
8 黒褐色土（黄褐色土を含む、径5mmの礫を少量含む）
9 灰褐色土（白色粘土を少量含む、径5mmの礫を含む）
10 黄褐色土（黒褐色土と焼土を含む）
11 黄色土（白色粘土を少量含む）
12 黄色土（径5mmの礫を多くふくむ、貼床に似る）
13 黒色土（土坑埋土）

【SH6200内SP1】
1 黒色土（黄色土を多く含む）
2 黒褐色土（黄色土を少量含む）

【SH6200内SP2】
1 黒褐色土（径5mmの礫を含む）
2 暗褐色土（黄色土を多く含む）
3 灰褐色土（黄色土を少量含む）

【SH6200内SP3】
1 黒褐色土（径5mmの礫を少量含む）
2 黒褐色土（黄色土を微量に含む）
3 暗褐色土（黄色土を多く含む）
4 黒褐色土（赤褐色土を極少量含む）

【SH6200内SP4】
1 黒褐色土
（径5mmの礫を少量含む、黄色土を極少量含む）
2 暗褐色土（黄色土を多く含む）
3 黒褐色土（黄色土を微量に含む）
4 黒褐色土（黄色土を含む）

第 37 図　6200 号竪穴住居　平・断面図 (S=1/40)

縁部の境から端部にかけて外反し、端部は水平に延びる。受部は短く内倒する。５の天井部は平坦である。口縁部端部はわずかに外反する。受部は非常に短く、下へ延びる。６は底部から口縁端部にかけて外反しつつも直線的に延びる。７は底部のみ残存。底部外面にヘラ記号「D」を刻む。８は磨石で指の痕跡とみられるくぼみが１カ所確認できる。９は約１／３が残存している。

SH6500（第 38 図･図版９） 調査区東端、SH6295 の西に位置する。主軸方位はN 35° E にとり、長軸 4.5 m、短軸 3.9 mで平面形状は方形である。検出面からの最大深は 0.2 mである。床面は固くしまっており、土質から地山が踏み固められたものと推測される。位置関係から中央部の径 0.3m ～ 0.5m の柱穴４基から構成される。東壁を除く壁内側に断続的に幅 0.15 ～ 0.2m ほどの溝が確認された。北辺中央部には焼土が確認され、カマド痕跡と考えられる。その他複数のピット状の掘り込みを確認したが遺構との関係は不明である。

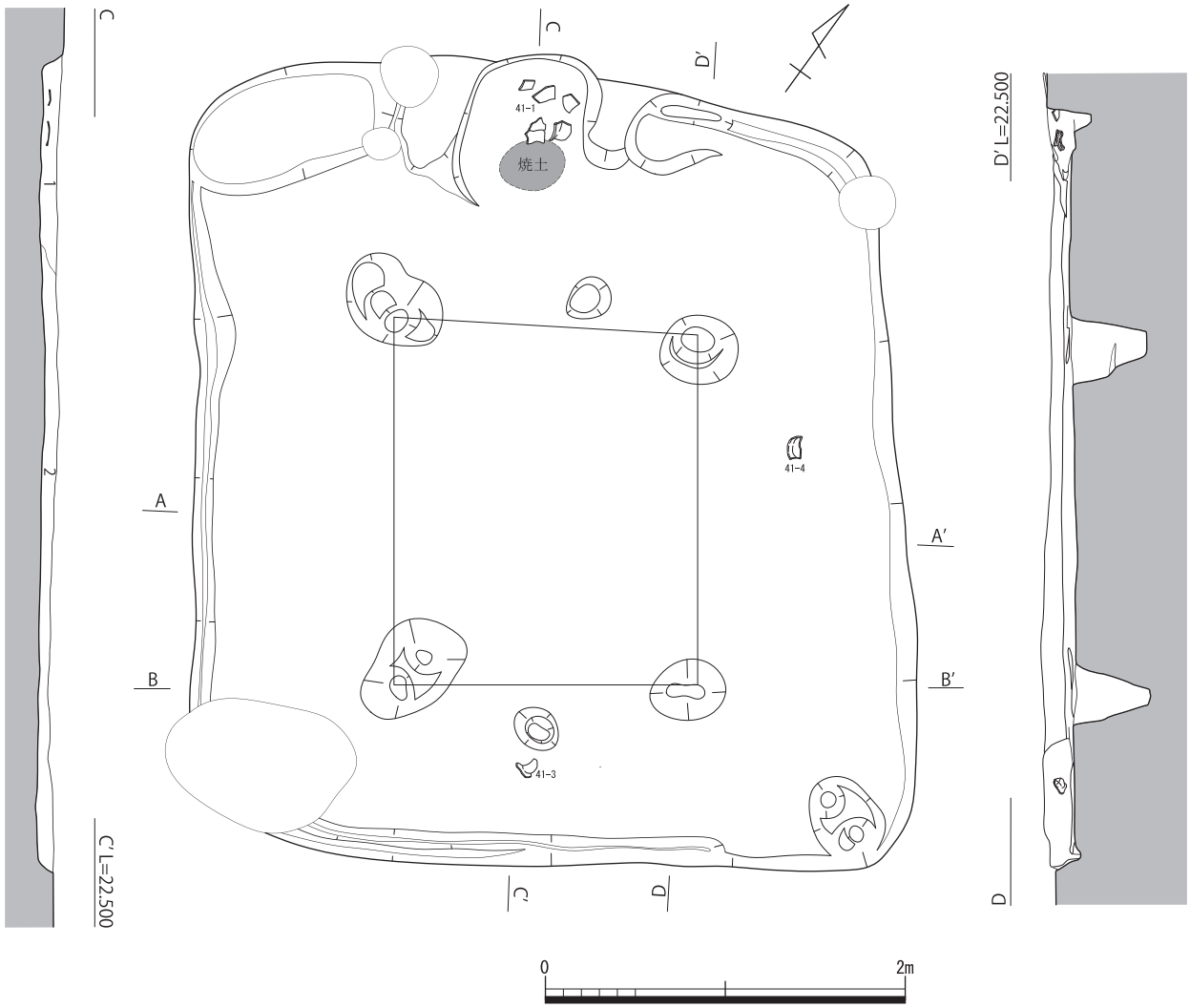
出土遺物（第 41 図･図版 19） 遺物は土師器の甕（１・２）、把手（３）、須恵器の高坏（４・５）を確認した。１・２は口縁部が緩やかに外反し、外面にハケメ、内面にケズリを施す。３は全体的に摩滅している。４は坏部のみ残存。５は脚部のみ残存。

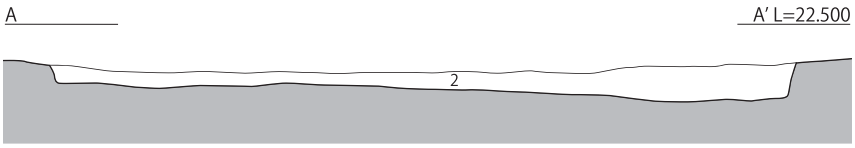
SH6520（第 39 図･図版９･10） 調査区南端に位置する。調査区外へと延びるため全容は不明だが、長軸 4.8 m、短軸検出長 2.8 mを測り、主軸方位はN 25° E をとる。平面形状は隅丸方形と推測される。検出面からの最大深は 0.3 mである。床面は固くしまっており、地山の灰白色粘土に黒色土がマーブル状に混ざっている。位置関係から主柱穴は４基と推測され、中央部の径 0.2m ～ 0.5m の柱穴２基と調査区外に延びるものと推測される。西壁際にて長軸 1.5m、短軸 0.8m の範囲で粘土塊が確認された。その他３基のピット状の掘り込みを確認したが遺構との関係は不明である。

出土遺物（第 41 図・図版 19） 遺物は土師器の高坏（６・７）、須恵器の坏身（８）、甕（９）を確認した。６は西壁際の粘土内から出土、外面にケズリを施す。７とは同一個体の可能性がある。７は全体的に摩滅しており調整は不明である。８は受部の立ち上がりは長く内傾している。９は摩滅しており調整は不明。

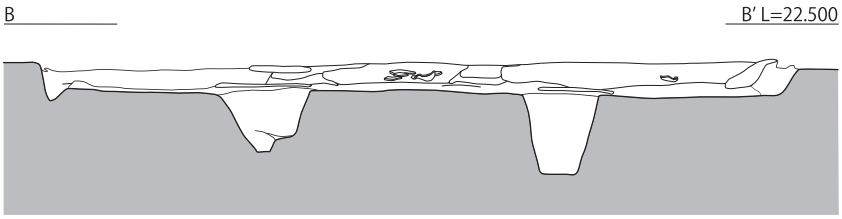
SH6540（第 40 図・図版 10） 調査区南部に位置する。SK6650・SK6700 と重複関係にあり、SK6650 が新しい。主軸方位はN 50° E にとる。後世の造成により大きく削平されているが、長軸 4.3 m、短軸 3.7 mを測り、平面形状は隅丸方形と推測される。削平の影響により全体的に残存状態は悪く、検出面からの深度は最も浅い遺構南部で 0.05m、最も深い北部で 0.2 mである。床面は固くしまっている地山が踏み固められたものと推測される。主柱穴は位置関係から径 0.5m ～ 0.6m の柱穴４基から構成される。西壁中央部にて、径 0.3m の円形状の範囲に、焼土が確認され、カマドがあったと考えられる。

出土遺物（第 41 図） 遺物は須恵器の坏身 (10・11) を確認した。10 は受部がやや上に延びる。11 は立ち上がりが低く器高が低いものと推測される。

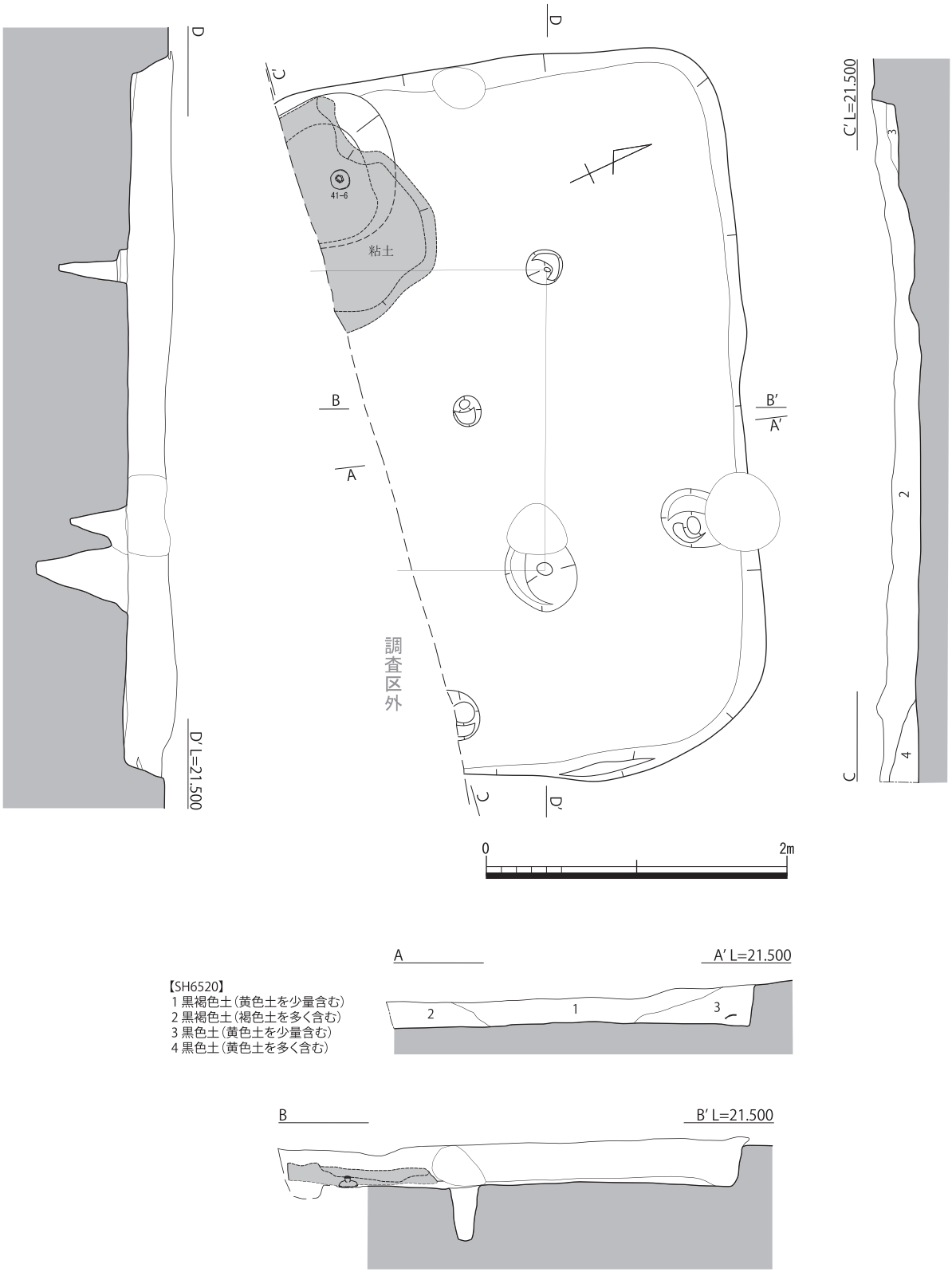




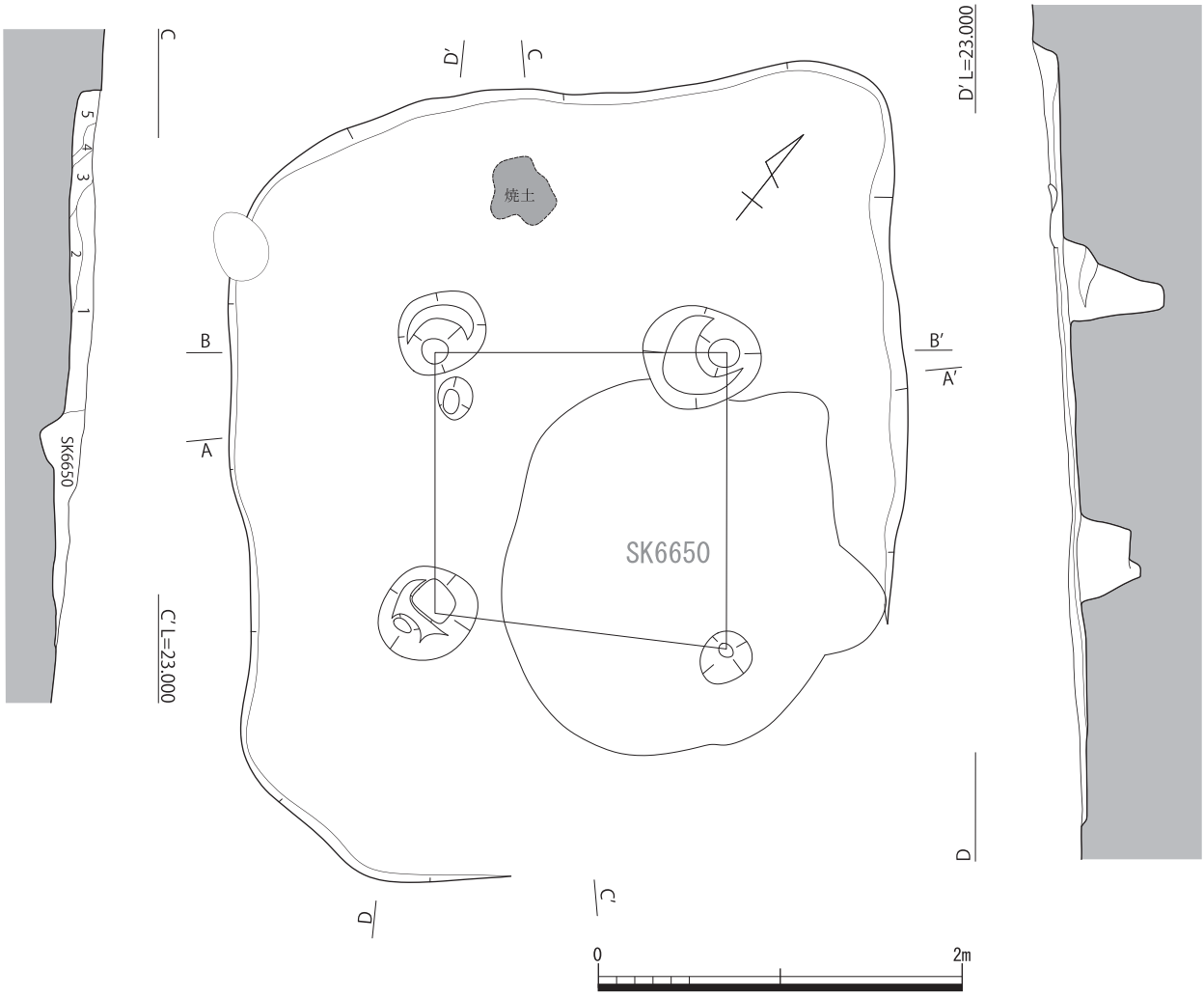
【SH6500】
1 暗褐色土（焼土を少量含む、炭化物を微量に含む）
2 黒褐色土（黄色土を少量含む）



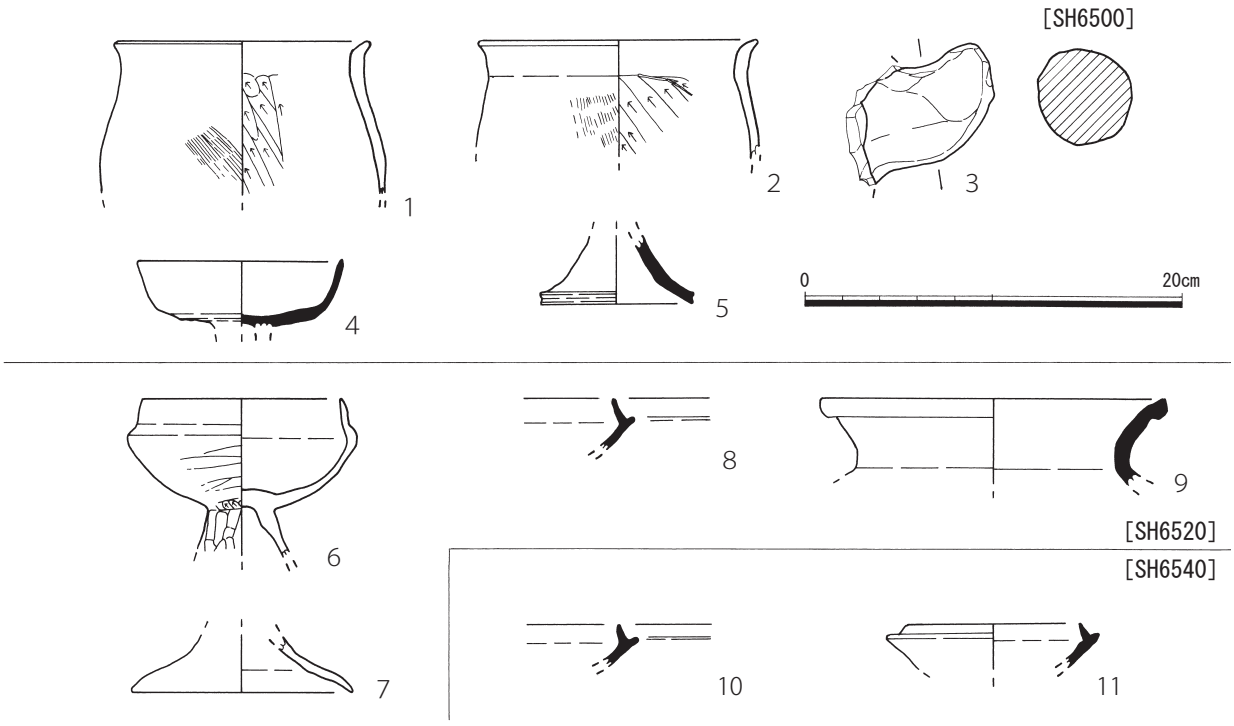
第 38 図　6500 号竪穴住居　平・断面図 (S=1/40)



第 39 図　6520 号竪穴住居　平・断面図 (S=1/40)



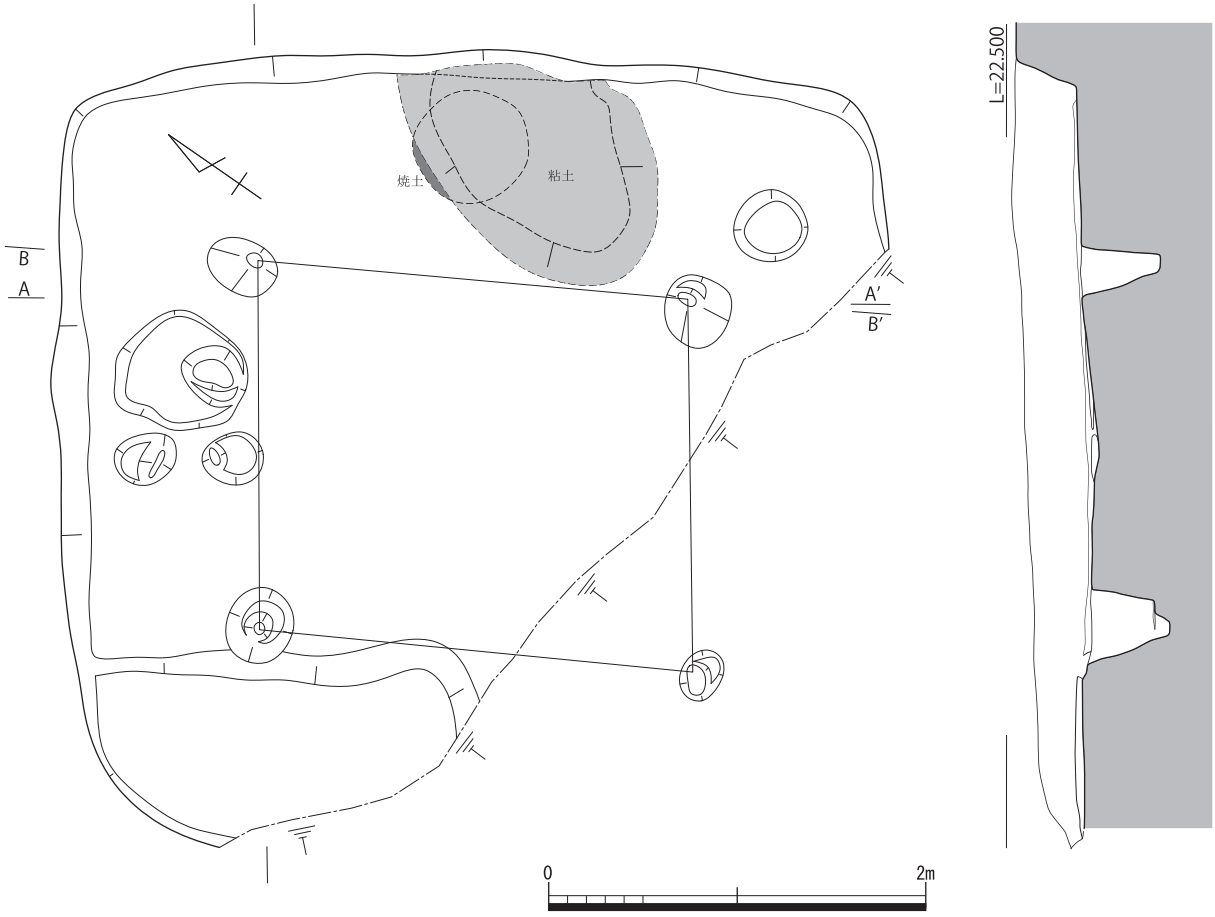
第 40 図　6540 号竪穴住居　平・断面図 (S=1/40)

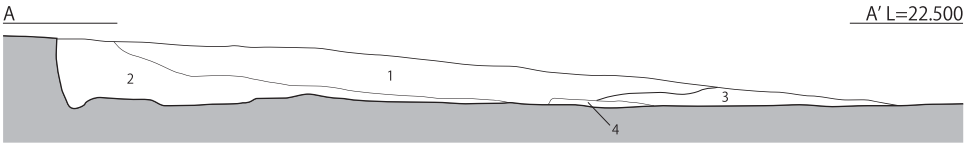


第 41 図　6500・6520・6540 号竪穴住居　出土遺物 (S=1/4)

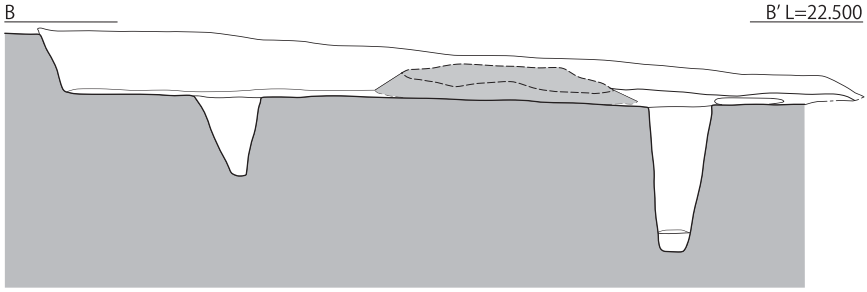
SH6550（第 42 図・図版 10）　調査区南東部 SH6540 の東に位置する。SK6645 と重複関係にあり、SK6645 が新しい。主軸方位はＮ 50° Ｅにとり、長軸 4.4m、短軸 4.0m を測る。後世の造成により、南東部が大きく削平されているが、残存状況から平面形状は方形と推測される。削平の影響により、最も深い北壁際で検出面からの深度は 0.4m、最も浅い南側は検出面と同一標高である。床面は固くしまっており、土質は地山に黒色土が混ざったものである。主柱穴は位置関係から、遺構内で確認された柱穴 3 基と、南東部の削平箇所から確認された 1 基を合わせた 4 柱と推測される。 4 基の柱穴のうち住居内から検出された 3 基は長軸径 0.4m ～ 0.5m を測り、削平箇所にて検出した柱穴の残存長軸径で 0.3m である。北東壁際にて長軸 1.3m、短軸 1.1m 楕円形状の範囲で粘土塊が確認され、その下から直径 0.6m の円形状の範囲で焼土が確認された。その他、床面からピット状の掘り込みを多数確認したが遺構との関係は不明である。

出土遺物（第 44 図・図版 19）　遺物は土師器の甕（１・２）、甑（３）、須恵器の坏蓋（４）、坏身（５・６）を確認した。１と２は口縁部のみ残存する。１は内面に縦方向にケズリ、外面に縦方向のハケメを施す。２も同様に内面に横方向にケズリ、外面に縦方向のハケメを施す。３は粘土内から出土した。内面に横方向にケズリ、外面に縦方向のハケメを施す。４は全体的に丸みを帯びており、天井部がくぼむ。口縁端部が短く直立する。欠損により全容は不明だが、天井部に「卌」のヘラ記号を刻む。５と６はいずれも器高が低く扁平である。５の立ち上がりはやや外反する。６の受部は水平やや下気味に延び、立ち上がりはやや外反し端部が尖る。底部外面にヘラ記号「∪」を刻む。

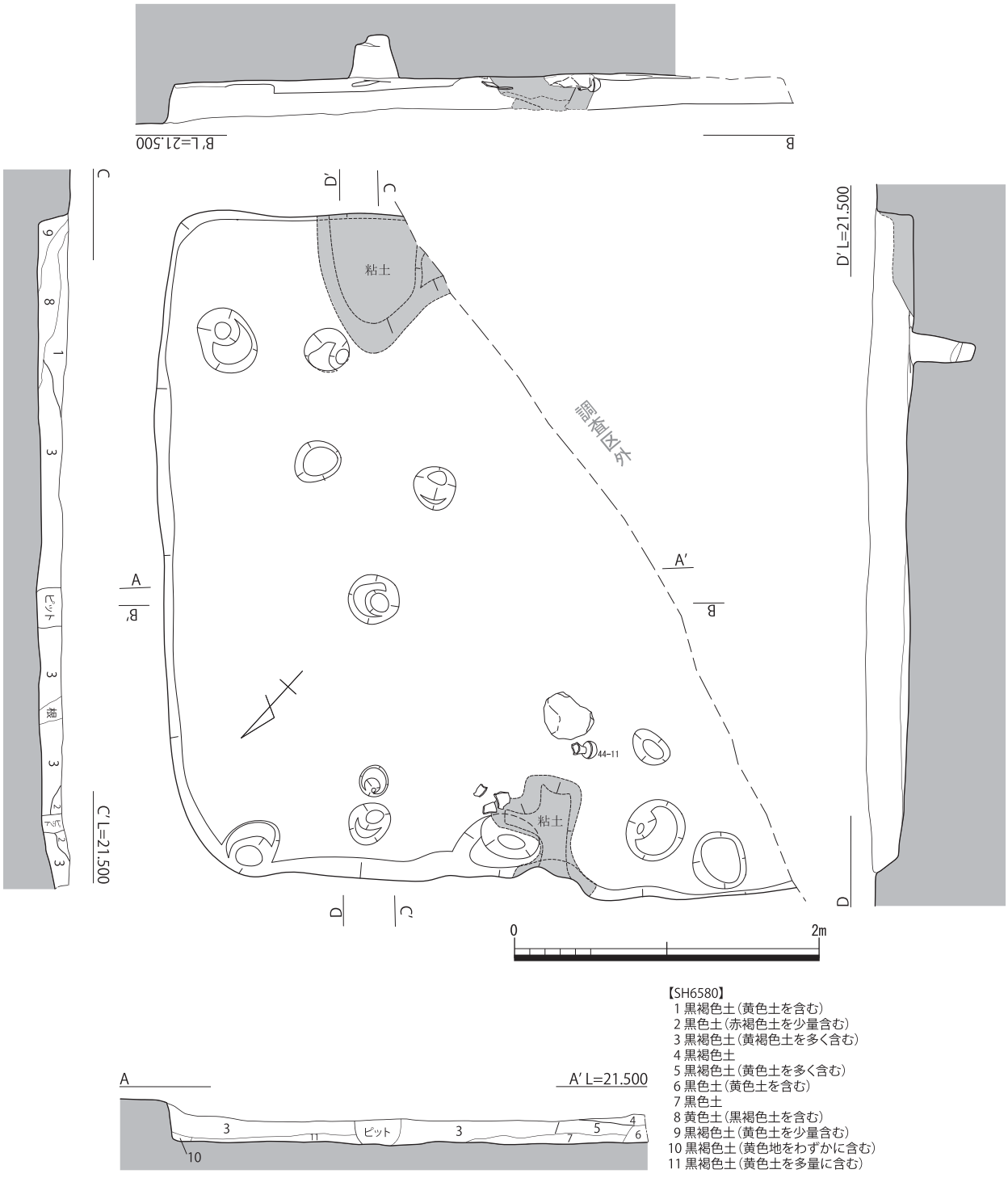




【SH6550】
1 暗褐色土（黄色土を含む、炭化物を少量含む）
2 黒色土（黄色土を含む）
3 黒褐色土（黄色土を含む）
4 黄褐色土（黒色土を多く含む）



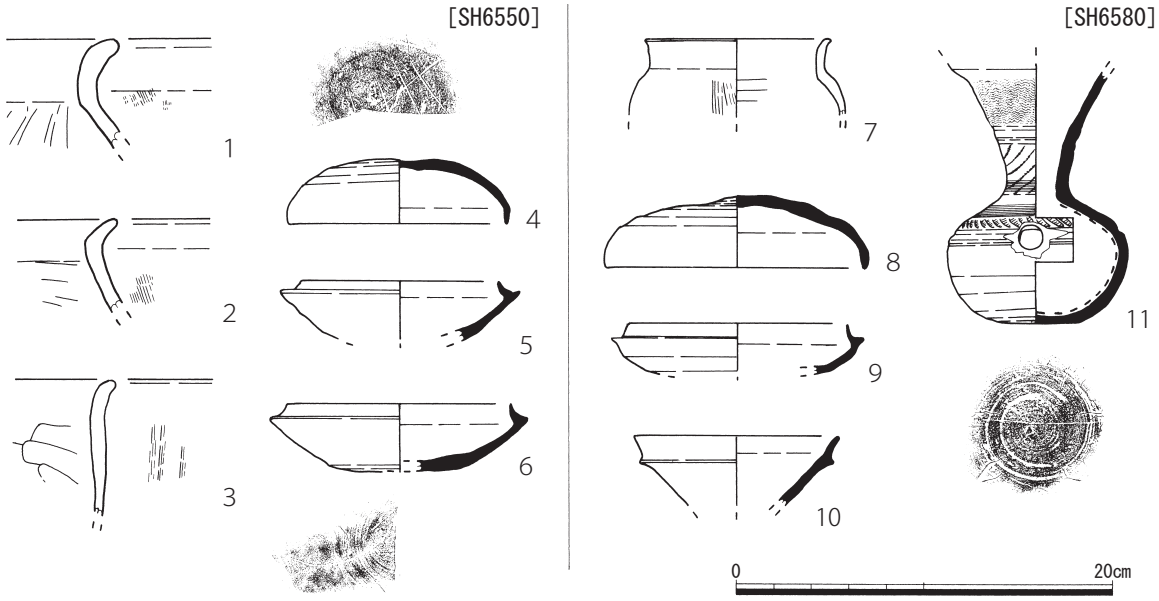
第 42 図　6550 号竪穴住居　平・断面図 (S=1/40)



第 43 図　6580 号竪穴住居　平・断面図 (S=1/40)

SH6580（第 43 図・図版 10・11） 調査区南端、SH6520 の西側に位置する。調査区外へと延びるため全容は不明だが、主軸方位はＮ 9 ° Ｅにとり、長軸 4.3 m、短軸検出長 3.3 mである。平面形状は隅丸方形と推測される。検出面からの最大深は 0.2 mである。床面は固くしまっており、土質から地山が踏み固められたものと推測される。東壁沿いにて 0.5m の範囲で、西壁沿いでは 0.6m の範囲で粘土塊が確認された。床面から多数のピットが確認されたが住居との関係は不明である。

出土遺物（第44図・図版19） 遺物は土師器の甕（７）、須恵器の坏蓋（８）、坏身（９）、碗（10・11）を確認した。７は復元口径 9.6㎝の小型の甕である。体部内面に横方向のケズリを、体部外面に縦方向のハケメを施す。８は天井部が膨らんでおり全体的に丸みを帯びる。天井部には切り離し痕が確認できる。９は形状から器高が低く扁平なものと推測される。受部は水平で立ち上がりはわずかに外反する。10 は口縁部のみ残存、11 は底部から頸部まで残存する。頸部には上から櫛歯状工具による波紋、突帯状の回転ナデ、絞り込み、カキメを施す。肩部にはカキメとキザミを施す。体部には突帯状の回転ナデを施す。底部には「／」のヘラ記号を刻む。



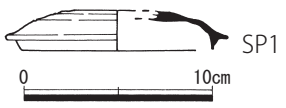
第 44 図　6550・6580 号竪穴住居　出土遺物 (S=1/4)

２.【掘立柱建物（SB)】

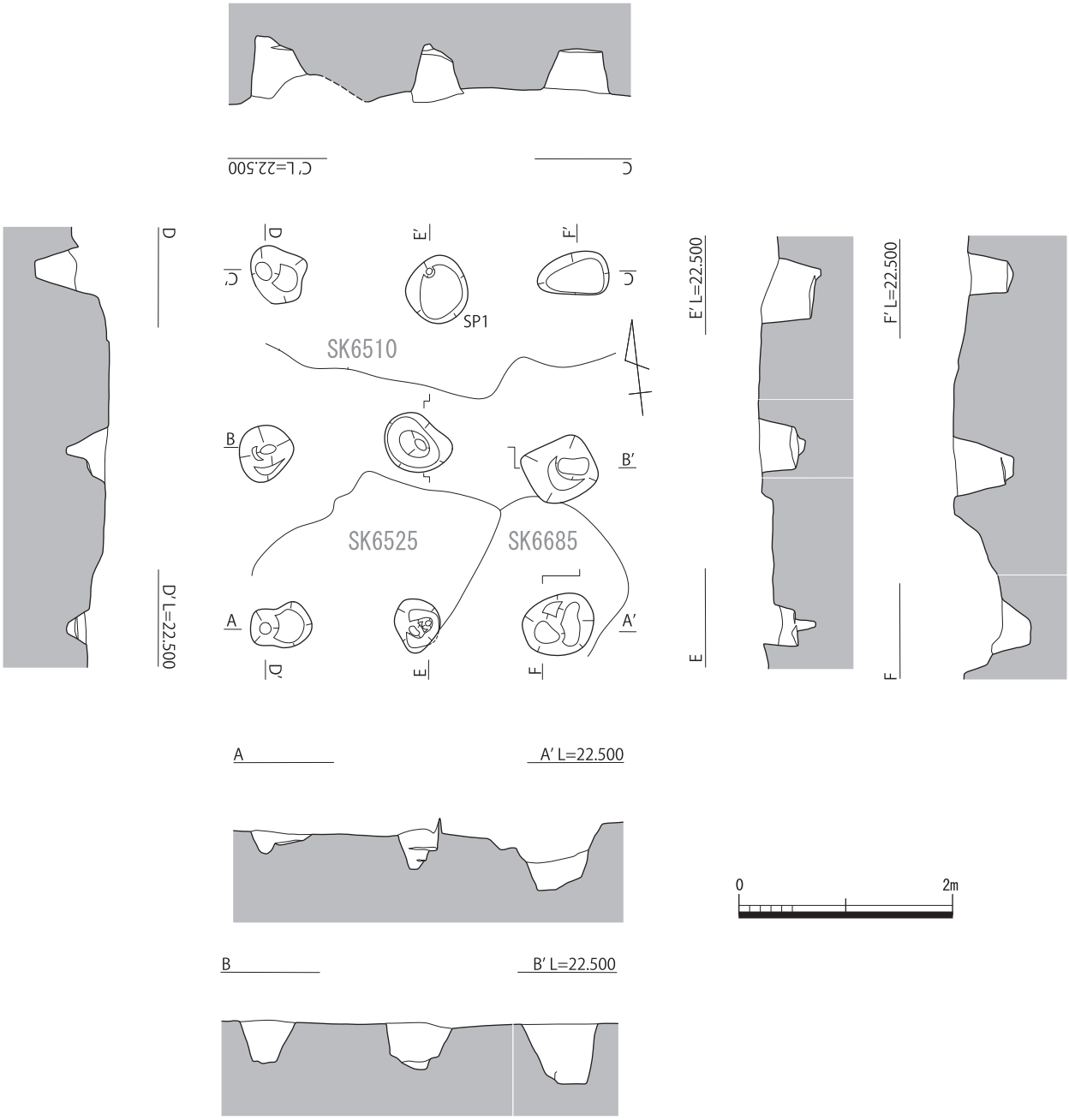
当該時期の掘立柱建物は 1 棟確認された。

SB6007（第 46 図） 調査区東端、SH6500 の南に位置する。主軸方向Ｎ７°Ｅにとる２間×２間の建物である。梁桁ともに概ね 3.0m を測り、身舎面積は 9.0㎡である。構成する柱穴は周辺の SK6510・SK6525・SK6685 と同時期の遺構と重複しているが、前後関係は不明である。構成する柱穴の平面形状は円形または不整円形で、規模は長軸 0.4m ～ 0.6m で、深さは最も深いもので 0.7m を測る。

出土遺物（第 45 図） 遺物は 5 基の柱穴から確認されたが、土師器の小片などがほとんどで、図示可能なものは 1 点であった。出土した遺物は須恵器の坏蓋である。天井部は平坦で、厚みは全体的に薄い。口縁端部は水平に延びる。受部はやや内倒するものの直線的に下に延びる。



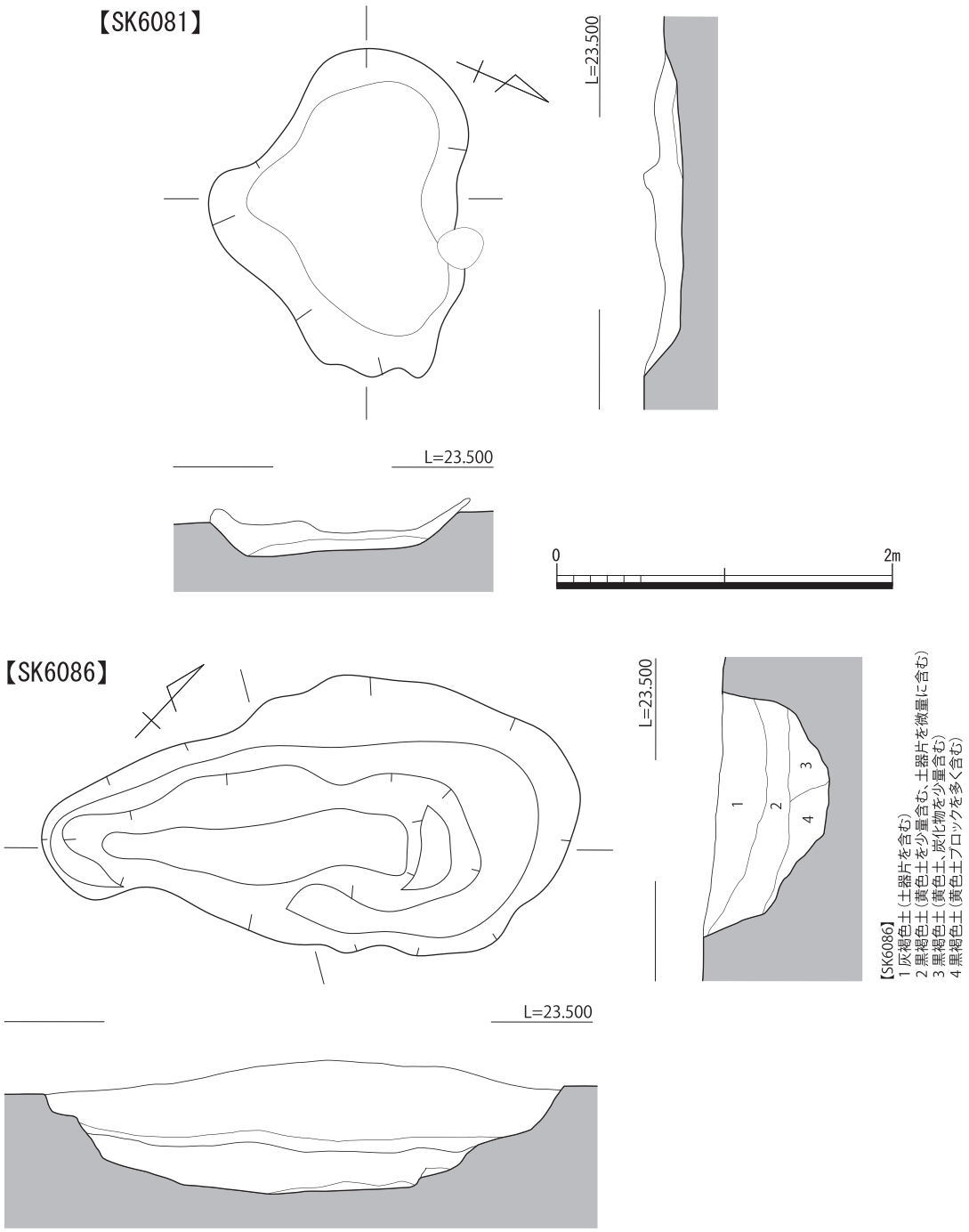
第 45 図　6007 号掘立柱建物
出土遺物 (S=1/4)



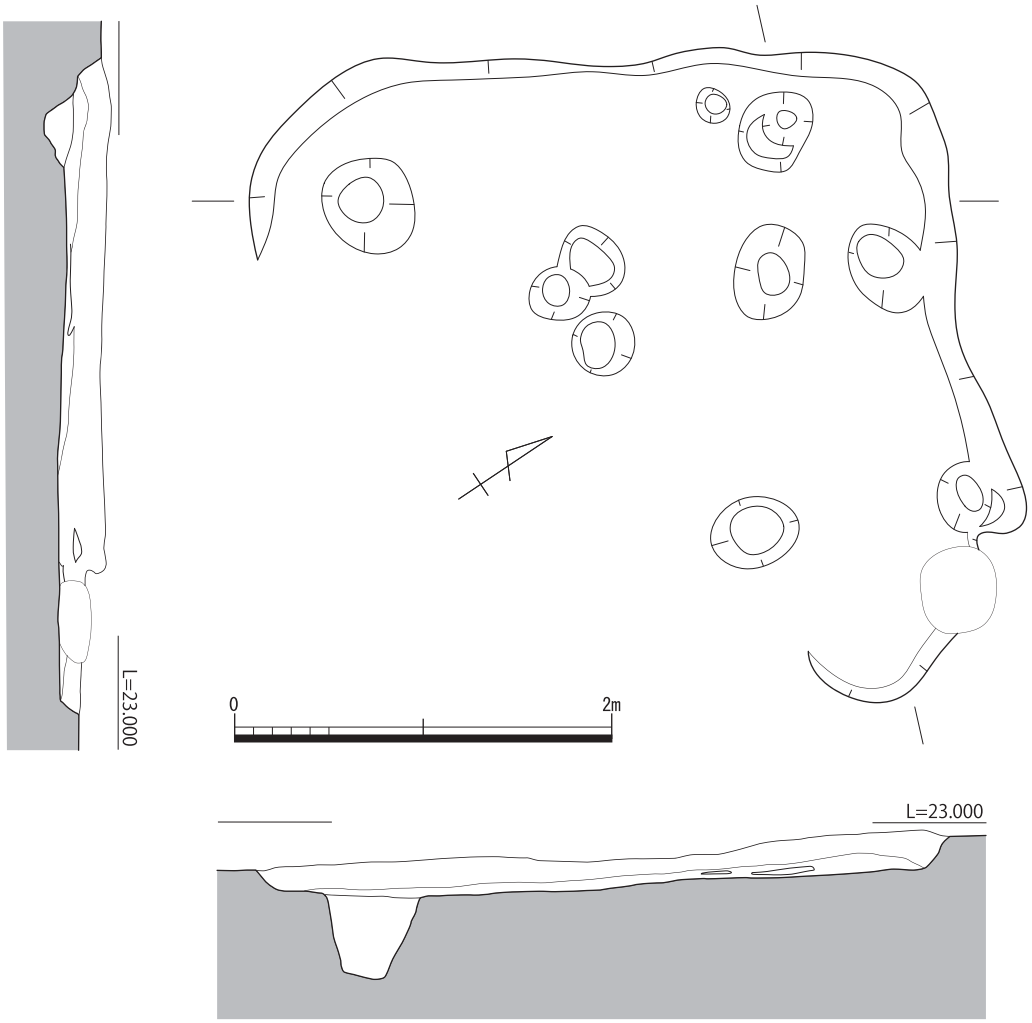
第 46 図　6007 号掘立柱建物　平・断面図 (S=1/60)

3．【土坑（SK）】

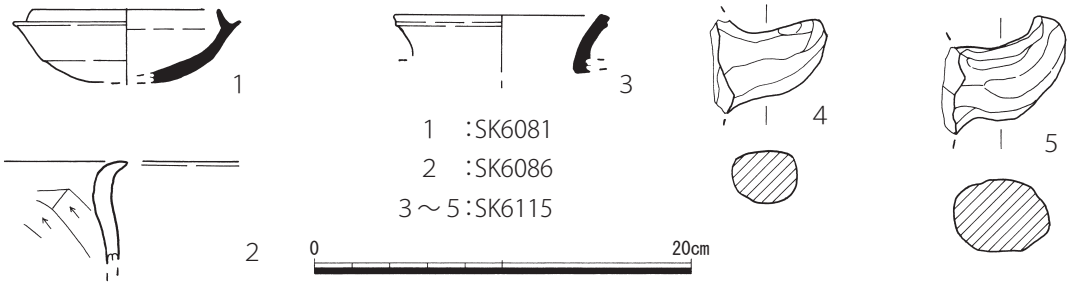
当該時期の土坑は 36 基確認された。そのほとんどは調査区の南部から南東部にかけて集中して検出された。特に南端、南東端にて検出された土坑は大型で深いものが多く、中には黄褐色ローム下の灰白色粘土層に到達しているものも確認された。



第 47 図　6081・6086 号土坑　平・断面図 (S=1/40)



第 48 図　6115 号土坑　平・断面図 (S=1/40)



第 49 図　6081・6086・6115 号土坑　出土遺物 (S=1/4)

SK6081（第 47 図・図版 11）　調査区南部、SH6200 の南西に位置する。SK6082 と SK6083 と重複関係にあり、SK6081 が新しい。長軸 1.9m、短軸 1.5m を測り、平面形状は不整円形である。最大深度 0.2m で断面形状は逆台形である。

出土遺物（第 49 図）　遺物は須恵器の坏身（ 1 ）を確認した。 1 は、底部は丸みを帯びる。受部はわずかに上に延びる。立ち上がりは直線的に延びる。

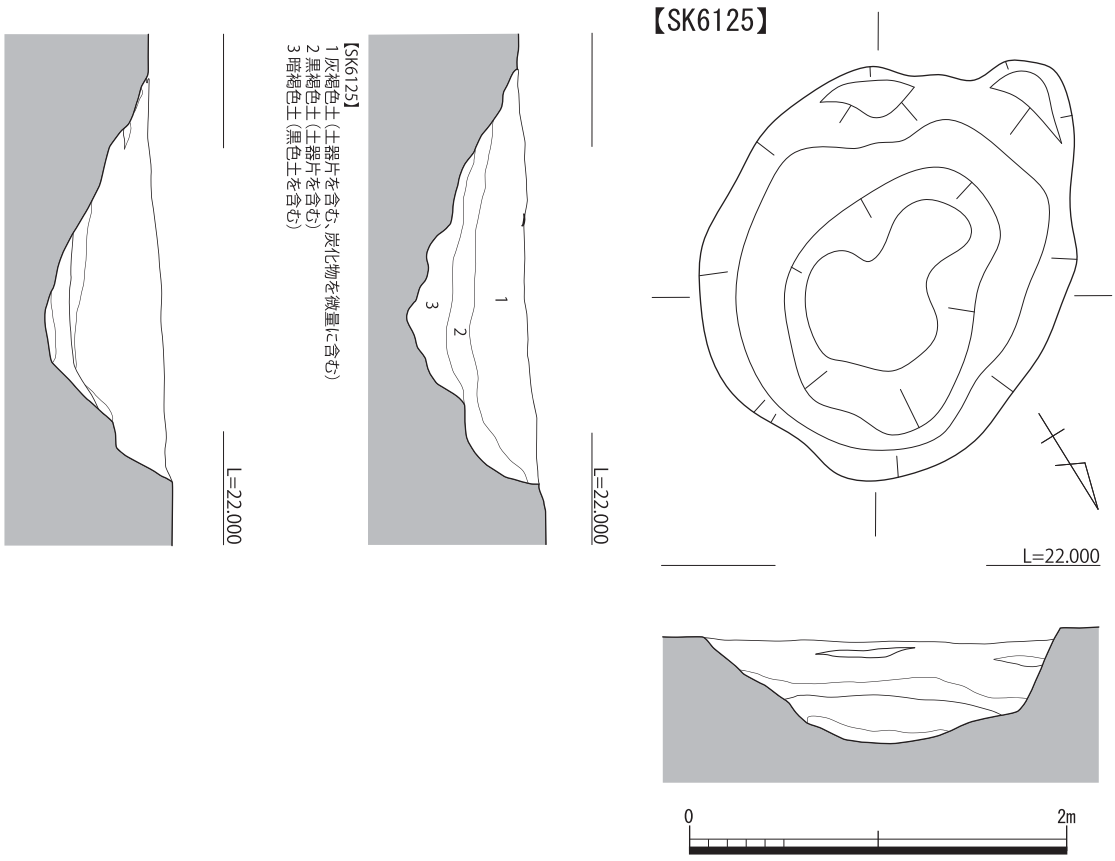
SK6086（第 47 図･図版 13） 調査区南部、SK6081 の南に位置する。SD6087 と重複関係にあり、SK6086 が新しい。長軸 3.1m、短軸 1.4m を測り、平面形状は楕円形である。最大深度 0.6m で断面形状は逆台形である。
出土遺物（第 49 図） 遺物は土師器の甕（２）を確認した。体部内面にケズリを、体部外面にナデを施す。

SK6115（第 48 図） 調査区南部、SK6086 の南東に位置する。南東部を中心に大きく削平されており、残存状態は良くない。残存状況から長軸 3.7m、短軸 3.4m で平面形状は方形である。最大深は 0.2m で断面形状は逆台形である。床面から多数の柱穴が確認されたが遺構との関係は不明である。
出土遺物（第 49 図） 遺物は須恵器の瓶（３）、土師器の把手（４・５）を確認した。３は口縁部のみ残存。４と５は甑の把手である。４は断面形状が横長の楕円形をしている。端部が緩やかに上に向く。５は短くずんぐりとしている。

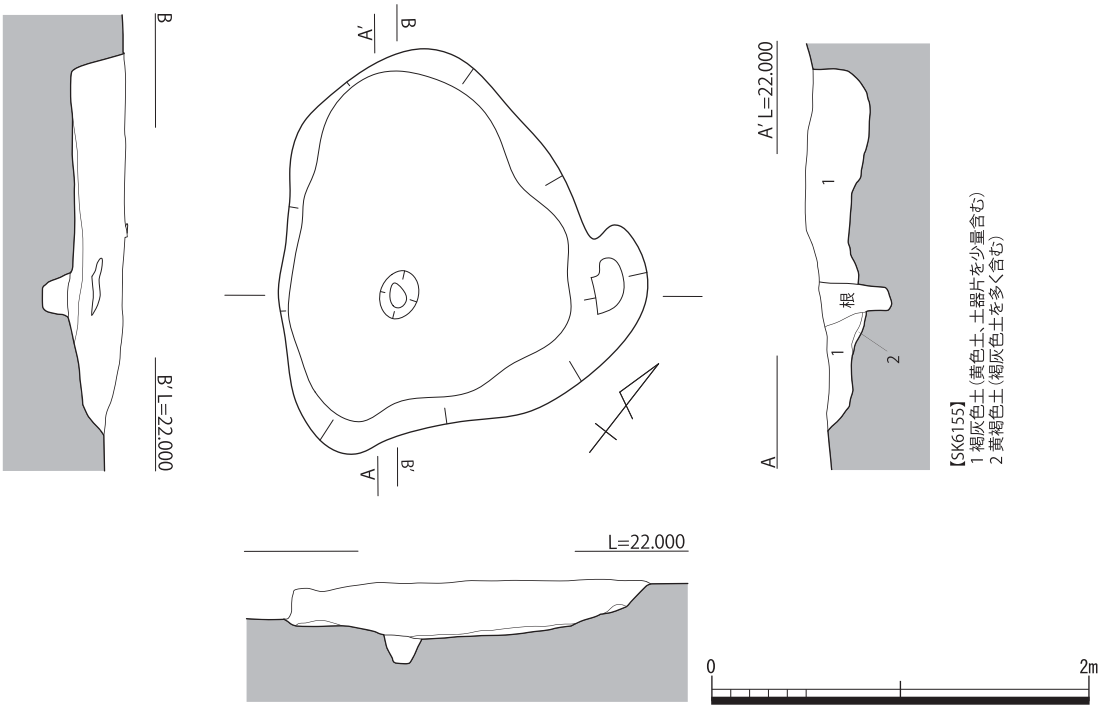
SK6125（第 50 図・図版 11） 調査区南西端に位置する。長軸 2.1m、短軸 1.9m を測り、平面形状は円形である。最大深は 0.6m で断面形状は逆台形である。
出土遺物（第 52 図） 遺物は須恵器の坏蓋（１）、坏身（２）を確認した。１は、全体的に丸みを帯びている。受部は水平である。外面にヘラケズリを施す。２は高台坏身である。高台はやや内側に付く。

SK6150（第 50 図・図版 11） 調査区南端、SH6095 の南東に位置する。長軸 3.1m、短軸 1.3m を測り、平面形状は楕円形である。最大深は 0.5m で断面形状は逆台形である。床面から多数のピット状の掘り込み確認されたが遺構との関係は不明である。
出土遺物（第 52 図） 遺物は須恵器の坏蓋（３）を確認した。３の天井部は平坦である。天井部に比べて口縁端部は非常に薄い。受部は直線的に内側へ延びるが、先端は下を向く。

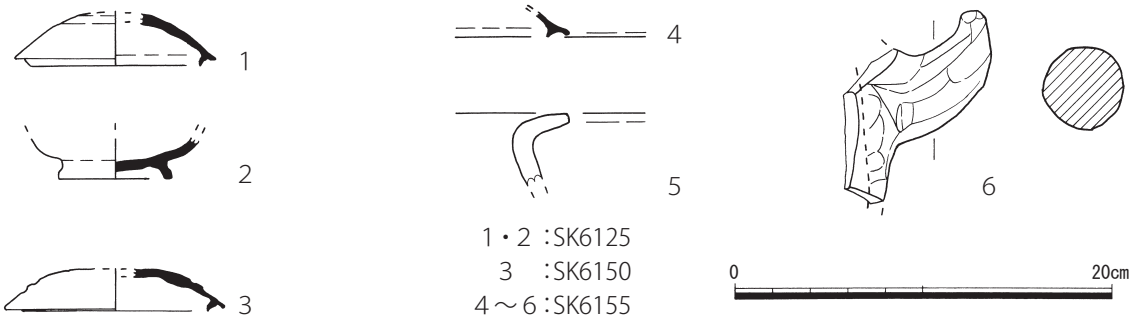
SK6155（第 51 図･図版 11） 調査区南端、SK6150 の南東に位置する。SK6165 と重複関係にあり、SK6155 が新しい。長軸 2.0m、短軸 1.9m を測り、平面形状は不整円形である。削平されており深は北西部で 0.3m、南東部で 0.1m である。断面形状は逆台形である。床面からピット状の掘り込み 1 基を確認したが遺構との関係は不明である。
出土遺物（第 52 図） 遺物は須恵器の坏蓋（４）、土師器の甕（５）、把手（６）を確認した。４は受部のみ残存、５は口縁部のみ残存、全体的に摩滅しており調整は不明である。６は甑の把手である。断面形状は丸く、湾曲しながら上へと延びる。



第 50 図　6125・6150 号土坑　平・断面図 (S=1/40)



第 51 図　6155 号土坑　平・断面図 (S=1/40)



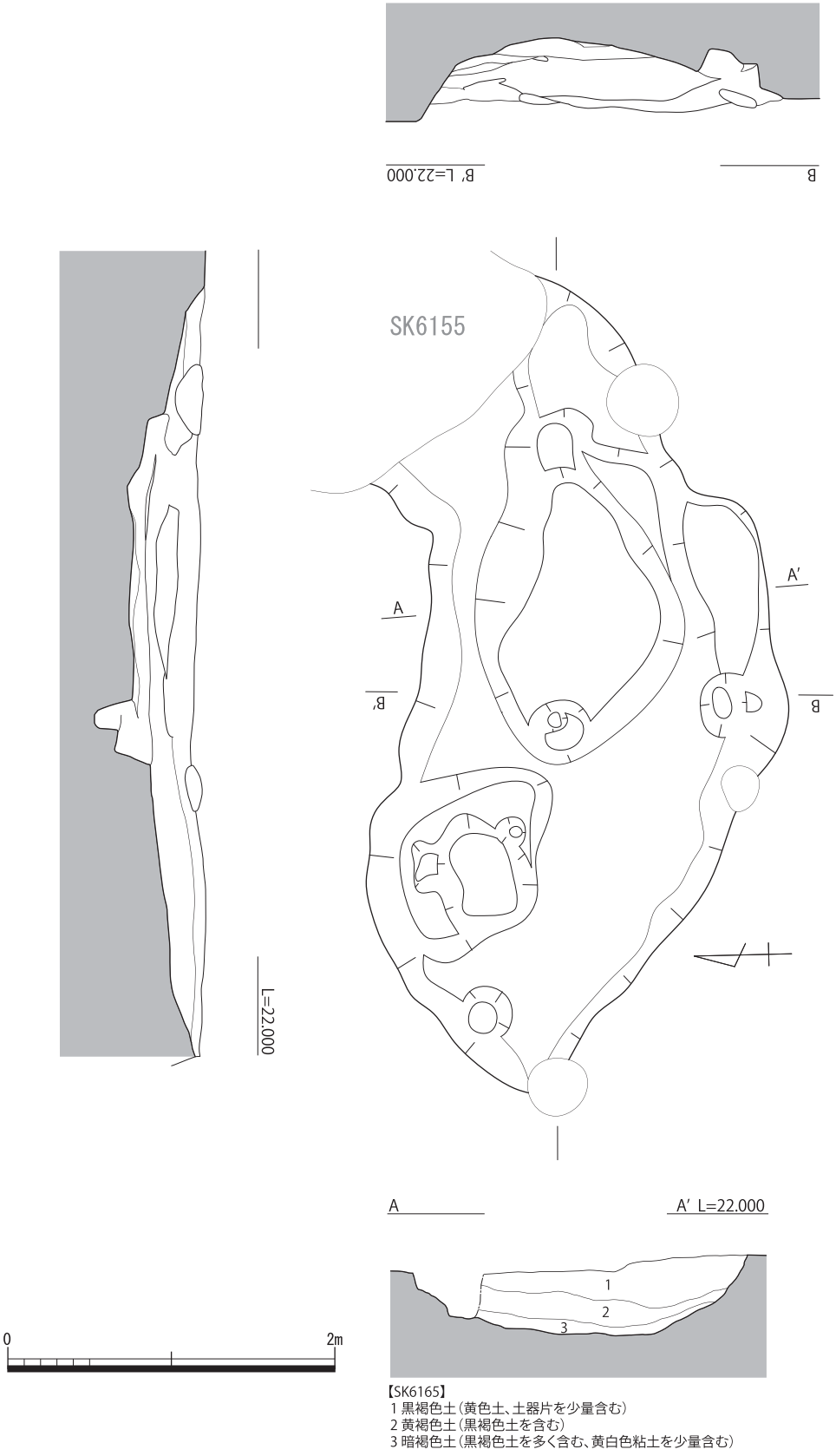
第 52 図　6125・6150・6155 号土坑　出土遺物 (S=1/4)

SK6165（第 53 図・図版 11・12） 調査区南端の土坑群内、SK6155 の南西に位置する。SK6155 と重複関係にあり、SK6155 が新しい。長軸検出長 5.0m、短軸 2.2m を測り、平面形状は楕円形である。最大深は 0.4m で断面形状は逆台形である。底面では灰白色粘土層を確認した。床面から複数ピットを確認したが遺構との関係は不明である。

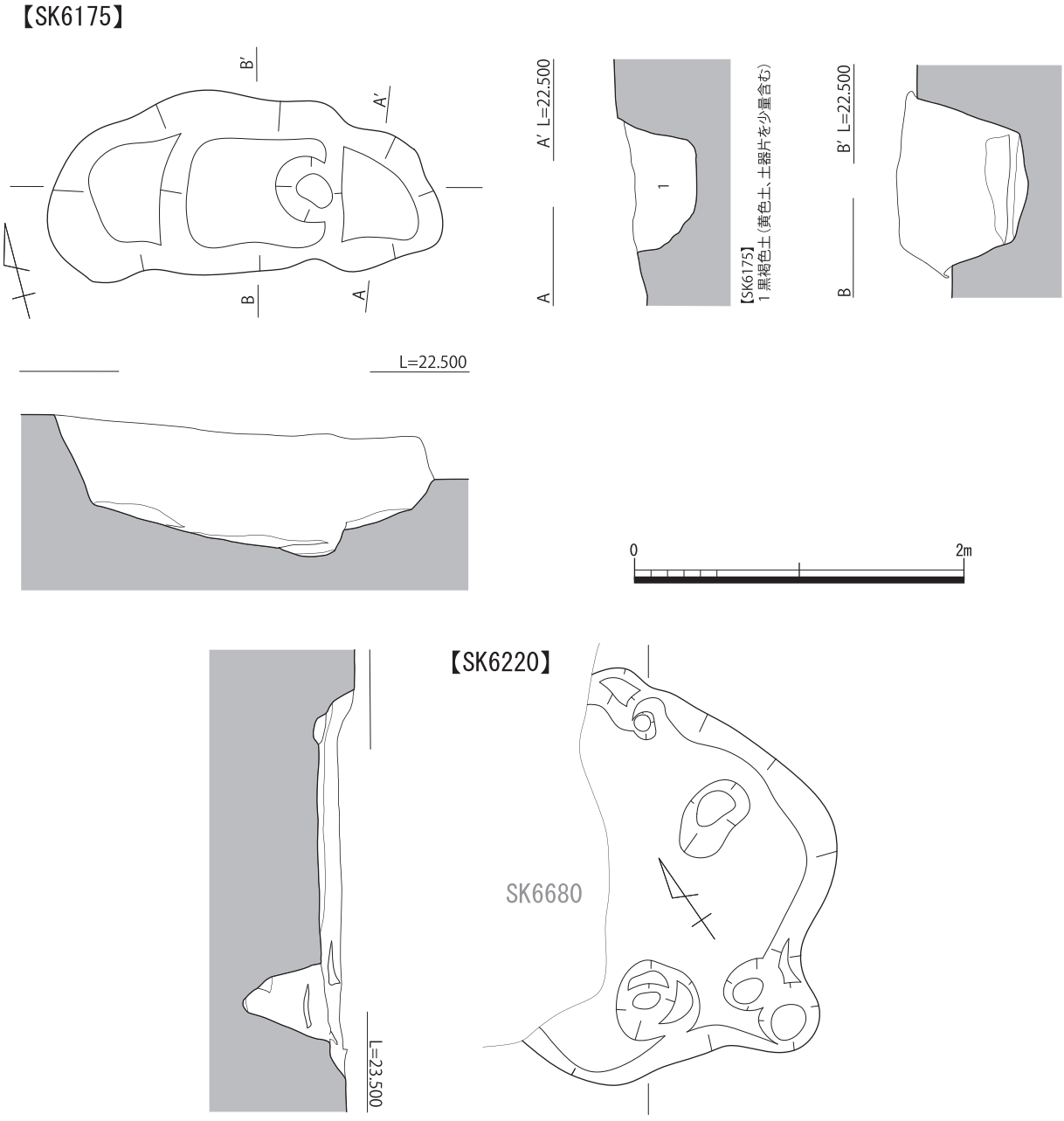
出土遺物（第 55 図） 遺物は須恵器の坏蓋（１）、坏身（２）を確認した。１は天井部が平坦で口縁部は外反気味に延びる。２の受部は水平で立ち上がりは上に延びる。

SK6175（第 54 図・図版 12） 調査区南端の土坑群内、SK6095 の南に位置する。長軸 2.2m、短軸 1.0m を測り、平面形状は楕円形である。最大深は 0.4m で断面形状は逆台形である。

出土遺物（第 55 図） 遺物は須恵器の坏蓋（３）、坏身（４）を確認した。３は丸みを帯びた山形をしており、天井部の平坦面は狭く口縁部は内湾気味に延びる。４は底部にかけて丸みを帯びており、立ち上がりは内側に向けて直線的に延びる。外面底部にヘラ記号「Ｃ」を刻む。



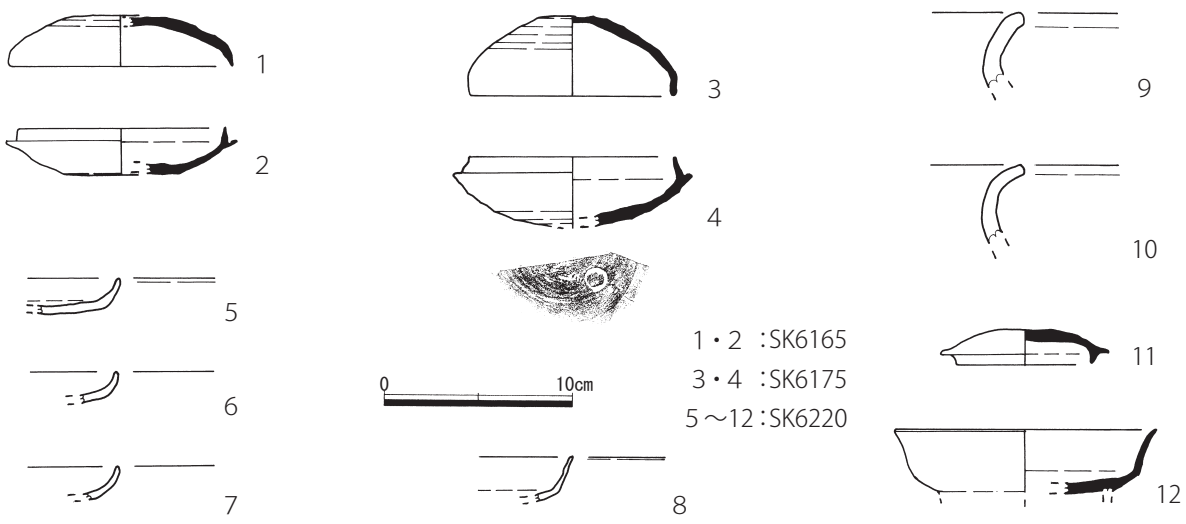
第 53 図　6165 号土坑　平・断面図 (S=1/40)



第 54 図　6175・6220 号土坑　平・断面図 (S=1/40)

SK6220（第 54 図）　調査区中央やや南西、SH6095 の北に位置する。SK6080 と重複関係にあり、SK6080 が新しい。長軸 2.4m、短軸検出長 1.4m を測り、平面形状は不整円形である。最大深は 0.1m で断面形状は逆台形である。床面から複数のピット状の掘り込みを確認したが、遺構との関係は不明である。

出土遺物（第 55 図）　遺物は土師器の皿（５～７）、坏身（８）、甕（９・10）、須恵器の坏蓋（11）、坏身（12）を確認した。５～８は口縁部のみ残存、５の底部は平坦で口縁部は直立気味である。６は器高が低い。７の口縁部は緩やかに内湾する。８の口縁部は直線的に延びる。９と 10 は全体的に摩滅しており、調整は不明である。11 の口縁端部は水平に延び、受部は短く下へと延びる。



第 55 図　6165・6175・6220 号土坑　出土遺物 (S=1/4)

12 の口縁部は緩やかに外反しながら延びる。底部には高台の痕跡が確認された。

SK6245（第 56 図） 調査区中央やや南、SK6115 の南東に位置する。SK6235、SK6240 と重複関係にあり、SK6235、SK6240 が新しい。長軸検出長 1.5m、短軸 1.0m を測り、平面形状は楕円形と推測される。最大深は 0.7m で断面形状は逆台形である。

出土遺物（第 59 図） 遺物は土師器の甕（１）、須恵器の坏蓋（２）を確認した。１は口縁部のみの残存、内面にケズリを施す。２は天井面が平坦で、「Ｄ」のヘラ記号を刻む。全体に回転ナデを施す。

SK6255（第 56 図・図版 12） 調査区中央、SH6200 の西に位置する。長軸 2.0m、短軸 1.7m を測り、平面形状は楕円形である。最大深は 0.3m で断面形状は逆台形である。床面からピット状の掘り込みを確認したが遺構との関係は不明である。

出土遺物（第 59 図） 遺物は土師器の甕（３）、須恵器の坏蓋（４）を確認した。３は口縁部のみ残存、内面の一部に横方向のケズリがみられるものの、全体的に摩滅しておりそのほかの調整は不明。４は外面に回転ケズリを施す。受部は短くやや内側に延びる。

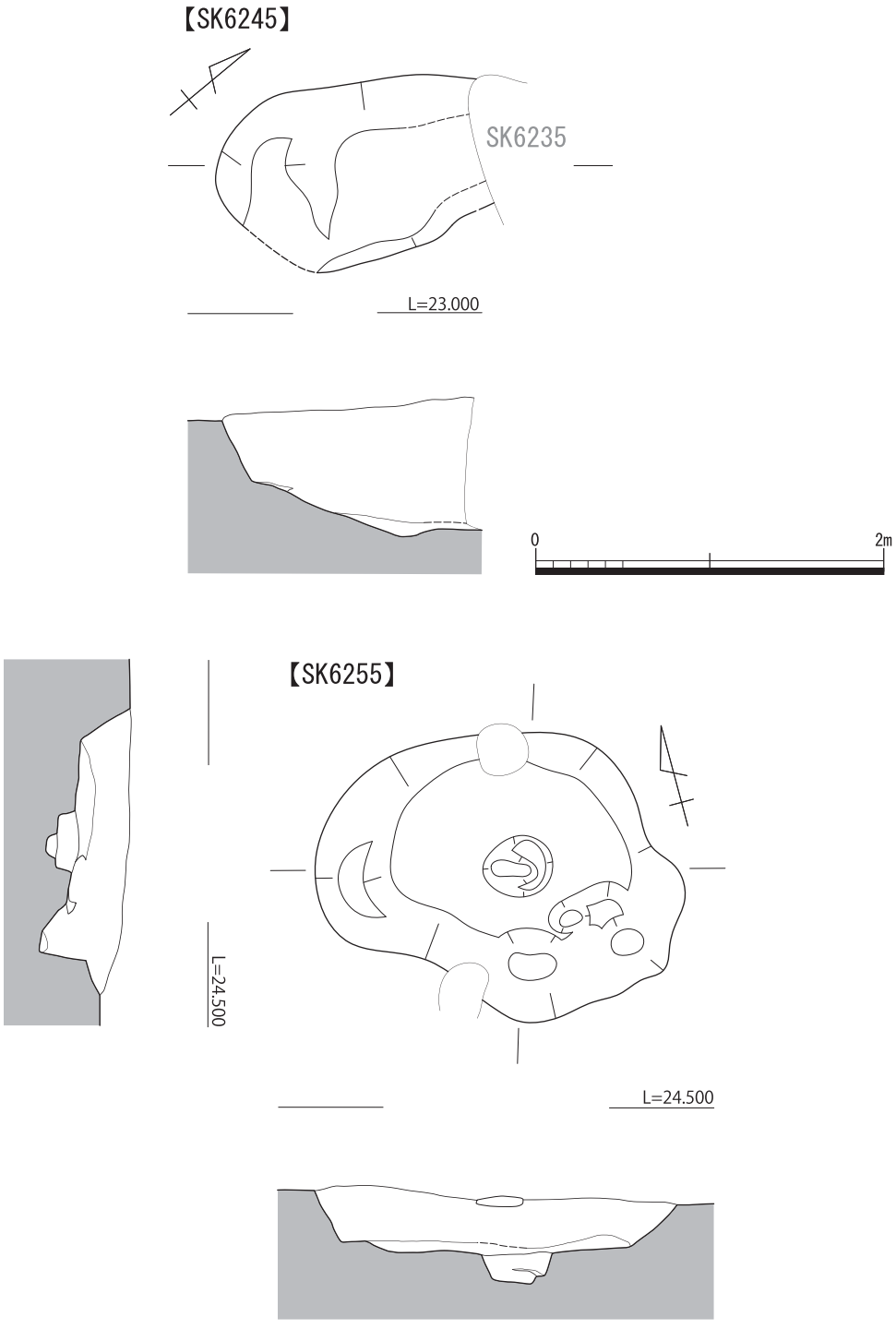
SK6505（第 57 図） 調査区中央やや東、SH6295 の南東に位置する。SK6675 と重複関係にあり、SK6505 が新しい。長軸 3.3m、短軸 2.3m を測り、平面形状は不整円形である。最大深は 1.0m で断面形状は逆台形である。底部一面に被熱の痕跡が確認された。

出土遺物（第 59 図・図版 20） 遺物は須恵器の坏蓋（５～７）、坏身（８）を確認した。５・６はつまみを有する蓋である。８は高台坏である。口縁部が外反し、高台は底部端に付く。

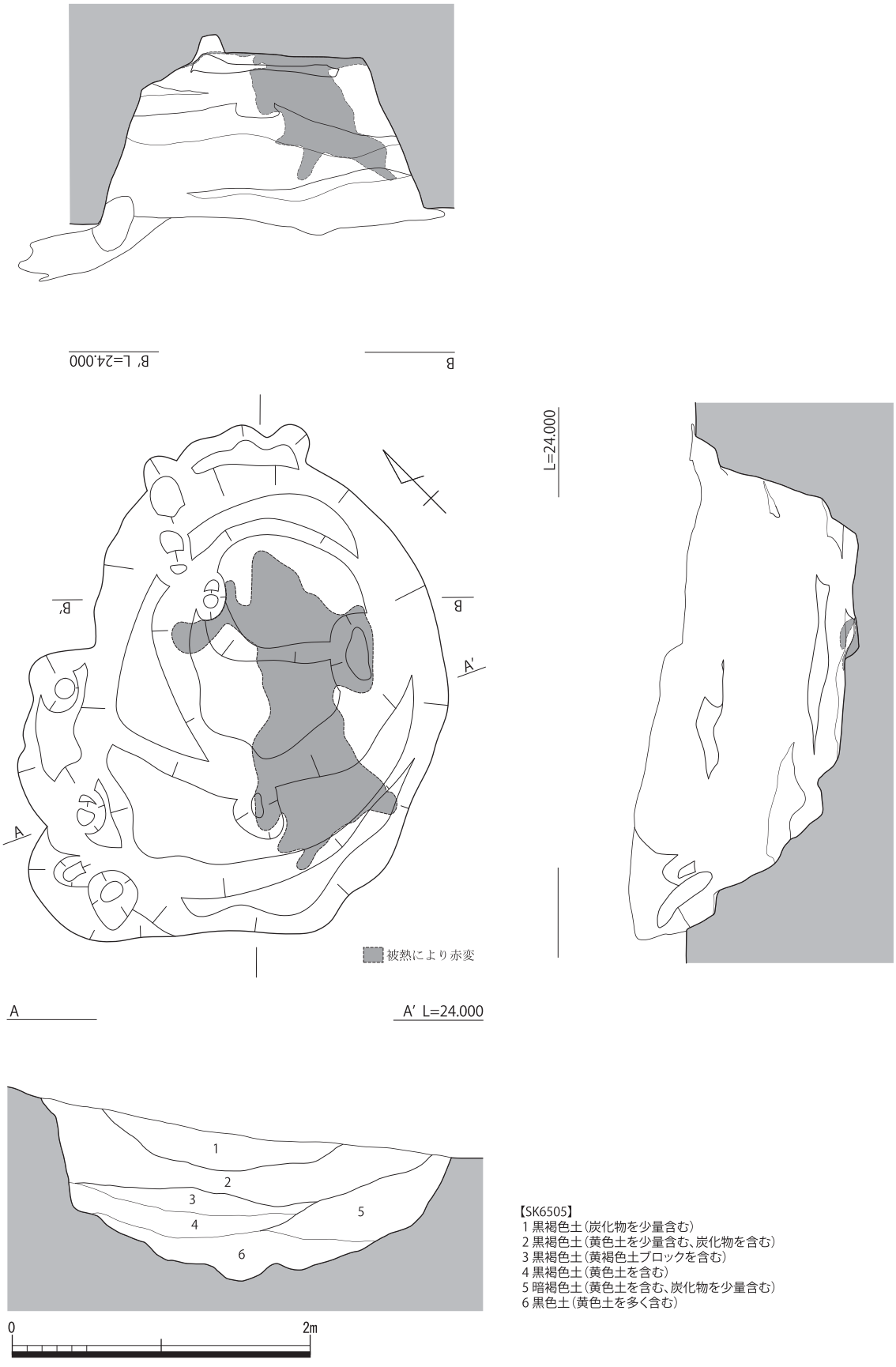
SK6510（第 58 図） 調査区東端に位置する。SH6515 と重複関係にあり、SH6515 が新しい調査区外へと延びるため全容は不明だが、長軸検出長 4.2m、短軸 1.8m を測り、平面形状は楕円形

と推測される。全体的に浅くおおよその深さは 0.2m である。断面形状は逆台形である。床面から複数のピット状掘り込みを確認したが遺構との関係は不明である。

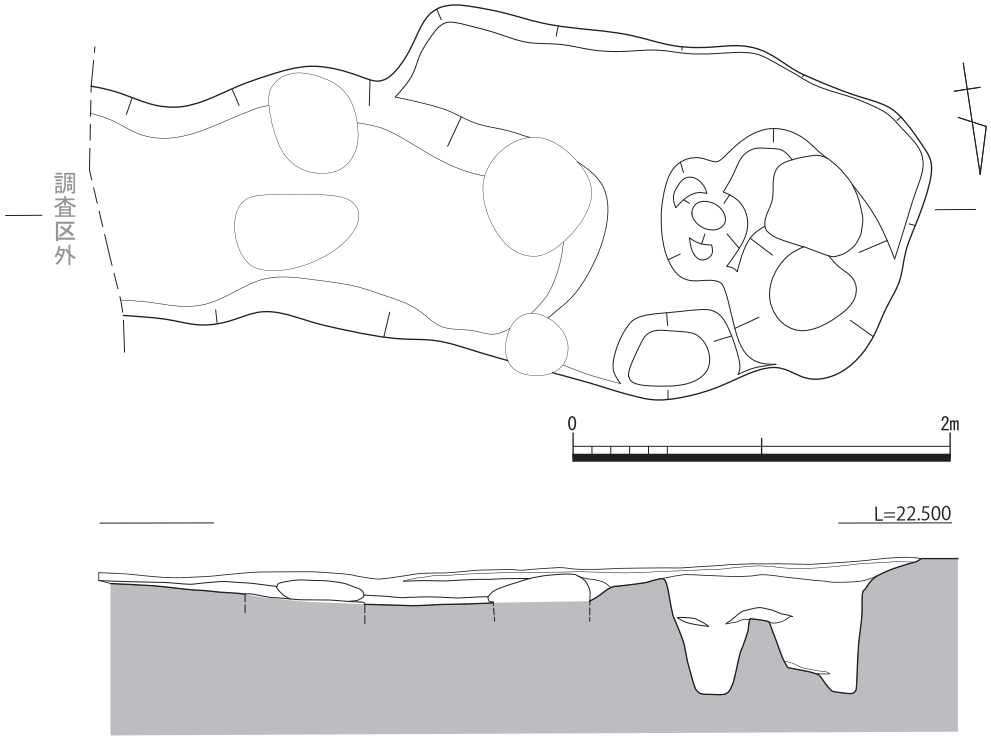
出土遺物（第 59 図） 遺物は土師器の甕（９）、須恵器の坏身（10）を確認した。９は復元口径 11.8㎝で、内面に工具ケズリ、外面にナデを施す。10 の受部はやや上に延びる。立ち上がりは長く内傾しつつ、直線的に延びる。



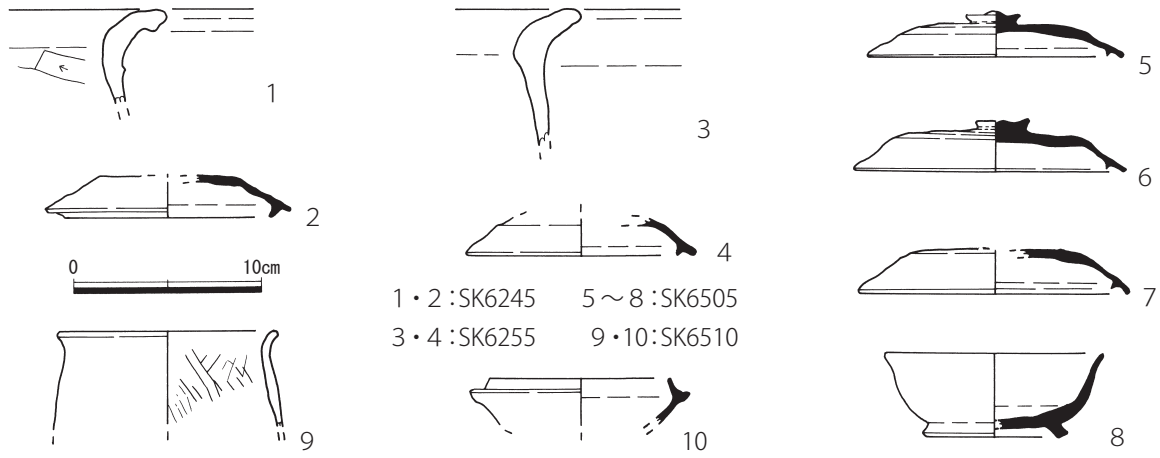
第 56 図　6245・6255 号土坑　平・断面図 (S=1/40)



第 57 図　6505 号土坑　平・断面図 (S=1/40)



第 58 図　6510 号土坑　平・断面図 (S=1/40)



第 59 図　6245・6255・6505・6510 号土坑　出土遺物 (S=1/4)

SK6525（第 60 図・図版 12）　調査区東端、SK6510 の南に位置する。SK6670、SK6685 と重複関係にあり、SK6525 が新しい。長軸 5.8m、短軸 3.8m を測り、平面形状は不整円形である。最大深は 0.3m で断面形状は逆台形である。床面から複数のピット状掘り込みを確認したが遺構との関係は不明である。

出土遺物（第 64 図・図版 20）　遺物は土師器の甕（１）、甑（２）、坏蓋（３）、須恵器の坏身（４～６）。１は内面と外面に縦方向のハケメ、外面には加えて平行タタキを施す。２は口縁部から体部・把手まで残存体部内面に縦方向にケズリを施す。把手は短く上を向く。３は天井部が扁平

【SK6525】
1 暗褐色土（炭化物を少量含む、土器片を含む）
2 黒褐色土（土器片を含む）
3 暗褐色土
4 黒褐色土（黄色土を多く含む）
5 黒褐色土（土器片を含む）
6 褐色土
7 黒褐色土（黄色土を多く含む）

第 60 図　6525 号土坑　平・断面図 (S=1/40)

で口縁端部は直線的である。4の受部は水平で立ち上がりは外反しながら上に延びる。5は全体的に丸みを帯びており、底部は平坦でヘラ記号「C」を刻む。6は外面底部にケズリを施し、口縁部は直立する。

SK6535（第61図） 調査区南部、SH6540の北に位置する。SK6530、SK6560、SK6700と重複関係にあり、SK6535が新しい。長軸1.6m、短軸1.2mを測り、平面形状は楕円形である。最大深は0.2mで断面形状は逆台形である。遺物は土師器の小破片が出土したが図示可能なものはなかった。

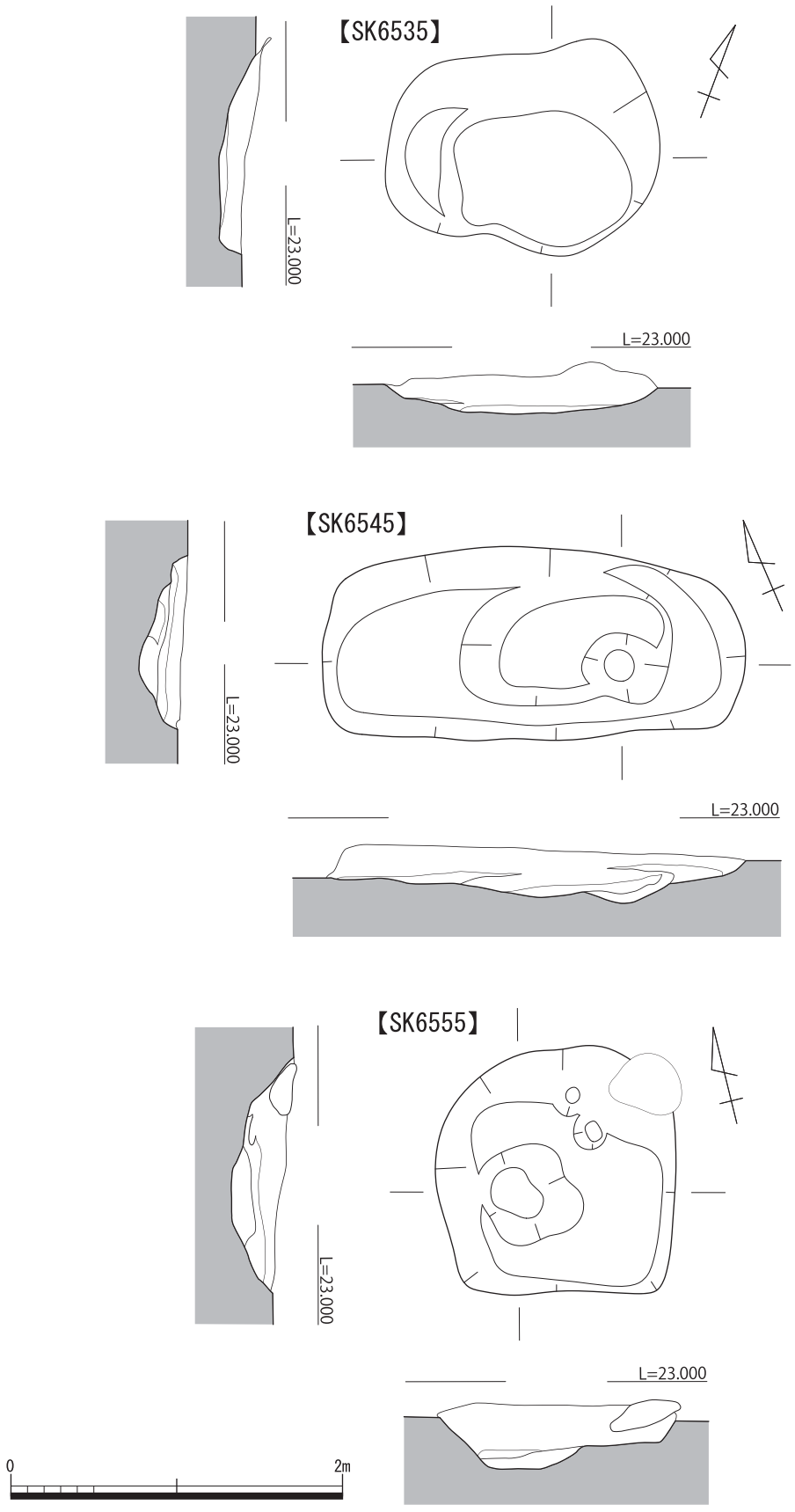
SK6545（第61図） 調査区南部、SH6540の北西に位置する。SK6555と重複関係にあり、SK6545が新しい。長軸2.5m、短軸1.1mを測り、平面形状は楕円形である。最大深は0.3mで断面形状は逆台形である。
出土遺物（第64図・図版22） 遺物は須恵器の瓶（7）、砥石（8）を確認した。7は口縁部のみ残存、表面剥離により調整は不明である。8は4面の使用が確認できる。一部被熱により黒く変色している。

SK6555（第61図） 調査区南部、SH6540の北西に位置する。SK6545と重複関係にあり、SK6545が新しい。長軸1.5m、短軸1.4mを測り、平面形状は楕円形である。最大深は0.3mで断面形状は逆台形である。
出土遺物（第64図・図版20） 遺物は須恵器の坏身（9）を確認した。底部外面に回転ヘラケズリを施す。口縁部は少し外反するも直線的に延びる。

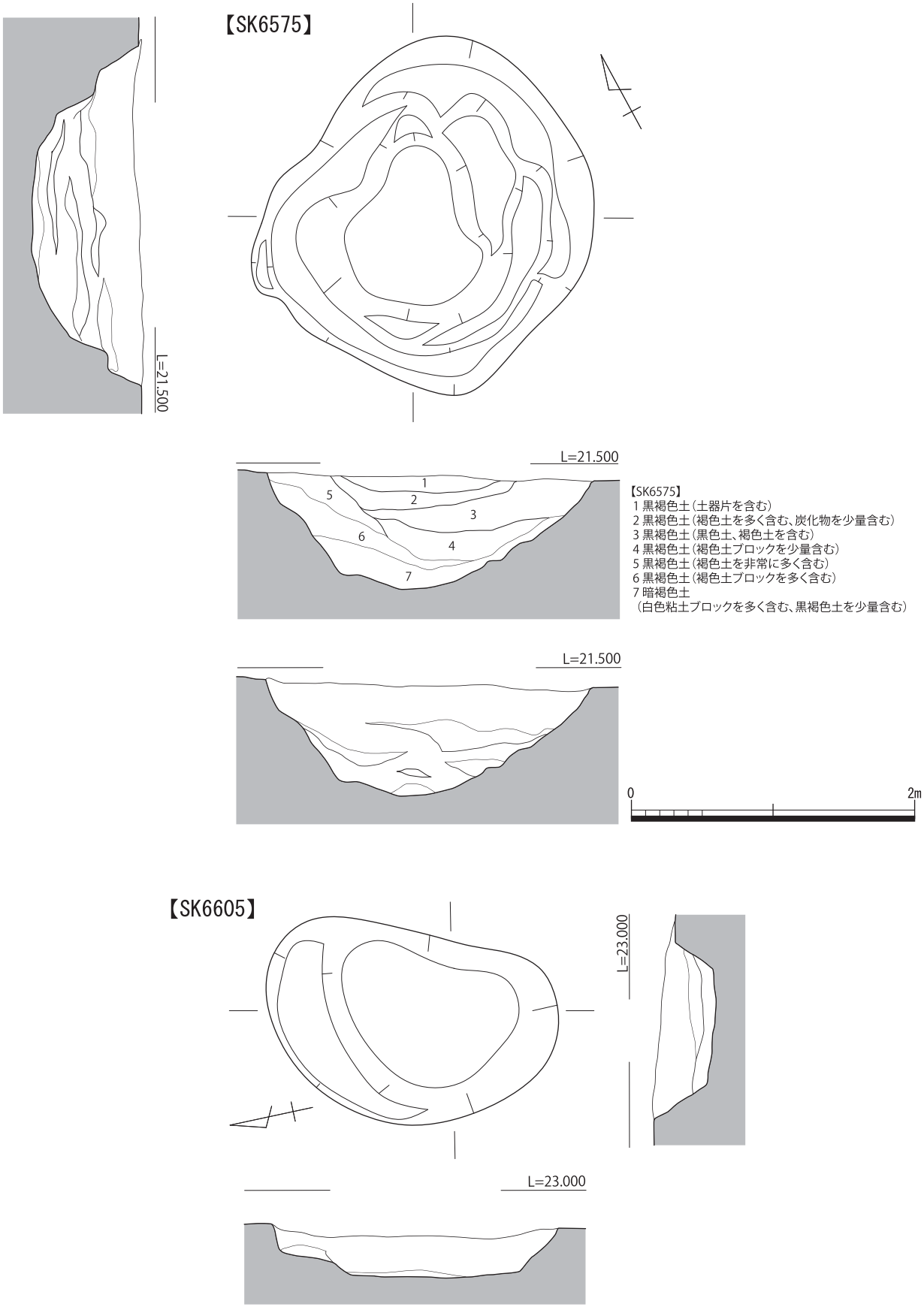
SK6575（第62図・図版12） 調査区南端にSH6520の北に位置する。長軸2.4m、短軸2.3mを測り、平面形状は楕円形である。最大深は0.8mで断面形状は逆台形である。底面では灰白色粘土層を確認した。
出土遺物（第64図） 遺物は須恵器の坏蓋（10）、坏身（11）を確認した。10は表面剥離のため調整は不明である。11は高台付坏で口縁部は外倒しつつ直線的に延びる。

SK6605（第62図） 調査区中央やや南東に位置する。長軸2.0m、短軸1.3mを測り、平面形状は楕円形である。最大深は0.4mで断面形状は逆台形である。
出土遺物（第64図） 遺物は土師器の把手（12）、須恵器の坏蓋（13）を確認した。12は全体的に短く先端部はL字に折れ上に延びる。13は全体的に薄く、口縁端部にむかって緩やかに広がる

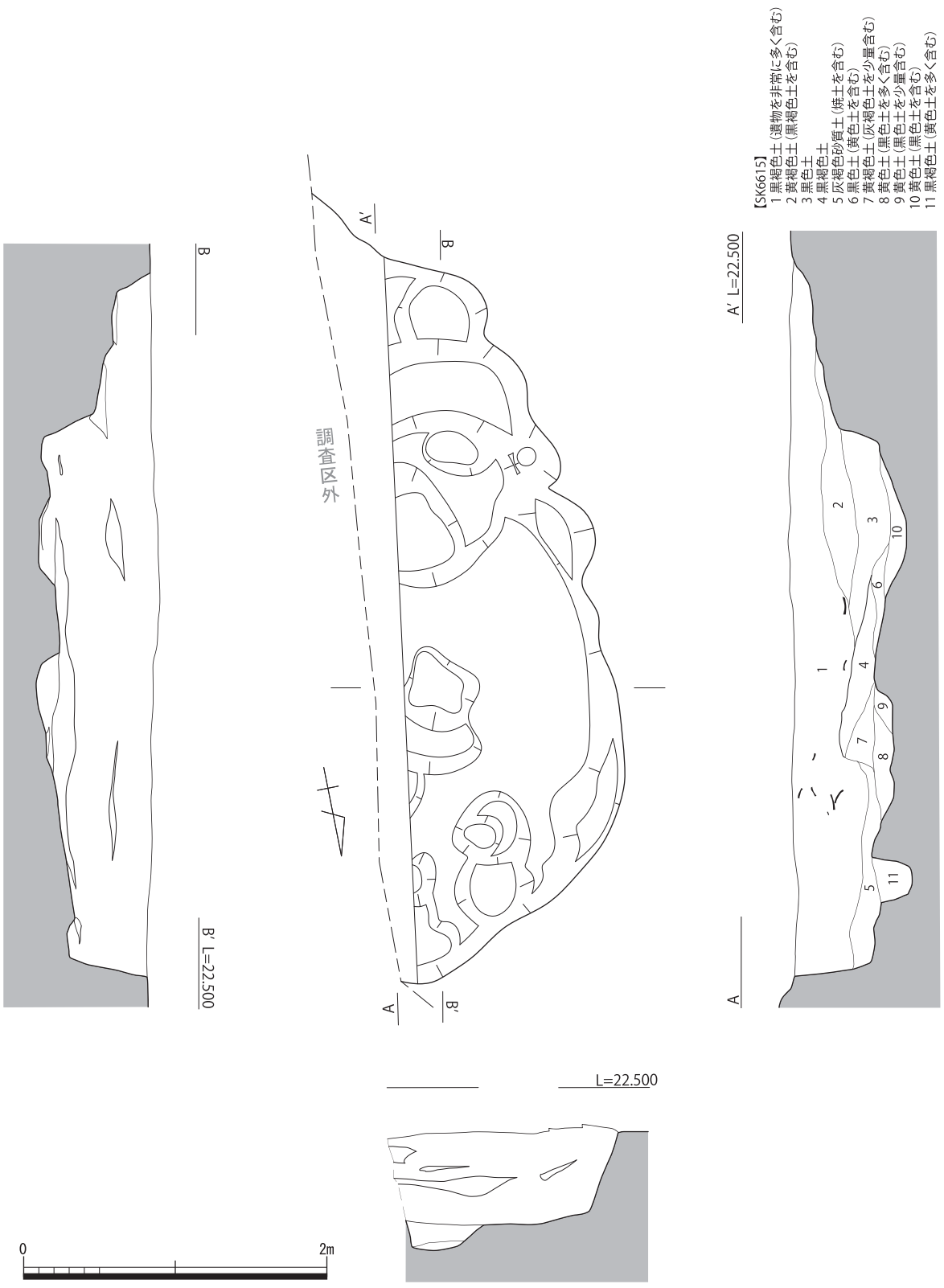
SK6615（第63図・図版12） 調査区東端に位置する。SK6720と重複関係にあり、SK6615が新しい。調査区外へと延びるため全容は不明だが、長軸5.2m、短軸検出長1.6mを測り、平面形状は楕円形と推測される。最大深は0.8mで断面形状は逆台形である。



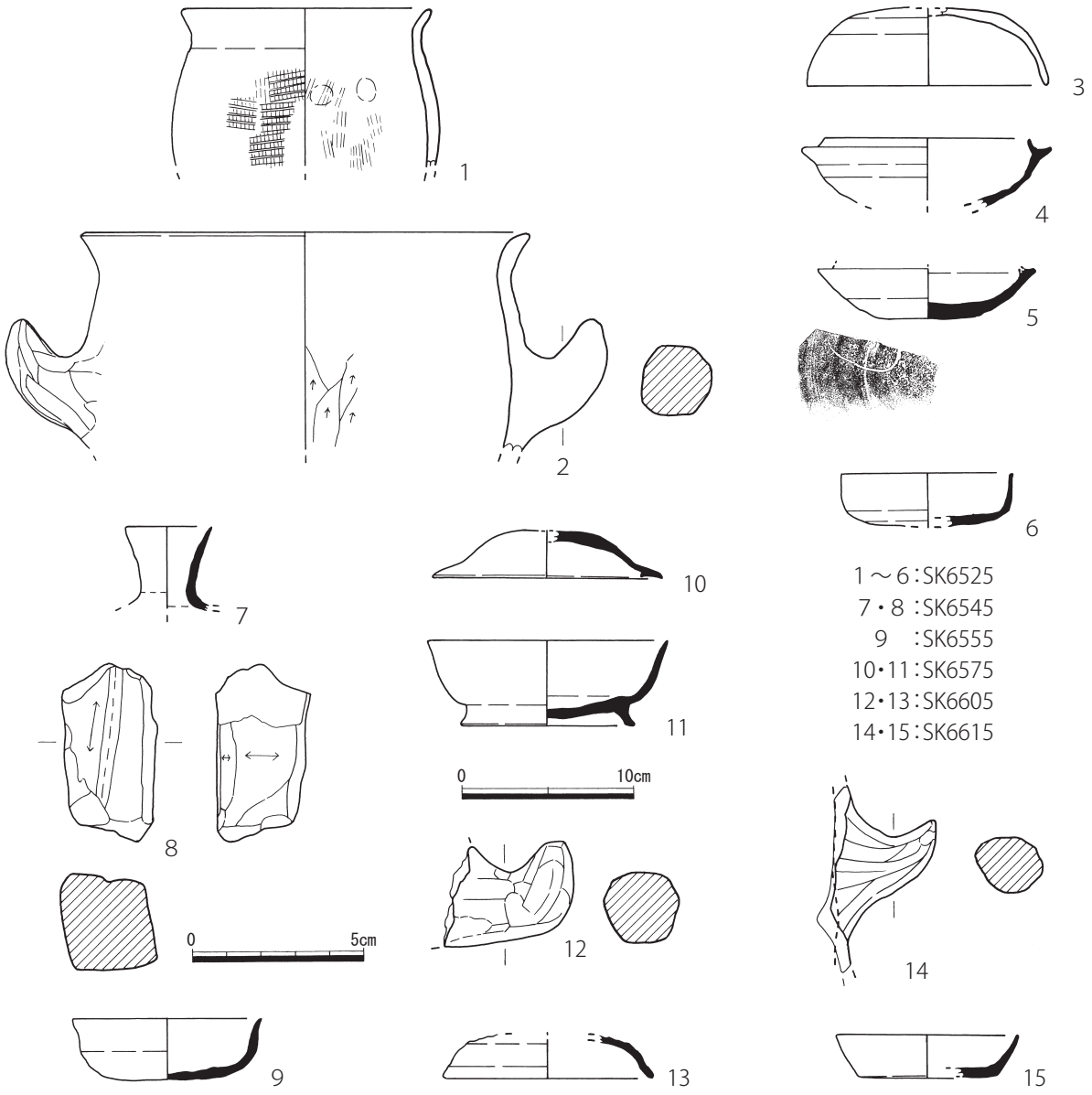
第 61 図　6535・6545・6555 号土坑　平・断面図 (S=1/40)



第 62 図　6575・6605 号土坑　平・断面図 (S=1/40)



第 63 図　6615 号土坑　平・断面図 (S=1/40)



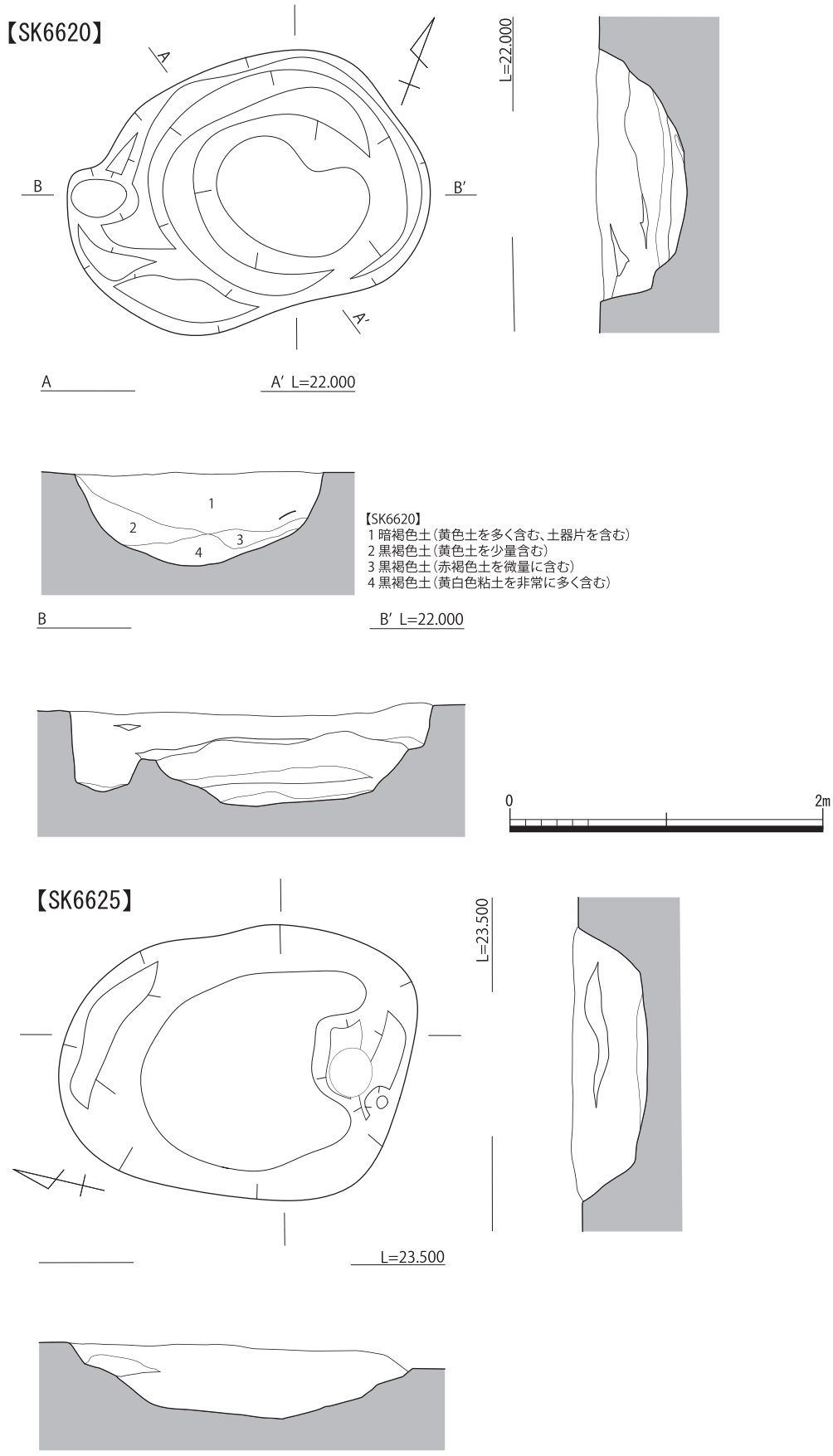
第 64 図　6525・6545・6555・6575・6605・6615 号土坑　出土遺物 (S=1/4、石器は 1/2)

出土遺物（第 64 図）　遺物は土師器把手（14）、須恵器の坏身（15）を確認した。14 は短くすぼみつつ上に角状に延びる。15 の器高は低く口縁部底部ともに直線的に延びる。

SK6620（第 65 図・図版 12）　調査区南端、SH6580 の北に位置する。長軸 2.3m、短軸 1.6m を測り、平面形状は楕円形である。最大深は 0.6m で断面形状は逆台形である。底面では灰白色粘土層を確認した。

出土遺物（第 69 図）　遺物は須恵器坏蓋（１）、坏身（２）を確認した。１は全体的に丸みを帯びている。つまみの痕跡は確認できなかった。２は低い高台が付く。

SK6625（第 65 図・図版 12）　調査区南部の中央 SH6200 の南東に位置する。長軸 2.2m、短軸 1.7m



第 65 図　6620・6625 号土坑　平・断面図 (S=1/40)

を測り、平面形状は楕円形である。最大深は 0.5m で断面形状は逆台形である。
出土遺物（第 69 図・図版 20） 遺物は須恵器の坏蓋（３・４）を確認した。３は丸みを帯びつつも天井部は平坦である。受部は水平方向に内側に延びる。４はつまみが付く外面にヘラ記号「×」を刻む。

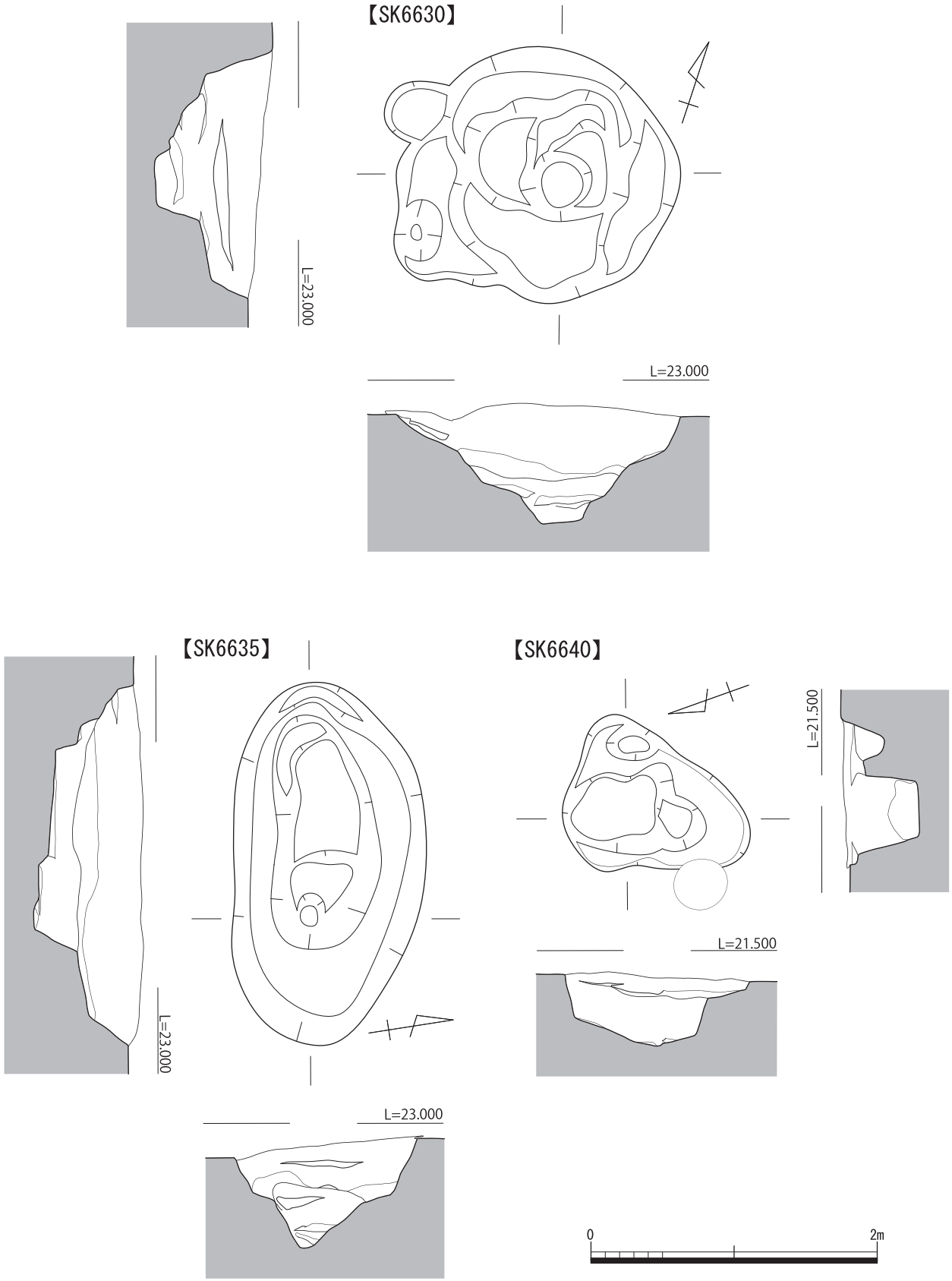
SK6630（第 66 図） 調査区南部中央、SK6115 の東に位置する。長軸 2.0m、短軸 1.8m を測り、平面形状は楕円形である。最大深は 0.8m で断面形状は漏斗形である。
出土遺物（第 69 図） 遺物は須恵器の坏身（５・６）を確認した。５の底部は平坦で、口縁部は外傾しつつ直線的に延びる。高台の痕跡が確認された。６は底部のみ残存高台の痕跡が確認された。

SK6635（第 66 図） 調査区南部、SK6555 の西に位置する。長軸 2.5m、短軸 1.2m を測り、平面形状は楕円形である。最大深は 0.7m で断面形状は逆台形である。
出土遺物（第 69 図） 遺物は土師器の把手（７）、須恵器の坏蓋（８）、坏身（９）を確認した。７の断面形状は楕円形であり、緩やかにすぼみながら、Ｊの字を描くように上に延びる。８の天井部は平坦で口縁端部はわずかに外反する。９の立ち上がりは短く内に向かって直線状に延びつつも端部のみ垂直上に延びる。

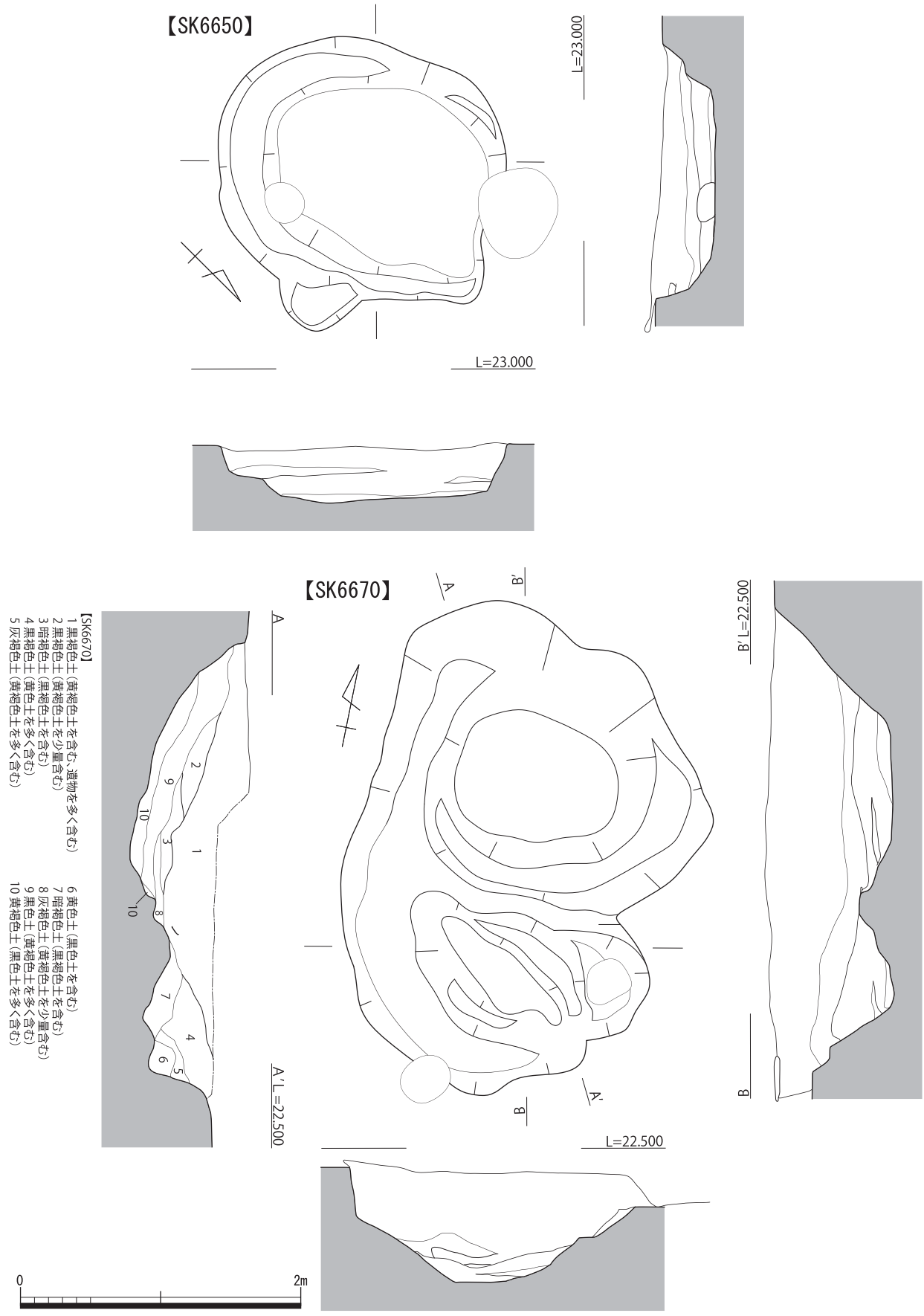
SK6640（第 66 図） 調査区南東端に位置する。長軸 1.3m、短軸 1.1m を測り、平面形状は楕円形である。最大深は 0.4m で断面形状は逆台形である。
出土遺物（第 69 図） 遺物は土師器の高坏（10）、須恵器の坏蓋（11）を確認した。10 は脚部のみ残存、外面に工具ナデを施す。11 は丸みを帯び、口縁部は直立気味である。外面にヘラ記号「Λ」を刻む。

SK6650（第 67 図） 調査区南部、SH6540 の内部に位置する。SH6540 と重複関係にあり、SK6650 が新しい。長軸 2.0m、短軸 1.8m を測り、平面形状は楕円形である。最大深は 0.3m で断面形状は逆台形である。
出土遺物（第 69 図） 遺物は須恵器の坏蓋（12 ～ 14）を確認した。12 の受部は外反しつつ長く延びる。13 の受部は長く垂直下に延びる。14 の受部は短く内傾する。

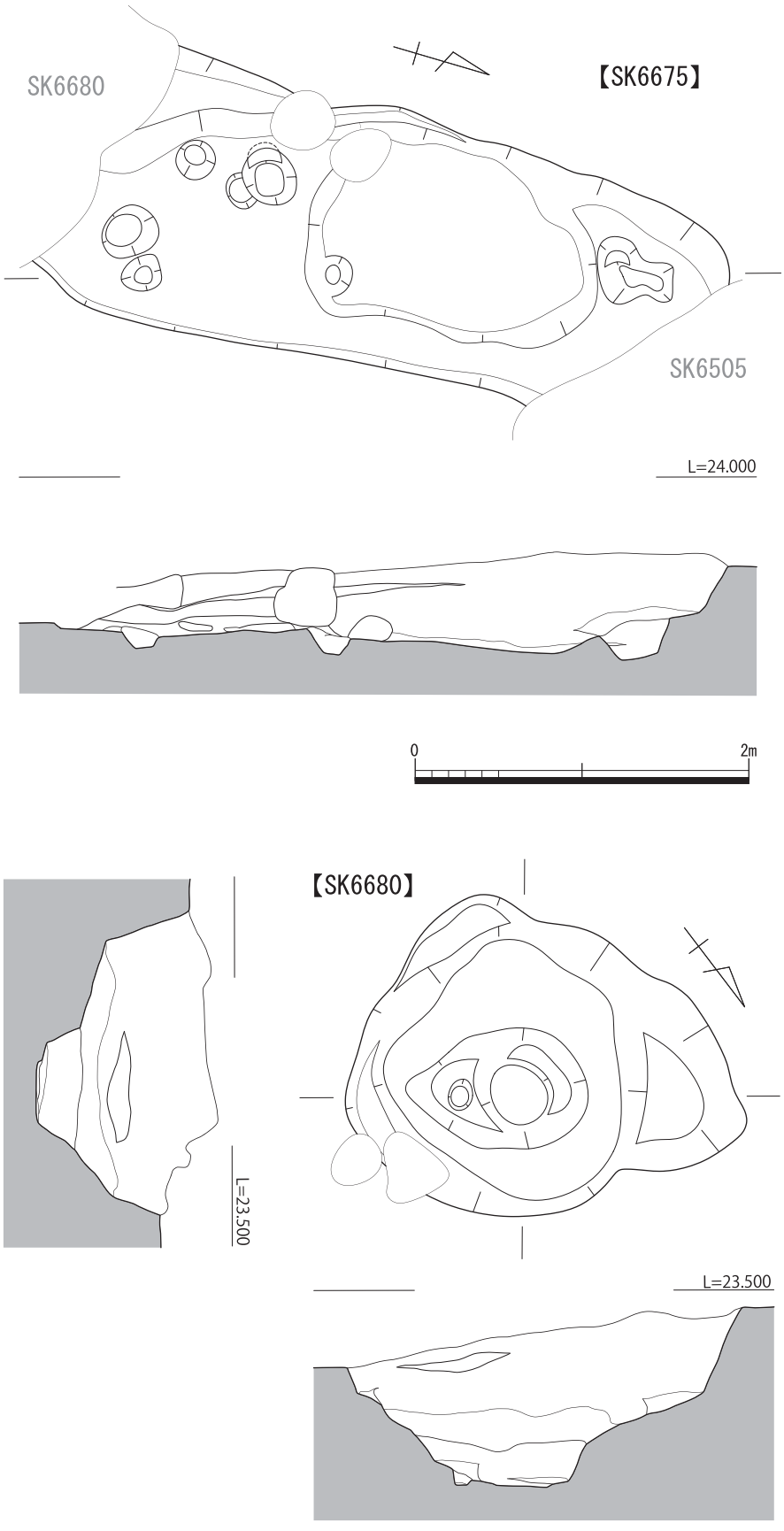
SK6670（第 67 図・図版 13） 調査区東端、SK6510 の南西に位置する。SK6525 と重複関係にあり、SK6670 が新しい。長軸 3.3m、短軸 2.1m を測り、平面形状は楕円形である。最大深は 0.8m で断面形状は逆三角形である。
出土遺物（第 69 図・図版 20） 遺物は土師器の坏身（15）、甕（16）、須恵器の坏身（17・18）を確認した。15 は全体的に摩滅しており調整は不明である。16 は内面にケズリを施す。17 の口縁部はわずかに内湾しつつ延びる。18 の口縁部は直線状に緩やかに外へと延びる。



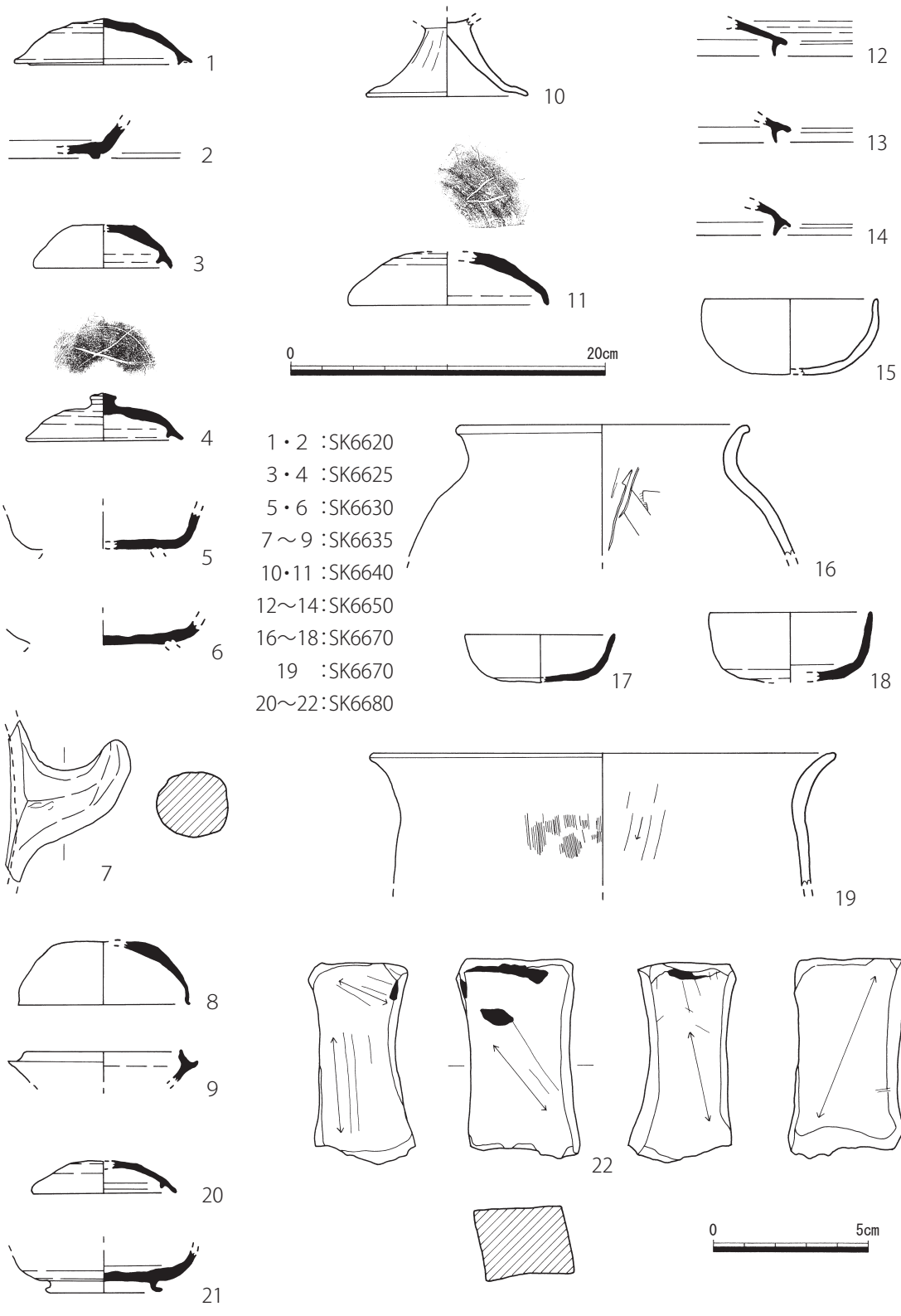
第 66 図　6630・6635・6640 号土坑　平・断面図 (S=1/40)



第 67 図　6650・6670 号土坑　平・断面図 (S=1/40)



第 68 図　6675・6680 号土坑　平・断面図 (S=1/40)



第 69 図　6620・6625・6630・6635・6640・6650・6670・6675・6680 号土坑　出土遺物
(S=1/4、石器は 1/2)

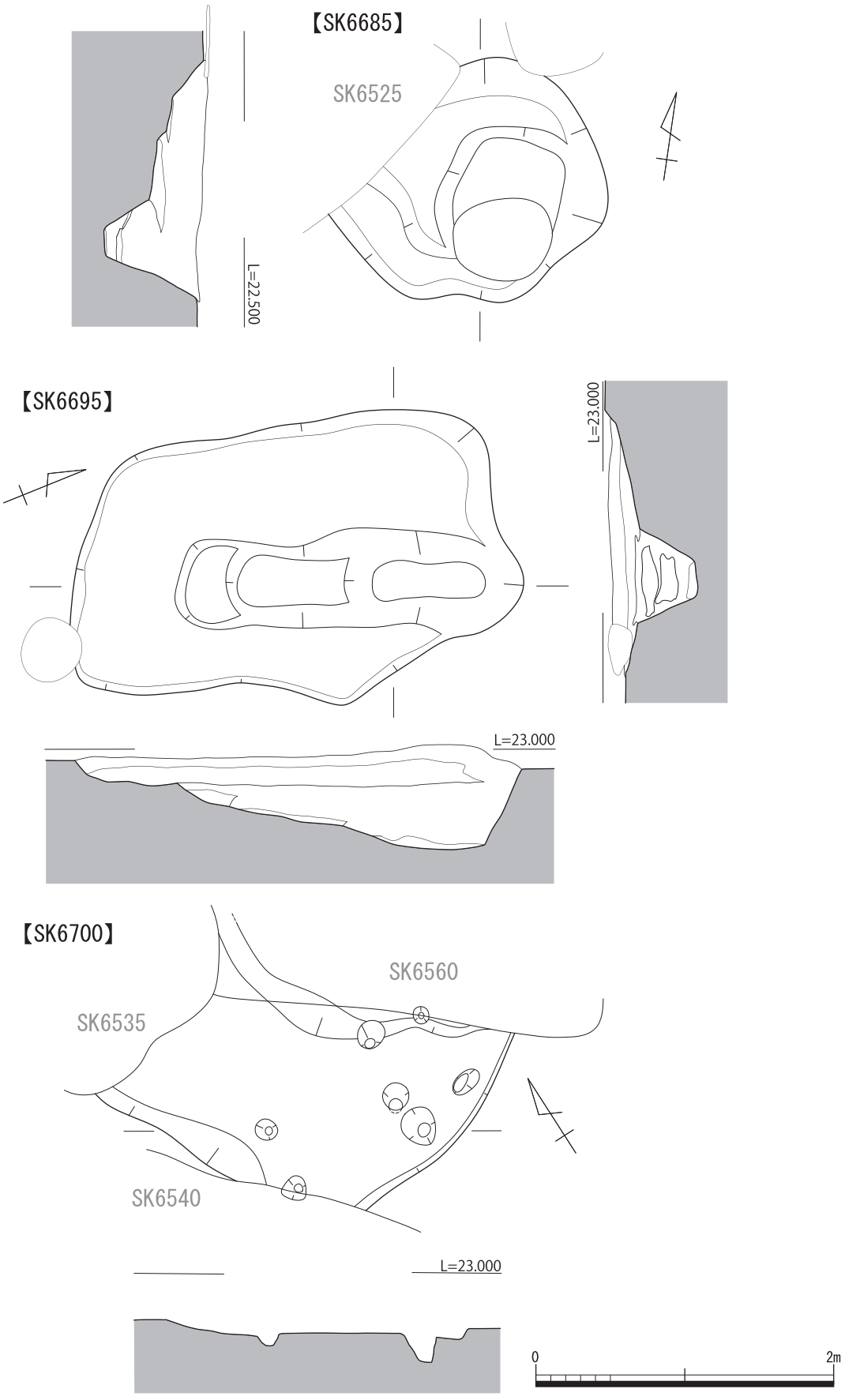
SK6675（第 68 図） 調査区中央やや東、SH6295 の南東に位置する。SK6505・SK6680 と重複関係にあり、SK6505・SK6680 が新しい。長軸検出長 4.1m、短軸 1.5m を測り、平面形状は楕円形である。最大深は 0.5m で断面形状は逆台形である。床面から複数のピット状掘り込みを確認したが遺構との関係は不明である。
出土遺物（第 69 図） 遺物は土師器の甕（19）を確認した。口縁部から体部まで残存する。体部内面に縦方向のケズリ、体部外面に縦方向のハケメを施す。

SK6680（第 68 図） 調査区中央やや東、SK6675 の南に位置する。SK6675 と重複関係にあり、SK6680 が新しい。長軸 2.3m、短軸 1.8m を測り、平面形状は楕円形である。最大深は 0.9m で断面形状は逆台形である。
出土遺物（第 69 図・図版 22） 遺物は須恵器の坏蓋（20）、坏身（21）、砥石（22）を確認した。20 は丸みを帯びており、口縁端部は天井部からの曲線に沿って延びる。受部は垂直下に向かって短く延びる。外面にヘラケズリを施す。21 は外面にケズリを施す。L 字型の高台が付く。底部にはヘラ記号「ハ」を刻む。22 は 4 面の使用痕が確認された。

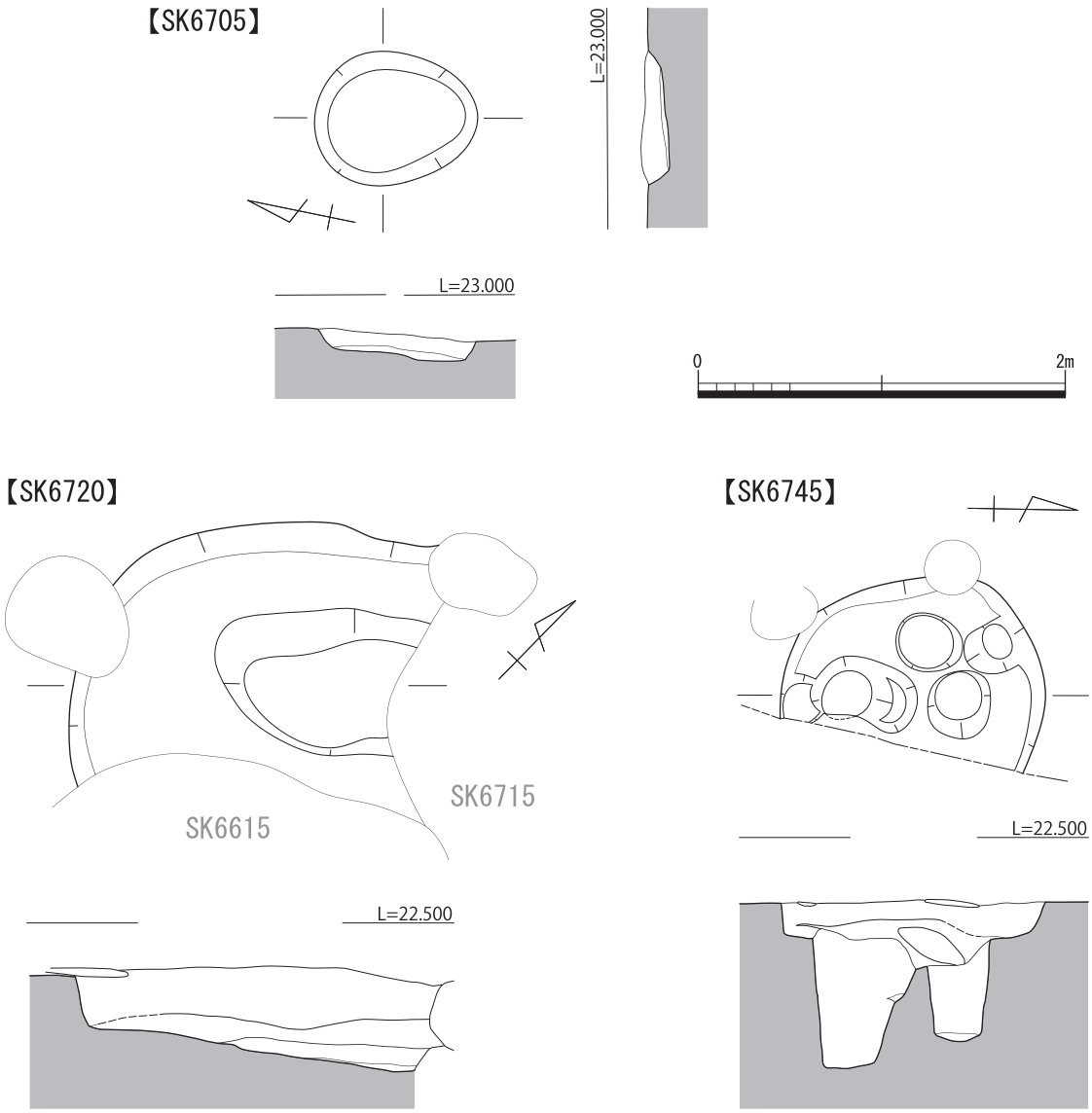
SK6685（第 70 図） 調査区東端、SK6510 の南に位置する。SK6525 と重複関係にあり、SK6525 が新しい。長軸 1.6m、短軸 1.5m を測り、平面形状は楕円形である。断面形状は断落ちの漏斗形をしている。北に向かって掘り込んでおり、南壁沿いで検出面から 0.2m、最も深い北壁沿いでは 0.6m を測る。
出土遺物（第 72 図） 遺物は土師器の甕（１）、須恵器の坏蓋（２）を確認した。1 は口縁部のみ残存、内面は横方向のケズリを施す。外面は摩滅しており調整は不明。２は口縁端部のみ残存する。

SK6695（第 70 図・図版 13） 調査区中央やや東、SK6680 の東に位置する。長軸 3.0m、短軸 1.7m を測り、平面形状は楕円形である。最大深は 0.6m で断面形状は漏斗形である。
出土遺物（第 72 図） 遺物は土師器の甕（３）、須恵器の坏身（４）を確認した。3 は口縁部のみ残存、内面に縦方向のケズリ、外面に縦方向のハケメを施す。４は体部の一部が残存、外面にケズリを施す。

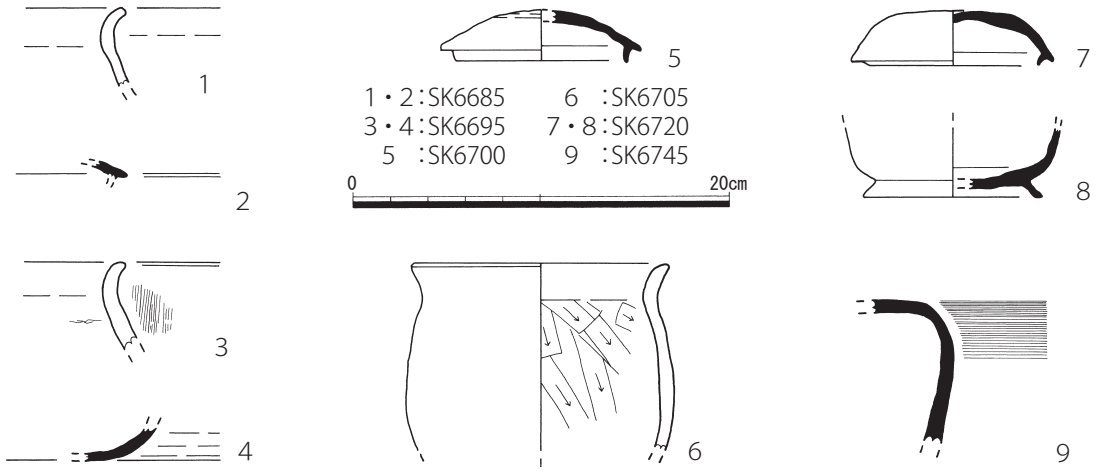
SK6700（第 70 図） 調査区南部、SH6540 の北に位置する。SH6540・SK6535・SK6560 と重複関係にあり、SH6540・SK6535・SK6560 が新しい。周辺の遺構に大きく削平されており全容は不明だが、長軸残存長 2.1m、短軸残存長 1.1m を測り、平面形状は楕円形と推測される。残存状態は悪く最大深は 0.1m である。断面形状は逆台形である。床面から複数のピット状掘り込みを確認したが遺構との関係は不明である。
出土遺物（第 72 図） 遺物は須恵器の坏蓋（５）を確認した。５は天井部から口縁端部まで残存する。全体的に丸みを帯びており、つまみの痕跡は確認されなかった。受部は長く内側に向けて直線的に延びるが、先端部はわずかに外反し下に延びる。



第 70 図　6685・6695・6700 号土坑　平・断面図 (S=1/40)



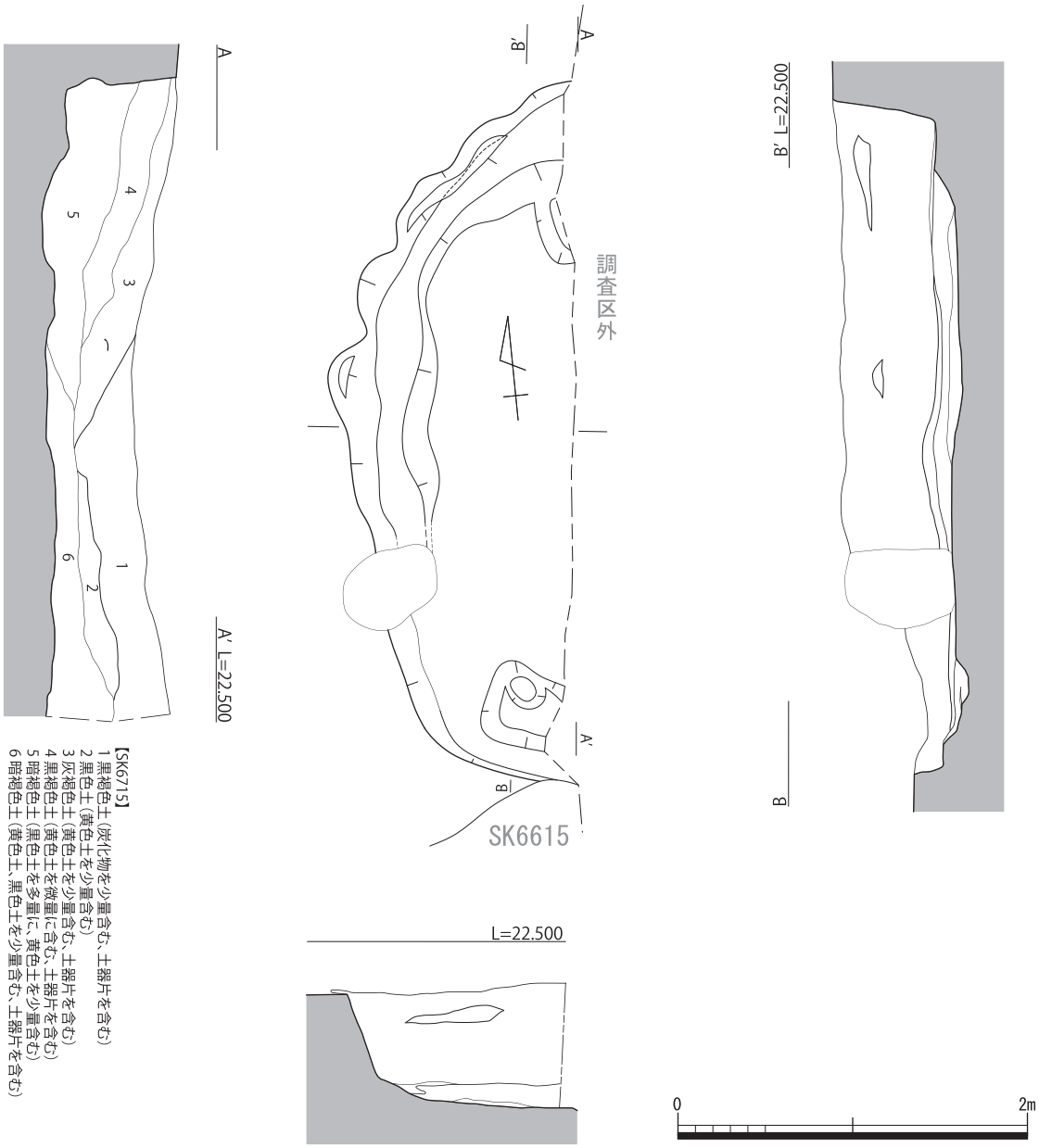
第 71 図　6705・6720・6745 号土坑　平・断面図 (S=1/40)



第 72 図　6685・6695・6700・6705・6720・6745 号土坑　出土遺物 (S=1/4)

SK6705（第 71 図） 調査区南部、SH6540 の北西に位置する。長軸 0.9m、短軸 0.7m を測り、平面形状は楕円形である。全体的に削平されており、埋土の残存状況は悪い。最大深度は 0.1m で断面形状は皿形である。

出土遺物（第 72 図・図版 20） 遺物は土師器の甕（6）を確認した。6 は口縁部から体部まで残存、体部内面に縦方向のケズリ、外面に縦方向のハケメを施す。



第 73 図　6715 号土坑　平・断面図 (S=1/40)

SK6715（第 73 図・図版 13） 調査区東端、SK6615 の北に位置する。SH6585・SK6720 と重複関係にあり、SH6585 より古く、SK6720 より新しい。調査区外へと延びるため全容は不明だが、長軸 3.8m、短軸検出長 1.3m を測り、平面形状は楕円形と推測される。最大深度は 0.7m で断面形状は逆台形である。

出土遺物（第 76 図・図版 20） 遺構内から多くの遺物が確認されたが、図示可能なものは 1 点のみである。出土した土師器の高坏は全体的に摩滅しており調整は不明である。

SK6720（第 71 図） 調査区東端、SK6715 の南西に位置する。SK6585・SK6615・SK6715 と重複関係にあり、SK6585・SK6615・SK6715 が新しい。周辺の遺構に大きく削平されており全容は不明だが、長軸残存長 1.7m、短軸 1.3m を測り、平面形状は楕円形であると推測される。最大深は 0.5m で断面形状は逆台形である。

出土遺物（第 72 図） 遺物は須恵器の坏蓋（７）、坏身（８）を確認した。７は天井部にヘラ記号「／Λ」を刻む。８は長めの高台が付く。

SK6745（第 71 図） 調査区南部東端に位置する。調査区外へと延びるため全容は不明だが、長軸 1.4m、短軸検出長 0.9m を測り、平面形状は楕円形と推測される。深さは 0.2 ～ 0.3m である。断面形状は逆台形である。床面から複数のピット状掘り込みを確認したが遺構との関係は不明である。

出土遺物（第 72 図） 遺物は須恵器の瓶（９）を確認した。出土した遺物は肩部の小片で外面に水平方向のカキメを施す。

４.【溝（SD)】

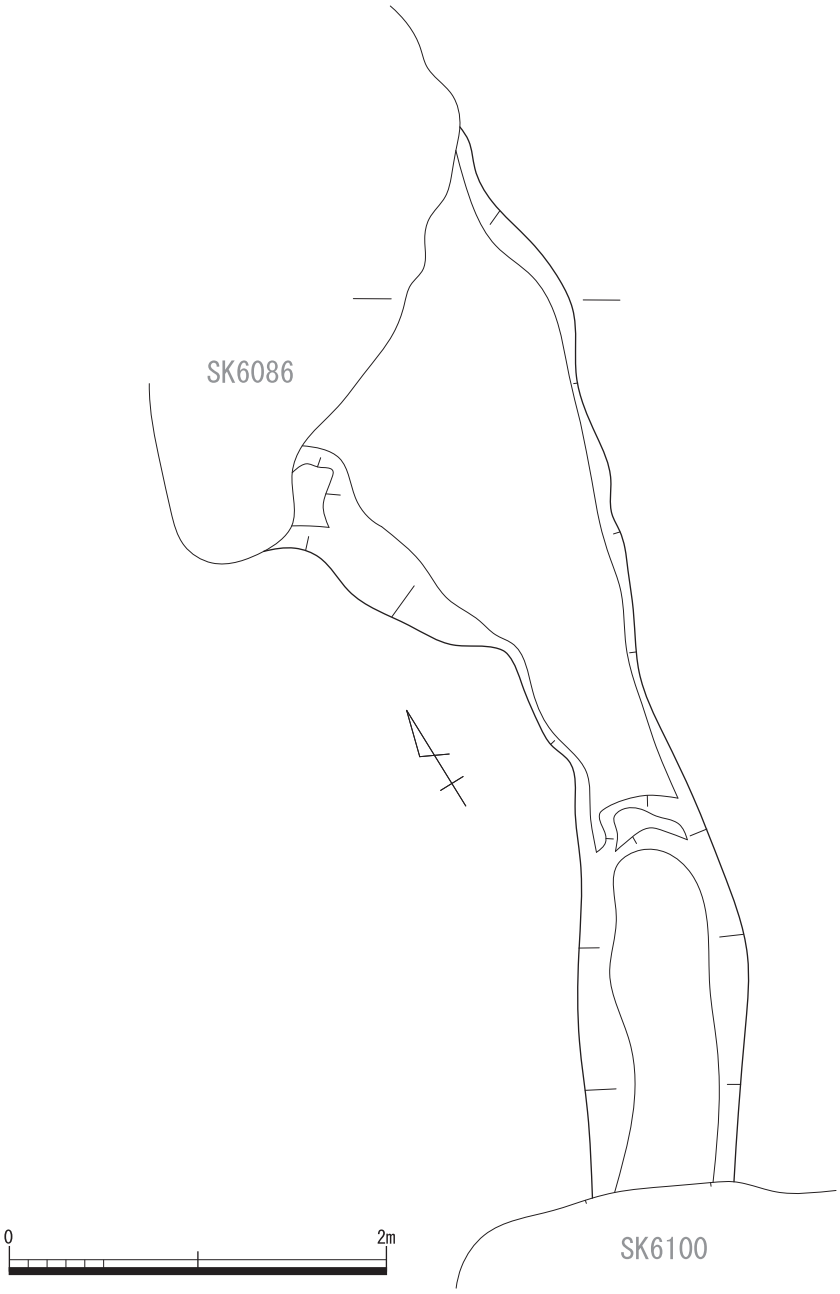
SD6087（第 74 図・図版 13） 調査区南部、SK6115 の西に位置する。SK6086 と重複関係にあり、SK6086 が新しい。長軸検出長 5.0m、短軸最大幅 1.7m、最狭幅 0.6m を測る。最大深は 0.4m で断面形状は逆台形である。

出土遺物（第 76 図） 遺物は土師器の把手を確認した。断面形状は円形で先端にかけて直角的に折れて先端は上へと延びる。

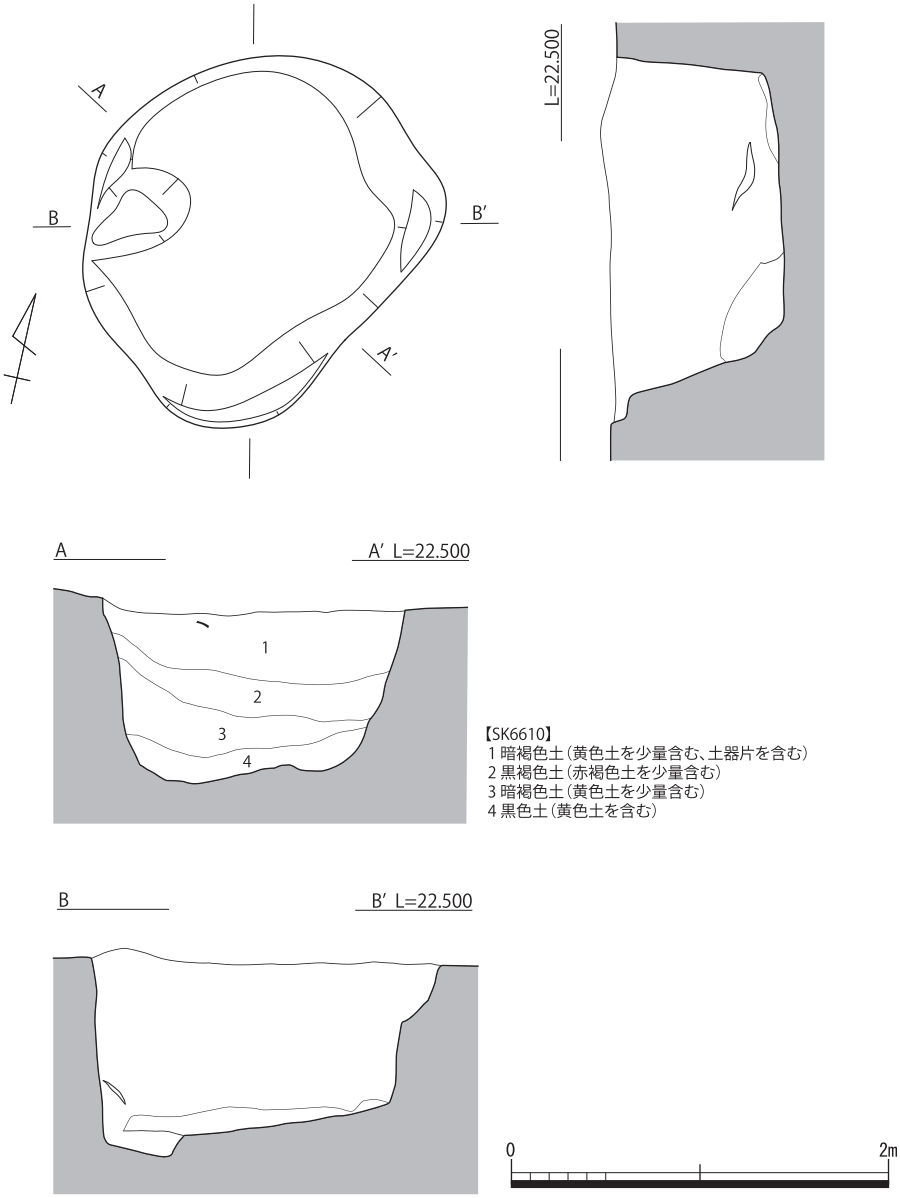
５.【井戸（SE)】

SE6610（第 75 図・図版 13） 調査区東端、SK6615 の南西に位置する。長軸 1.9m、短軸 1.8m を測り、平面形状は円形である。最大深は 0.9m で断面形状は逆台形である。集水施設や湧水は確認されなかった。

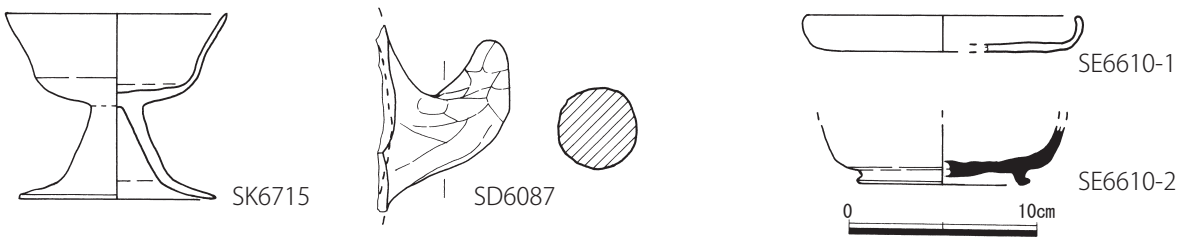
出土遺物（第 76 図） 遺物は土師器の皿（１）、須恵器の坏身（２）を確認した。１の底部は平坦で口縁部内部は直線的に、外面はやや内湾的に延びる。２は高台坏身で高台はやや内側に付く。



第 74 図　6087 号溝　平・断面図 (S=1/40)



第 75 図　6610 号井戸　平・断面図 (S=1/40)



第 76 図　6175 号土坑・6087 号溝・6610 号井戸　出土遺物 (S=1/4)

6．【ピット（P)】（第 77 図）

当該時期の遺物が確認されたピットについて報告する。

P22　調査区北端、SH6003 の北東に位置する。高坏の脚部が出土した。

P117　調査区中央やや南東、SK6680 の南西に位置する。出土した把手は全体的に短く先端は上を向く。

P129　調査区中央やや南西、SK6220 の北東に位置する。出土した坏蓋は、受部が短く内側に直線的に延びる。

P137　調査区南部、SK6081 の北に位置する。出土した坏蓋は天井部にヘラ記号「＃」を刻む。

P238　調査区西端、SK6205 の西に位置する。出土した把手は断面形状が丸く、全長は短く先端はわずかに折れる。

P312　調査区中央やや西、SH6210 の西に位置する。出土した坏身は底部が平坦で口縁部も直線的に延びる。

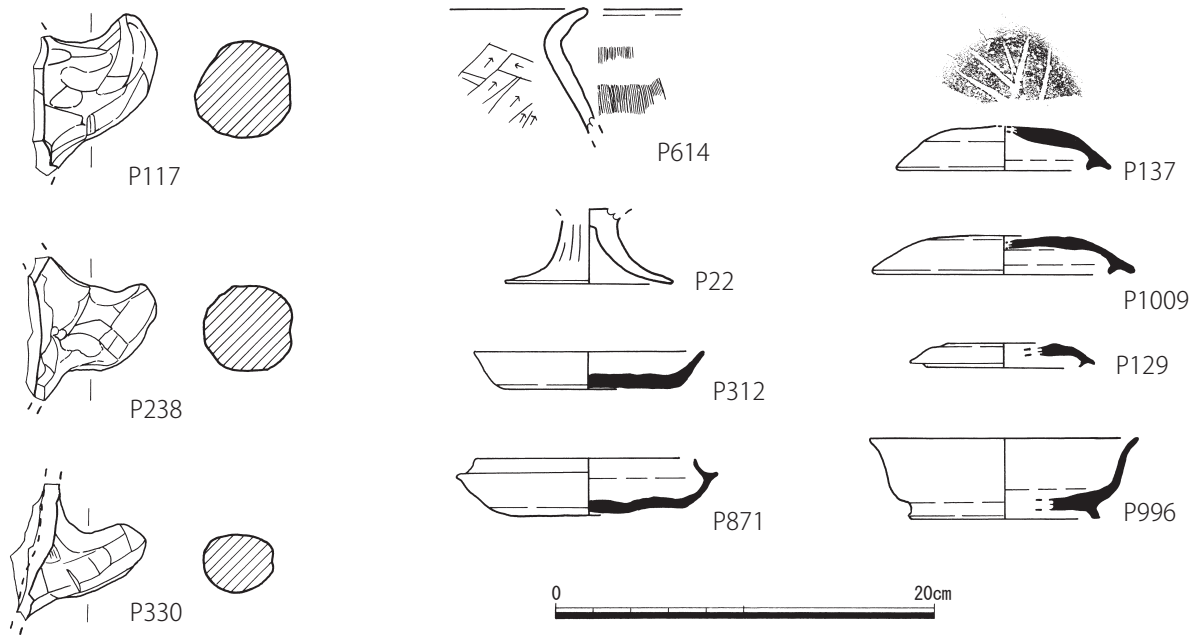
P330　調査区中央部、SH6210 の北西に位置する。出土した把手は断面形状横長の楕円形をしており、胴部より直線的に延びる。

P614　調査区北東、SH6500 の北に位置する。出土した甕は内面にケズリ、外面に縦方向のハケメを施す。

P871　調査区中央やや東、SK6605 の西に位置する。出土した坏身は受部が水平に延び、立ち上がりは長く外反する。

P996　調査区東端、SE6610 の西に位置する。出土した坏身は、高台が付き、口縁部が大きく外反する。

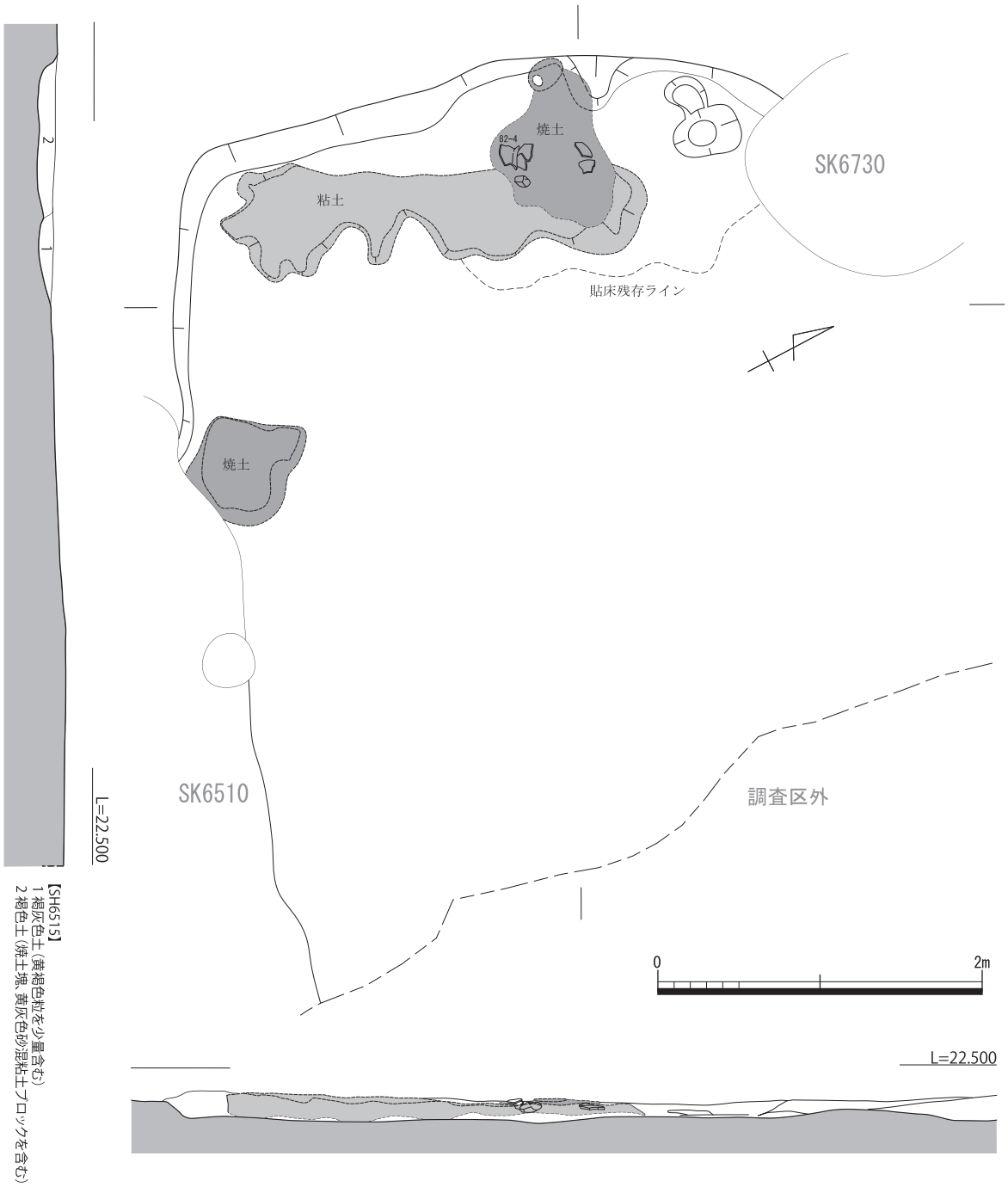
P1009　調査区東端、SK6510 の北西に位置する。出土した坏蓋は受部が短く内傾する。



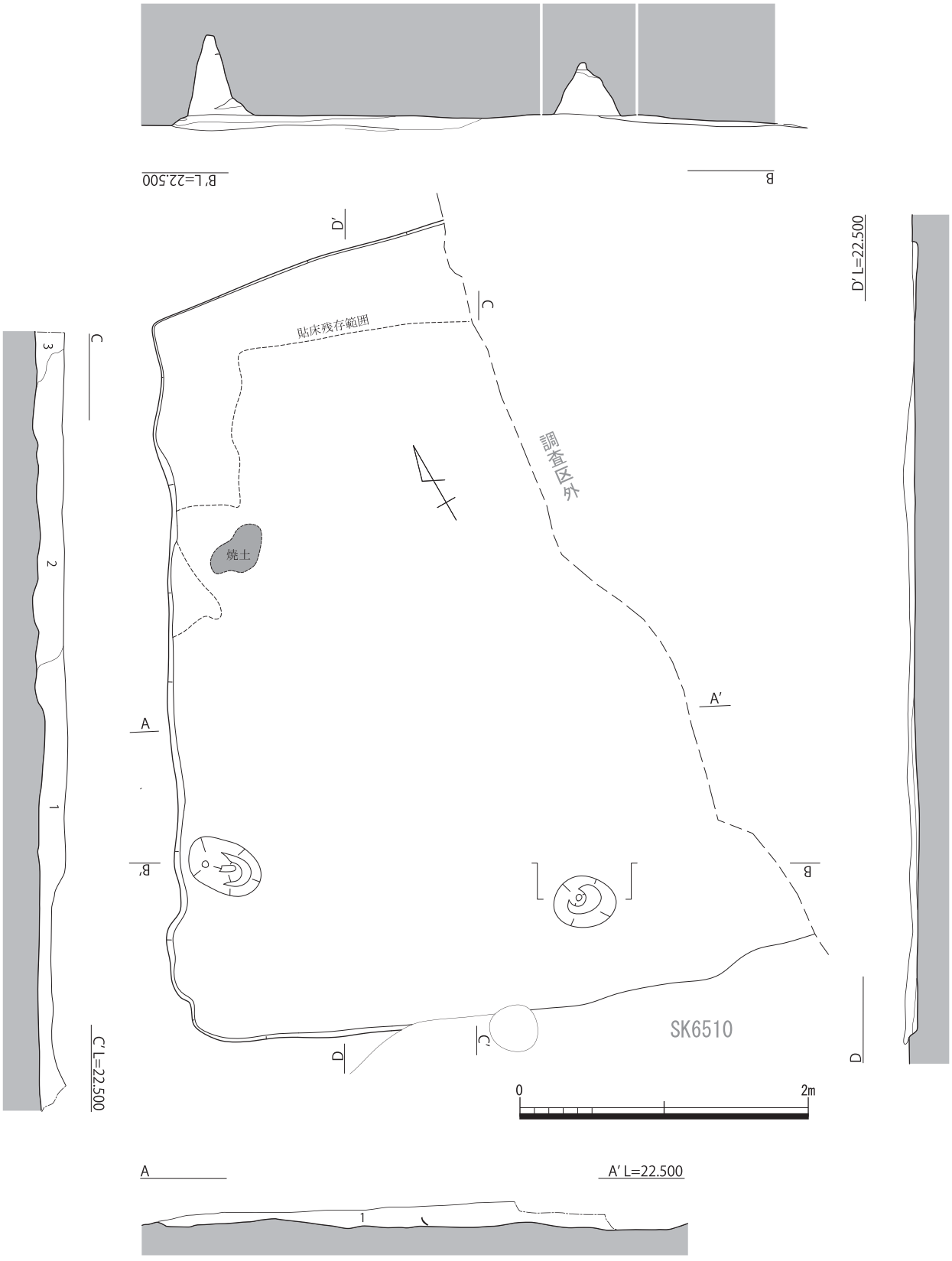
第 77 図　ピット　出土遺物 (S=1/4)

Ⅴ．奈良時代の遺構・遺物

奈良時代の遺構は、竪穴住居３軒、土坑 13 基が検出された。当該時期の遺構は調査区南部に集中して確認された。



第 78 図　6515 号竪穴住居　平・断面図 (S=1/40)



【SH6735】
1 褐灰色土（黄橙～黄褐色粒を少量、炭化物を微量に含む）
2 褐灰色土（黄褐色粒を少量、炭化物を微量に含む、しまり悪い）
3 暗褐色土（黄褐色粒を極微量に含む）

第 79 図　6735 号竪穴住居　平・断面図 (S=1/40)

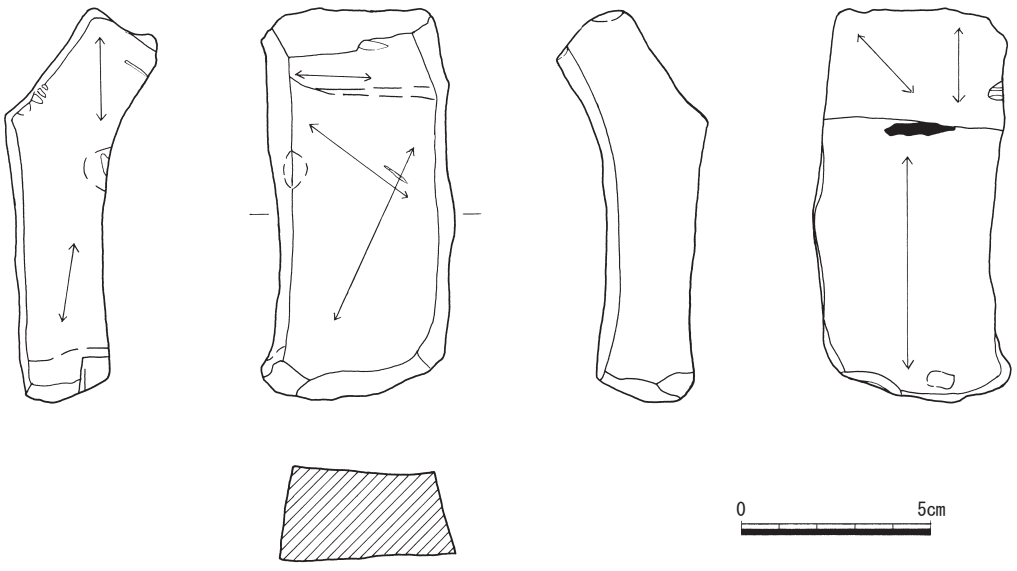
1．【竪穴住居（SH)】

SH6515(第78図・図版13） 調査区東端､SH6500の南に位置する｡SH6735・SH6740・SK6510・SK6730 と重複関係にあり、SK6510・SH6735・SH6740 より新しく、SK6730 より古い。後世の造成により大きく削平されているため、全容は不明だが長軸検出長 4.0m、短軸検出長 2.4m を測る。平面形状は方形と推測される。床面は西壁一帯と南東部では地山を主としたもので、SH6735 と重複するエリアでは黒褐色土を主とした貼床があったものと推測される。西壁際にて長軸 0.9m、短軸 0.7m の範囲で、南壁際にて長軸 0.7m、短軸 0.6m の範囲で焼土が確認された。

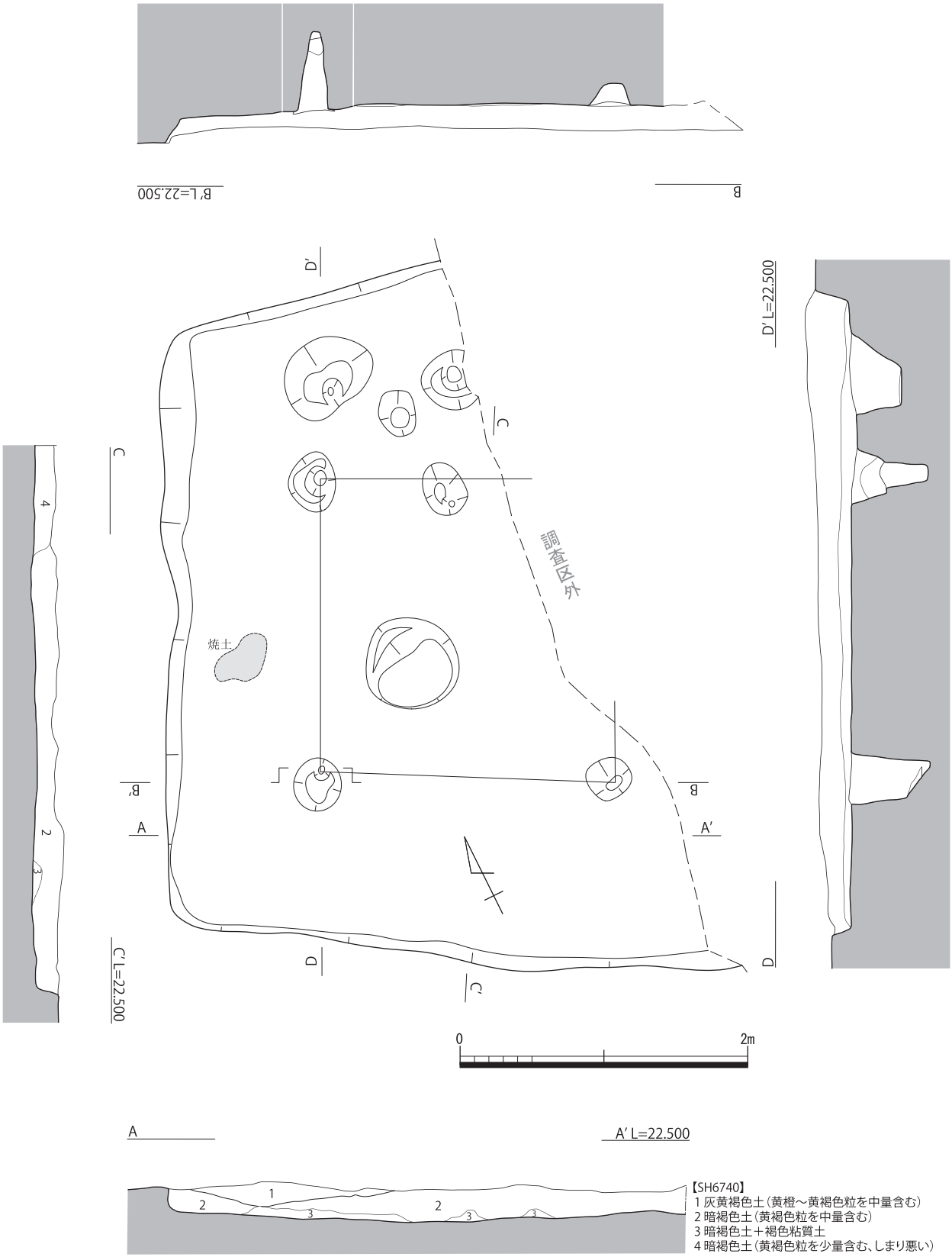
出土遺物（第 82 図・図版 20） 遺物は土師器の甕（１～４)、須恵器の坏蓋（５～７)、坏身（８）を確認した。４と７は SH6735 埋土の遺物として取り上げたが、遺物の時期と出土地点から SH6515 に伴う柱穴があったものと推測される。１は内面に被熱の痕跡あり、２は西側カマド内からの出土で、内面にケズリを施す。３は内面にケズリ、外面に縦方向のハケメを施す。４は内面にケズリを施す。５の口縁部は水平に短く延び、先端で下に折れる。天井部にヘラケズリの痕跡は確認できなかった。６の天井部は平坦でヘラケズリを施す。口縁端部はやや下に延びる。かえしは端部に対して直交気味に内へと延びる。７には中央部がやや尖るボタン型のツマミが付く。天井部にはヘラケズリを施される。重ね焼きの痕跡が２か所確認できる。端部は先端で下に折れ曲がる。８は底部にヘラケズリを施す。やや長い踏ん張る形の高台が付く。

SH6735（第 79 図） 調査区東端、SH6515 の東に位置する。SH6515・SH6740・SK6510 と重複関係にあり、SK6510・SH6740 より新しく、SH6515 より古い。SH6515 と同様複数の遺構に削平されているため、全容は不明だが、長軸検出長 5.5m、短軸検出長 2.1m を測る。平面形状は方形と推測される。埋土の残存状態は悪く、最大深は 0.2m である。床面は床面から柱穴２基が確認され、位置関係から、主柱穴と推測される。

出土遺物（第 80・82 図・図版 20・21） 遺物は土師器の甕（９・10)、土師器の坏身（11)、



第 80 図　6735 号竪穴住居　出土遺物 (S=1/2)

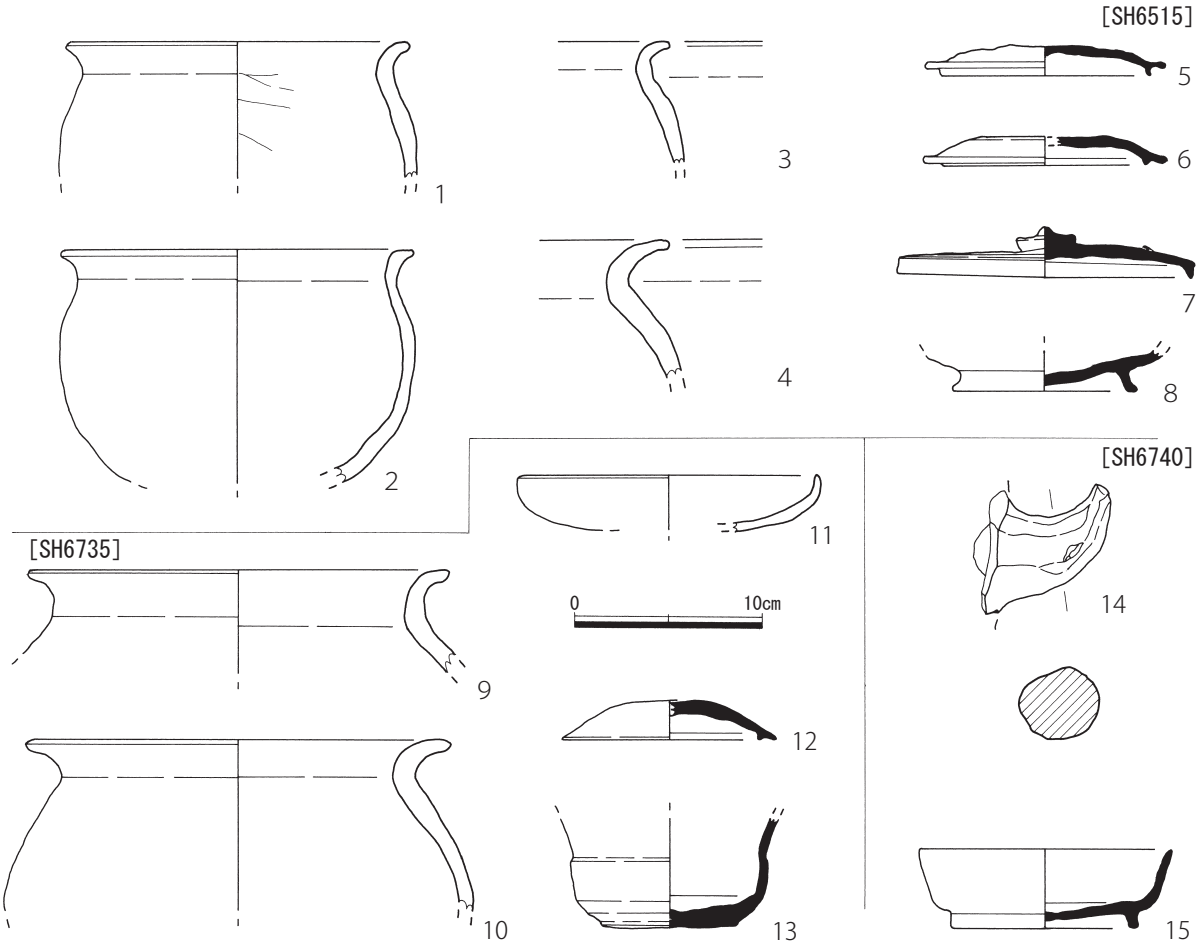


第 81 図　6740 号竪穴住居　平・断面図 (S=1/40)

須恵器の坏蓋（12）、瓶（13）、砥石（第 80 図）を確認した。9 は内面にケズリ、外面に縦方向のハケメを施す。10 は内面にケズリ、外面に縦方向のハケメを施す。12 は底部外面にヘラ記号「大」を刻む。13 は瓶の底部と考えられる。砥石はへの字形状をしており、4 面使用痕が確認される。

SH6740（第 81 図） 調査区東端、SH6735 の北に位置する。SH6735・SK6725 と重複関係にあり、SH6735・SK6725 より古い。調査区外へと延びるため全容は不明だが、長軸 4.4m、短軸検出長 3.9m を測り、平面形状は方形と推測される。床面はしまっており、土質から地山が踏み固められたものと推測される。床面から複数のピットが確認され、うち 3 基は位置関係から、調査区外の 1 基を加えた 4 本柱と推測される。その他複数のピット状の掘り込みを確認したが遺構との関係は不明である。

出土遺物（第 82 図・図版 20） 遺物は土師器の把手（14）、須恵器の坏身（15）を確認した。14 は土師器の甑の把手で、全体的に短く全体的にすぼみながら先端は上を向く。15 は高台付坏である。口縁部はわずかに外反しながらも直線的に延びる。



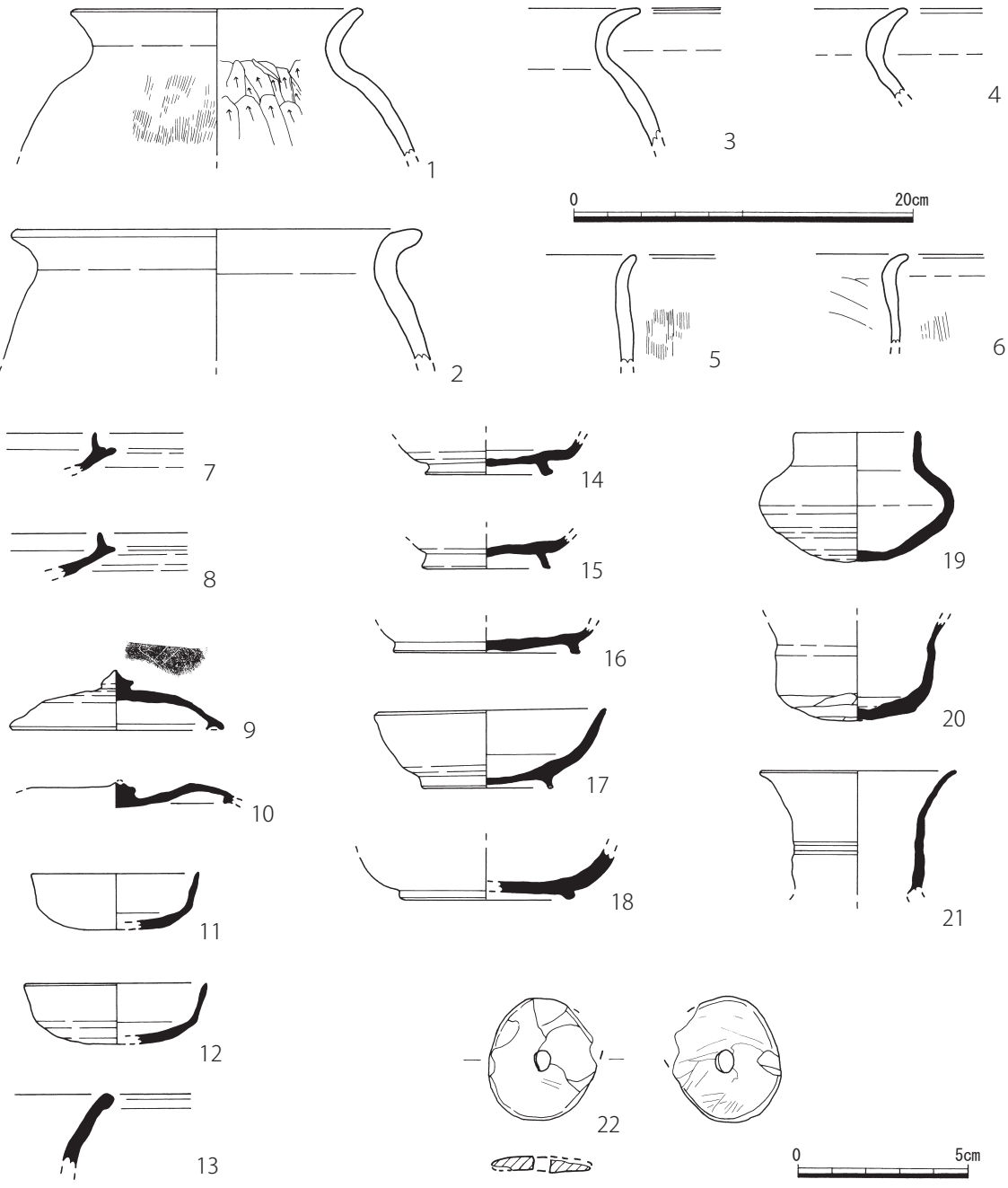
第 82 図　6515・6735・6740 号竪穴住居　出土遺物 (S=1/4)

２.【土坑（SK)】

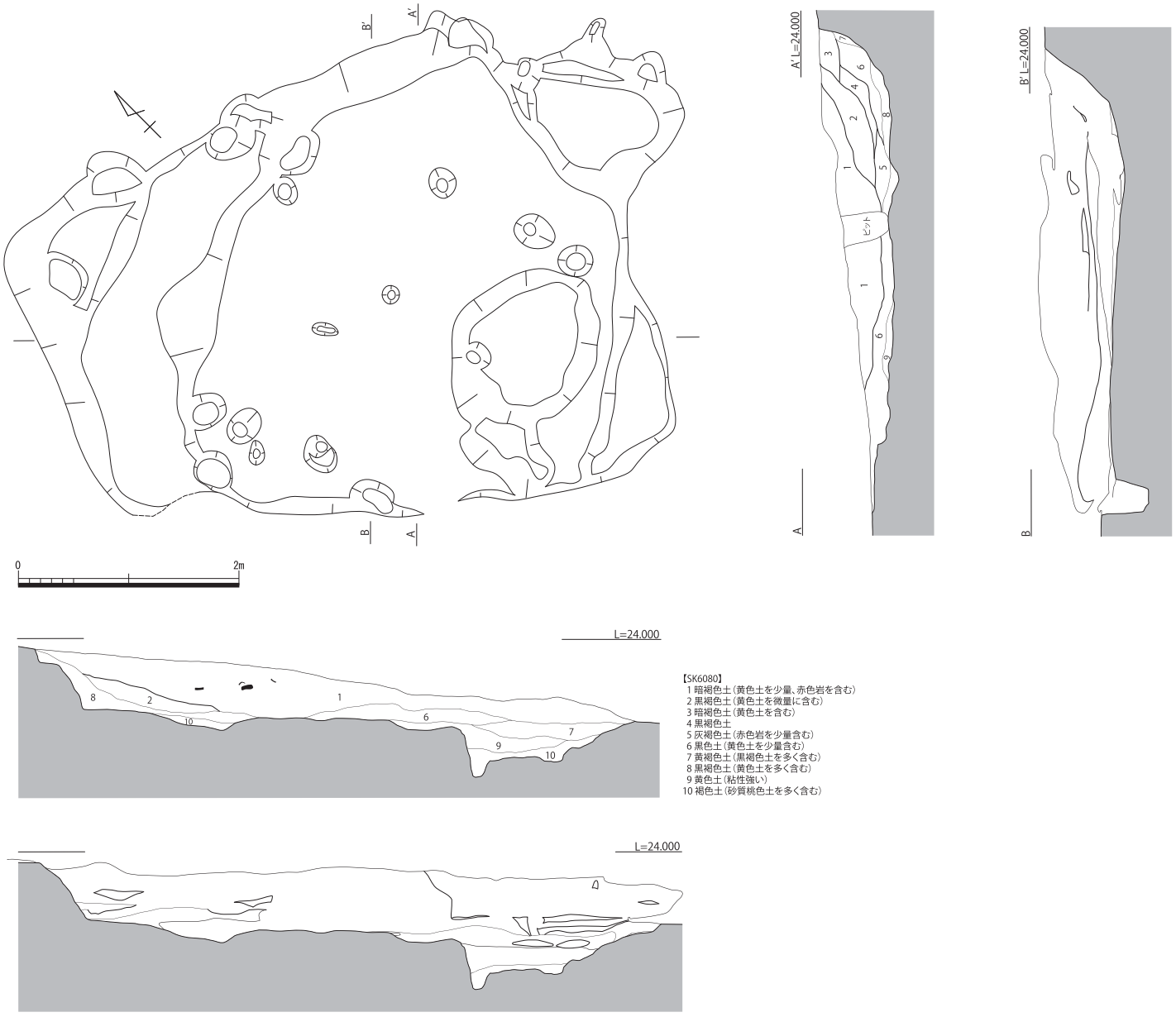
当該時期の土坑は調査区南部にて多く検出された。

SK6080（第 84 図・図版 13・14） 調査区南西部、SH6085 の北に位置する。SK6205・SK6220 と重複関係にあり、SK6080 が新しい。長軸 5.7m、短軸 4.3m を測り、平面形状は不整円形である。後世の造成による削平のため、検出面からの深さは最も深い北西部で 0.6m、最も浅い南東部で 0.1m である。

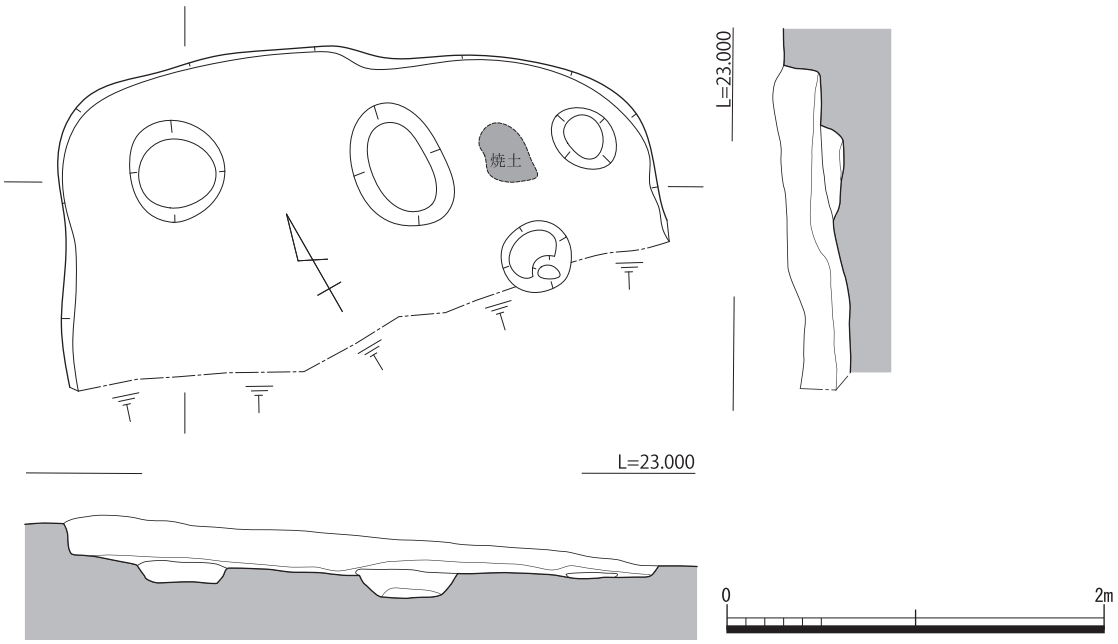
出土遺物（第 83 図・図版 20・21） 遺構全体から数多くの遺物が確認された。遺物は土師器の甕（１～４・６)、甑（５)、須恵器の坏身（７・８・11・12・14・15・17・18)、坏蓋（９・10)、短頸壺（19)、瓶（20・21)、紡錘車（22）を確認した。１～３は内面にケズリ、外面に



第 83 図　6080 号土坑　出土遺物 (S=1/4、石器は 1/2)



第 84 図　6080 号土坑　平・断面図 (S=1/40)



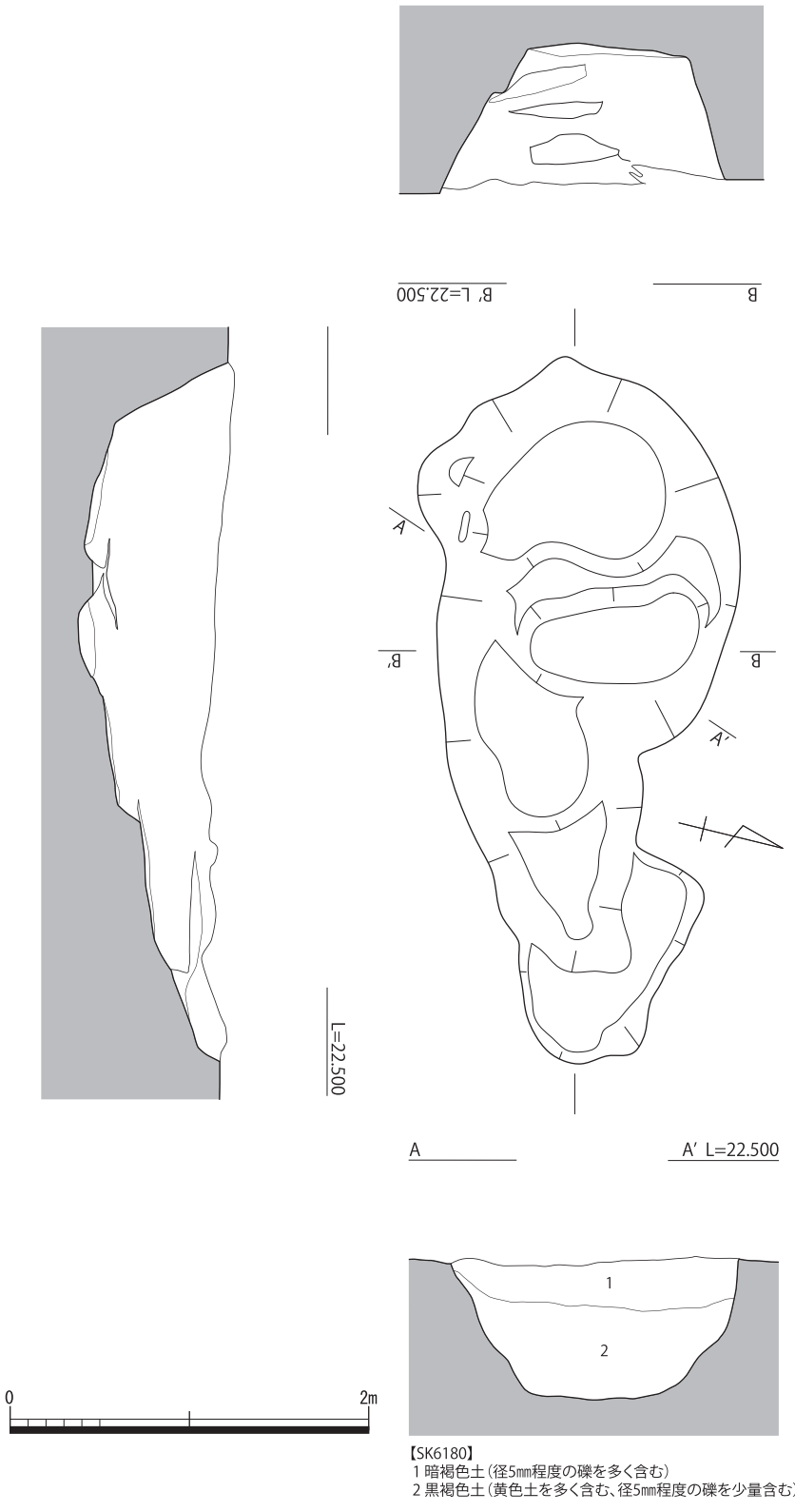
第 85 図　6100 号土坑　平・断面図 (S=1/40)

縦方向のハケメを施す。4 は内面にケズリを施す。6 は内面にケズリを施す。5 は外面にハケメを施す。7・8 は口縁部のみ残存、7 の受部は短く水平に延びる。立ち上がりはやや外反して上に延びる。8 の受部はとても短く水平に延び、立ち上がりは直線的にやや内へと延びる。9 は乳頭状のツマミが付く天井部にはヘラ記号「E」を刻む。10 は断面形状が歪んでおり、天井部が一部中央に向かって窪む。ボタン状のツマミが付き、天井部にヘラケズリを施す。11 の口縁部はやや外向きに延びる。底部にヘラ記号「－」を刻む。12 の口縁部は直線的に延びる。13 は口縁部のみ残存。14 は底部にヘラケズリを施す。高台がやや外向きに付く。15 は底部にヘラ記号「－」を刻む。16 は底部際に小さく高台が付く。ヘラ記号「×」を刻む。17 は高台が小さく直線的に付く。18 は底部に回転ヘラケズリを施し、際には小さく高台が付く。19 は底部外面に回転ヘラケズリを施す。20 は底部から体部にかけて残存、底部外面に手持ちケズリを施す。21 は口縁部のみ残存。

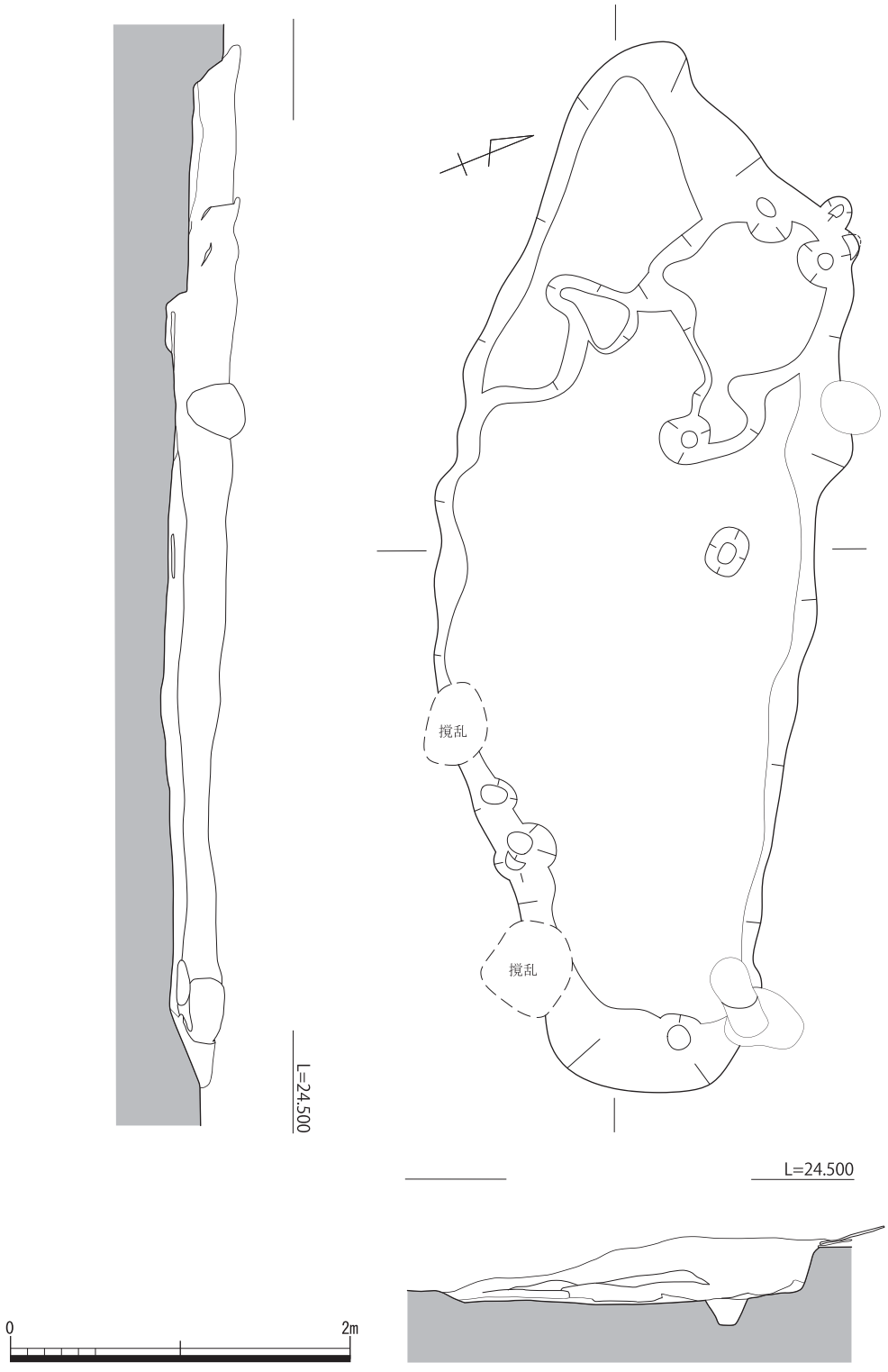
SK6100（第 85 図・図版 14）　調査区南部、SH6095 の南東に位置する。SD6087 と重複関係にあり、SK6100 が新しい。南側が後世の造成により大きく削平されているが、長軸 3.1m、短軸検出長 1.7m を測り、平面形状は方形と推測される。最大深 0.2m である。長軸 0.6m、短軸 0.5m の範囲で焼土が確認された。その他複数のピット状の掘り込みを確認したが遺構との関係は不明である。
出土遺物（第 90 図）　遺物は須恵器の坏蓋（1）を確認した。1 の器高は低く、口縁端部は下に折り曲がる。

SK6160（第 86 図・図版 14）　調査区南端の土坑群内、SK6165 の東に位置する。長軸 4.7m、短軸 2.7m を測り、平面形状は不整円形である。最大深は 0.6m で底部では灰白色粘土層に到達する。

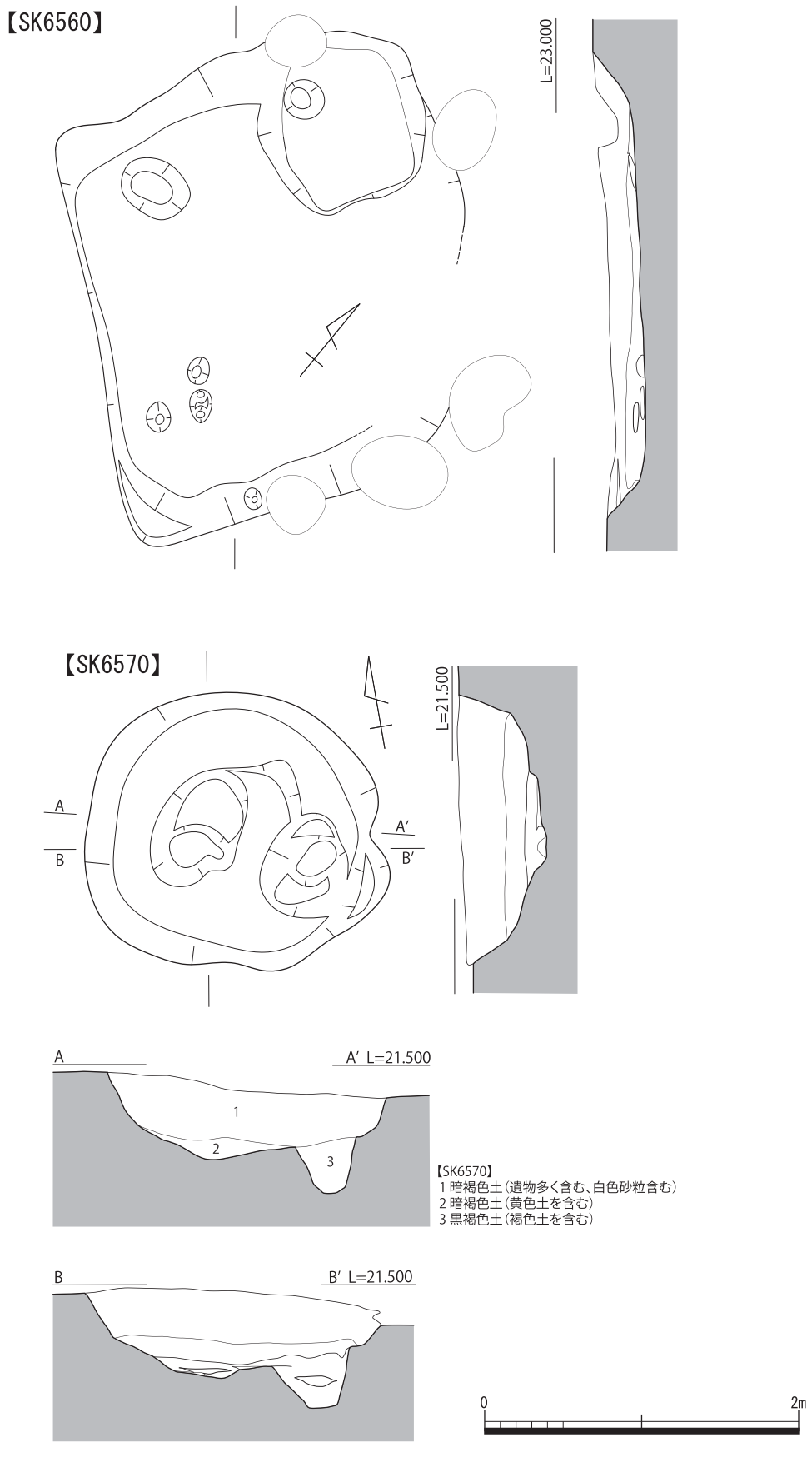
第 86 図　6160 号土坑　平・断面図 (S=1/40)



第 87 図　6180 号土坑　平・断面図 (S=1/40)



第 88 図　6250 号土坑　平・断面図 (S=1/40)



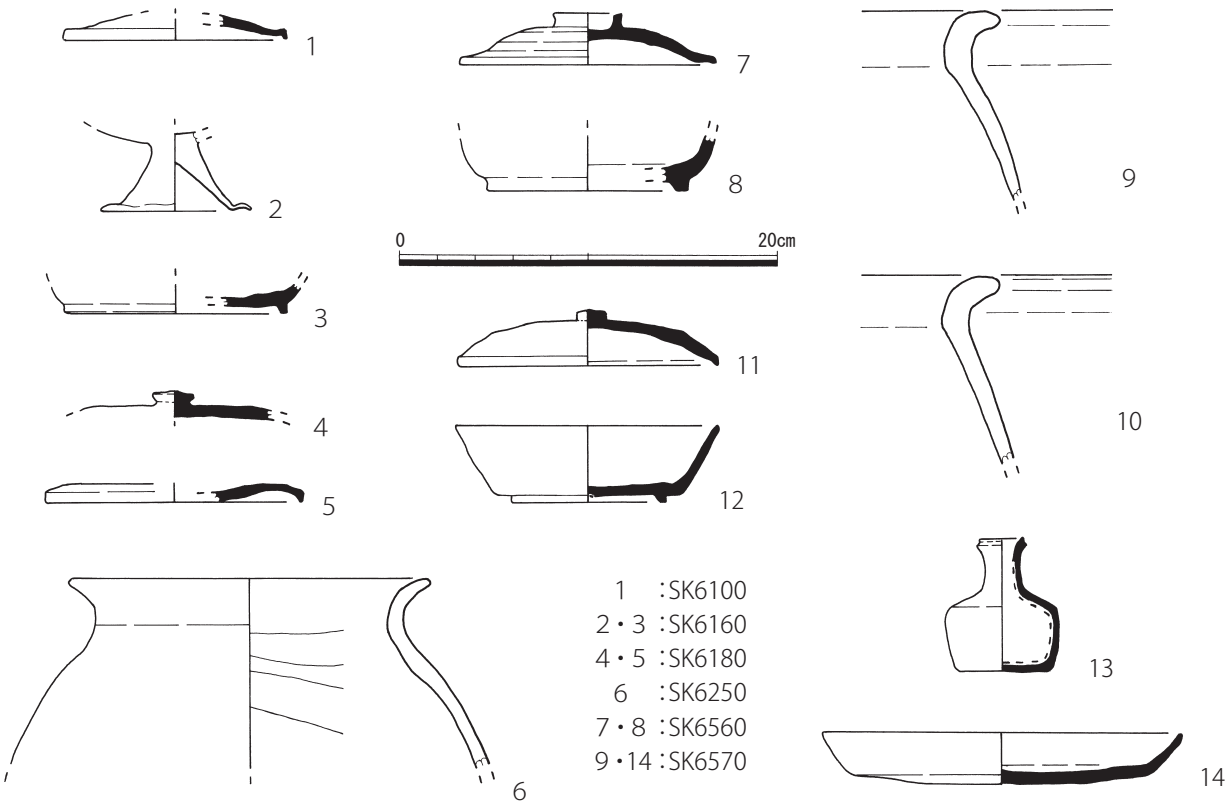
第 89 図　6560・6570 号土坑　平・断面図 (S=1/40)

出土遺物（第 90 図） 遺物は土師器の高坏（２）、須恵器の坏身（３）を確認した。２は脚部のみ残存、３の底部の際に小さく下に延びた高台が付く。底部にヘラケズリを施す。

SK6180（第 87 図） 調査区南端の土坑群内､SK6175 の南に位置する。長軸 3.9m､短軸 1.5m を測り、平面形状は楕円形である。最大深は 0.8m である。
出土遺物（第 90 図） 遺物は須恵器の坏蓋（４・５）を確認した。４は天井部にヘラケズリを施す。中央部にはボタン状のツマミが付く。５は上部中央が窪む。

SK6250（第 88 図） 調査区南西、SK6080 の西に位置する。長軸 6.1m、短軸 2.2m を測り、平面形状は楕円形である。最大深は 0.3m で、断面形状は逆台形である。床面から複数のピット状の掘り込みを確認したが遺構との関係は不明である。
出土遺物（第 90 図・図版 21） 遺物は土師器の甕（６）を確認した。６は体部内面にケズリ、外面に縦方向のハケメを施す。

SK6560（第 89 図） 調査区南部、SH6540 の北に位置する。SK6535・SK6655・SK6700 と重複関係にあり、SK6700 より新しく、SK6535・SK6655 より古い。遺構による削平により、全容は不明だが、長軸 2.8m、短軸検出長 2.3m を測り、平面形状は楕円形もしくは方形と推測される。最大深は 0.2m で断面形状は逆台形である。床面から複数のピット状の掘り込みを確認したが遺構との



第 90 図　6100・6160・6180・6250・6560・6570 号土坑　出土遺物 (S=1/4)

関係は不明である。
出土遺物（第 90 図・図版 21） 遺物は須恵器の坏蓋（７）、坏身（８）を確認した。７は天井部にヘラケズリを施す。輪状のツマミが付く。８は底部際に高台が付く。

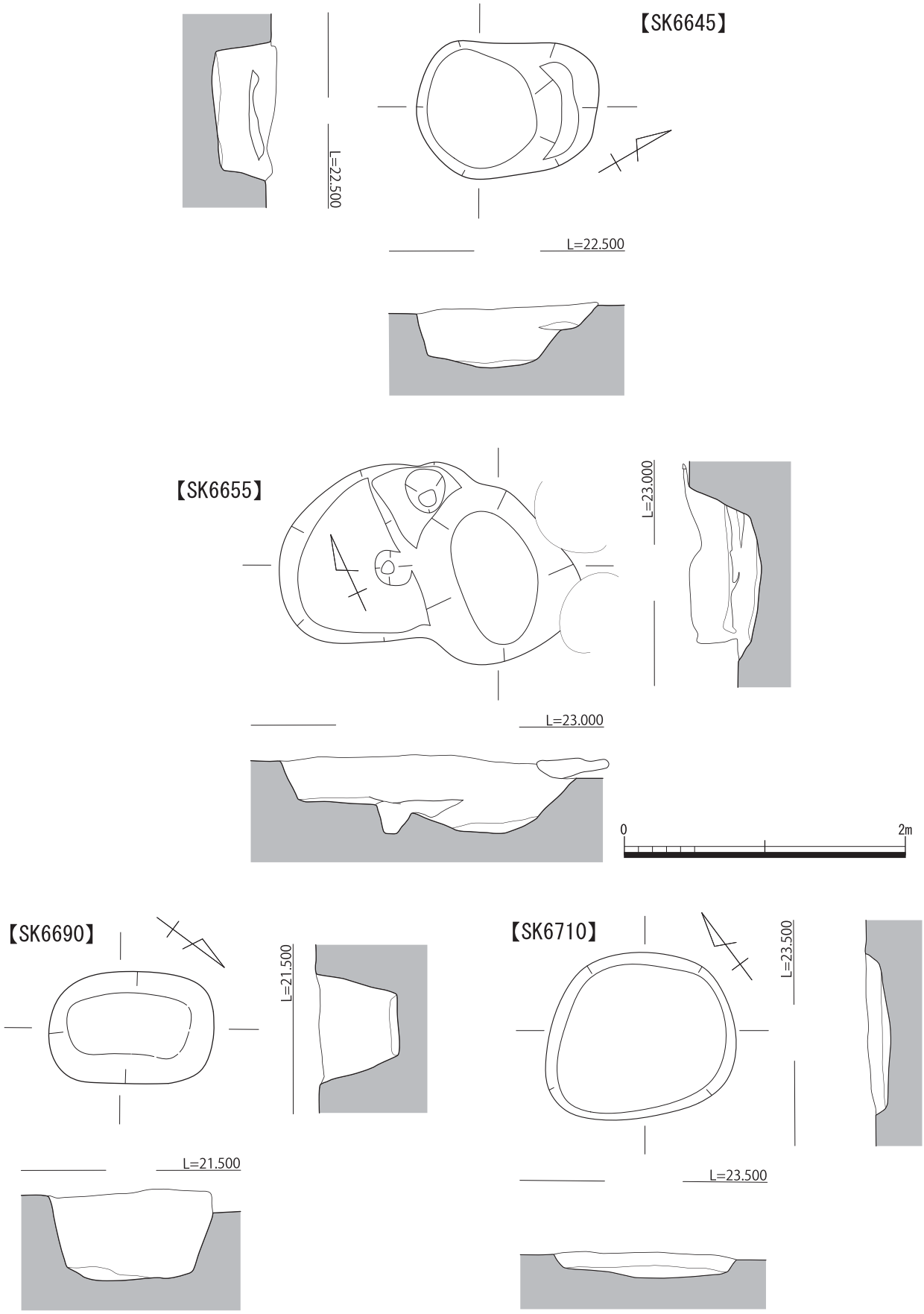
SK6570（第 89 図・図版 14） 調査区南東端、SH6550 の南に位置する。SK6690 と重複関係にあり、SK6690 が新しい。長軸 1.7m、短軸 1.8m を測り、平面形状は楕円形である。最大深は 0.4m で断面形状は逆台形である。
出土遺物（第 90 図・図版 21） 遺物は土師器の甕（９・10）、須恵器の坏蓋（11）、坏身（12）、ミニチュア（13）、皿（14）を確認した。９と 10 は口縁部のみ残存、９は内面にケズリ、外面に縦方向のハケメを施す。10 は摩滅しており調整は不明である。11 はヘラケズリの痕跡は確認できない。径の小さなツマミが付き、口縁端部は天井部からの丸みに沿って延びる。12 の底部にはヘラケズリを施す。小さな高台が付き、口縁部は直線的に延びる。13 は壺で底部にヘラケズリを施す。14 は底部にヘラケズリを施す。口縁部は若干内湾しつつ延びる。

SK6645（第 91 図） 調査区南部、SH6550 の内部に位置する。SH6550 と重複関係にあり、SK6645 が新しい。長軸 1.2m、短軸 0.9m を測り、平面形状は楕円形である。最大深は 0.4m で、断面形状は逆台形である。
出土遺物（第 93 図） 遺物は須恵器の坏蓋（１）を確認した。１にはツマミは押しつぶしたような扁平なものが付く。器高が低く天井部にケズリを施す。

SK6655（第 91 図） 調査区南部、SH6540 の北に位置する。SK6560 と重複関係にあり、SK6655 が新しい。長軸 2.1m、短軸 1.2m を測り、平面形状は不整円形である。最大深は 0.5m で、断面形状は逆台形である。
出土遺物（第 93 図） 遺物は土師器の甑（４）を確認した。４は内面にケズリ、外面に縦方向のハケメを施す。

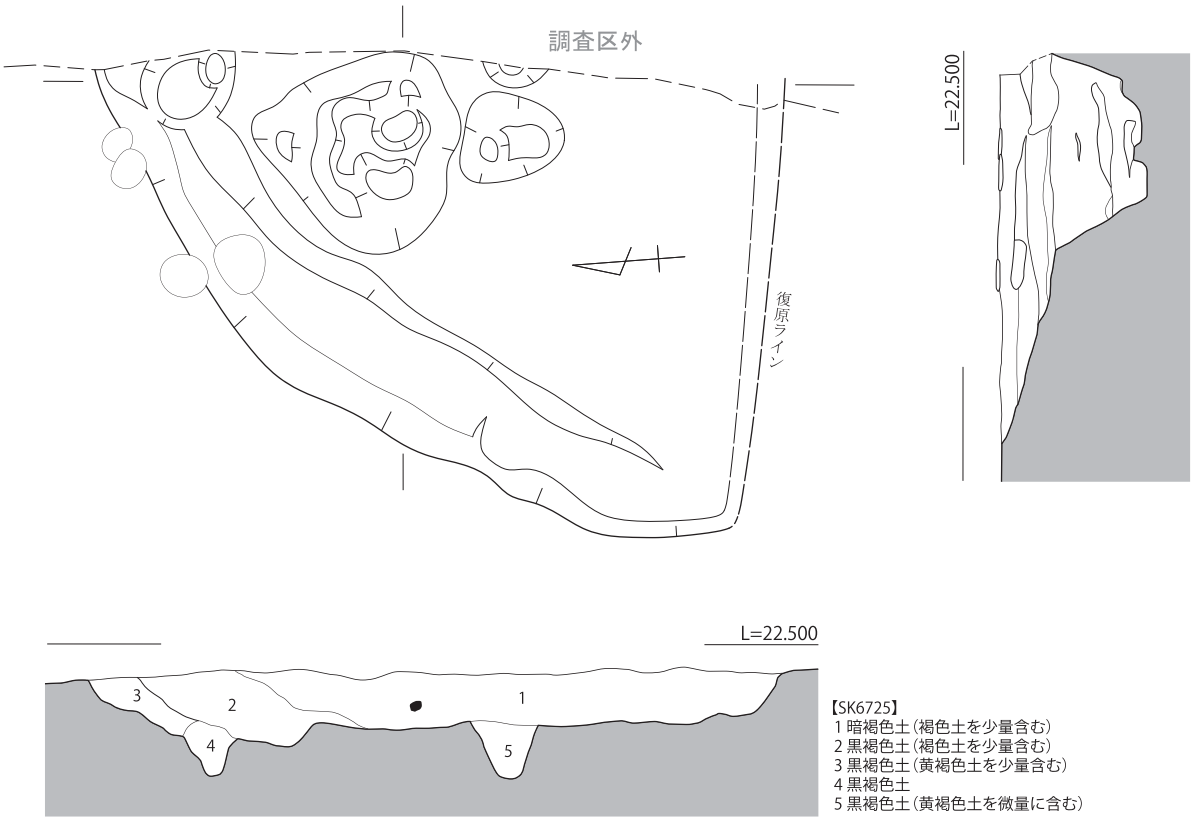
SK6690（第 91 図） 調査区南東端、SH6550 の南に位置する。SK6570 と重複関係にあり、SK6690 が新しい。長軸 1.2m、短軸 0.8m を測り、平面形状は楕円形である。最大深は 0.5m で、断面形状は逆台形である。
出土遺物（第 93 図） 遺物は土師器の甑（２）、須恵器の坏身（３）を確認した。２は口縁部のみ残存、内面にケズリを施す。３は高台付坏で高台はやや外に付く。底部内側に重ね焼きの痕跡が確認された。

SK6710（第 91 図） 調査区中央やや南東、SH6540 の北西に位置する。長軸 1.3m、短軸 1.1m を測り、平面形状は円形である。最大深は 0.2m で断面形状は皿型である。
出土遺物（第 93 図・図版 21） 遺物は須恵器の坏身（５）を確認した。５は高台付坏で口縁部は直線的に延びる。

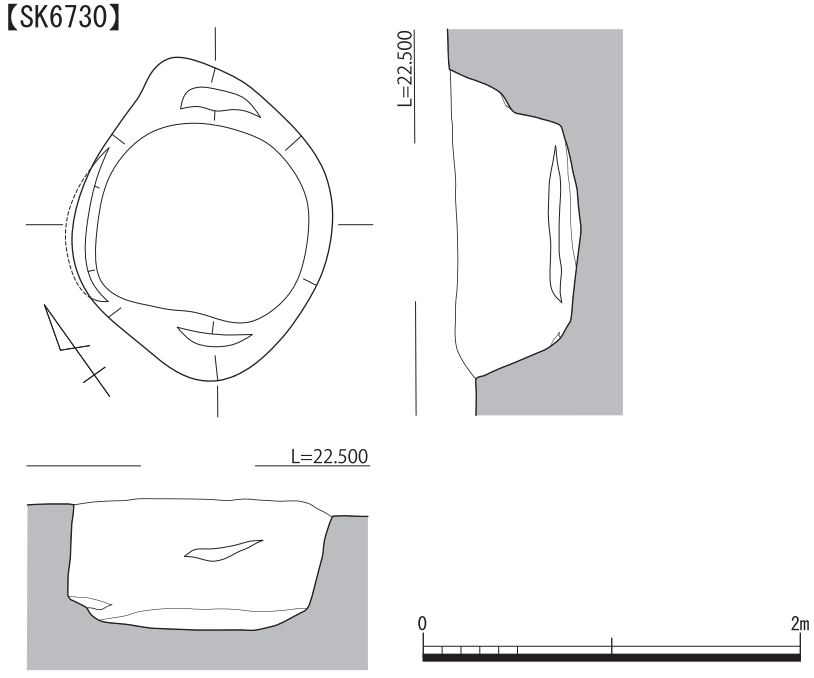


第 91 図　6645・6655・6690・6710 号土坑　平・断面図 (S=1/40)

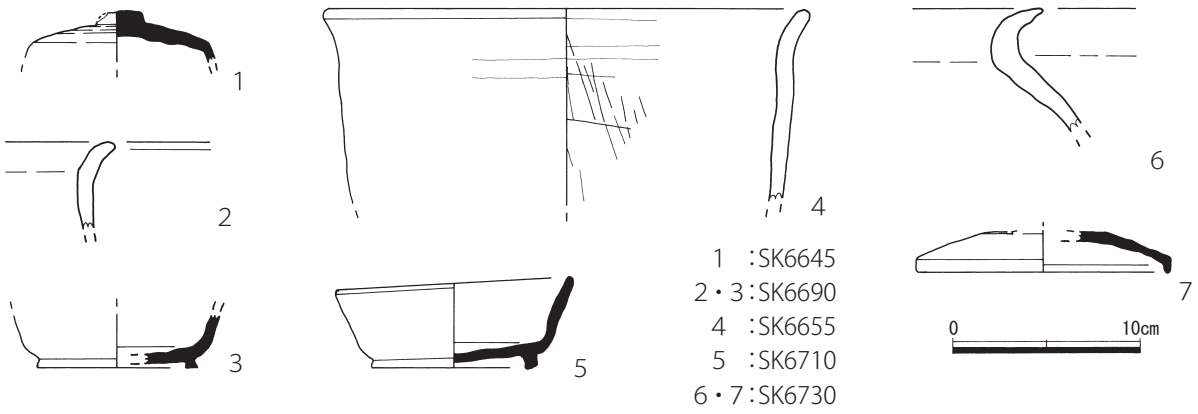
【SK6725】



【SK6730】



第 92 図　6725・6730 号土坑　平・断面図 (S=1/40)



第 93 図　6645・6655・6690・6710・6730 号土坑　出土遺物 (S=1/4)

SK6725（第 92 図）　調査区東端 SH6735 の北に位置する。SH6740 と重複関係にあり、SH6740 が新しい。長軸検出長 3.6m、短軸検出長 2.0m、を測り、平面形状は楕円形である。最大深は 0.5m で断面形状は逆台形である。図示可能な遺物は確認されなかった。

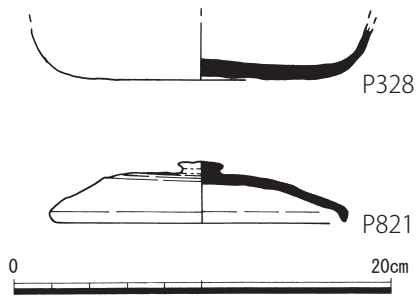
SK6730（第 92 図）　調査区東端 SH6515 の北に位置する。SH6515 と重複関係にあり、SK6730 が新しい。長軸 1.6m、短軸 1.4m を測り、平面形状は円形である。最大深は 0.7m で断面形状は皿型である。

出土遺物（第 93 図）　遺物は土師器の甕（６）、須恵器の坏蓋（７）を確認した。6 は口縁部のみ残存、体部内面にケズリを施す。７は天井部にケズリを施し、端部先端を下に折り曲げる。残存するツマミの部分から、形状は中央部がやや尖るボタン型と推測される。

３.【ピット（P)】（第 94 図・図版 21）

P328　調査区中央 SH6210 の北に位置する。P328 から確認された須恵器の皿は底部中央がやや膨らむ、口縁部に向かって緩やかにカーブを描き立ち上がる。

P821　調査区南部 SH6540 の南西に位置する。P821 から確認された須恵器の坏蓋は天井部にケズリを施す。ボタン状のツマミが付く、端部は折れ曲がり下を向く。



第 94 図　ピット　出土遺物 (S=1/4)

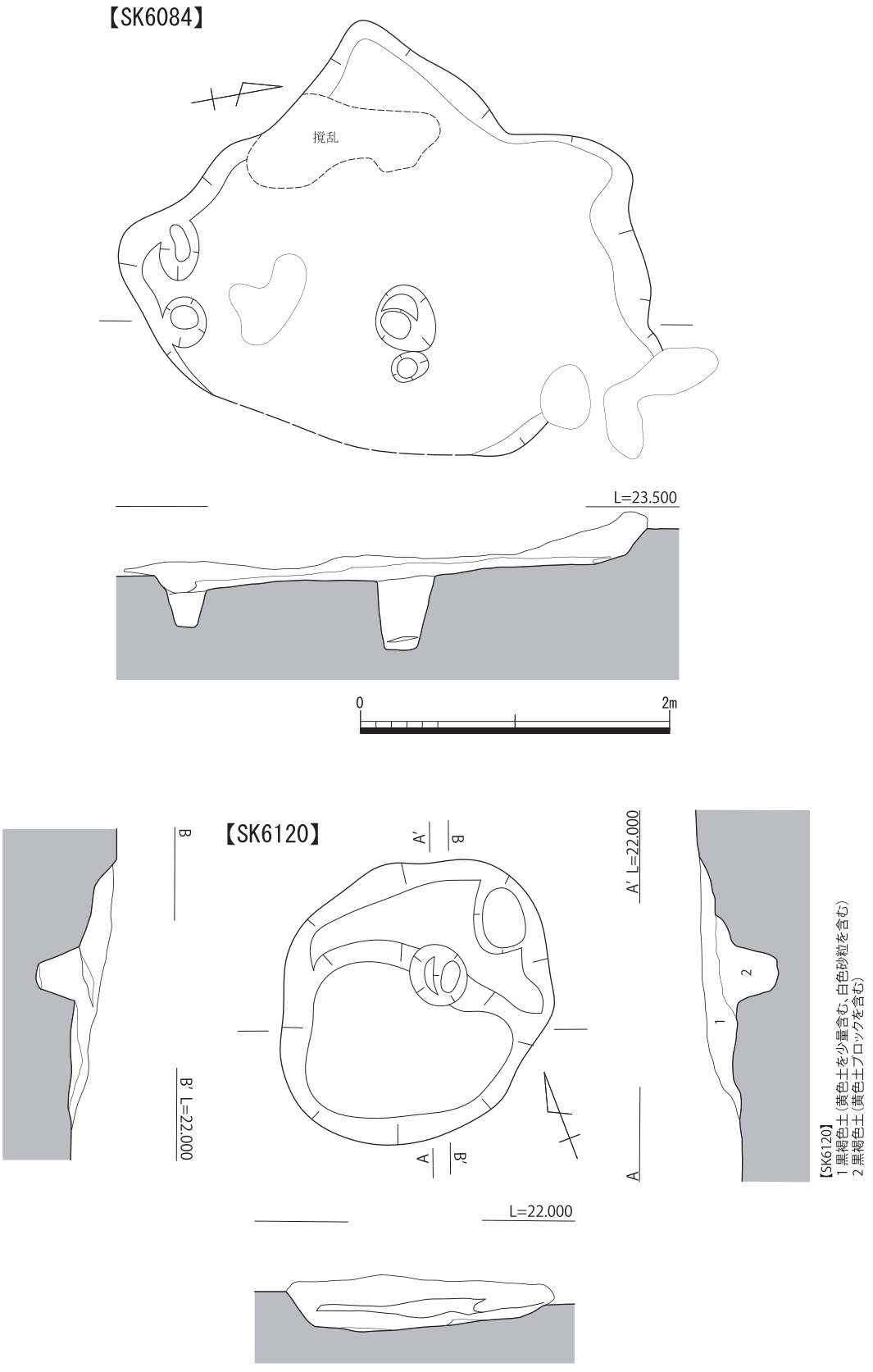
Ⅵ. その他の遺構

その他、図示可能な遺物が確認されなかった遺構について述べる。

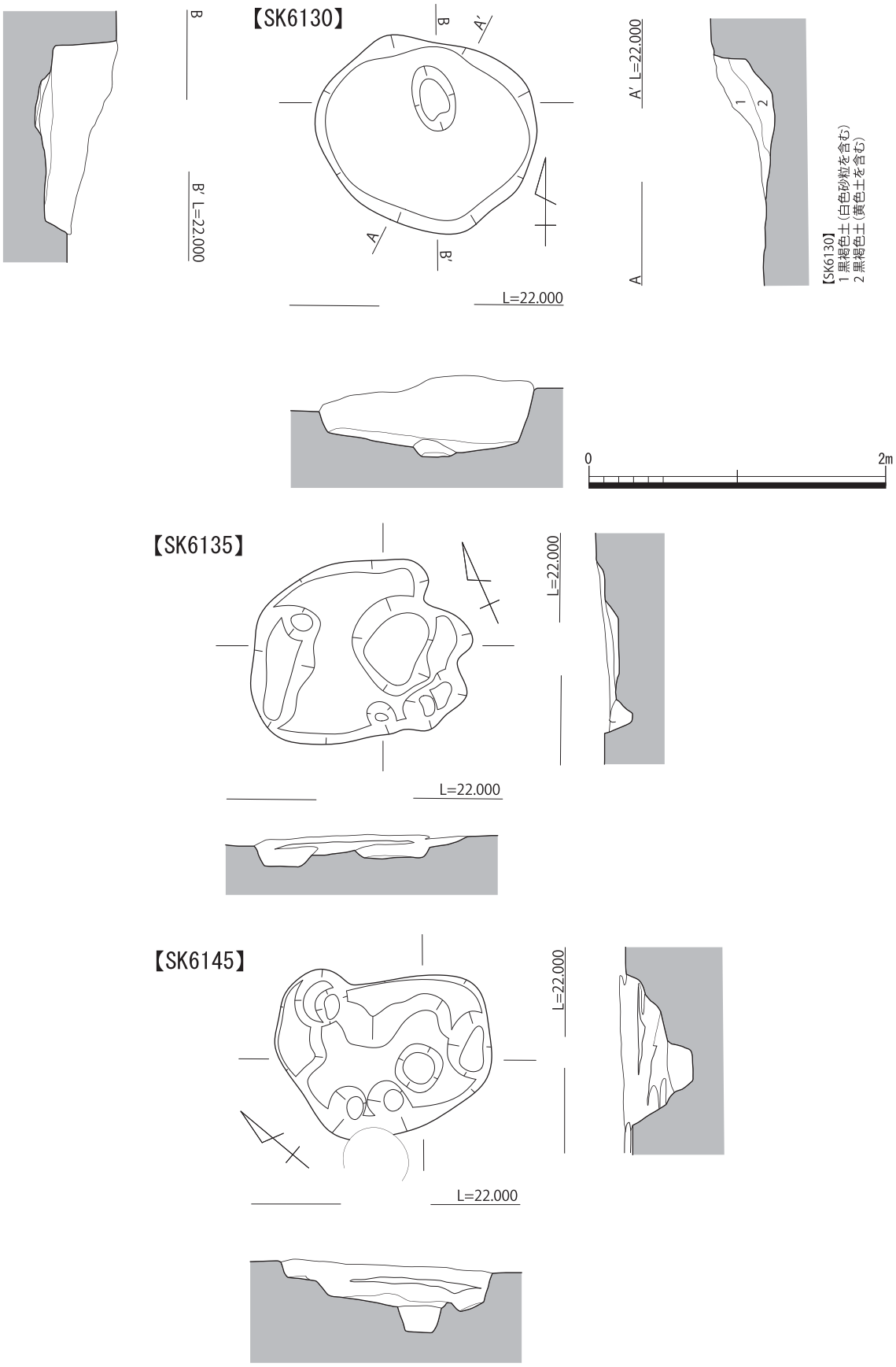
1.【土坑（SK）】

SK6082（第 95 図） 調査区中央やや南、SH6200 の南に位置する。SK6081・SK6086 と重複関係にあり、SK6082・SK6086 が新しい。長軸検出長 2.5m、短軸検出長 1.2m を測り、平面形状は不整円形である。最大深は 0.2m で断面形状は逆台形である。床面から複数のピット状の掘り込みを確認したが遺構との関係は不明である。

第 95 図　6082・6083 号土坑　平・断面図 (S=1/40)



第 96 図　6084・6120 号土坑　平・断面図 (S=1/40)



第 97 図　6130・6135・6145 号土坑　平・断面図 (S=1/40)

SK6083（第 95 図） 調査区中央やや南、SH6200 の南に位置する。SK6081 と重複関係にあり、SK6083 が新しい。長軸検出長 2.6m、短軸 1.3m を測り、平面形状は楕円形である。最大深は 0.1m で断面形状は逆台形である。床面から複数のピット状の掘り込みを確認したが遺構との関係は不明である。

SK6084（第 96 図） 調査区中央やや南、SK6082 の東に位置する。長軸 3.2m、短軸 2.7m を測り、平面形状は不整円形である。最大深は 0.2m で断面形状は逆台形である。床面から複数のピット状の掘り込みを確認したが遺構との関係は不明である。

SK6120（第 96 図） 調査区南端の土坑群内、SK6165 の南西に位置する。長軸 1.8m、短軸 1.7m を測り、平面形状は擂鉢形である。最大深は 0.2m で断面形状は逆台形である。底部では灰白色粘土層に到達する。

SK6130（第 97 図・図版 15） 調査区南端の土坑群内、SK6120 の南西に位置する。長軸 1.5m、短軸 1.3m を測り、平面形状は楕円形である。最大深は 0.3m で断面形状は逆台形である。底部では灰白色粘土層に到達する。

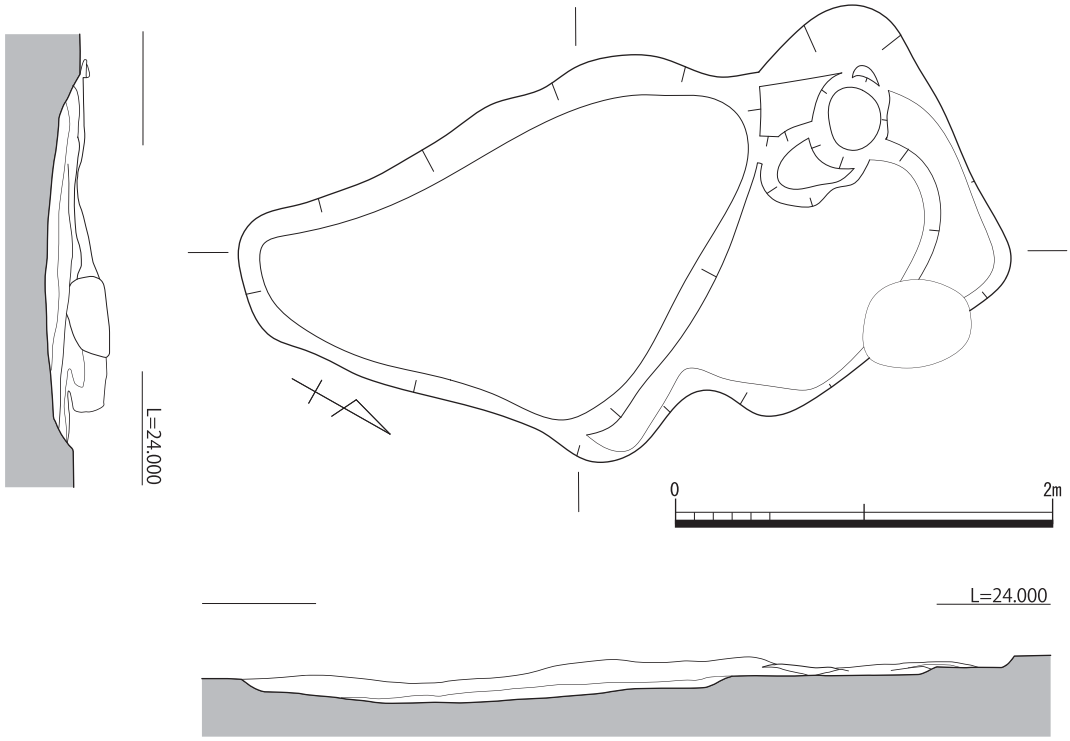
SK6135（第 97 図） 調査区南端の土坑群内、SK6125 の北西に位置する。長軸 1.4m、短軸 1.2m を測り、平面形状は不整円形である。最大深は 0.1m で断面形状は逆台形である。

SK6145（第 97 図） 調査区南端中央、SH6580 の北西に位置する。長軸 1.4m、短軸 1.0m を測り、平面形状は不整円形である。最大深は 0.3m で断面形状は逆台形である。床面から複数のピット状の掘り込みを確認したが遺構との関係は不明である。

SK6195（第 98 図） 調査区中央、SH6200 の西に位置する。SK6215 と重複関係にあり、SK6215 が新しい。長軸 4.1m、短軸 2.0m を測り、平面形状は不整円形である。最大深は 0.2m で断面形状は逆台形である。床面から複数のピット状の掘り込みを確認したが遺構との関係は不明である。

SK6215（第 99 図） 調査区中央、SH6200 の西に位置する。SK6195 と重複関係にあり、SK6215 が新しい。長軸 4.3m、短軸 2.5m を測り、平面形状は不整円形である。最大深は 0.2m で断面形状は逆台形である。床面から複数のピット状の掘り込みを確認したが遺構との関係は不明である。

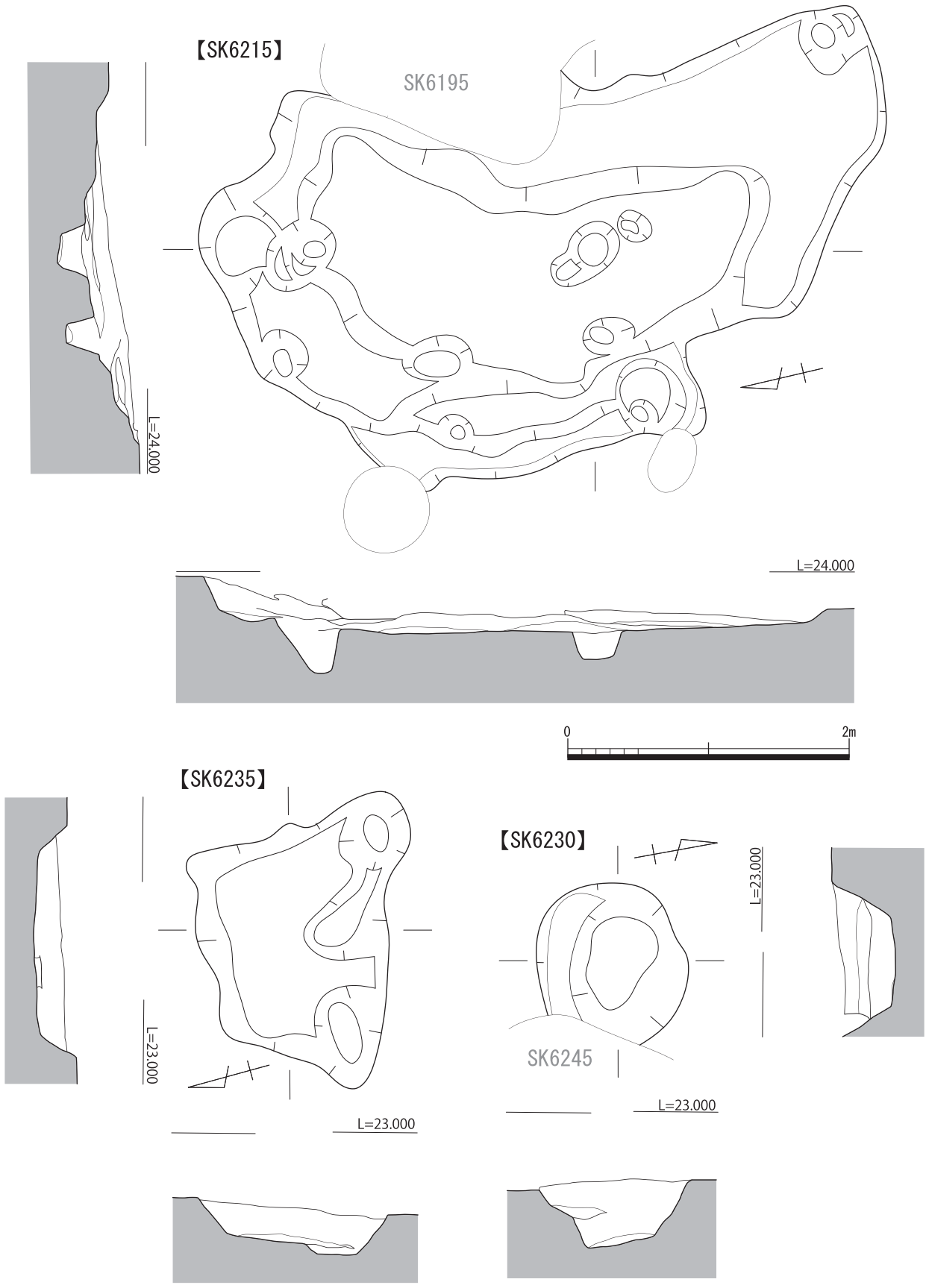
SK6230（第 99 図） 調査区中央やや南、SK6115 の南に位置する。SK6245 と重複関係にあり、SK6230 が新しい。長軸 1.1m、短軸検出長 1.0m を測り、平面形状は円形である。最大深は 0.4m で断面形状は逆台形である。



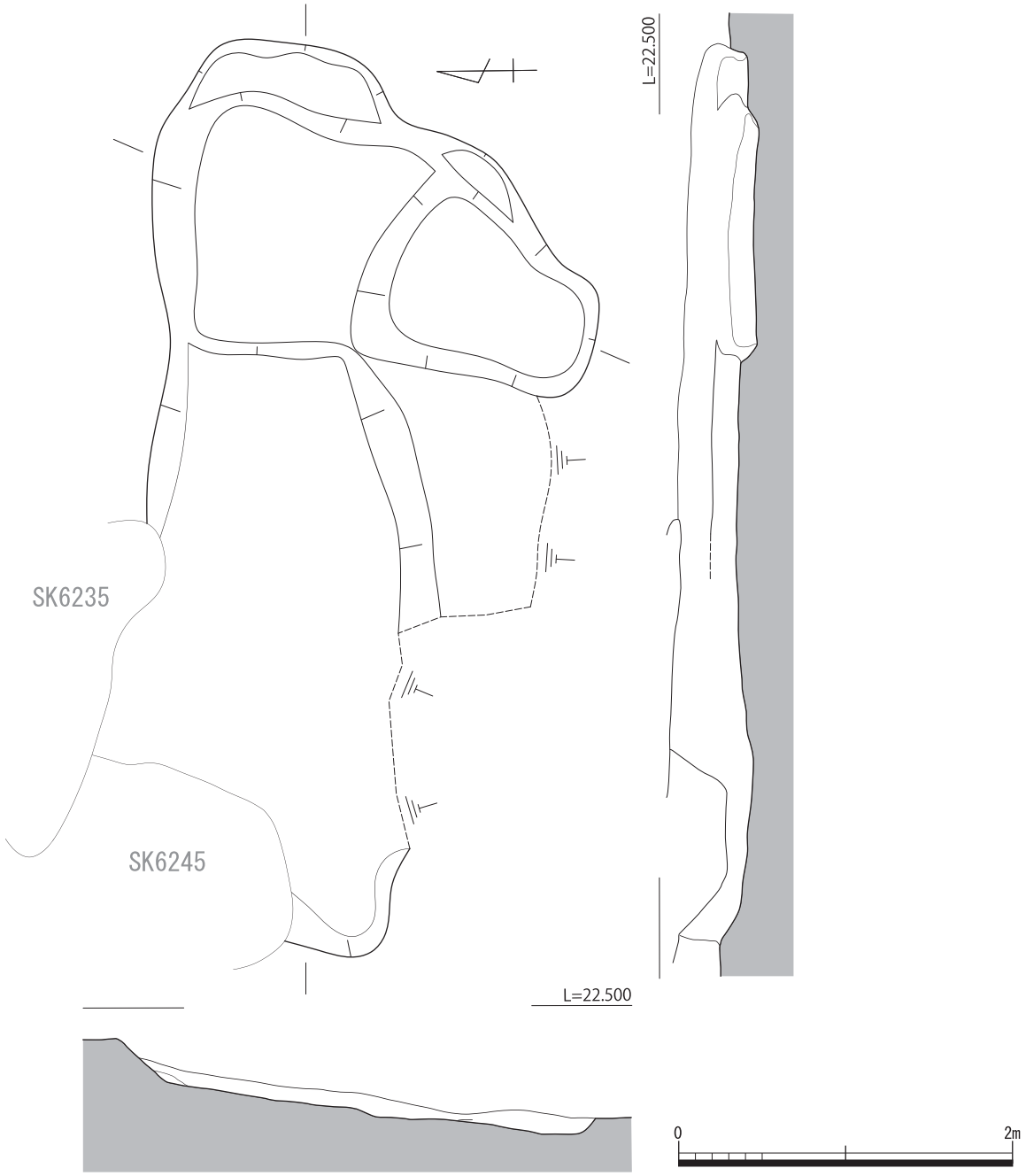
第 98 図　6195 号土坑　平・断面図 (S=1/40)

SK6235（第 99 図） 調査区中央やや南、SH6200 の南に位置する。SK6240・SK6245 と重複関係にあり、SK6235 が新しい。長軸 1.6m、短軸 1.3m を測り、平面形状は不整円形である。最大深は 0.3m で、断面形状は逆台形である。床面から複数のピット状の掘り込みを確認したが遺構との関係は不明である。

SK6240（第 100 図） 調査区中央やや南、SH6200 の南に位置する。SK6235・SK6245 と重複関係にあり、SK6245 より新しく、SK6235 より古い。後世の造成により南側を中心に大きく削平されているが、長軸 5.4m、短軸検出長 2.8m を測り、平面形状は不整円形と推測される。最大深は 0.2m で、断面形状は逆台形である。



第 99 図　6215・6230・6235 号土坑　平・断面図 (S=1/40)



第 100 図　6240 号土坑　平・断面図 (S=1/40)

SK6260（第 101 図） 調査区中央、SH6200 の西に位置する。長軸 1.2m、短軸 1.1m を測り、平面形状は不整円形である。最大深は 0.4m で断面形状は逆台形である。床面から複数のピット状の掘り込みを確認したが遺構との関係は不明である。

SK6495（第 101 図） 調査区中央やや北東、SH6290 の東に位置する。長軸 2.6m、短軸 1.4m を測り、平面形状は楕円形である。最大深は 0.4m で断面形状は逆台形である。床面から複数のピット状の掘り込みを確認したが遺構との関係は不明である。

SK6530（第 101 図） 調査区中央やや南、SH6540 の北に位置する。SK6535 と重複関係にあり、SK6535 が新しい。長軸 2.3m、短軸 1.3m を測り、平面形状は楕円形である。最大深は 0.1m で断面形状は逆台形である。

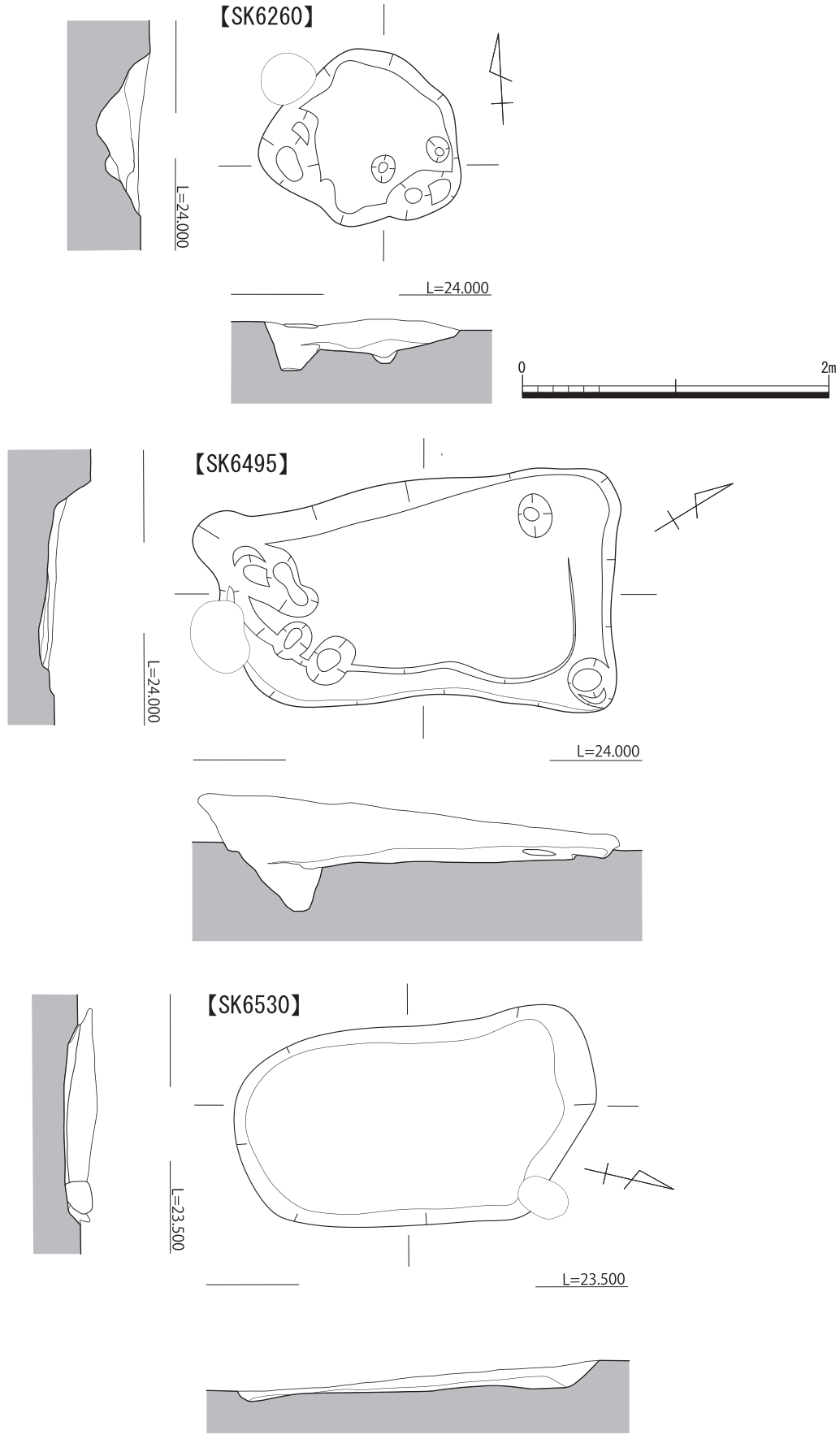
SK6565（第 102 図） 調査区南端の土坑群内、SK6570 の西に位置する。長軸 1.2m、短軸 0.8m を測り、平面形状は楕円形である。最大深は 0.3m で断面形状は逆台形である。

SK6585（第 102 図・図版 15） 調査区東端中央部、SH6735 の土坑群内に位置する。SK6715・SK6720 と重複関係にあり、SK6585 が新しい。長軸 1.6m、短軸 1.1m を測り、平面形状は不整円形である。最大深は 0.1m で断面形状は逆台形である。

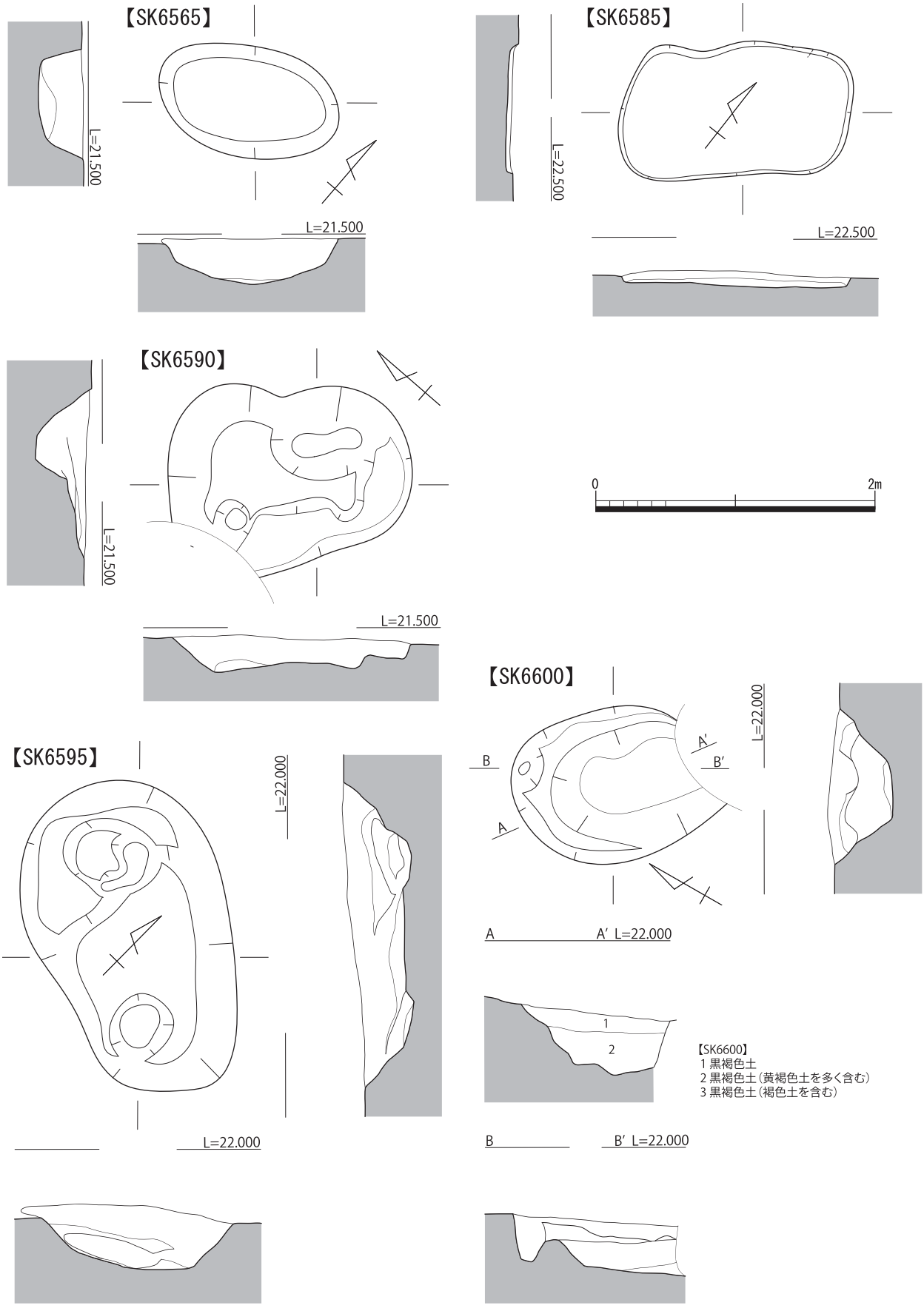
SK6590（第 102 図） 調査区南端の土坑群内、SH6520 の北に位置する。長軸 1.7m、短軸 1.2m を測り、平面形状は不整円形である。最大度は 0.4m で断面形状は逆台形である。

SK6595（第 102 図） 調査区南端の土坑群内、SH6520 の北に位置する。長軸 2.3m、短軸 1.4m を測り、平面形状は不整円形である。最大深は 0.3m で断面形状は逆台形である。床面から複数のピット状の掘り込みを確認したが遺構との関係は不明である。

SK6600（第 102 図・図版 15） 調査区南端の土坑群内、SH6520 の北に位置する。長軸検出長 1.2m、短軸 1.1m を測り、平面形状は不整円形である。最大深は 0.4m で断面形状は逆台形である。



第 101 図　6260・6495・6530 号土坑　平・断面図 (S=1/40)



第 102 図　6565・6585・6590・6595・6600 号土坑　平・断面図 (S=1/40)

第４章　調査成果のまとめ

Ⅰ．本川原遺跡と今回調査地

１．遺構の分布状況

今回調査地には、確認調査の成果や周辺の調査事例より、弥生時代後期から古墳時代初頭の集落が存在すると想定されていた。調査の結果、これに加えて古墳時代後期と奈良時代の遺構も確認された。遺構の分布状況は、弥生時代後期～古墳時代初頭に丘陵の北側、古墳時代後期～奈良時代に丘陵の南側へ集中する傾向がみられた。

そこで、隣接地である昭和 48 年調査地（本川原１次）、49 年調査地（本川原２次）の成果を踏まえ、遺跡の性格をまとめていきたい。なお、第 103 図に時期別遺構分布を示しているが、これは佐賀県文化財調査報告書第 32 集（地形測量図）および第 104 集（遺跡周辺状況図）を基に作成した。なお弥生時代後期から古墳時代初頭にかけての遺構は、県報告書第 32 集で定義されている『本川原Ⅰ式土器』（方形周溝墓の構築前）、『本川原Ⅱ式土器』（方形周溝墓の構築後）を基準として出土遺物を観察し、新旧２時期に分類した。

２．集落の変遷

弥生時代後期から終末期の集落について

出土遺物に古い様相を示すグループは、SH6001・6003・6005・6006・6285 の５軒と 49 年調査地の３軒で、器壁が厚く外面にタタキを施した土器が主体を占める。竪穴住居は丘陵の北側の高い位置に、間隔をあけて構築されている。平面形状は長方形が多いが、49 年調査地の H8 や H10 のように方形のものもみられる。

弥生時代終末期から古墳時代初頭の集落について

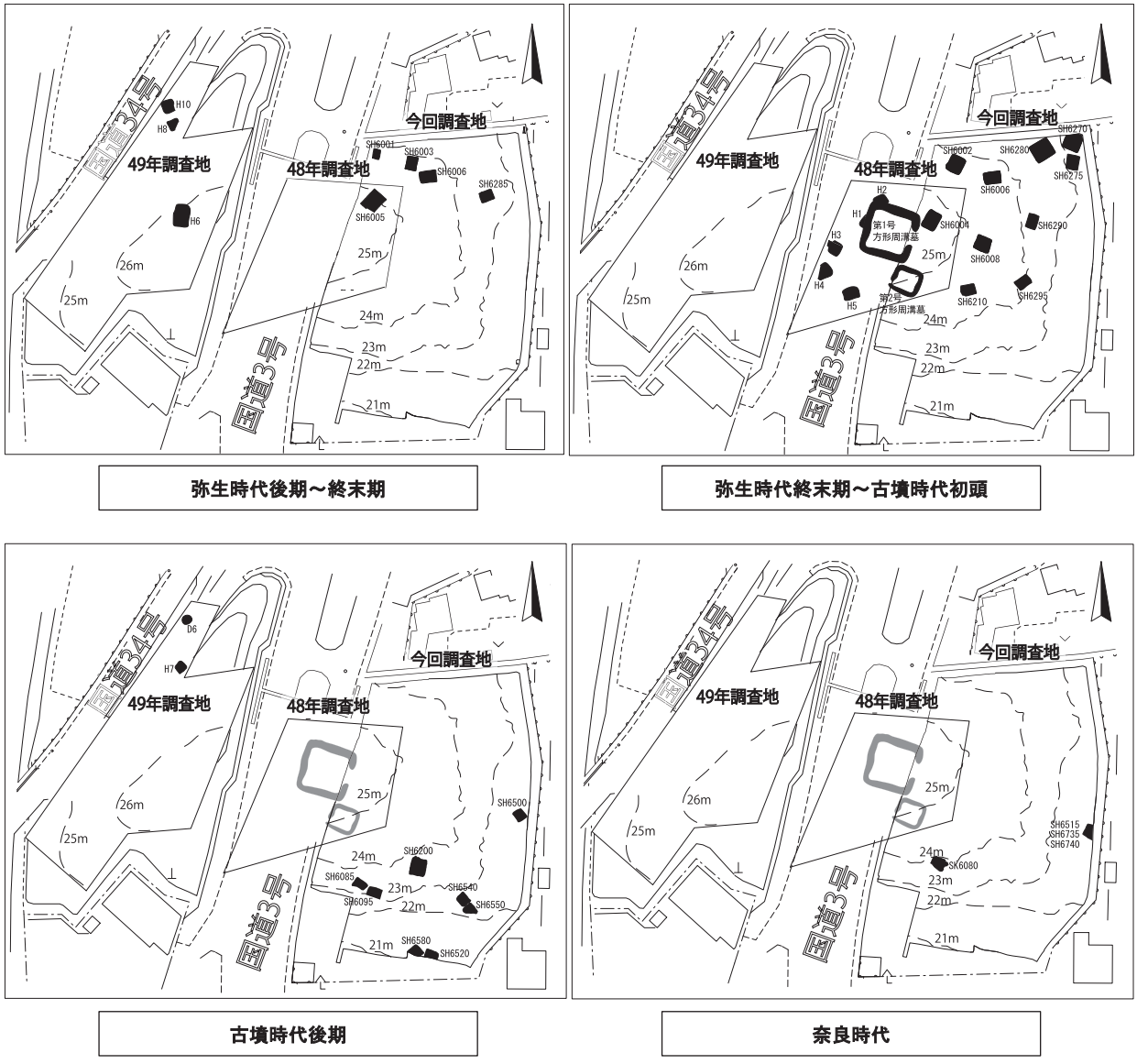
遺構の内容や基数から、この時期が集落の最盛期と考えられる。丘陵の頂部にあたる位置に２基の方形周溝墓が造られ、それを取り巻くように竪穴住居が分布している。48 年調査地では５軒、今回調査地では 10 軒を確認している。平面形状は長方形が主であるが方形のものも混在し、SH6280 のように非常に大型のものもみられる。SH6002・6270・6280 では、入口にあたる壁際土坑を確認しているが、その位置は同一方位ではない。49 年調査地ではこの時期の遺構が確認されていないことから、丘陵の北東部を主な居住域として設定していたようである。出土遺物は、器壁が薄く、体部内面にケズリを施したものが多くを占める。

弥生時代後期から古墳時代初頭にかけての竪穴住居は、遺構の残存状況が良好であったにも関わらず遺物の出土量が少なかった。また SH6002・6003 のように、貼床のしまりが非常に悪い例も多かった。そのため、使用された期間は比較的短かったのではないかと推測される。

古墳時代後期の集落について

この時期の遺構は、49 年調査地で竪穴住居１軒と土坑１基、今回調査地で竪穴住居８軒が検

出されている。遺構は丘陵の南東に多く、古墳時代初頭より低い位置に構築されている。また第103図には掲載していないが、今回調査地から北西へ約170 mに位置している昭和53年調査地（第２図、本川原３次）で３軒、今回調査地から南西へ約150 mに位置している平成元年調査地（第２図、本川原４次）で７軒の竪穴住居を検出している。規模は一辺が2.5 ～ 5 mとやや幅があり、カマドは北につくものが多い。また、平成元年調査地では掘立柱建物も確認されていることから、集落の中心部は遺跡の範囲の南半部にあったと考えられる。



※H・SH：竪穴住居、D・SK：土坑

第103図　時期別遺構分布図

奈良時代の集落について

今回調査区における遺構の数は少なく、同位置で建て替えを行っている竪穴住居３軒と土坑群が丘陵の南東部に分布している。SH6515・6735・6740 は出土遺物にほとんど時期差がなく、短期間で建て替えを行ったようである。また、この時期の土坑は平面形状が不整形で、床面に凹凸を伴うものが多い。特に SK6080 は非常に大型で深く、床面は検出面にあるローム層を越え、灰白色粘土層までおよんでいる。遺構の規模の割に出土遺物が少なく、埋土も有機物由来の黒色土ではないことから、廃棄目的の施設とは考えがたい。この用途については、今後の周辺調査の進展や類似遺構の確認を待ち、検討課題としたい。

Ⅱ．調査成果にみられる特徴

今回の調査によって、本川原遺跡における弥生時代後期から古墳時代初頭にかけての集落様相をより具体的にとらえることができた。またこの途中に「方形周溝墓の造営」という当時の大事業が行われている点が重要である。また、これまで鳥栖ジャンクション付近に展開すると想定されていた古墳時代後期から奈良時代にかけての集落域が、さらに北まで広がっていたことも明らかとなった。

最後に、今回の調査区の特徴を挙げたい。それは、弥生時代から古墳時代初頭にかけての出土遺物の量が少ないことである。竪穴住居は非常に残存状況が良く、比較的規模の大きなものがあったにも関わらず、確認した遺物は少量にとどまった。特に石器、鉄器類はほとんど出土していない。また、日用品の廃棄に用いられたと想定される土坑や溝なども、調査区内では検出されなかった。この点と竪穴住居の貼床の状態から、先にも短期間の使用であった可能性を述べている。これに「方形周溝墓に極めて近い位置に構築されている」という特殊な立地条件を加えると、竪穴住居群のうち一部は、居住目的ではなく墓域の造営に伴って構築されたと想像することもできよう。

〈参考文献〉

佐賀県教育委員会 1974『本川原遺跡』佐賀県文化財調査報告書第 26 集
佐賀県教育委員会 1975『本川原遺跡―第 2 次調査―』佐賀県文化財調査報告書第 32 集
佐賀県教育委員会 1979『本川原遺跡第 3 次調査』佐賀県文化財調査報告書第 49 集
佐賀県教育委員会 1991「本川原遺跡」『都谷遺跡』佐賀県文化財調査報告書第 104 集
蒲原宏行 1992「古墳時代初頭前後の土器編年」佐賀県立博物館・美術館調査研究書第 16 集
佐賀県教育委員会 1993『平原遺跡Ⅰ - 本川川防災調節池事業関係文化財調査報告書 1 -』佐賀県文化財調査報告書第 119 集
鳥栖市教育委員会 2005『鳥栖市誌』第 2 巻　原始・古代編

遺物観察表

法量＝口：口径、高：器高、底：底径、台：高台径、頸：頸部径、脚：脚部裾径、残：残存高
器種＝弥：弥生土器、土：土師器、須：須恵器

挿図番号	図版番号	出土遺構		器種	法量cm・(復元値)	色調	胎土	焼成	成形・調整方法	備考	登録番号
第4図1		6001号竪穴住居	北西部	弥・甕	口：(19.2) 残：18.4	外：にぶい黄褐色 内：にぶい黄橙色	1～3㎜の砂粒を少量含む	良	口：ヨコナデ 体・外：タテハケ 体・内：不定方向ハケメ	胴部下部に煤付着	220001
第4図2		6001号竪穴住居	北西部	弥・甕	口：(22.0) 残：10.1	外：灰黄色 内：にぶい黄橙色	雲母、2㎜以下の砂粒を含む	良	口：ヨコナデ 体・外：タテハケ 体・内：ヨコハケ、ナナメハケ		220002
第4図3		6001号竪穴住居	南東部上層	弥・甕	口：(32.2) 残：15.8	外：にぶい黄橙色～黒褐色 内：浅黄橙色	雲母、5㎜以下の砂粒を多量に含む	良	口：ヨコナデ 体・外：タテハケ 体・内：ナナメ～ヨコハケ	胴部外面に被熱による剥離	220003
第4図4		6001号竪穴住居	北西部	弥・甕	口：(29.0) 残：13.2	外：灰褐色 内：浅黄橙色	4㎜以下の砂粒を含む	良	口：ヨコナデ 体・外：タテハケ 体・内：ヨコハケ、不定方向ハケメ	胴部外面に煤付着	220004
第4図5		6001号竪穴住居	南西部上層	弥・甕	口：(25.4) 残：10.9	外：黒褐色 内：にぶい黄橙色	雲母、角閃石、微砂粒を含む	良	口：ヨコナデ 体・外：タテハケ 体・内：工具ナデ、工具ケズリ	胴部外面に煤付着	220005
第4図6		6001号竪穴住居	図9	弥・甕	口：(14.5) 残：7.1	外：にぶい黄橙色～褐灰色 内：にぶい黄橙色	2㎜以下の砂粒を多量に含む	良	口：ヨコナデ 体・外：タテハケ、ナナメハケ 体・内：ナナメハケ、工具ナデ		220006
第4図7		6001号竪穴住居	図9	弥・甕	口：(16.2) 残：8.5	外：黄褐色～黒褐色 内：灰黄色	雲母、3㎜以下の砂粒を多量に含む	良	口：ヨコナデ 体・外：タテハケ 体・内：タテハケ、ヨコナデ		220007
第4図8	16	6001号竪穴住居	図2	弥・高坏	口：34.4 残：9.0	外：にぶい黄橙色～黒褐色 内：にぶい黄橙色	雲母、角閃石、2㎜以下の砂粒を含む	良	口：ヨコナデ 外：ハケのちナデ消し 内：ハケのちナデ消し		220008
第4図9	16	6001号竪穴住居	図7	弥・高坏	口：21.2 底：13.0 高：14.3	外：浅黄橙色 内：にぶい黄橙色	1～4㎜の砂粒を少量含む	良	外：タテハケのち工具ナデ 坏・内：ナナメハケ 脚・内：工具ナデ		220009
第4図10		6001号竪穴住居	図5	弥・器台	残：9.2 底：(13.0)	外：暗灰黄色～黄灰色 内：にぶい黄橙色	雲母、角閃石を含む	良	体・外：タタキ 体・内：ナデ		220010
第4図11	16	6001号竪穴住居	図3	弥・器台	口：7.5 底：(14.0) 高：18.7	外・内：にぶい黄橙色	1～3㎜の砂粒を含む	良	口：指オサエ、ナデ 体・外：タタキのちナデ消し 体・内：タテナデ		220011
第4図12	16	6001号竪穴住居	図1	土・器台	底：10.7 残：2.9	外・内：浅黄橙色	1㎜以下の微砂粒を含む	良	脚・外：ヨコナデ 脚・内：ヨコナデ、指オサエ		220012
第4図13	16	6001号竪穴住居	図10	土・鉢	口：11.9 高：5.7	外・内：浅黄橙色	1㎜以下の微砂をわずかに含む	良	口：工具ナデ 外：ヨコナデ 内：摩滅	底部外面に被熱による細かい剥離	220013
第5図1		6002号竪穴住居	北東部	土・甕	口：(13.6) 残：8.9	外・内：浅黄橙色	1㎜以下の砂粒を含む	良	口：工具ナデ 体・外：ハケ 体・内：工具ケズリ		220014
第5図2		6002号竪穴住居	北東部	土・甕	口：(15.3) 残：7.1	外：にぶい橙色～にぶい褐色 内：橙色～灰黄褐色	雲母、2㎜以下の砂粒を多く含む	良	口：ヨコナデ 体・外：タテハケ 体・内：工具ナデ		220015
第5図3		6002号竪穴住居	南東部	土・甕	口：(17.0) 残：5.0	外・内：灰白色	1㎜以下の砂粒を含む	良	口：工具ナデ 体・外：工具ナデ 体・内：工具ケズリ		220016
第5図4		6002号竪穴住居	北西部	土・甕	口：(19.8) 残：7.3	外・内：浅黄橙色	雲母、2㎜以下の砂粒を含む	良	口：ヨコナデ 体・外：ハケ 体・内：工具ケズリ		220017
第5図5		6002号竪穴住居	南東部	土・甕	残：5.0	外・内：にぶい黄橙色	1㎜以下の砂粒を含む	良	口：ヨコナデ 体・外：タテハケ 体・内：工具ケズリ		220018
第5図6	16	6002号竪穴住居	北西部	土・小型壺	口：(10.5) 高：7.6	外・内：橙色	3㎜以下の砂粒を含む	良	口：工具ナデ、ヨコハケ 体・外：ハケ 体・内：工具ナデ	底部外面に煤付着	220019
第5図7		6002号竪穴住居	東西ベルト4層	土・小型壺	口：(10.0) 残：5.7	外・内：明黄褐色	1㎜以下の砂粒を微量に含む	良	口：ヨコナデ 体・外：ハケ 体・内：工具ナデ		220020
第5図8	16	6002号竪穴住居	北東部	土・壺	胴最大：(14.4) 残：10.8	外・内：橙色	1㎜以下の砂粒を含む	良	体・外：ミガキ 体・内：工具ナデ	体部外面に黒斑	220021
第5図9		6002号竪穴住居	北東部	土・甕	口：(13.6) 残：13.7	外：明黄褐色 内：橙色～明黄褐色	1㎜以下の砂粒を含む	良	口：ヨコナデ 体・外：タテハケ 体・内：工具ナデ		220022
第5図10	16	6002号竪穴住居	北東部	土・壺	胴最大：(24.8) 残：25.8	外：橙色～明黄褐色 内：黒褐色～灰黄褐色	1～4㎜の砂粒を含む	良	体・外：タテハケのちナデ消し 体・内：工具ナデ		220023
第7図1	16	6002号竪穴住居	北東部	土・小型壺	口：12.5 高：7.3	外：橙色～褐灰色 内：橙色～赤褐色	雲母、角閃石、2㎜以下の砂粒を含む	良	口：ヨコナデ 体・外：タテハケ 体・内：工具ナデのちミガキ		220024

法量＝口：口径、高：器高、底：底径、台：高台径、頸：頸部径、脚：脚部裾径、残：残存高
器種＝弥：弥生土器、土：土師器、須：須恵器

挿図番号	図版番号	出土遺構		器種	法量cm・(復元値)	色調	胎土	焼成	成形・調整方法	備考	登録番号
第7図2	16	6002号竪穴住居	南西部	弥・鉢	口：10.6 高：6.0	外・内：灰黄褐色	1㎜以下の砂粒を含む	良	口：ヨコナデ 体・外：工具ナデ 体・内：ハケのち工具ナデ、ミガキ		220025
第7図3	16	6002号竪穴住居	SP1	土・鉢	口：13.0 高：5.4	外・内：黄橙色	2㎜以下の砂粒を含む	良	体・外：工具ナデ 体・内：ハケ 底：手持ちケズリ	口縁部外面に黒斑	220026
第7図4	16	6002号竪穴住居	図③	土・鉢	口：12.5 残：5.3	外・内：明黄褐色	2㎜以下の砂粒を含む	良	口：工具ナデ 体・外：タテハケ 体・内：工具ナデ		220027
第7図5		6002号竪穴住居	北東部、東西ベルト4層	土・高坏	口：(21.8) 残：5.7	外：にぶい橙色～灰褐色 内・にぶい橙色	雲母、角閃石を含む	良	口：ヨコナデ 体・外：ハケのちナデ消し 体・内：ミガキ		220028
第7図6	16	6002号竪穴住居	北東部	弥・高坏	口：(23.4) 残：7.0	外：灰白色～浅黄橙色 内：にぶい黄橙色	1～3㎜の砂粒を少量含む	良	口：ヨコナデ 坏・外：ハケのちミガキ 坏・内：ハケのち工具ナデ	体部外面に黒斑	220029
第7図7	16	6002号竪穴住居	東西ベルト12層	土・高坏	口：(20.2) 残：6.4	外・内：橙色	雲母、角閃石、2㎜以下の砂粒を含む	良	口：ヨコナデ 坏・外：タテミガキ 坏・内：ナデ		220030
第7図8		6002号竪穴住居	東西ベルト4層	土・高坏	口：(19.0) 残：4.0	外・内：橙色	1㎜以下の砂粒を含む	良	口・体：ナデ		220031
第7図9	16	6002号竪穴住居	東西ベルト4層	土・高坏	底：(12.6) 残：7.1	外・内：橙色	1㎜以下の砂粒を含む	良	脚・外：ヨコナデ、ナナメハケ 脚・内：ナデ、ヨコハケ		220032
第7図10	16	6002号竪穴住居	-	土・高坏	口：23.0 残：10.3	外・内：浅黄橙色	2㎜以下の砂粒を含む	良	口：ヨコナデ 体・外：ヨコミガキ 体・内：ミガキ		220033
第7図11	16	6002号竪穴住居	東西ベルト8層	土・高坏	口：(21.2) 脚：11.5 高：12.0	外・内：橙色	雲母、2㎜以下の砂粒を含む	良	口：ヨコナデ 外：ナデ 内：ハケのちナデ消し		220034
第7図12	16	6002号竪穴住居	SP1	土・器台	口：11.1 高：7.0 脚：7.5	外・内：黄褐色	1㎜以下の砂粒を含む	良	口：ヨコナデ 坏：ミガキ 脚：工具ナデ、ミガキ	4ヵ所の穿孔 内面に煤付着	220035
第7図13	17	6002号竪穴住居	図④	土・蓋	口：17.6 高：4.5	外・内：浅黄橙色	1㎜以下の砂粒を含む	良	口：ヨコナデ 体・外：ミガキ 体・内：工具ナデ	3ヵ所の穿孔	220036
第9図1		6003号竪穴住居	南東部	弥・甕	口：(28.0) 残：18.6	外：浅黄橙色 内：灰白色	3㎜以下の砂粒を含む	良	口：ヨコナデ 体・外：ナナメハケ 体・内：ヨコハケ		220037
第9図2		6003号竪穴住居	-	弥・甕	残：12.5	外・内：にぶい黄橙色	2㎜以下の砂粒を含む	良	体・外：タテハケ 体・内：ヨコ・ナナメハケ	体部及び口縁部外面に煤付着	220038
第9図3		6003号竪穴住居	上層	弥・壺	口：(17.4) 残：11.2	外・内：にぶい黄橙色	3㎜以下の砂粒を含む	良	口：ヨコナデ 体・外：タテハケ、工具ナデ 体・内：ナナメハケ	体部外面に煤付着	220039
第9図4		6003号竪穴住居	上層	弥・壺	口：(16.0) 残：8.9	外：にぶい黄橙色 内：にぶい黄褐色	1㎜以下の砂粒を含む	良	口：ヨコナデ 体・外：タテハケ 体・内：工具ナデ	口縁部外面に黒斑	220040
第9図5		6003号竪穴住居	上層	弥・壺	口：(18.0) 残：9.3	外：にぶい橙色 内：橙色	3㎜以下の砂粒を含む	良	体・外：タタキのちタテハケ 体・内：工具ナデ	体部外面は被熱により赤変	220041
第9図6	17	6003号竪穴住居	-	弥・鉢	口：(12.5) 残：12.0	外・内：黒褐色	2㎜以下の砂粒を含む	良	体・外：タテハケ、ミガキ 体・内：ヨコハケ、工具ナデ		220042
第9図7	17	6003号竪穴住居	北西部	弥・鉢	口：(15.0) 高：10.1	外：浅黄色 内：にぶい黄橙色	5㎜以下の砂粒を含む	良	口：ヨコナデ 体・外：タテハケ、工具ナデ 体・内：工具ナデ	体部外面に煤付着、底部外面は被熱により赤変	220043
第9図8	17	6003号竪穴住居	ベルト内	弥・脚	脚：(14.6) 残：4.4	外：浅黄橙色 内：にぶい黄橙色	1㎜以下の砂粒を含む	良	体・外：タテハケ 体・内：ヨコハケ		220044
第9図9	17	6003号竪穴住居	-	土・高坏?	脚：13.2 残：7.9	外・内：黄橙色	1㎜以下の砂粒を含む	良	体・外：ミガキ 体・内：ヨコハケ	3ヵ所の穿孔	220045
第9図10		6003号竪穴住居	南東部・ベルト	弥・高坏	口：(26.0) 残：6.9	外・内：浅黄橙色	4㎜以下の砂粒を含む	良	体・外：ハケのちナデ消し 体・内：ハケのちナデ消し、ミガキ		220046
第9図11		6003号竪穴住居	検出時	弥・高坏	口：(28.0) 残：11.8	外：にぶい橙色 内：にぶい黄橙色	3㎜以下の砂粒を含む	良	体・外：ヨコハケ 体・内：ヨコハケ、工具ナデ		220047
第12図1		6004号竪穴住居	図④	土・甕	口：(16.2) 残：12.4	外・内：浅黄橙色	3㎜以下の砂粒を少量含む	良	口：ハケ 体・外：タタキのちタテハケ、工具ナデ 体・内：ハケのち工具ナデ		220048
第12図2		6004号竪穴住居	ベルト内	土・甕	口：(17.4) 残：4.2	外・内：明黄褐色～橙色	2㎜以下の砂粒を微量に含む	良	口：ヨコナデ 体・内：ケズリ		220049
第12図3		6004号竪穴住居	図④	土・甕	口：(16.2) 残：4.8	外：にぶい褐色 内：にぶい橙色	2㎜以下の砂粒を微量に含む	良	口：ヨコナデ 体・内：ケズリ		220050

法量＝口：口径、高：器高、底：底径、台：高台径、頸：頸部径、脚：脚部裾径、残：残存高
器種＝弥：弥生土器、土：土師器、須：須恵器

挿図番号	図版番号	出土遺構		器種	法量cm・(復元値)	色調	胎土	焼成	成形・調整方法	備考	登録番号
第12図4		6004号竪穴住居	図⑦	土・壺	口：(14.8) 残：15.1	外：明黄褐色 内：にぶい黄橙色	4㎜以下の砂粒を含む	良	口：ヨコナデ 体・外：ハケのちナデ消し、タタキ 体・内：ナデ	外面に煤付着、黒斑あり	220051
第12図5	17	6004号竪穴住居	図⑤	土・壺	口：(11.2) 残：6.0	外：にぶい橙色 内：にぶい黄橙色	1㎜以下の砂粒を少量含む	良	口：ヨコナデ 体・外：タテハケ 体・内：工具ナデ		220052
第12図6	17	6004号竪穴住居	図⑪	土・小型壺	口：(9.4) 高：10.0	外・内：浅黄色	1㎜以下の砂粒を含む	良	口：ヨコナデ、ヨコハケ 体・外：ミガキ、工具ナデ 体・内：工具ナデ	体部外面に黒斑あり	220053
第12図7		6004号竪穴住居	図⑩	土・鉢	口：(17.8) 残：11.0	外・内：明黄褐色	2㎜以下の砂粒を多量に含む	良	口：ヨコナデ 体・外：ナデ 体・内：工具ナデ		220054
第12図8	17	6004号竪穴住居	ベルト内	土・鉢	口：11.8 高：4.2	外・内：橙色	1㎜以下の砂粒を含む	良	口：ヨコナデ 体・外：工具ナデ、ミガキ 体・内：ナデ		220055
第12図9	17	6004号竪穴住居	図⑧	土・高坏	脚：(13.6) 残：7.1	外・内：黄橙色	2㎜以下の砂粒を含む	良	脚・外：ナデ 脚・内：指ナデ、ヨコハケ	3ヵ所の穿孔	220056
第12図10	17	6004号竪穴住居	南西部	土・器台	脚：(12.0) 残：4.5	外：明黄褐色 内：橙色～明黄褐色	1㎜以下の砂粒を含む	良	受部・内：ミガキ 脚・外：ハケのちナデ消し 脚・内：ナデ	推定4ヵ所の穿孔	220057
第12図11	17	6005号竪穴住居	図②	弥・甕	口：(27.0) 残：16.9	外：にぶい橙色～黒褐色 内：にぶい黄橙色	2㎜以下の砂粒、雲母を少量含む	良	口：ナナメハケ 体・外：タテハケ 体・内：ヨコハケ	外面全体に煤付着	220058
第12図12		6005号竪穴住居	図③	弥・甕	口：(30.0) 残：10.7	外：黒褐色 内：にぶい褐色	1㎜以下の砂粒、雲母を多量に含む	良	口：ヨコナデ、ハケ 体・外：タタキのちハケ 体・内：ハケ	外面全体が黒斑状	220059
第12図13		6005号竪穴住居	北東部	弥・大甕	残：16.5	外：にぶい黄褐色 内：にぶい黄橙色	2㎜以下の砂粒を多量に含む	良	口：刻み目 外・内：ハケ	頸部に貼付突帯、刻み目を施す	220060
第12図14		6005号竪穴住居	南西部	弥・鉢	口：(18.4) 残：8.0	外：浅黄橙色 内：にぶい黄橙色	3㎜以下の砂粒、雲母を含む	良	口：ヨコナデ 体・外：タテハケ、工具ナデ 体・内：タテハケ	体部外面に黒斑	220061
第12図15	17	6005号竪穴住居	図⑤	土・台付鉢	口：12.0 脚：10.5 高：6.6	外・内：にぶい黄橙色	2㎜以下の砂粒を含む	良	口：ヨコナデ 体・外：ヨコナデ 体・内：工具ナデ、ミガキ	外面に黒斑、脚部端に煤付着	220062
第12図16		6005号竪穴住居	北東部	土・器台	脚：10.8 残：3.2	外：浅黄橙色 内：にぶい黄橙色	3㎜以下の砂粒、雲母を含む	良	脚・外：ナデ 脚・内：ヨコハケ	3ヵ所の穿孔	220063
第12図17		6005号竪穴住居	SK1	土・器台	脚：(13.0) 残：3.4	外：褐灰色～灰黄褐色 内：灰黄褐色	1㎜以下の砂粒、雲母を少量含む	良	脚・外：暗文 脚・内：ハケ	穿孔あり	220064
第14図1		6006号竪穴住居	北西部	弥・甕	口：(23.3) 残：20.5	外・内：にぶい黄橙色	雲母、1.5㎜以下の砂粒を少量含む	良	口：ヨコナデ、ハケ 体：タテハケ	外面に煤付着、被熱による赤変	220065
第14図2		6006号竪穴住居	図⑤	弥・甕	残：12.7	外・内：にぶい黄橙色	雲母、2㎜以下の砂粒を少量含む	良	口：ヨコナデ、ハケ 体：ナナメハケ	外面に煤付着	220066
第14図3		6006号竪穴住居	北東部	弥・甕	残：11.5	外：にぶい黄橙色 内：灰黄褐色	雲母、1㎜以下の砂粒を少量含む	良	口：ヨコナデ、ハケ 体・外：タテハケ 体・内：ナナメハケ		220067
第14図4		6006号竪穴住居	北西部	弥・甕	残：9.7	外・内：にぶい黄橙色	雲母、1㎜以下の砂粒を少量含む	良	口：ヨコナデ、ハケ 体：タテハケ	外面に煤付着	220068
第14図5	17	6006号竪穴住居	図①	弥・高坏	脚：(10.0) 残：6.85	外・内：浅黄橙色	雲母、1㎜以下の砂粒を少量含む	良	坏：工具ナデのちミガキ 脚：ハケのちミガキ		220069
第14図6	17	6006号竪穴住居	北西部	土・甕	口：(19.6) 残：15.1	外・内：にぶい黄橙色	雲母、1㎜以下の砂粒を少量含む	良	口：ヨコナデ 体・外：タテハケ、工具ナデ 体・内：ハケのち工具ナデ	胴部外面下部に黒斑	220070
第14図7	17	6006号竪穴住居	北西部	土・甕	口：(15.8) 残：15.55	外・内：にぶい黄橙色	雲母・角閃石、1㎜以下の砂粒を少量含む	良	口：ヨコナデ、工具ナデ 体・外：タテハケ 体・内：ヨコハケ	外面に煤付着	220071
第14図8	18	6006号竪穴住居	南西部	土・小型壺	口：(11.5) 残：8.5	外：にぶい黄橙色～褐灰色 内：にぶい黄橙色	雲母、1㎜以下の砂粒を少量含む	良	口：ヨコナデ、ハケ 体・外：不定方向ハケのちミガキ 体・内：工具ナデのちミガキ 底：手持ちケズリのちミガキ		220072
第14図9	18	6006号竪穴住居	北東部	弥・鉢？	口：(27.4) 残：10.8	外：浅黄橙色 内：明黄褐色～にぶい黄橙色	雲母、1㎜以下の砂粒を少量含む	良	口：ヨコナデ 外：タテハケのちミガキ 内：不定方向ハケのちミガキ	体部外面下部に黒斑及び煤付着、被熱による赤変	220073

法量＝口：口径、高：器高、底：底径、台：高台径、頸：頸部径、脚：脚部裾径、残：残存高
器種＝弥：弥生土器、土：土師器、須：須恵器

挿図番号	図版番号	出土遺構		器種	法量cm・(復元値)	色調	胎土	焼成	成形・調整方法	備考	登録番号
第14図10		6006号竪穴住居	ベルト内	弥・高坏	口：(31.0) 残：7.65	外：暗黄褐色 内：橙色	雲母、1㎜以下の砂粒を少量含む	良	口：ヨコナデ 体・外：タテハケ 体・内：ハケのちミガキ	坏部外面下部に黒斑	220074
第14図11		6006号竪穴住居	図③	弥・高坏	口：(29.2) 残：7.1	外・内：暗黄褐色	雲母、1㎜以下の砂粒を少量含む	良	口：ヨコナデ 体・外：タテハケ 体・内：ナナメハケ		220075
第15図1		6008号竪穴住居	北東部	弥・壺	残：13.3	外：にぶい黄橙色 内：灰黄褐色	雲母、3㎜以下の砂粒を少量含む	良	口：ヨコナデ、ハケ	頸部に刻目突帯	220076
第15図2		6008号竪穴住居	南北ベルト・北	弥・鉢	口：(27.4) 残：10.9	外・内：橙色	雲母、1㎜以下の砂粒を少量含む	良	口：ヨコナデ 体・外：摩滅 体・内：ヨコハケ	外面に丹塗痕跡	220077
第15図3	18	6008号竪穴住居	南北ベルト・北上層	土・甕	口：(17.5) 残：14.2	外・内：明黄褐色	雲母、3㎜以下の砂粒を少量含む	良	口：ヨコナデ 体・外：ハケ、工具ナデ 体・内：ケズリ		220078
第15図4		6008号竪穴住居	図①	土・甕	口：(19.0) 残：5.8	外：明黄褐色 内：にぶい黄褐色	雲母、1㎜以下の砂粒を少量含む	良	口：工具ナデ 体・外：ナナメハケ 体・内：ヨコハケ		220079
第15図5		6008号竪穴住居	-	土・甕	口：(16.7) 残：3.8	外・内：にぶい黄褐色	雲母、1㎜以下の砂粒を少量含む	良	口：ハケ、ヨコナデ 体・外：タテハケ 体・内：ケズリ		220080
第15図6	18	6008号竪穴住居	北東部	土・甕	胴部最大径：26.6 残：20.6	外・内：にぶい黄橙色	雲母、1.5㎜以下の砂粒を少量含む	良	体・外：ハケのち工具ナデ消し 体・内：ハケ	底部外面に黒斑、体部外面に被熱による赤変	220081
第15図7		6008号竪穴住居	北東部	土・壺	残：6.05	外・内：浅黄橙色	雲母、0.5㎜以下の砂粒を少量含む	良	外：ミガキ 内：ナデ、ケズリ		220082
第15図8		6008号竪穴住居	北東部	土・高坏	口：(19.6) 残：4.7	外・内：にぶい黄橙色	雲母、1㎜以下の砂粒を少量含む	良	口：ヨコナデ 体・外：ミガキ 体・内：ミガキのち放射状暗文		220083
第15図9	18	6008号竪穴住居	北東部	土・高坏	脚：(11.6) 残：6.45	外・内：黄橙色	雲母、1㎜以下の砂粒を少量含む	良	脚・外：ハケのちミガキ 体・内：ハケ	3ヵ所の穿孔	220084
第15図10	18	6008号竪穴住居	北東部	土・器台	脚：11.5 残：7.3	外・内：にぶい黄橙色	雲母、0.5㎜以下の砂粒を少量含む	良	脚・外：ミガキ 脚・内：ハケ	4ヵ所の穿孔	220085
第15図11	18	6008号竪穴住居	北東部	土・蓋	口：19.0 残：3.75	外：にぶい黄橙色 内：橙色	雲母、0.5㎜以下の砂粒を少量含む	良	体・外：ミガキ 体・内：ハケ	3ヵ所の穿孔、外面端部に煤付着	220086
第18図1	18	6210号竪穴住居	図④	弥・甕	口：(18.0) 残：21.0	外：黒褐色～浅黄橙色 内：灰黄褐色	2㎜以下の砂粒を含む	良	口：ヨコナデ 体・外：タタキのちケズリ 体・内：ハケ	体部外面全体が黒斑化、中位に煤付着 体部内面に焦げ付き	220087
第18図2		6210号竪穴住居	図②	弥・壺?	残：15.7	外・内：明黄褐色	3㎜以下の砂粒、雲母を少量含む	良	体・外：タタキのちナデ消し 体・内：工具ナデ、ケズリ	内面に黒斑	220088
第18図3		6210号竪穴住居	南西部	弥・鉢	口：(28.6) 残：10.2	外：灰褐色～黒色 内：褐灰色～にぶい黄橙色	5㎜以下の砂粒を含む	良	口：ヨコナデ 体・外：タテハケ、工具ナデ 体・内：タテハケ	体部内外綿に黒斑	220089
第18図4		6210号竪穴住居	図⑤	弥・鉢	口：13.7 残：5.8	外・内：明黄褐色	3㎜以下の砂粒、雲母を少量含む	良	口：ヨコナデ 体・外：タテハケ、ミガキ 体・内：工具ナデ	口縁部は手捏ね風	220090
第18図5		6210号竪穴住居	-	弥・鉢	残：4.5	外：明黄褐色～黒褐色 内：にぶい黄褐色	2㎜以下の砂粒、雲母を少量含む	良	口：ヨコナデ 体・外：工具ナデ 体・内：ナナメハケ	外面に黒斑	220091
第18図6		6210号竪穴住居	北東部	弥?・高坏	残：3.0	外：にぶい黄橙色 内：橙色	1㎜以下の砂粒、雲母を少量含む	良	坏：工具ナデ		220092
第18図7	18	6210号竪穴住居	北西部	弥?・高坏	残：11.2	外：橙色 内：明黄褐色～灰黄褐色	1㎜以下の砂粒を含む	良	脚・外：タテハケ、ミガキ 脚・内：工具ナデ	二段の穿孔が2カ所	220093
第18図8		6210号竪穴住居	北東部	弥・器台	底：(18.4) 残：15.1	外・内：にぶい黄橙色	2㎜以下の砂粒、雲母を少量含む	良	体・外：タテハケ、工具ナデ 体・内：ナナメハケ、指ナデ	外面に黒斑	220094
第18図9		6210号竪穴住居	南西部	弥・器台	頂部：(7.4) 残：8.9	外：にぶい黄橙色～灰黄褐色 内：灰黄褐色	1㎜以下の砂粒、雲母を少量含む	良	体・外：タテハケ 体・内：不定方向ハケ	外面に黒斑	220095
第18図10		6210号竪穴住居	北東部	弥・器台	脚：(11.0) 残：7.6	外：浅黄橙色 内：灰白色	1㎜以下の砂粒、雲母を少量含む	良	体・外：タタキのち工具ナデ 体・内：指ナデ		220096
第19図1		6210号竪穴住居	図②	土・甕	口：(17.5) 残：4.65	外・内：にぶい黄橙色	1㎜以下の砂粒、雲母を少量含む	良	口：工具ナデ 体・外：タテハケ 体・内：ヨコハケ		220097
第19図2		6210号竪穴住居	図⑤・北東部	土・甕	口：(16.6) 残：5.4	外・内：にぶい黄橙色	1㎜以下の砂粒、雲母を少量含む	良	口：工具ナデ 体・外：ナナメハケ 体・内：ケズリ		220098
第19図3		6210号竪穴住居	北東部	土・甕	口：(17.6) 残：4.6	外・内：浅黄橙色	1㎜以下の砂粒、雲母を少量含む	良	口：工具ナデ 体・外：ナデ 体・内：ケズリ		220099

法量＝口：口径、高：器高、底：底径、台：高台径、頸：頸部径、脚：脚部裾径、残：残存高
器種＝弥：弥生土器、土：土師器、須：須恵器

挿図番号	図版番号	出土遺構		器種	法量cm・(復元値)	色調	胎土	焼成	成形・調整方法	備考	登録番号
第19図4		6210号竪穴住居	北ベルト	土・甕	口：(18.2) 残：7.2	外：浅黄色～黒褐色 内：にぶい黄橙色～黒褐色	1㎜以下の砂粒を極微量に含む	良	口：工具ナデ 体・外：ナデ 体・内：ケズリ		220100
第19図5		6210号竪穴住居	北西部	土・甕	口：(16.6) 残：9.4	外：にぶい黄褐色～灰褐色 内：灰黄褐色	2㎜以下の砂粒を少量含む	良	口：ヨコナデ、ヨコハケ 体・外：タテハケ 体・内：ハケ、ケズリ	体部外面に煤付着	220101
第19図6	18	6210号竪穴住居	北西部	土・甕	口：(15.8) 残：9.8	外：明黄褐色 内：橙色～明黄褐色	1.5㎜以下の砂粒、雲母を少量含む	良	口：工具ナデ 体・外：ハケ 体・内：ケズリ		220102
第19図7		6210号竪穴住居	ベルト内	土・甕	頸：(13.0) 残：8.8	外・内：にぶい黄橙色	1㎜以下の砂粒、雲母を少量、角閃石を極微量含む	良	体・外：ハケ 体・内：ハケのちケズリ		220103
第19図8		6210号竪穴住居	図③・④	土・甕	口：(14.8) 残：3.85	外・内：黄橙色	1㎜以下の砂粒、雲母を少量含む	良	口：工具ナデ 体・外：タテハケ 体・内：ケズリ	口縁～体部外面に煤付着	220104
第19図9		6210号竪穴住居	北西部	土・甕	口：(17.8) 残：6.8	外：橙色 内：にぶい黄褐色	1㎜以下の砂粒、雲母を少量含む	良	口：工具ナデ 体・外：摩滅 体・内：ケズリ	体部内面に煤付着	220105
第19図10	18	6210号竪穴住居	図②	土・甕	頸：(7.3) 残：20.4	外：にぶい黄橙色 内：橙色	1㎜以下の砂粒、雲母を少量含む	良	体・外：ハケ 体・内：ハケのち工具ナデ		220106
第19図11		6210号竪穴住居	図⑤・北東部	土・壺	口：(11.6) 残：9.2	外：にぶい黄橙色～褐灰色 内：にぶい黄橙色～灰黄褐色	1㎜以下の砂粒、雲母を少量含む	良	口：工具ナデ 体・外：摩滅 体・内：工具ナデ		220107
第19図12		6210号竪穴住居	北東部	土・小型壺	口：(7.6) 残：4.55	外・内：明黄褐色	1㎜以下の砂粒、雲母を少量含む	良	摩滅のため不明		220108
第19図13		6210号竪穴住居	南西部	土・高坏	残：2.5	外・内：橙色	1㎜以下の砂粒を少量含む	良	口：刻み目 坏・外：工具ナデ 坏・内：ヨコハケ、ミガキ		220109
第19図14	18	6210号竪穴住居	ベルト内	ミニチュア・器台	脚：(10.4) 残：3.5	外・内：褐灰色	1㎜以下の砂粒、雲母を少量含む	良	脚・外：ミガキ 脚・内：工具ナデ	器台脚部の形状	220110
第19図15		6210号竪穴住居	北西部	土・高坏	残：9.0	外・内：橙色	2㎜以下の砂粒を少量含む	良	坏：ミガキ 脚：工具ナデ		220111
第19図16	18	6210号竪穴住居	北西部	土・高坏?	脚：(15.2) 残：1.7	外：にぶい黄橙色 内：橙色～にぶい黄橙色	1㎜以下の砂粒を含む	良	口：ヨコナデ 脚：工具ナデ	4ヵ所の穿孔	220112
第22図1		6270号竪穴住居	北東部	弥・高坏	残：4.4	外・内：橙色	1㎜以下の砂粒を含む	良	口：ヨコナデ 体・外：ハケのちナデ消し、ミガキ 体・内：ナデ		220113
第22図2		6270号竪穴住居	図②	土・高坏	残：4.4	外・内：橙色	1㎜以下の砂粒を含む	良	外・内：摩滅により不明		220114
第22図3		6270号竪穴住居	図①	弥？・高坏	口：(23.8) 残：5.2	外・内：橙色	1㎜以下の砂粒を含む	良	口：ヨコナデ 体・外：ハケのちナデ消し 体・内：ミガキ	外面に煤付着	220115
第22図4		6270号竪穴住居	図②・南西部	土・壺	口：(14.8) 残：6.9	外・内：橙色	1㎜以下の砂粒を含む	良	口：ヨコナデ 体・外：ナデ 体・内：ハケ、暗文状ミガキ		220116
第22図5		6270号竪穴住居	南東部	土・鉢	口：(13.4) 高：5.3	外・内：灰黄褐色～にぶい黄橙色	2㎜以下の砂粒を少量含む	良	口：ヨコナデ 体・外：ケズリ？ 体・内：工具ナデ		220117
第22図6		6275号竪穴住居	南部	土・小型壺	口：(11.2) 残：5.8	外：灰黄褐色 内：灰黄褐色～明黄褐色	雲母、0.5㎜以下の砂粒を少量含む	良	口：ミガキ 体・外：ハケのちミガキ 体・内：工具ナデのちミガキ		220118
第22図7		6275号竪穴住居	北部・南部	土・小型壺	口：(13.6) 残：13.8	外：橙色 内：浅黄橙色	雲母、1.0㎜以下の砂粒を少量含む	良	口：ヨコナデ 体・外：タテハケ、手持ちケズリ 体・内：工具ナデ、ミガキ		220119
第25図1		6280号竪穴住居	図③	弥・甕	残：12.8	外：灰黄褐色～黒褐色 内：にぶい橙色～黒褐色	雲母、3㎜以下の砂粒を多量に含む	良	体・外：タテハケ 体・内：工具ナデ		220120
第25図2		6280号竪穴住居	図②	弥?・鉢	口：(16.0) 残：5.7	外：にぶい黄褐色 内：灰黄褐色～褐灰色	雲母、角閃石、3㎜以下の砂粒を多量に含む	良	口：工具ナデ 体・外：工具ナデ 体・内：ハケ		220121
第25図3		6280号竪穴住居	南東部	弥?・鉢	口：(15.0) 残：5.8	外・内：橙色	雲母、3㎜以下の砂粒を多量に含む	良	口：ヨコナデ 体・外：工具ナデ？ 体・内：ナナメハケ、暗文		220122
第25図4		6280号竪穴住居	北東部	ミニチュア・高坏	口：5.3 残：2.4	外：黒褐色～にぶい黄橙色 内：褐色	雲母、4㎜以下の砂粒を少量含む	良	外・内：指ナデ		220123

法量＝口：口径、高：器高、底：底径、台：高台径、頸：頸部径、脚：脚部裾径、残：残存高
器種＝弥：弥生土器、土：土師器、須：須恵器

挿図番号	図版番号	出土遺構		器種	法量cm・(復元値)	色調	胎土	焼成	成形・調整方法	備考	登録番号
第25図5		6280号竪穴住居	北東部	土・鉢?	残：6.5	外・内：橙色	雲母、3㎜以下の砂粒を少量含む	良	口：ヨコナデ 体・外：タテハケ 体・内：ナデ		220124
第25図6		6280号竪穴住居	南西部	土・鉢?	口：(12.6) 高：2.6	外：明黄褐色 内：明黄褐色～黒褐色	雲母、2㎜以下の砂粒を少量含む	良	口：ヨコナデ 体・外：ヨコハケ 体・内：ナナメハケ		220125
第25図7		6280号竪穴住居	南東部	土・鉢	口：(1.0) 底：(3.1) 高：5.0	外：橙色 内：明黄褐色	雲母、2㎜以下の砂粒を少量含む	良	口：ヨコナデ 体・外：工具ナデ 体・内：摩滅	口縁部外面に黒斑	220126
第25図8	18	6280号竪穴住居	図①	土・鉢	口：12.8 高：6.1	外：にぶい橙色～黒色 内：橙色～にぶい褐色	雲母、2㎜以下の砂粒を少量含む	良	口：ヨコナデ 体：工具ナデ	外面に黒斑	220127
第25図9	18	6280号竪穴住居	-	土・台付鉢	口：(13.4) 高：6.1	外・内：にぶい橙色	雲母、角閃石、2㎜以下の砂粒を多量に含む	良	口：ヨコナデ 体・外：摩滅 体・内：ナデ		220128
第25図10		6285号竪穴住居	南西部	弥・甕	口：(22.6) 残：11.8	外：にぶい褐色 内：明黄褐色	2㎜以下の砂粒を大量に含む	良	口：ヨコナデ、ヨコハケ 体・外：タテハケ 体・内：ナナメハケ	外面に煤付着	220129
第25図11		6285号竪穴住居	北西部	弥・鉢	残：14.5	外・内：浅黄橙色	3㎜以下の砂粒を少量含む	良	口：ヨコナデ 体・外：タテハケ 体・内：工具ナデ？	外面全体に黒斑	220130
第25図12		6285号竪穴住居	南東部	弥・鉢	口：(21.6) 残：8.4	外：褐灰色 内：灰白色	2㎜以下の砂粒を微量に含む	良	口：ヨコナデ 体・外：ナデ、タテハケ 体・内：ハケ、工具ナデ		220131
第27図1	19	6290号竪穴住居	-	弥・壺?	口：(13.6) 残：13.8	外：橙色 内：にぶい褐色	雲母、3.0㎜以下の砂粒を中量含む	良	外・内：粗い指ナデ	頸部に貼付突帯、口縁部内面に粘土帯接合のための刺突痕	220132
第27図2		6290号竪穴住居	図①	弥・鉢	口：(7.8) 残：7.2	外：橙色～褐灰色 内：にぶい黄褐色～黒褐色	雲母、1㎜以下の砂粒を少量含む	良	外・内：工具ナデ、指ナデ		220133
第27図3	19	6290号竪穴住居	図②	土・壺	口：(17.9) 残：16.1	外：橙色～にぶい橙色 内：橙色	雲母、3.0㎜以下の砂粒を少量含む	良	口：工具ナデ 体：タテハケ	頸部外面に黒斑	220134
第29図1		6295号竪穴住居	北東部	弥・大甕	残：6.95	外・内：にぶい黄橙色	雲母、3㎜以下の砂粒を少量含む	良	口：ヨコナデ、刻み目 外・内：ハケ		220135
第29図2		6295号竪穴住居	南東部	弥・壺	口：(23.2) 残：8.6	外・内：にぶい黄橙色	雲母、3㎜以下の砂粒を少量含む	良	口：ヨコナデ、工具ナデ 体・外：タテハケ 体・内：ハケのちナデ消し		220136
第29図3		6295号竪穴住居	北西部	弥・壺	口：(15.7) 残：5.4	外：にぶい橙色 内：橙色	雲母、1㎜以下の砂粒を少量含む	良	口：ヨコナデ 体・外：タテハケ 体・内：ナナメハケ、工具ナデ		220137
第29図4		6295号竪穴住居	図①	弥・壺	口：(13.2) 残：4.65	外・内：にぶい黄橙色	雲母、1㎜以下の砂粒を少量含む	良	口：ヨコナデ 外：タテハケ 内：ヨコハケ		220138
第29図5	19	6295号竪穴住居	北西部	弥・台付鉢	口：(16.0) 残：7.5	外・内：にぶい橙色	雲母、1㎜以下の砂粒を少量含む	良	口：ヨコナデ 体・外：ミガキ 体・内：工具ナデ状ミガキ	体部外面に黒斑	220139
第29図6		6295号竪穴住居	北西部	弥・台付鉢	脚：(13.8) 残：4.1	外：にぶい黄橙色～褐灰色 内：灰黄褐色～黒色	雲母、1㎜以下の砂粒を少量含む	良	外：ミガキ 内：工具ナデ		220140
第29図7	19	6295号竪穴住居	北西部	弥・高坏	脚：(14.8) 残：13.4	外・内：橙色	1㎜以下の砂粒を少量含む	良	外：ミガキ？、タテハケ 内：ナデ、ヨコハケ		220141
第29図8		6295号竪穴住居	ベルト内	土・甕	口：(15.3) 残：9.95	外・内：灰白色	雲母、1㎜以下の砂粒を少量含む	良	口：工具ナデ 体・外：ヨコハケ 体・内：工具ナデ		220142
第29図9		6295号竪穴住居	北東部	土・甕	口：(15.3) 残：4.6	外：にぶい黄橙色～黒褐色 内：灰白色～黒褐色	雲母、1㎜以下の砂粒を少量含む	良	口：工具ナデ 体・外：ナデ 体・内：ケズリ	体部内外面に黒斑、口縁部外面に被熱による赤変	220143
第29図10	19	6295号竪穴住居	図④・南東部	土・壺	口：(10.3) 残：12.6	外：にぶい黄橙色～黒色 内：にぶい黄橙色	雲母、1㎜以下の砂粒を少量含む	良	口：工具ナデ 体・外：タテハケ 体・内：工具ナデ	口縁部から体部外面に黒斑	220144
第29図11		6295号竪穴住居	北西部	土・鉢	口：(14.3) 残：3.3	外：灰白色～黒色 内：にぶい黄橙色	雲母、1㎜以下の砂粒を少量含む	良	口：工具ナデ 体・外：工具ナデ 体・内：ハケのち工具ナデ		220145
第31図1		6170号土坑	-	土・鉢	残：8.0	外：にぶい橙色 内：浅黄橙色	雲母、1㎜以下の砂粒を少量含む	良	外・内：摩滅		220146
第31図2		6205号土坑	-	弥・甕	口：(21.0) 残：11.7	外・内：にぶい黄橙色	雲母、4㎜以下の砂粒を少量含む	良	口：ハケ 体・外：タタキのちタテハケ 体・内：不定方向ハケ	体部外面に煤付着	220147

法量＝口：口径、高：器高、底：底径、台：高台径、頸：頸部径、脚：脚部裾径、残：残存高
器種＝弥：弥生土器、土：土師器、須：須恵器

挿図番号	図版番号	出土遺構		器種	法量cm・(復元値)	色調	胎土	焼成	成形・調整方法	備考	登録番号
第31図3	19	6205号土坑	-	土・鉢	口：(9.5) 高：8.0	外：にぶい橙色 内：にぶい黄橙色～褐灰色	雲母、4㎜以下の砂粒を多量に含む	良	口：ヨコナデ 体・外：工具ケズリ? 体・内：工具ナデ		220148
第31図4	19	6205号土坑	-	弥・鉢	口：16.3 高：6.6	外・内：にぶい黄橙色～褐灰色	雲母、2㎜以下の砂粒を少量含む	良	口：ヨコナデ 体・外：工具ケズリ? 体・内：工具ナデ		220149
第31図5		6205号土坑	-	土・器台もしくは高坏	脚：(11.2) 残：2.7	外・内：灰白色	雲母、1㎜以下の砂粒を多量に含む	良	脚：工具ナデ		220150
第32図P305		305号ピット	-	弥・甕	残：4.9	外：にぶい黄橙色 内：灰黄褐色	2㎜以下の砂粒を少量含む	良	口：タテハケのちナデ消し 体・外：ヨコハケ 体・内：ナナメハケ	体部外面に煤付着	220151
第32図P317		317号ピット	-	弥・壺	口：(17.3) 残：6.0	外・内：にぶい橙色	2㎜以下の砂粒を少量含む	良	口：刻み目、櫛型文	口縁端部に煤付着	220152
第32図P421		421号ピット	-	弥・鉢	口：(25.6) 残：12.4	外：黒褐色～にぶい黄橙色 内：にぶい黄橙色	2㎜以下の砂粒を少量含む	良	口：ヨコナデ 体・外：ハケ、工具ナデ 体・内：ハケのちナデ消し	体部外面に黒斑	220153
第33図1		6085号竪穴住居	南西部	土・甕	残：3.5	外・内：黄橙色	1㎜以下の砂粒、雲母を少量含む	良	口：ヨコナデ 内：ケズリ		220154
第33図2		6085号竪穴住居	図②	須・甕	口：(13.6) 残：7.3	外：灰黄褐色 内：褐灰色～にぶい黄褐色	1㎜以下の砂粒を少量含む	良	口：回転ナデ 外：カキメ 内：回転ナデ		220155
第33図3		6085号竪穴住居	図③	須・甕	口：(19.7) 残：7.6	外・内：灰色	1㎜以下の砂粒を少量含む	良	口：回転ナデ 外：格子タタキ 内：同心円文当具痕		220156
第33図4		6095号竪穴住居	南北ベルト	土・甕	口：(10.8) 残：5.3	外・内：橙色	1㎜以下の砂粒、雲母を少量含む	良	口：ヨコナデ 外：摩滅 内：ケズリ		220157
第33図5		6095号竪穴住居	南東部	須・坏蓋	口：(11.8) 残：3.1	外・内：灰色	1㎜以下の砂粒を少量含む	良	外：回転ナデ、回転ヘラケズリ 内：回転ナデ		220158
第33図6		6095号竪穴住居	北東部	須・坏身	口：(10.6) 残：4.5	外・内：暗青灰色	1㎜以下の砂粒を少量含む	良	外：回転ナデ、回転ヘラケズリ 内：回転ナデ		220159
第33図7		6095号竪穴住居	南西部	須・坏身	口：(10.8) 高：4.2	外：黄灰色 内：暗黄灰色	1㎜以下の砂粒を少量含む	良	外：回転ナデ、回転ヘラケズリ 内：回転ナデ		220160
第33図8		6095号竪穴住居	北西部	須・高坏	口：(8.1) 残：4.4	外：灰色 内：褐灰色	1㎜以下の砂粒を少量含む	良	外：回転ナデ、回転ヘラケズリ 内：回転ナデ		220161
第36図1		6200号竪穴住居	-	土・甕	口：(22.0) 残：6.7	外：橙色 内：明黄褐色～橙色	1～3㎜の砂粒を含む	良	口：ヨコナデ 外：タテハケ 内：工具ケズリ		220162
第36図2	19	6200号竪穴住居	南西部	須・坏蓋	口：(10.7) 残：3.0	外・内：灰色	1㎜以下の砂粒を少量含む	良	外：回転ナデ、回転ヘラケズリ 内：回転ナデ	頂部外面にヘラ記号	220163
第36図3	19	6200号竪穴住居	北西部	須・坏蓋	口：(14.0) 残：2.2	外：黄褐色 内：にぶい黄褐色	1㎜以下の砂粒を少量含む	良	外：回転ナデ、回転ヘラケズリ 内：回転ナデ		220164
第36図4		6200号竪穴住居	北西部	須・坏蓋	口：(14.0) 残：2.2	外：赤褐色 内：にぶい褐色	1㎜以下の砂粒を少量含む	良	外：回転ナデ、回転ヘラケズリ 内：回転ナデ		220165
第36図5	19	6200号竪穴住居	北東部	須・坏蓋	口：(14.0) 残：2.0	外：暗青灰色 内：青灰色	1㎜以下の砂粒を少量含む	良	外：回転ナデ、回転ヘラケズリ 内：回転ナデ		220166
第36図6	19	6200号竪穴住居	-	須・坏身	口：(9.0) 高：3.0	外：褐灰色～灰褐色 内：灰褐色	1㎜以下の砂粒を少量含む	良	外：回転ナデ、手持ちケズリ 内：回転ナデ		220167
第36図7		6200号竪穴住居	-	須・瓶	底：(7.0) 残：4.4	外・内：灰色	1㎜以下の砂粒を少量含む	良	外：回転ナデ 内：回転ナデ 底：不定方向ナデ	底部外面にヘラ記号	220168
第41図1		6500号竪穴住居	図②	土・甕	口：(13.2) 残：8.0	外・内：黄橙色	雲母、1㎜以下の砂粒を少量含む	軟	口：ヨコナデ 体・外：タテハケ 内：ケズリ		220169
第41図2		6500号竪穴住居	北東部	土・甕	口：(14.7) 残：6.25	外・内：橙色	雲母、1㎜以下の砂粒を少量含む	良	口：ヨコナデ 体・外：タテハケ 体・内：ケズリ	口縁部内面に黒斑及び煤付着	220170
第41図3		6500号竪穴住居	図③	土・把手	残：8.0	外・内：浅黄橙色	雲母、1㎜以下の砂粒を少量含む	良	外：指ナデ		220171
第41図4	19	6500号竪穴住居	図①	須・高坏	口：10.8 残：3.6	外・内：灰白色	1㎜以下の砂粒を少量含む	軟	口：回転ナデ 外：回転ナデ、回転ヘラケズリ 内：回転ナデ		220172
第41図5		6500号竪穴住居	北西部	須・高坏?	脚：(8.0) 残：3.6	外・内：灰色	1㎜以下の砂粒を少量含む	良	外・内：回転ナデ		220173
第41図6	19	6520号竪穴住居	カマド粘土内	土・高坏	口：10.5 残：8.4	外・内：浅黄橙色	1㎜以下の砂粒を微量に含む	軟	体・外：工具ナデ、工具ケズリ 体・内：回転ナデ	口縁部外面に黒斑	220174
第41図7		6520号竪穴住居	東部	土・高坏?	脚：(11.7) 残：3.0	外・内：浅黄橙色	1㎜以下の砂粒を微量に含む	軟	摩滅のため不明		220175
第41図8		6520号竪穴住居	東部	須・坏身	残：2.8	外・内：灰白色	1㎜以下の砂粒を少量含む	良	外・内：回転ナデ		220176

法量＝口：口径、高：器高、底：底径、台：高台径、頸：頸部径、脚：脚部裾径、残：残存高
器種＝弥：弥生土器、土：土師器、須：須恵器

挿図番号	図版番号	出土遺構		器種	法量cm・(復元値)	色調	胎土	焼成	成形・調整方法	備考	登録番号
第41図9		6520号竪穴住居	ベルト内	須・甕	口：(18.2) 残：4.6	外・内：灰白色	1㎜以下の砂粒を少量含む	軟	摩滅のため不明		220177
第41図10		6540号竪穴住居	南西部	須・坏身	残：2.2	外・内：灰色	1㎜以下の砂粒を少量含む	良	外・内：回転ナデ		220178
第41図11		6540号竪穴住居	北東部	須・坏身	口：(9.2) 残：2.3	外・内：灰白色	1㎜以下の砂粒を少量含む	良	外・内：回転ナデ		220179
第44図1		6550号竪穴住居	-	土・甕	残：5.75	外・内：黄橙色	雲母、1㎜以下の砂粒を少量含む	良	口：ヨコナデ 体・外：タテハケ 体・内：ケズリ		220180
第44図2		6550号竪穴住居	南部	土・甕	残：4.75	外・内：にぶい橙色	雲母、1㎜以下の砂粒を少量含む	良	口：ヨコナデ 体・外：タテハケ 体・内：ケズリ		220181
第44図3		6550号竪穴住居	カマド粘土内	土・甑	残：7.2	外：にぶい橙色 内：灰褐色	雲母、1㎜以下の砂粒を少量含む	良	口：ヨコナデ 体・外：タテハケ 体・内：ケズリ	体部外面に黒斑	220182
第44図4	19	6550号竪穴住居	南部	須・坏蓋	口：11.4 残：3.4	外・内：灰色	1㎜以下の砂粒を少量含む	良	口：回転ナデ 外：回転ナデ、回転ヘラケズリ 内：回転ナデ	頂部外面にヘラ記号	220183
第44図5		6550号竪穴住居	ベルト内	須・坏身	口：(10.5) 残：3.1	外・内：灰白色	1㎜以下の砂粒を少量含む	良	口：回転ナデ 外：摩滅 内：回転ナデ		220184
第44図6		6550号竪穴住居	-	須・坏身	口：(11.9) 残：3.6	外・内：灰白色	1㎜以下の砂粒を少量含む	良	口：回転ナデ 外：回転ナデ、回転ヘラケズリ 内：回転ナデ	底部外面にヘラ記号	220185
第44図7		6580号竪穴住居	南西拡張部	土・甕	口：(9.6) 残：4.0	外・内：橙色	雲母、1㎜以下の砂粒を少量含む	良	口：ヨコナデ 外：タテハケ 内：ケズリ		220186
第44図8	19	6580号竪穴住居	拡張部	須・坏蓋	口：13.7 高：3.8	外・内：灰オリーブ色	1㎜以下の砂粒を少量含む	良	口：回転ナデ 外：回転ナデ、回転ヘラケズリ 内：回転ナデ、不定ナデ	回転ヘラケズリは隙間あり	220187
第44図9		6580号竪穴住居	南東部	須・坏身	口：(11.6) 残：2.7	外・内：灰色	1㎜以下の砂粒を少量含む	良	口：回転ナデ 外：回転ナデ、回転ヘラケズリ 内：回転ナデ		220188
第44図10		6580号竪穴住居	南西拡張部	須・𤭯	口：(10.8) 残：3.7	外：灰色 内：灰白色	1㎜以下の砂粒を少量含む	良	外・内：回転ナデ		220189
第44図11	19	6580号竪穴住居	図①	須・𤭯	底：5.1 残：14.8	外・内：灰白色	1㎜以下の砂粒を少量含む	良	口：回転ナデ、櫛歯文 外：回転ナデ、カキメ、刻み目、回転ヘラケズリ 内：回転ナデ	底部外面にヘラ記号	220190
第45図		6007号掘立柱建物	-	須・坏蓋	口：(11.8) 高：2.1	外・内：灰色	1㎜以下の砂粒を少量含む	良	口：回転ナデ 外：回転ナデ、回転ヘラケズリ 内：回転ナデ		220191
第49図1		6081号土坑	-	須・坏身	口：(9.0) 残：3.9	外：灰色 内：灰白色	3㎜以下の砂粒を少量含む	良	口：回転ナデ 外：回転ナデ、回転ヘラケズリ 内：回転ナデ		220192
第49図2		6086号土坑	-	土・甕	残：5.5	外：黄褐色 内：褐色	雲母、2㎜以下の砂粒を少量含む	良	体・外：ヨコナデ 体・内：ケズリ		220193
第49図3		6115号土坑	北部	須・瓶	口：(11.5) 残：3.2	外・内：灰色	1㎜以下の砂粒を含む	良	口：回転ナデ 体：回転ナデ		220194
第49図4		6115号土坑	南東部	土・把手	残：6.0	外・内：明黄褐色	3㎜以下の砂粒を含む	良	外：指ナデ		220195
第49図5		6115号土坑	北部	土・把手	残：6.5	外・内：橙色	3㎜以下の砂粒を多量に含む	良	外：指ナデ		220196
第52図1		6125号土坑	-	須・坏蓋	口：(9.0) 残：2.8	外・内：灰白色	2㎜以下の砂粒を少量含む	良	口：回転ナデ 外：回転ナデ、回転ヘラケズリ 内：回転ナデ		220197
第52図2		6125号土坑	-	須・坏身	台：(6.0) 残：2.3	外：灰色 内：褐灰色	1㎜以下の砂粒を少量含む	良	外・内：ヨコナデ	高台は貼付	220198
第52図3		6150号土坑	-	須・坏蓋	口：(11.8) 残：2.3	外：にぶい橙色 内：橙色	1㎜以下の砂粒を少量含む	良	摩滅のため不明		220199
第52図4		6155号土坑	-	須・坏蓋	残：1.9	外・内：灰色	1㎜以下の砂粒を少量含む	良	外・内：回転ナデ		220200
第52図5		6155号土坑	-	土・甕	残：3.8	外・内：橙色	雲母、1㎜以下の砂粒を少量含む	良	摩滅のため不明		220201
第52図6		6155号土坑	-	土・把手	残：10.2	外：にぶい橙色 内：暗青灰色	雲母、2㎜以下の砂粒を少量含む	良	外・内：指ナデ		220202
第55図1		6165号土坑	-	須・坏蓋	口：(12.0) 残：2.7	外・内：灰色	2㎜以下の砂粒を少量含む	良	口：回転ナデ 外：回転ナデ、回転ヘラケズリ 内：回転ナデ	頂部外面にヘラ記号	220203
第55図2		6165号土坑	-	須・坏身	口：(12.4) 残：2.5	外：赤灰色～灰色 内：浅灰色	2㎜以下の砂粒を少量含む	良	口：回転ナデ 外：回転ナデ、回転ヘラケズリ 内：回転ナデ	底部外面にヘラ記号	220204
第55図3		6175号土坑	-	須・坏蓋	口：(11.0) 高：4.2	外・内：灰色～灰白色	1㎜以下の砂粒を少量含む	良	口：回転ナデ 外：回転ナデ、回転ヘラケズリ 内：回転ナデ	頂部外面にヘラ記号	220205

法量＝口：口径、高：器高、底：底径、台：高台径、頸：頸部径、脚：脚部裾径、残：残存高
器種＝弥：弥生土器、土：土師器、須：須恵器

挿図番号	図版番号	出土遺構		器種	法量cm・(復元値)	色調	胎土	焼成	成形・調整方法	備考	登録番号
第55図4		6175号土坑	-	須・坏身	口：(11.0) 残：3.7	外：灰白色 内：灰色	3㎜以下の砂粒を少量含む	良	口：回転ナデ 外：回転ナデ、回転ヘラケズリ 内：回転ナデ	底部外面に竹管文	220206
第55図5		6220号土坑	-	土・皿?	残：1.9	外・内：にぶい黄橙色～灰黄褐色	雲母、1㎜以下の砂粒を少量含む	軟	摩滅のため不明		220207
第55図6		6220号土坑	-	土・皿?	残：1.7	外・内：橙色	1㎜以下の砂粒を少量含む	軟	摩滅のため不明		220208
第55図7		6220号土坑	-	土・皿?	残：1.75	外・内：橙色	雲母、1㎜以下の砂粒を少量含む	軟	摩滅のため不明		220209
第55図8		6220号土坑	-	土・坏身	残：2.4	外・内：浅黄色	1㎜以下の砂粒を少量含む	軟	摩滅のため不明		220210
第55図9		6220号土坑	-	土・甕	残：3.95	外・内：橙色	雲母、1㎜以下の砂粒を少量含む	良	口：ヨコナデ		220211
第55図10		6220号土坑	-	土・甕	残：4.2	外・内：橙色	雲母、1㎜以下の砂粒を少量含む	良	摩滅のため不明		220212
第55図11		6220号土坑	-	須・坏蓋	口：(7.0) 残：1.8	外：にぶい橙色 内：灰色	1㎜以下の砂粒を少量含む	良	外・内：回転ナデ		220213
第55図12		6220号土坑	-	須・坏身	口：(14.0) 残：3.4	外・内：灰色	1㎜以下の砂粒を少量含む	良	外・内：回転ナデ		220214
第59図1		6245号土坑	-	土・甕	残：5.0	外：橙色 内：にぶい黄橙色	雲母、5㎜以下の砂粒を少量含む	良	口：ヨコナデ 体・外：ヨコナデ 体・内：ケズリ	口縁部内面に煤付着	220215
第59図2		6245号土坑	-	須・坏蓋	口：(11.0) 高：2.2	外・内：明褐色	1㎜以下の砂粒を少量含む	良	外・内：回転ナデ	頂部外面にヘラ記号	220216
第59図3		6255号土坑	-	土・甕	残：7.3	外・内：橙色	雲母、3㎜以下の砂粒を少量含む	良	体・外：タテハケ 体・内：ケズリ		220217
第59図4		6255号土坑	-	須・坏蓋	口：(12.4) 残：2.0	外・内：灰色	1㎜以下の砂粒を少量含む	良	口：回転ナデ 外：回転ナデ、回転ヘラケズリ 内：回転ナデ		220218
第59図5		6505号土坑	-	須・坏蓋	口：(13.8) 高：2.4	外・内：灰色	1㎜以下の砂粒を少量含む	良	口：回転ナデ 外：回転ナデ、回転ヘラケズリ 内：回転ナデ	頂部外面に重ね焼き痕跡	220219
第59図6	20	6505号土坑	-	須・坏蓋	口：(14.3) 高：2.7	外：灰色 内：灰白色	1㎜以下の砂粒を少量含む	良	口：回転ナデ 外：回転ナデ、回転ヘラケズリ 内：回転ナデ	頂部外面に重ね焼き痕跡	220220
第59図7	20	6505号土坑	-	須・坏蓋	口：(14.6) 残：2.4	外・内：灰色	1㎜以下の砂粒を少量含む	良	口：回転ナデ 外：回転ナデ、回転ヘラケズリ 内：回転ナデ		220221
第59図8		6505号土坑	-	須・坏身	口：(11.6) 台：(7.8) 残：4.4	外・内：灰色	1㎜以下の砂粒を少量含む	良	口：回転ナデ 外・内：回転ナデ	高台は貼付	220222
第59図9		6510号土坑	-	土・甕	口：(11.8) 残：5.2	外：明黄褐色 内：にぶい黄褐色～黒褐色	3㎜以下の砂粒を少量含む	良	口：ヨコナデ 体・外：ナデ 体・内：工具ナデ		220223
第59図10		6510号土坑	-	須・坏身	口：(7.8) 残：2.5	外・内：灰色	1㎜以下の砂粒を少量含む	良	外・内：回転ナデ		220224
第64図1	20	6525号土坑	南東部	土・甕	口：(14.2) 残：9.1	外・内：橙色	雲母、2㎜以下の砂粒を少量含む	良	口：ヨコナデ 外：タテハケのち平行タタキ 内：タテハケ		220225
第64図2		6525号土坑	北東部	土・甑	口：(26.0) 残：12.5	外：明黄褐色 内：橙色～明黄褐色	3㎜以下の砂粒を含む	良	口：ヨコナデ 内：ケズリ		220226
第64図3		6525号土坑	-	土・坏蓋	口：(14.0) 残：4.5	外・内：橙色	2㎜以下の砂粒を含む	良	口：ヨコナデ 外：ナデ、回転ヘラケズリ 内：ナデ		220227
第64図4		6525号土坑	北東部	須・坏身	口：(12.0) 残：4.0	外：橙色 内：にぶい褐色	1.5㎜以下の砂粒を含む	良	口：回転ナデ 外：摩滅 内：回転ナデ		220228
第64図5		6525号土坑	北東部	須・坏身	口：(12.5) 残：3.0	外：灰オリーブ色 内：灰色	1㎜以下の砂粒を含む	良	口：回転ナデ 外：回転ナデ、回転ヘラケズリ 内：回転ナデ	底部外面にヘラ記号	220229
第64図6		6525号土坑	北東部	須・坏身	口：(10.0) 残：3.1	外・内：灰色	2㎜以下の砂粒を含む	良	口：回転ナデ 外：回転ナデ、回転ヘラケズリ 内：回転ナデ		220230
第64図7		6545号土坑	-	須・瓶類	口：(4.9) 残：4.8	外・内：灰白色	1㎜以下の砂粒を少量含む	良	摩滅のため不明		220231
第64図9	20	6555号土坑	-	須・坏身	口：11.0 高：3.5	外・内：灰白色	2㎜以下の砂粒を少量含む	良	口：回転ナデ 外・内：回転ナデ		220232
第64図10		6575号土坑	-	須・坏蓋	口：(10.8) 残：2.75	外・内：灰色	1㎜以下の砂粒を少量含む	良	摩滅のため不明		220233
第64図11		6575号土坑	-	須・坏身	口：(13.8) 台：(10.1) 高：4.9	外：灰黄褐色 内：にぶい橙色	1㎜以下の砂粒を少量含む	良	口：回転ナデ 外・内：回転ナデ	高台は貼付	220234
第64図12		6605号土坑	-	土・把手	残：4.1	外・内：にぶい橙色	2㎜以下の砂粒を少量含む	良	外・内：指ナデ		220235
第64図13		6605号土坑	-	須・坏蓋	口：(12.2) 残：2.5	外：黒色 内：灰色	1㎜以下の砂粒を少量含む	良	外・内：回転ナデ		220236

法量＝口：口径、高：器高、底：底径、台：高台径、頸：頸部径、脚：脚部裾径、残：残存高
器種＝弥：弥生土器、土：土師器、須：須恵器

挿図番号	図版番号	出土遺構		器種	法量cm・(復元値)	色調	胎土	焼成	成形・調整方法	備考	登録番号
第64図14		6615号土坑	-	土・把手	残：3.2	外・内：橙色	2㎜以下の砂粒を少量含む	良	外・内：指ナデ		220237
第64図15		6615号土坑	-	須・坏身	口：(10.6) 底：(8.2) 高：2.5	外・内：黒色	2㎜以下の砂粒を少量含む	良	外：回転ナデ、回転ケズリ 内：回転ナデ		220238
第69図1		6620号土坑	-	須・坏蓋	口：(9.6) 残：2.9	外・内：灰色	2㎜以下の砂粒を少量含む	良	口：回転ナデ 外：回転ナデ、回転ヘラケズリ 内：回転ナデ		220239
第69図2		6620号土坑	-	須・坏身	残：2.3	外・内：灰色	1㎜以下の砂粒を少量含む	良	外・内：回転ナデ	高台は貼付	220240
第69図3		6625号土坑	-	須・坏蓋	口：(9.2) 残：2.8	外・内：灰色	1㎜以下の砂粒を少量含む	良	外・内：回転ナデ		220241
第69図4	20	6625号土坑	-	須・坏蓋	口：10.0 高：3.0	外・内：灰色	1㎜以下の砂粒を少量含む	良	外・内：回転ナデ	つまみは貼付 頂部外面にヘラ記号	220242
第69図5		6630号土坑	-	須・坏身	残：2.3	外・内：灰色	2㎜以下の砂粒を少量含む	良	外・内：回転ナデ	高台は貼付	220243
第69図6		6630号土坑	-	須・坏身	残：1.4	外・内：黄灰色	1㎜以下の砂粒を少量含む	良	外・内：回転ナデ	高台は貼付	220244
第69図7		6635号土坑	-	土・把手	残：4.2	外・内：浅黄橙色	3㎜以下の砂粒を少量含む	良	外・内：指ナデ		220245
第69図8		6635号土坑	-	須・坏蓋	口：(11.0) 残：4.0	外・内：灰色	2㎜以下の砂粒を少量含む	良	外・内：回転ナデ		220246
第69図9		6635号土坑	-	須・坏身	口：(10.0) 残：2.0	外・内：灰色	1㎜以下の砂粒を少量含む	良	外・内：回転ナデ		220247
第69図10		6640号土坑	-	土・高坏	脚：(10.4) 残：4.3	外・内：浅黄橙色～灰白色	1㎜以下の砂粒を少量含む	良	外：工具ナデ 内：ナデ		220248
第69図11		6640号土坑	-	須・坏蓋	口：13.0 高：3.4	外・内：灰色	1㎜以下の砂粒を少量含む	良	口：回転ナデ 外：回転ナデ、回転ケズリ 内：回転ナデ	頂部外面にヘラ記号	220249
第69図12		6650号土坑	-	須・坏蓋	残：2.3	外・内：灰色	1㎜以下の砂粒を少量含む	良	外・内：回転ナデ		220250
第69図13		6650号土坑	-	須・坏蓋	残：1.6	外・内：灰色	1㎜以下の砂粒を少量含む	良	外・内：回転ナデ		220251
第69図14		6650号土坑	-	須・坏蓋	残：2.2	外・内：灰褐色	1㎜以下の砂粒を少量含む	良	外・内：回転ナデ		220252
第69図15		6670号土坑	-	土・坏身?	口：(11.0) 高：4.8	外・内：淡黄橙色	1㎜以下の砂粒を少量含む	軟	摩滅のため不明		220253
第69図16		6670号土坑	-	土・甕	口：(19.0) 残：8.4	外・内：にぶい黄褐色	2㎜以下の砂粒を少量含む	軟	口：ヨコナデ 体・外：摩滅 体・内：ケズリ	口縁部内面に煤付着	220254
第69図17	20	6670号土坑	-	須・坏身	口：(9.6) 底：(6.4) 残：3.1	外・内：灰白色	1㎜以下の砂粒を少量含む	軟	摩滅のため不明		220255
第69図18		6670号土坑	-	須・坏身	口：(10.3) 残：4.4	外・内：にぶい黄褐色	1㎜以下の砂粒を少量含む	軟	口：回転ナデ 外：回転ナデ、回転ヘラケズリ 内：回転ナデ		220256
第69図19		6675号土坑	-	土・甕	口：(30.0) 残：8.6	外：明褐色 内：にぶい橙色	7㎜以下の砂粒を少量含む	良	口：ヨコナデ 体・外：タテハケ 体・内：ケズリ	口縁部内面に煤付着	220257
第69図20		6680号土坑	-	須・坏蓋	口：(7.4) 残：2.05	外：灰色 内：灰黄褐色	1㎜以下の砂粒を少量含む	良	口：回転ナデ 外：回転ナデ、回転ヘラケズリ 内：回転ナデ		220258
第69図21		6680号土坑	-	須・坏身	台：(7.0) 残：2.7	外・内：灰色	1.5㎜以下の砂粒を少量含む	良	外：回転ナデ、回転ヘラケズリ 内：回転ナデ	高台は貼付 底部外面にヘラ記号	220259
第72図1		6685号土坑	-	土・甕	残：4.1	外・内：明黄褐色	1㎜以下の砂粒を少量含む	良	口：ヨコナデ 体・外：摩滅 体・内：ケズリ		220260
第72図2		6685号土坑	-	須・坏蓋	残：0.9	外・内：灰黄色	1㎜以下の砂粒を少量含む	良	外・内：回転ナデ		220261
第72図3		6695号土坑	-	土・甕	残：4.6	外・内：灰黄褐色	2㎜以下の砂粒を少量含む	良	口：ヨコナデ 体・外：タテハケ 体・内：ケズリ		220262
第72図4		6695号土坑	-	須・坏身?	残：1.8	外・内：褐灰色	1㎜以下の砂粒を少量含む	良	外：回転ヘラケズリ 内：回転ナデ		220263
第72図5		6700号土坑	-	須・坏蓋	口：(9.0) 高：2.7	外・内：灰色	1㎜以下の砂粒を少量含む	良	口：回転ナデ 外：回転ナデ、回転ヘラケズリ 内：回転ナデ		220264
第72図6	20	6705号土坑	-	土・甕	口：(13.8) 残：9.9	外：橙色 内：にぶい橙色～暗赤褐色	1㎜以下の砂粒を微量に含む	良	口：ヨコナデ 体・外：タテハケ 体・内：ケズリ	口縁部から体部内面に黒斑	220265
第72図7		6720号土坑	-	須・坏蓋	口：(9.0) 高：2.0	外・内：灰色	1㎜以下の砂粒を少量含む	良	口：回転ナデ 外：回転ナデ、回転ヘラケズリ 内：回転ナデ	頂部外面にヘラ記号	220266
第72図8		6720号土坑	-	須・坏身	台：(9.4) 残：3.7	外：暗灰色 内：灰色	1㎜以下の砂粒を少量含む	良	外・内：回転ナデ	底部外面にヘラ記号	220267
第72図9		6745号土坑	-	須・瓶類	残：7.6	外：灰白色 内：灰褐色	1㎜以下の砂粒を少量含む	良	外：回転ナデ、カキメ 内：回転ナデ		220268
第76図SK6715	20	6715号土坑	-	土・高坏	口：(11.9) 脚：(10.5) 高：9.8	外・内：明黄褐色	1㎜以下の砂粒を少量含む	軟	摩滅のため不明		220269
第76図SD6087		6087号溝	-	土・把手	残：7.2	外：にぶい橙色 内：黒色	雲母、2㎜以下の砂粒を少量含む	良	外・内：指ナデ		220270
第76図SE6610-1		6610号井戸	-	土・皿	口：(14.6) 高：1.9 底：(11.0)	外：橙色 内：橙色～灰白色	雲母、2㎜以下の砂粒を少量含む	良	外・内：ナデ		220271

法量＝口：口径、高：器高、底：底径、台：高台径、頸：頸部径、脚：脚部裾径、残：残存高
器種＝弥：弥生土器、土：土師器、須：須恵器

挿図番号	図版番号	出土遺構		器種	法量cm・(復元値)	色調	胎土	焼成	成形・調整方法	備考	登録番号
第76図 SE6610-2		6610号 井戸	-	須・坏身	残：3.1 台：(9.2)	外：灰色 内：灰オリーブ色	1㎜以下の砂粒を少量含む	良	外・内：回転ナデ	高台は貼付	220272
第77図 P117		117号 ピット	-	土・把手	残：6.6	外：橙色 内：灰白色	雲母、角閃石、2㎜以下の砂粒を少量含む	良	外・内：指ナデ		220273
第77図 P238		238号 ピット	-	土・把手	残：4.5	外・内：にぶい黄橙色	3㎜以下の砂粒を少量含む	良	外・内：指ナデ		220274
第77図 P330		330号 ピット	-	土・把手	残：3.1	外・内：橙色	3㎜以下の砂粒を少量含む	良	外・内：指ナデ		220275
第77図 P614		614号 ピット	-	土・甕	残：6.5	外・内：にぶい黄橙色	雲母、角閃石、2㎜以下の砂粒を少量含む	良	口：ヨコナデ 体・外：タテハケ 体・内：ケズリ		220276
第77図P22		22号 ピット	-	土・高坏	脚：9.1 残：4.0	外：にぶい黄橙色 内：黒色	雲母、4㎜以下の砂粒を少量含む	良	外：工具ナデ 内：指ナデ		220277
第77図 P312		312号 ピット	-	須・皿	口：(12.2) 高：2.0 底：9.8	外：にぶい橙色 内：橙色	1㎜以下の砂粒を少量含む	良	口：回転ナデ 外・内：回転ナデ		220278
第77図 P871		871号 ピット	-	須・坏身	口：(11.5) 高：2.8	外・内：青灰色	2㎜以下の砂粒を少量含む	良	口：回転ナデ 外：回転ナデ、回転ヘラケズリ 内：回転ナデ		220279
第77図 P137		137号 ピット	-	須・坏蓋	口：(9.0) 残：2.4	外：灰黄褐色 内：にぶい黄橙色	2㎜以下の砂粒を少量含む	良	口：回転ナデ 外：回転ナデ、回転ヘラケズリ 内：回転ナデ	頂部外面にヘラ記号	220280
第77図 P1009		1009号 ピット	-	須・坏蓋	口：(11.3) 残：2.0	外・内：灰色	2㎜以下の砂粒を少量含む	良	口：回転ナデ 外：回転ナデ、回転ヘラケズリ 内：回転ナデ		220281
第77図 P129		129号 ピット	-	須・坏蓋	口：(9.8) 残：1.3	外・内：灰色	2㎜以下の砂粒を少量含む	良	外・内：回転ナデ	頂部外面にヘラ記号	220282
第77図 P996		996号 ピット	-	須・坏身	口：(14.2) 高：4.3 台：(10.2)	外・内：灰色	2㎜以下の砂粒を少量含む	良	口：回転ナデ 外・内：回転ナデ		220283
第82図1		6515号 竪穴住居	南東部上層	土・甕	口：(16.8) 残：7.2	外：橙色 内：浅黄橙色	雲母、1㎜以下の砂粒を少量含む	軟	体・外：摩滅 体・内：ケズリ	口縁部から体部内面にかけて被熱による赤変	220284
第82図2	20	6515号 竪穴住居	カマド上層・西側カマド	土・甕	口：(18.0) 残：12.3	外・内：明黄褐色	雲母、1㎜以下の砂粒を少量含む	軟	体・外：摩滅 体・内：ケズリ	底部外面に黒斑	220285
第82図3		6515号 竪穴住居	南東部上層	土・甕	残：6.5	外：橙色 内：浅黄橙色	雲母、1㎜以下の砂粒を少量含む	軟	体・外：タテハケ 体・内：ケズリ	体部外面は被熱により赤変、内面に煤付着	220286
第82図4		6515号 竪穴住居	図①	土・甕	残：7.3	外：橙色 内：にぶい黄橙色	雲母、3㎜以下の砂粒を少量含む	良	体・外：摩滅 体・内：ケズリ	体部外面に黒斑	220287
第82図5		6515号 竪穴住居	南西部上層	須・坏蓋	口：(11.1) 残：1.5	外・内：灰色	1㎜以下の砂粒を少量含む	良	口：回転ナデ 外・内：回転ナデ		220288
第82図6		6515号 竪穴住居	南東部上層	須・坏蓋	口：(10.8) 残：1.6	外・内：灰色	1㎜以下の砂粒を少量含む	良	口：回転ナデ 外：回転ナデ、回転ヘラケズリ 内：回転ナデ		220289
第82図7	20	6515号 竪穴住居	下層図①	須・坏蓋	口：15.7 高：2.75	外・内：灰色	1㎜以下の砂粒を少量含む	良	口：回転ナデ 外：回転ヘラケズリ 内：回転ナデ	重ね焼きの痕跡2ヵ所	220290
第82図8		6515号 竪穴住居	南東部上層	須・坏身	台：(9.8) 残：2.1	外・内：灰色	1㎜以下の砂粒を少量含む	良	外・内：回転ナデ	高台は貼付	220291
第82図9		6735号 竪穴住居	北西部	土・甕	口：(22.2) 残：5.4	外・内：黄橙色	雲母、2㎜以下の砂粒を少量含む	軟	体・外：摩滅 体・内：ケズリ		220292
第82図10		6735号 竪穴住居	ベルト北	土・甕	口：(21.6) 残：9.1	外・内：明黄褐色	雲母、5㎜以下の砂粒を少量含む	良	口：ヨコナデ 体・外：タテハケ 体・内：ケズリ		220293
第82図11		6735号 竪穴住居	北西部	土・坏身	口：(15.8) 高：2.85	外・内：黄橙色	雲母、1㎜以下の砂粒を少量含む	軟	外・内：摩滅		220294
第82図12		6735号 竪穴住居	北西部	須・坏蓋	口：(9.6) 高：2.1	外・内：灰黄色	1㎜以下の砂粒を少量含む	軟	外・内：摩滅	頂部外面にヘラ記号	220295
第82図13	20	6735号 竪穴住居	北西部	須・瓶類?	底：(7.2) 残：5.9	外：灰白色 内：黄灰色	1㎜以下の砂粒を少量含む	良	外：回転ナデ、回転ヘラケズリ 内：回転ナデ 底：ヘラ切り		220296
第82図14		6740号 竪穴住居	-	土・把手	残：7.4	外：橙色	雲母、1㎜以下の砂粒を少量含む	良	外：指ナデ	下部に煤付着	220297
第82図15	20	6740号 竪穴住居	北西部	須・坏身	口：(13.4) 台：9.8 高：4.2	外・内：褐灰色	1㎜以下の砂粒を少量含む	良	口：回転ナデ 外：回転ナデ、回転ヘラ切り 内：回転ナデ、不定方向ナデ	高台は貼付	220298
第83図1		6080号 土坑	-	土・甕	口：(16.8) 残：8.7	外：橙色 内：にぶい黄橙色	雲母、3㎜以下の砂粒を少量含む	良	口：ヨコナデ 体・外：タテハケ 体・内：ケズリ		220299
第83図2		6080号 土坑	北西部	土・甕	口：(23.1) 残：7.75	外：黄橙色 内：明黄褐色	1㎜以下の砂粒を少量含む	良	口：ヨコナデ 体・外：タテハケ 体・内：ケズリ		220300

法量＝口：口径、高：器高、底：底径、台：高台径、頸：頸部径、脚：脚部裾径、残：残存高
器種＝弥：弥生土器、土：土師器、須：須恵器

挿図番号	図版番号	出土遺構		器種	法量cm・(復元値)	色調	胎土	焼成	成形・調整方法	備考	登録番号
第83図3		6080号土坑	東西ベルト西	土・甕	残：8.1	外：橙色 内：明黄褐色	雲母、1㎜以下の砂粒を少量含む	良	体・外：タテハケ 体・内：ケズリ		220301
第83図4		6080号土坑	南東部	土・甕	残：5.2	外・内：黄橙色	雲母、1㎜以下の砂粒を少量含む	良	口：ヨコナデ 体・内：ケズリ		220302
第83図5		6080号土坑	北西部	土・甑	残：6.35	外：橙色 内：明黄褐色	雲母、1㎜以下の砂粒を少量含む	良	口：ヨコナデ 体・外：タテハケ 体・内：摩滅	口縁部から体部外面は被熱により赤変	220303
第83図6		6080号土坑	北西部	土・甕	残：5.2	外・内：橙色	雲母、1㎜以下の砂粒を少量含む	良	口：ヨコナデ 体・外：タテハケ 体・内：ケズリ		220304
第83図7		6080号土坑	南西部	須・坏身	残：2.3	外・内：灰色	1㎜以下の砂粒を少量含む	良	口：回転ナデ 外：回転ナデ、回転ヘラケズリ 内：回転ナデ		220305
第83図8		6080号土坑	北東部	須・坏身	残：2.5	外・内：灰白色	1㎜以下の砂粒を少量含む	軟	口：回転ナデ 外：回転ナデ、回転ヘラケズリ 内：回転ナデ		220306
第83図9	20	6080号土坑	ベルト3層	須・坏蓋	口：(10.8) 残：3.5	外・内：灰色	1㎜以下の砂粒を少量含む	良	口：回転ナデ 外：回転ナデ、回転ヘラケズリ 内：回転ナデ	頂部外面にヘラ記号	220307
第83図10	20	6080号土坑	北東部	須・坏蓋	残：1.5	外・内：灰色	1㎜以下の砂粒を少量含む	良	外：回転ナデ、回転ヘラケズリ 内：回転ナデ	焼けひずみが著しい	220308
第83図11		6080号土坑	北東部	須・坏身	口：(9.8) 高：3.3	外・内：灰色	1㎜以下の砂粒を少量含む	良	口：回転ナデ 外・内：回転ナデ	底部外面にヘラ記号	220309
第83図12		6080号土坑	北東部	須・坏身	口：(10.6) 高：3.55	外・内：灰色	1㎜以下の砂粒を少量含む	良	口：回転ナデ 外：回転ナデ、回転ヘラケズリ 内：回転ナデ		220310
第83図13		6080号土坑	北東部	須・甕	残：4.4	外・内：灰色	2㎜以下の砂粒を少量含む	良	外・内：不明	焼きぶくれが著しい	220311
第83図14	20	6080号土坑	南西部	須・坏身	台：7.5 残：2.1	外・内：灰色	1㎜以下の砂粒を少量含む	良	外：回転ナデ、回転ヘラケズリ 内：回転ナデ	高台は貼付	220312
第83図15	20	6080号土坑	南北ベルト3層	須・坏身	台：7.4 残：2.0	外：灰色 内：灰黄褐色～黒色	1㎜以下の砂粒を少量含む	良	外：回転ナデ、回転ヘラケズリ 内：回転ナデ	高台は貼付 底部外面にヘラ記号	220313
第83図16		6080号土坑	東西ベルト西	須・坏身	台：(11.0) 残：1.5	外：灰白色 内：灰色	1㎜以下の砂粒を少量含む	良	外・内：回転ナデ	高台は貼付 底部外面にヘラ記号	220314
第83図17	21	6080号土坑	北東部	須・坏身	口：13.3 台：7.8 高：4.7	外・内：にぶい黄褐色～褐灰色	1㎜以下の砂粒を少量含む	良	口：回転ナデ 外：回転ナデ、回転ヘラケズリ 内：回転ナデ	高台は貼付	220315
第83図18		6080号土坑	北西部	須・坏身	台：(10.3) 残：2.9	外：灰白色 内：暗黄灰色	1㎜以下の砂粒を少量含む	良	外・内：回転ナデ	高台は貼付	220316
第83図19	21	6080号土坑	ベルト3層	須・短頸壺	口：(7.2) 高：7.6	外・内：褐灰色	1.5㎜以下の砂粒を少量含む	良	口：回転ナデ 外：回転ナデ、回転ヘラケズリ 内：回転ナデ		220317
第83図20	21	6080号土坑	北西部	須・瓶	底：7.5 残：5.9	外・内：灰色	1㎜以下の砂粒を少量含む	良	外：回転ナデ、手持ちヘラケズリ 内：回転ナデ		220318
第83図21		6080号土坑	北西部	須・瓶	口：(11.2) 残：7.2	外・内：灰白色	1㎜以下の砂粒を少量含む	良	口：回転ナデ 外・内：回転ナデ		220319
第90図1		6100号土坑	南西部	須・坏蓋	口：(12.0) 残：1.4	外・内：灰オリーブ色	1～2㎜の砂粒を含む	良	外・内：回転ナデ		220320
第90図2		6160号土坑	-	土・高坏	脚：(8.2) 残：4.2	外・内：黄橙色	1㎜以下の砂粒を少量含む	良	摩滅のため不明		220321
第90図3		6160号土坑	-	須・坏身	台：(12.0) 残：1.5	外・内：灰色	1㎜以下の砂粒を少量含む	良	外・内：回転ナデ	高台は貼付	220322
第90図4		6180号土坑	-	須・坏蓋	残：1.5	外・内：灰色	1㎜以下の砂粒を少量含む	良	外：回転ナデ、回転ヘラケズリ 内：回転ナデ		220323
第90図5		6180号土坑	-	須・坏蓋	口：(13.8) 残：1.0	外・内：灰色	1㎜以下の砂粒を少量含む	良	口：回転ナデ 外：回転ナデ、回転ヘラケズリ 内：回転ナデ	焼けひずみが著しい	220324
第90図6	21	6250号土坑	-	土・甕	口：(19.6) 残：10.1	外：橙色 内：にぶい黄褐色	雲母、角閃石、3㎜以下の砂粒を少量含む	良	口：ヨコナデ 体・外：タテハケ 体・内：ケズリ		220325
第90図7	21	6560号土坑	-	須・坏蓋	口：(13.4) 高：2.7	外・内：淡黄色	1㎜以下の砂粒を少量含む	良	口：回転ナデ 外：回転ナデ、回転ヘラケズリ 内：回転ナデ	つまみは貼付	220326
第90図8		6560号土坑	-	須・坏身	台：(10.5) 残：3.0	外・内：灰白色	1㎜以下の砂粒を少量含む	良	外・内：回転ナデ	高台は貼付	220327
第90図9		6570号土坑	北半部	土・甕	残：10.0	外：橙色 内：明黄褐色	雲母、3㎜以下の砂粒を少量含む	良	口：ヨコナデ 体・外：タテハケ 体・内：ヨコケズリ	体部外面に煤付着	220328
第90図10		6570号土坑	北半部	土・甕	残：9.9	外・内：橙色	雲母、2㎜以下の砂粒を少量含む	良	摩滅のため不明	口縁部内面に煤付着	220329
第90図11	21	6570号土坑	北半部	須・坏蓋	口：(13.7) 高：2.95	外・内：灰色	1㎜以下の砂粒を少量含む	良	口：回転ナデ 外・内：回転ナデ	つまみは貼付 焼けひずみあり	220330
第90図12	21	6570号土坑	北半部	須・坏身	口：(14.0) 台：(8.2) 高：4.05	外・内：灰色	1㎜以下の砂粒を少量含む	良	口：回転ナデ 外・内：回転ナデ	高台は貼付	220331

法量＝口：口径、高：器高、底：底径、台：高台径、頸：頸部径、脚：脚部裾径、残：残存高
器種＝弥：弥生土器、土：土師器、須：須恵器

挿図番号	図版番号	出土遺構		器種	法量cm・(復元値)	色調	胎土	焼成	成形・調整方法	備考	登録番号
第90図13	21	6570号土坑	-	須・ミニチュア壺	口：2.2 底：4.7 高：7.1	外・内：灰色	1㎜以下の砂粒を少量含む	良	口：回転ナデ 外・内：回転ナデ 底：回転ヘラ切り		220332
第90図14	21	6570号土坑	北半部	須・皿	口：19.0 底：15.7 高：2.8	外・内：灰白色	1㎜以下の砂粒を少量含む	良	口：回転ナデ 外・内：回転ナデ 底：回転ヘラ切り		220333
第93図1		6645号土坑	-	須・蓋	残：2.7	外・内：灰白色	1㎜以下の砂粒を少量含む	軟	外：回転ナデ、回転ヘラケズリ 内：回転ナデ		220334
第93図2		6690号土坑	-	土・甑	残：4.6	外：にぶい褐色 内：黄橙色	1㎜以下の砂粒を少量含む	良	口：ヨコナデ 体・外：タテハケ 体・内：ケズリ	体部外面に煤付着	220335
第93図3		6690号土坑	-	須・坏身	台：(8.5) 残：2.8	外：明黄褐色 内：橙色～明黄褐色	1.5㎜以下の砂粒を少量含む	良	外・内：回転ナデ	高台は貼付	220336
第93図4		6655号土坑	西半部	土・甑	口：(26.0) 残：10.4	外・内：橙色	1㎜以下の砂粒を微量に含む	良	口：ヨコナデ 体・外：タテハケ 体・内：ケズリ		220337
第93図5	21	6710号土坑	-	須・坏身	口：12.4 台：8.7 高：4.8	外・内：灰白色	1㎜以下の砂粒を少量含む	良	口：回転ナデ 外・内：回転ナデ	高台は貼付	220338
第93図6		6730号土坑	-	土・甕	残：6.5	外・内：黄橙色	雲母、3㎜以下の砂粒を少量含む	良	摩滅のため不明		220339
第93図7		6730号土坑	-	須・坏蓋	口：(13.4) 残：2.15	外・内：灰色	1㎜以下の砂粒を少量含む	良	口：回転ナデ 外：回転ナデ、回転ヘラケズリ 内：回転ナデ	焼けひずみが著しい	220340
第94図P328	21	328号ピット	-	須・皿	底：9.0 残：3.1	外・内：灰白色	1㎜以下の砂粒を少量含む	軟	外・内：回転ナデ		220341
第94図P821	21	821号ピット	-	須・坏蓋	口：15.4 高：3.3	外：灰オリーブ色 内：灰色	2㎜以下の砂粒を少量含む	良	口：回転ナデ 外：回転ナデ、回転ヘラケズリ 内：回転ナデ		220342

挿図番号	図版番号	出土遺構	種類	計測値（cm）				備考	登録番号
				長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	重さ（g）		
第22図8	22	6275号竪穴住居	砥石	4.6	2.2	2	29		220343
第36図8		6200号竪穴住居	磨石	6.8	5.6	3.3	178		220344
第36図9	22	6200号竪穴住居	紡錘車	3.8	2.3	0.6	11		220345
第64図8	22	6545号土坑	砥石	4.8	2.6	2.7	46		220346
第69図22	22	6680号土坑	砥石	6.1	3.3	2.2	96		220347
第80図	21	6735号竪穴住居	砥石	10.2	4.6	2.3	202		220348
第83図22	22	6080号土坑	紡錘車	3.6	3	0.5	8	滑石	220349

①調査区北西部　全景（南東から）

②調査区北西部　全景（東から）

図版２

①調査区南西部　全景（南東から）

②調査区南西部　全景（東から）

①調査区東半部　全景（北東から）

②調査区東半部　全景（南から）

図版 4

① 6001 号竪穴住居　遺物出土状況（南から）

② 6001 号竪穴住居　完掘状況（北から）

③ 6002 号竪穴住居　南北土層断面（東から）

④ 6002 号竪穴住居　東西土層断面（北から）

⑤ 6002 号竪穴住居　全景（南西から）

⑥ 6003 号竪穴住居　全景（南から）

⑦ 6004 号竪穴住居　南北土層断面（東から）

⑧ 6004 号竪穴住居　東西土層断面（北東から）

① 6004 号竪穴住居　全景（南西から）

② 6005 号竪穴住居　南北土層断面（南東から）

③ 6005 号竪穴住居　東西土層断面（北東から）

④ 6005 号竪穴住居　全景（北東から）

⑤ 6006 号竪穴住居　南北土層断面（西から）

⑥ 6006 号竪穴住居　東西土層断面（南から）

⑦ 6006 号竪穴住居　全景（西から）

⑧ 6008 号竪穴住居　東西土層断面（北から）

図版 6

① 6008 号竪穴住居　南北土層断面（西から）

② 6008 号竪穴住居　全景（東から）

③ 6210 号竪穴住居　遺物出土状況（北から）

④ 6210 号竪穴住居　東西土層断面 (南東から)

⑤ 6210 号竪穴住居　南北土層断面 (西から)

⑥ 6210 号竪穴住居　全景（北西から）

⑦ 6270 号竪穴住居　東西土層断面 (南西から)

⑧ 6270 号竪穴住居　南北土層断面 (南東から)

① 6270 号竪穴住居　全景（南東から）

② 6275 号竪穴住居　全景（東から）

③ 6280 号竪穴住居　東西土層断面（南東から）

④ 6280 号竪穴住居　南北土層断面（南西から）

⑤ 6280 号竪穴住居　粘土塊出土状況（南から）

⑥ 6280 号竪穴住居　全景（北西から）

⑦ 6285 号竪穴住居　東西土層断面（南から）

⑧ 6285 号竪穴住居　南北土層断面（西から）

図版 8

① 6290 号竪穴住居　全景（東から）

② 6295 号竪穴住居　東西土層断面 (南東から)

③ 6295 号竪穴住居　南北土層断面 (南西から)

④ 6295 号竪穴住居　全景（南東から）

⑤ 6170 号土坑　完掘状況（西から）

⑥ 6205 号土坑　完掘状況（西から）

⑦ 6085 号竪穴住居　東西土層断面（北から）

⑧ 6085 号竪穴住居　南北土層断面（東から）

① 6095 号竪穴住居　全景（西から）

② 6200 号竪穴住居　東西土層断面（北から）

③ 6200 号竪穴住居　南北土層断面（西から）

④ 6200 号竪穴住居　全景（北から）

⑤ 6500 号竪穴住居　東西土層断面（南東から）

⑥ 6500 号竪穴住居　南北土層断面（南西から）

⑦ 6500 号竪穴住居　全景（南から）

⑧ 6520 号竪穴住居　東西土層断面（北から）

図版 10

① 6520 号竪穴住居　南北土層断面（東から）

② 6520 号竪穴住居　全景（東から）

③ 6540 号竪穴住居　東西土層断面（南東から）

④ 6540 号竪穴住居　南北土層断面（南西から）

⑤ 6540 号竪穴住居　全景（東から）

⑥ 6550 号竪穴住居　南北土層断面（南西から）

⑦ 6550 号竪穴住居　全景（南西から）

⑧ 6580 号竪穴住居　遺物出土状況（南西から）

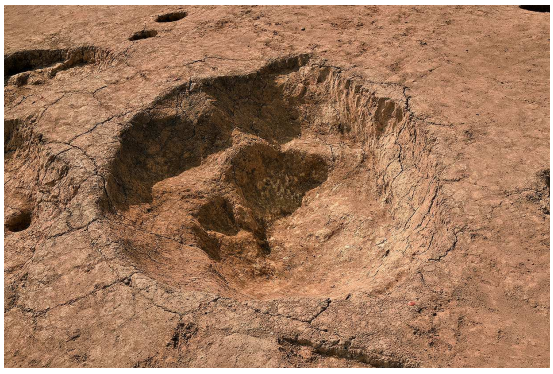
① 6580 号竪穴住居　東西土層断面（北から）

② 6580 号竪穴住居　南北土層断面（西から）

③ 6580 号竪穴住居　全景（東から）

④ 6081・6083 号土坑　完掘状況（北から）

⑤ 6125 号土坑　土層断面（東から）



⑥ 6125 号土坑　完掘状況（北から）

⑦ 6150 号土坑　完掘状況（北から）

⑧ 6155・6160・6165 号土坑　完掘状況 (北から）

図版 12

① 6165 号土坑　土層断面（東から）

② 6175・6180 号土坑　完掘状況（東から）

③ 6255 号土坑　完掘状況（西から）

④ 6525 号土坑　土層断面（南から）

⑤ 6575 号土坑　土層断面（南から）

⑥ 6615 号土坑　土層断面（西から）

⑦ 6620 号土坑　土層断面（南から）

⑧ 6625 号土坑　完掘状況（南西から）

① 6670 号土坑　完掘状況（東から）

② 6695 号土坑　完掘状況（南から）

③ 6715 号土坑　土層断面（西から）

④ 6715 号土坑　完掘状況（北から）

⑤ 6086 号土坑・6087 号溝　土層断面 (南東から）

⑥ 6610 号井戸　完掘状況（北から）

⑦ 6515 号住居　全景（北から）

⑧ 6080 号土坑　東西土層断面（南から）

図版 14

① 6080 号土坑　南北土層断面（東から）

② 6080 号土坑　完掘状況（西から）

③ 6100 号土坑　完掘状況（東から）

④ 6160 号土坑　土層断面（北東から）

⑤ 6505 号土坑　土層断面（南から）

⑥ 6505 号土坑　完掘状況（南から）

⑦ 6570 号土坑　土層断面（南から）

⑧ 6570 号土坑　完掘状況（東から）

① 6130 号土坑　土層断面（南から）

② 6130 号土坑　完掘状況（東から）

③ 6585 号土坑　完掘状況（西から）

④ 6600 号土坑　土層断面（南西から）

⑤ 6630 号土坑　完掘状況（南西から）

⑥ 6050 号ピット　完掘状況（東から）

⑦ 1 号方形周溝墓　完掘状況 (南東から）

⑧調査風景

図版 16

4-8

4-9

4-11

4-12

4-13

5-6

5-8

5-10

7-1

7-2

7-3

7-4

7-6

7-7

7-9

7-10

7-11

7-12

出土遺物 (1)

7-13

9-6

9-7

9-8

9-9

12-5

12-6

12-8

12-9

12-10

12-11

12-15

14-1

14-5

14-6

14-7

出土遺物 (2)

図版 18

14-8

14-9

15-3

15-6

15-9

15-10

15-11

18-1

18-7

19-16

19-6

19-10

19-14

25-8

25-9

出土遺物 (3)

27-1

27-3

29-5

29-7

29-10

31-3

31-4

36-2

36-3

36-5

36-6

41-4

41-6

44-4

44-8

44-11

出土遺物 (4)

図版 20

59-6

59-7

64-1

64-9

69-4

69-15

69-17

72-6

76-SK6715

82-2

82-7

82-13

82-15

83-9

83-10

83-14

83-15

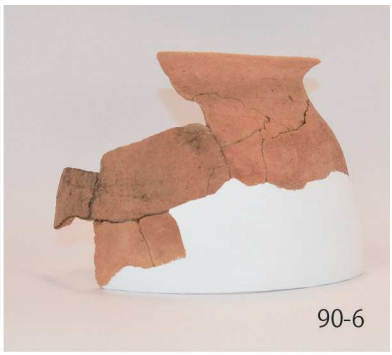
出土遺物 (5)

83-17

83-19

83-20

90-13


90-6

90-7

90-11

90-12

90-14

93-5

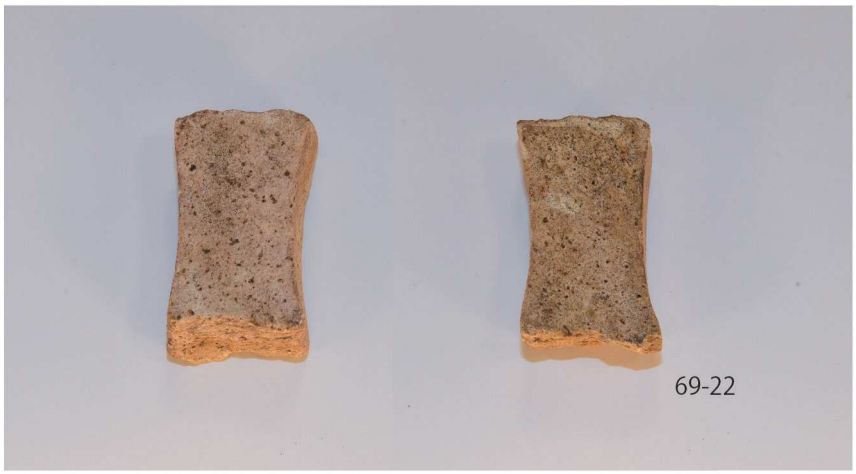
94-P328

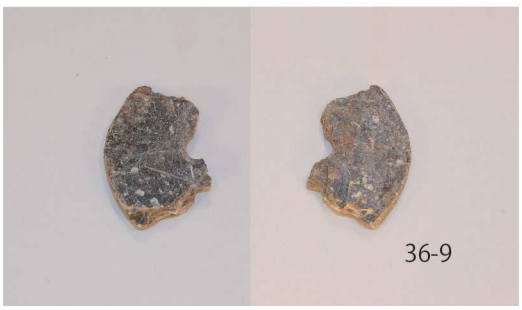
94-P821

80(SH6735)

出土遺物 (6)

図版 22





出土遺物 (7)

報 告 書 抄 録

ふ り が な	ほんごうらいせき
書　　名	本川原遺跡
副 書 名	
巻　　次	
シリーズ名	鳥栖市文化財調査報告書
シリーズ番号	第 99 集
編 著 者 名	藤岡怜史／上田　恵
編 集 機 関	鳥栖市教育委員会
所 在 地	〒841 - 8511　佐賀県鳥栖市宿町 1118　　Tel. 0942-85-3695
発行年月日	2023（令和 5）年 3 月 17 日

ふ り が な 所収遺跡名	ふりがな 所在地	市町村 コード	遺跡 番号	北緯	東経	調 査 期 間	調 査 面 積	調査 原因
本川原遺跡 （6 区）	鳥栖市 姫方町	410213	0125	33° 39′ 63″	130° 52′ 99″	20210510 ～ 20220318	8,000 ㎡	工業用地 造成

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物
本川原遺跡 （6 区）	集落跡	弥生時代 古墳時代 奈良時代	竪穴住居 竪穴住居・土坑 土坑	弥生土器 土師器・須恵器・石器・鉄製品 土師器・須恵器

特記事項	本遺跡は柚比丘陵の最南端の標高 23～25m に位置する。今回の調査区は昭和 48 年の調査地に隣接・一部重複している。弥生時代後期から古墳時代初頭にかけての竪穴住居が確認され、昭和 48・49 年の調査で明らかになった集落域のさらなる広がりと、方形周溝墓が造営される直前の様相を知る手がかりとなった。その他、隣接地ではこれまでごく少数しか発見されなかった古墳時代後期、奈良時代 2 時期の竪穴住居と土坑群が確認され、遺跡における古墳時代後期以降の集落域の広がりと土地利用の変化を知る貴重な資料である。

本川原遺跡

鳥栖市文化財調査報告書第 99 集
令和 5 年 3 月 17 日

編集　鳥栖市教育委員会
　　佐賀県鳥栖市宿町 1118
印刷　松雪印刷所
　　佐賀県鳥栖市本町 3 丁目 1503

付図　本川原遺跡６区　遺構配置図（S=1/250）

鳥栖市文化財調査報告書第99集